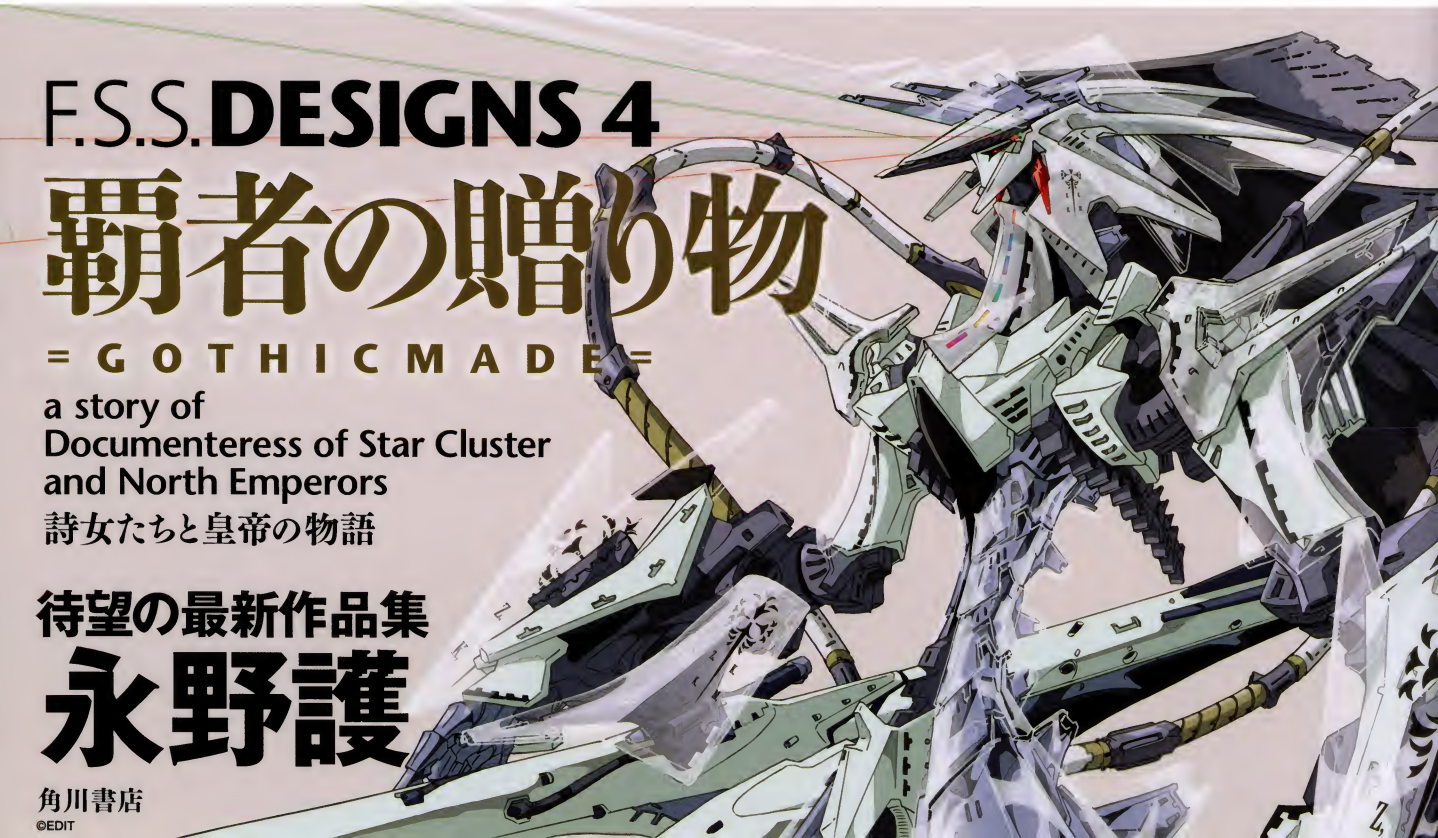
The Five Star Stories
DESIGNS 4

2014
Art Work and Design Work
F.S.S. Characters XIII



The Five Star Stories

DESIGNS 4

2014
Art Work and Design Work
F.S.S. Characters XIII

The Five Star Stories

DESIGNS 4

MAMORU NAGANO

2014

Art Work and Design Work

F.S.S. Characters XIII

MAMORU NAGANO'S

The Five Star Stories®

©EDIT

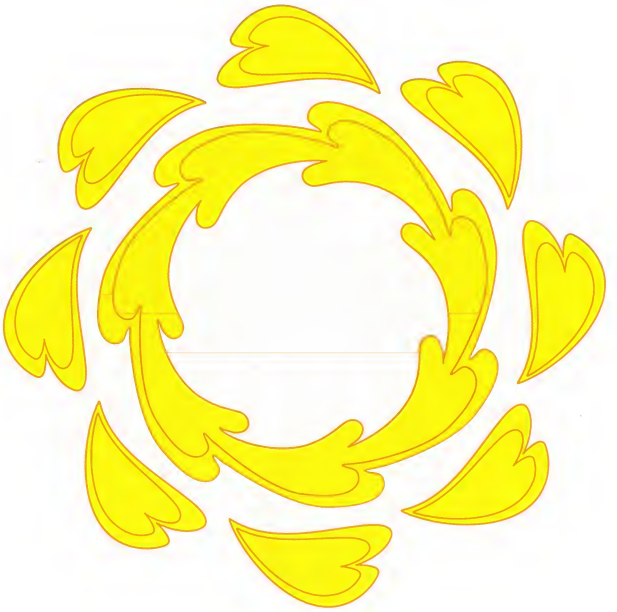
ZARATHUSTRA Krieg Kampfritter MIRAGE

MAMORU NAGANO

2014

Reichs Komplex Größe SCHOLTI Das Land

DESIGNS 4



LAAN

a story of
Documenteress of Star Cluster and North Emperors

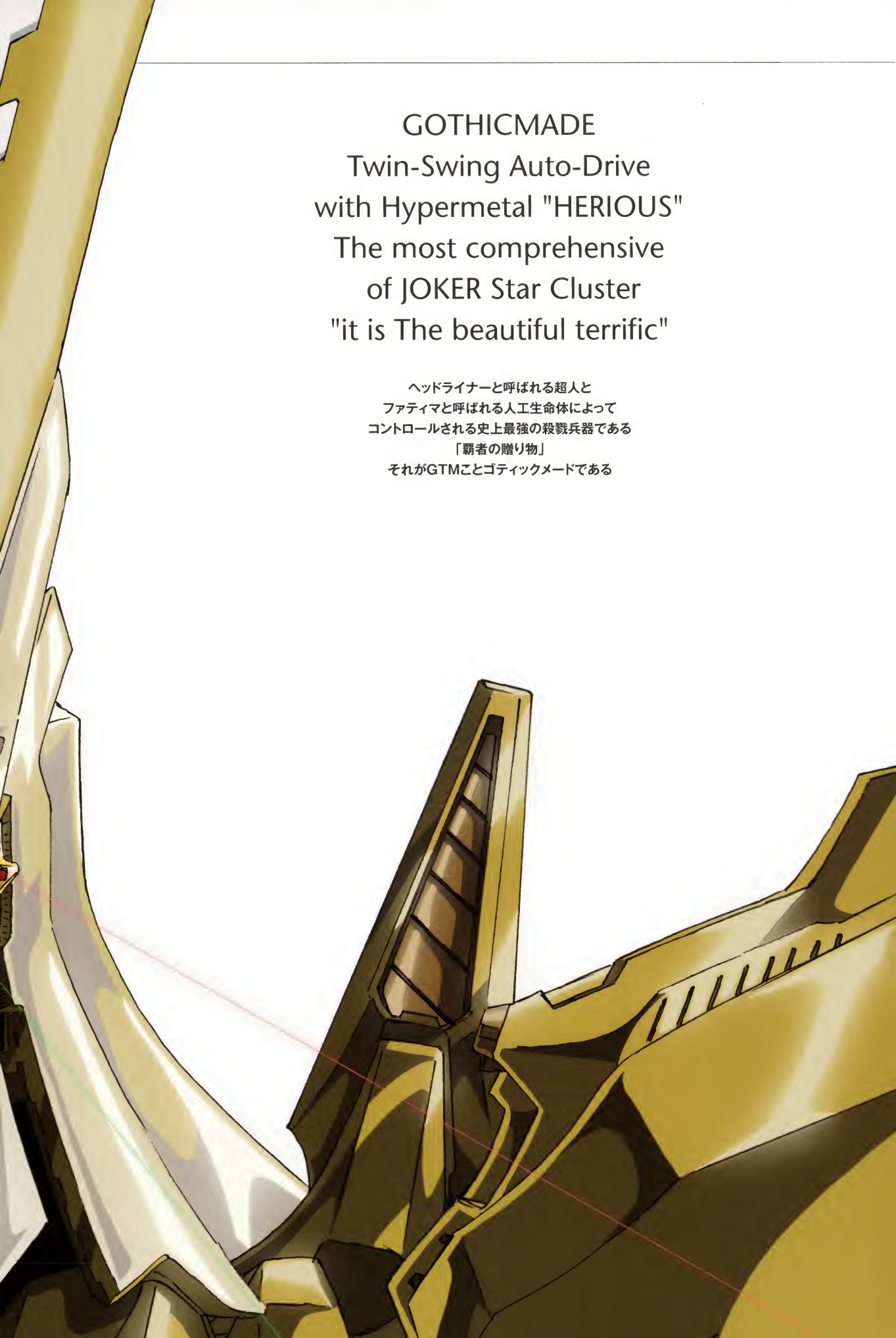
詩女たちと皇帝の物語

The Documenteress of JOKER Star Cluster

The Five Star Stories

DESIGNS 4

覇者の贈り物



GOTHICMADE
Twin-Swing Auto-Drive
with Hypermetal "HERIOUS"
The most comprehensive
of JOKER Star Cluster
"it is The beautiful terrific"

ヘッドライナーと呼ばれる超人と
ファティマと呼ばれる人工生命体によって
コントロールされる史上最強の殺戮兵器である
「覇者の贈り物」
それがGTMことゴティックメードである

帝騎マグナパレス
The MAGNAPALACE

星団認識型式	Pz-kpfrbt　Am-D004A
騎体	キ-Am-D1 マグナパレス
型式	ケ-Mirage D1
発動機	ハ-閃1014×2
全高	26.7m
自重	262t
最大出力	推定1000京馬力以上～無限

デルタ・ベルンの光皇、天照帝の設計によるD型のミラージュGTM。開発はミラージュ型式D型であるが、最も早く製造され、2988年に一応の完成をしている。形式的には先であるB型の「ツァラトウストラ・アブターブリンガー」よりも開発、完成ともに先行している。天照設計のすべてのミラージュGTMの基礎と根幹をなすが、実験的要素も非常に多く含まれているために3100年代においても不安定な騎体である。
開発は天照家の膨大な予算が投入され、新型のティティン・フレームをはじめ、新型ハーモイドエンジンの「ハ1014」型発動機を含めすべてが従来天照家とA.K.D.で使用されていたGTMとは異なる。
その出力は途方もなく巨大で、ほかのミラージュGTMとは比較にならない。また、特に目を引く黄金の騎体には純金が透明のヘリオス装甲の中にサンドイッチされ、ツァラトウストラ同様装甲は透けている。
３段折りのバスター・ランチャー・ラピデア・カノンを標準的に装備し、すべてにおいて別格のGTMである。
天照の后となるラキシスのために製造されたGTMであるが、実際にはほとんどまともに稼働していない。
また、変形機能をもっているのも特徴で、ティガー・フレームのMk２などとはまた違う変形構造をもつ。この変形機能がのちのちマグナパレスを助けることになるのだが、あまりに多くの機能を付加したために天照自身もいつ完全に完成となるのか考えていないようだ。
星団暦3236年以後は天照から離れてしまうため、マグナパレスを本当に完成させたのはラキシスであるとも言える。その後マグナパレスは娘のカレンがタイカ宇宙にまで持って行ってしまっている。
「写し」はない。

アッパーシールド
肩の装甲のこと。放熱システムを内蔵し、動きの邪魔にならないだけでなく、騎士の視界をふさがないよう小さくまとめられている。ロボットが首を横に回したら肩の巨大なパーツで何も見えないというアホなことにはならない。あくまで騎士が実際に見る視界を最重点に作られている。また、肩に余計な重量をかけないために小さく軽い。でっかい肩装甲のロボットを作りまくっていた人間が言うのも何なんですけどね！

バックシールド
背部肩装甲。すべてのGTMは前面と背面でこの装甲の形は異なる。基本的に背面は大きく放熱やエネルギーのドレインを行なう。

アイドラフライヤー
背中、肩胛骨の部分から出ている小さな羽はエンジンの直接的な放熱フィンである。また、背部の装甲も兼ねるが、整備時などにGTMの上半身を起こす時の支えともなる。

ヘッドフィギュア
GTMは巨大な頭部や大きな角飾りを持っているが、これはエンジンの放熱だけではなくツインスイング関節の熱が背骨を通してこの頭部に誘導されるために放熱システムを兼ねた巨大な頭部を持っている。

ファティマ・シェル
頭部に内蔵されるファティマのコクピットは頑丈に保護され、人間の大脳の位置にある。

リンクビーム
耳に当たる場所にはメイン眼球とは別個に動く索敵システムと、攻撃ビーム砲を装備している。

複眼投射システム
人間と同じ肉眼と４つのサブ眼球をもつ。カイゼリンの場合、両眼で10個もの目をもっている。

コクピット
胸の奥にあり、両肩のツインスイングに守られるようにセットされている。

バスト
ほとんどのGTMは胸が独立ブロックとなっている場合が多い。これはこの内部にあるジェネレーターのカバーともなっている。

ツインスイング関節
ツインスイング・オートドライブ・フィジークという。各部の詳細は別項参照。

フライヤー
両腕につく盾。内側にメイン武器のガット・ブロウを内蔵している場合が多い。また、補助的な武器や戦況によっては様々な装備を取りつける「レールマウント・システム」を持っている。時代や戦場によってはまったく異なるフライヤーを装備していることもあり、いつも同じ形とは限らない。
現フィルモアの３大GTMホルダ31は「ガード・スパイク」という巨大な電磁スパイクを片側に３基装備しているが、これは突撃戦闘の装備である。

拳
非常に巨大な手と拳は武器としても、また様々なものをつかむことにも優れ、胴体部などと同じキルテッド・ヘリオス超鋼が使用されている。

脚部ツインスイング
自重を支えることはもとより、亜光速で動き停止するその膨大な荷重を支えるために最も巨大なパーツブロックの構成となっている。

脚部カバー
膝が大腿部にまで張り出しているのは膝の関節を守るためである。また下肢のバランサーともなっており、この部分が張り出したGTMは多い。見た目邪魔に感じるが、上下のスライドも大きく、ほぼ先端までツインスイングは伸びるのでここが張り出さない状態にもできる。つまり、足を組むことも可能。

脚部
見た目より非常に多くのパーツで構成されている。自重を支えるためだけではなくバランスを取るためにその可動範囲は非常に大きい。つま先を脛まで引き上げることもできる。

かかと
補助バランサーとなる。かかとは「アシリア・セパレート・ツインスイング関節」という螺旋型にスイングする関節が内蔵され、いかなる接地状況においても「粘るような」接地を行なう。

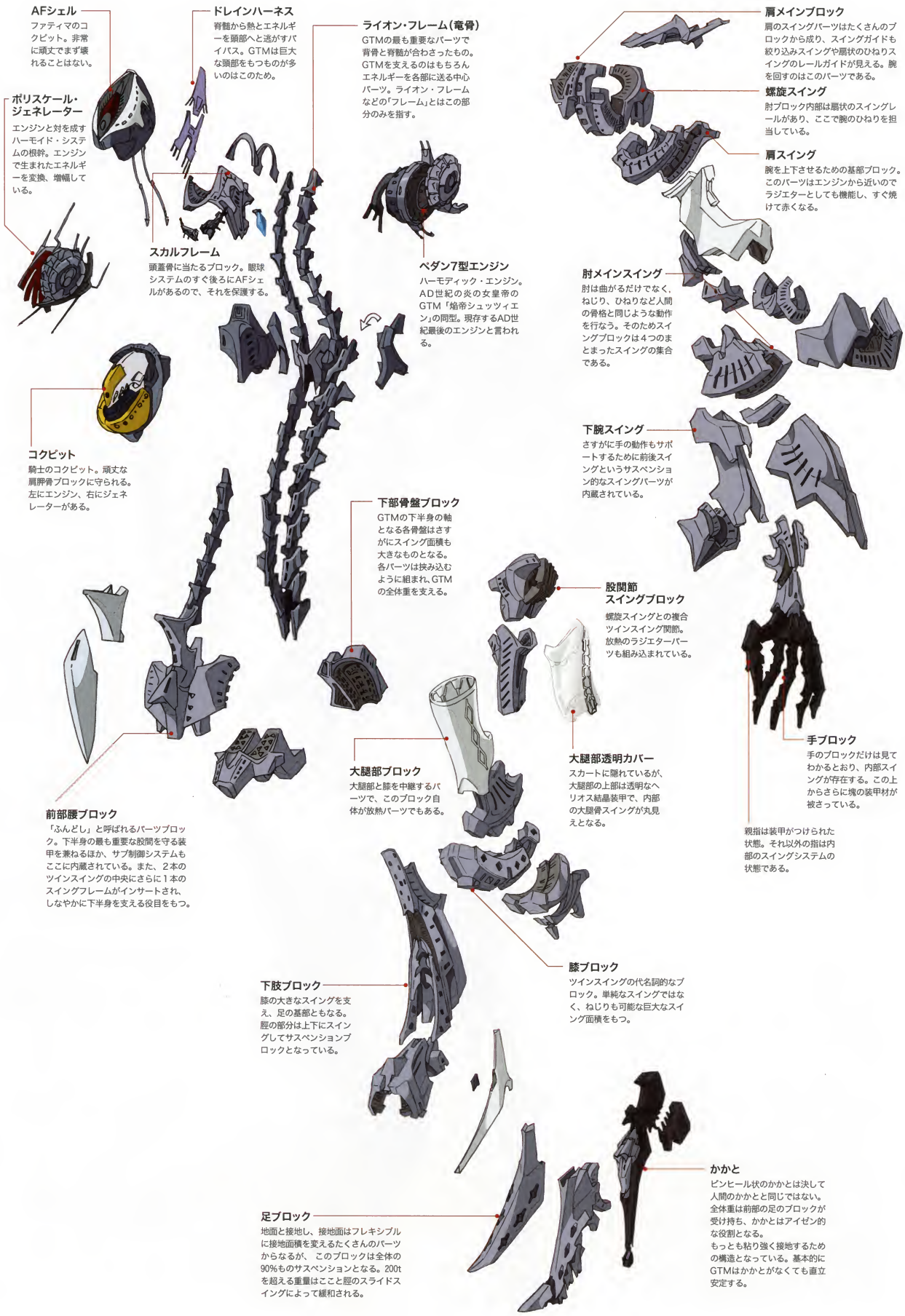
GTMホルダ17 “ディー・カイゼリン”
GTM HOLDA17 Die KAISERIN

星団認識番号	Pz-kpfrbt-D-17A
騎体	キ–D-707
型式	ケ-holda17A
発動機	ハ–ペダン07型(FSK-Y-ON)
全高	26.7m
自重	232t
最大出力	３京馬力以上

データにある記号は
（ケ）ー型式のこと
（キ）ー騎体番号
（ハ）ー発動機〜エンジンの型式

星団認識型式はすべての国家のGTMに与えられている総合識別型式で、Pz-kpfrbtのあとに国家のイニシャルが入る。そのあとは各型式番号が続くのでややこしくはない。個人のGTM等の場合は特殊な番号が与えられるが、テスト状態や開発状態での認識番号はおりない。
カイゼリンの場合、ドナウ帝国から統合フィルモア帝国へと移り、さらにその後聖宮ラーンの所属となったが、認識番号からD〜つまりドナウ帝国で登録されたGTMであることがすぐにわかる。これは国家が変わったり消滅したり、エンジンや装甲形状が変更されたとしても変わらないGTMの「戸籍」となっている。

カイゼリンは星団暦440年頃に完成したと言われるドナウ帝国のアルカナス皇帝騎であった。451年の「詩女暗殺計画」においてドナウ帝国の皇子がそのテロを阻止したことはカステポー、ミノグシアの民にとっても語りぐさとなっている。
のち、ドナウ帝国がフィルモア帝国へと統合する前にフィルモア皇帝から都ハ・リの詩女ラーンに「不戦の証」として贈られた。以後「詩女」のGTMとして歴代の詩女に引き継がれている。2400年代のミノグシア動乱では詩女エダクダが、2992年のインタシティの救出にはムグミカがカイゼリンの封印を解いて出撃させた。魔導大戦のハスハ解放作戦でもフンフトがその封印を解いてデブレに託している。封印とは詩女がもっている特殊なGTM始動キィである。

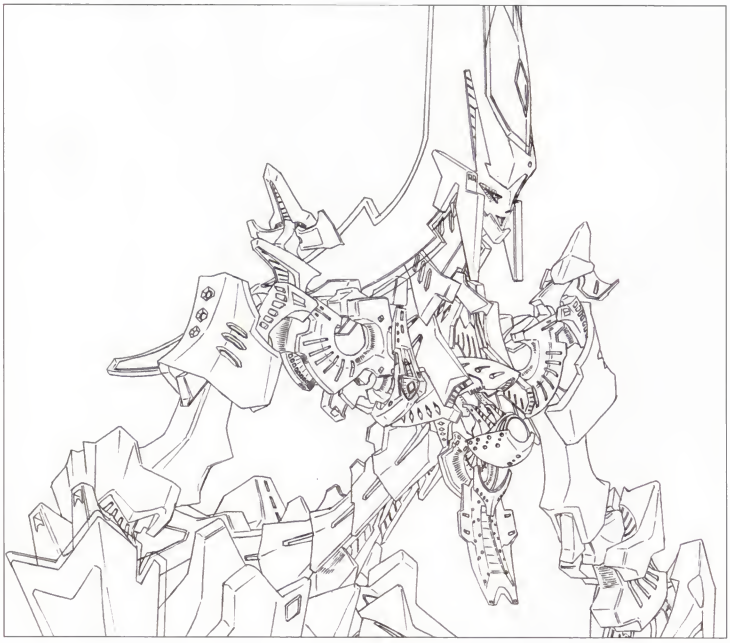

AFシェル
ファティマのコクピット。非常に頑丈でまず壊れることはない。
ポリスケール・ジェネレーター
エンジンと対を成すハーモイド・システムの根幹。エンジンで生まれたエネルギーを変換、増幅している。
ドレインハーネス
脊髄から熱とエネルギーを頭部へと逃がすバイパス。GTMは巨大な頭部をもつものが多いのはこのため。
ライオン・フレーム(竜骨)
GTMの最も重要なパーツで背骨と脊髄が合わさったもの。GTMを支えるのはもちろんエネルギーを各部に送る中心パーツ。ライオン・フレームなどの「フレーム」とはこの部分のみを指す。
スカルフレーム
頭蓋骨に当たるブロック。眼球システムのすぐ後ろにAFシェルがあるので、それを保護する。
ペダン7型エンジン
ハーモディック・エンジン。AD世紀の炎の女皇帝のGTM「焔帝シュッツィエン」の同型。現存するAD世紀最後のエンジンと言われる。
コクピット
騎士のコクピット。頑丈な肩胛骨ブロックに守られる。左にエンジン、右にジェネレーターがある。
下部骨盤ブロック
GTMの下半身の軸となる各骨盤はさすがにスイング面積も大きなものとなる。各パーツは挟み込むように組まれ、GTMの全体重を支える。
前部腰ブロック
「ふんどし」と呼ばれるパーツブロック。下半身の最も重要な股間を守る装甲を兼ねるほか、サブ制御システムもここに内蔵されている。また、2本のツインスイングの中央にさらに1本のスイングフレームがインサートされ、しなやかに下半身を支える役目をもつ。
大腿部ブロック
大腿部と膝を中継するパーツで、このブロック自体が放熱パーツでもある。
下肢ブロック
膝の大きなスイングを支え、足の基部ともなる。脛の部分は上下にスイングしてサスペンションブロックとなっている。
足ブロック
地面と接地し、接地面はフレキシブルに接地面積を変えるたくさんのパーツからなるが、このブロックは全体の90%ものサスペンションとなる。200tを超える重量はここと脛のスライドスイングによって緩和される。
肩メインブロック
肩のスイングパーツはたくさんのブロックから成り、スイングガイドも絞り込みスイングや扇状のひねりスイングのレールガイドが見える。腕を回すのはこのパーツである。
螺旋スイング
肘ブロック内部は扇状のスイングレールがあり、ここで腕のひねりを担当している。
肩スイング
腕を上下させるための基部ブロック。このパーツはエンジンから近いのでラジエターとしても機能し、すぐ焼けて赤くなる。
肘メインスイング
肘は曲がるだけでなく、ねじり、ひねりなど人間の骨格と同じような動作を行なう。そのためスイングブロックは4つのまとまったスイングの集合である。
下腕スイング
さすがに手の動作もサポートするために前後スイングというサスペンション的なスイングパーツが内蔵されている。
股関節スイングブロック
螺旋スイングとの複合ツインスイング関節。放熱のラジエターパーツも組み込まれている。
大腿部透明カバー
スカートに隠れているが、大腿部の上部は透明なヘリオス結晶装甲で、内部の大腿骨スイングが丸見えとなる。
手ブロック
手のブロックだけは見てわかるとおり、内部スイングが存在する。この上からさらに塊の装甲材が被さっている。
親指は装甲がつけられた状態。それ以外の指は内部のスイングシステムの状態である。
膝ブロック
ツインスイングの代名詞的なブロック。単純なスイングではなく、ねじりも可能な巨大なスイング面積をもつ。
かかと
ピンヒール状のかかとは決して人間のかかとと同じではない。全体重は前部の足のブロックが受け持ち、かかとはアイゼン的な役割となる。
もっとも粘り強く接地するための構造となっている。基本的にGTMはかかとがなくても直立安定する。

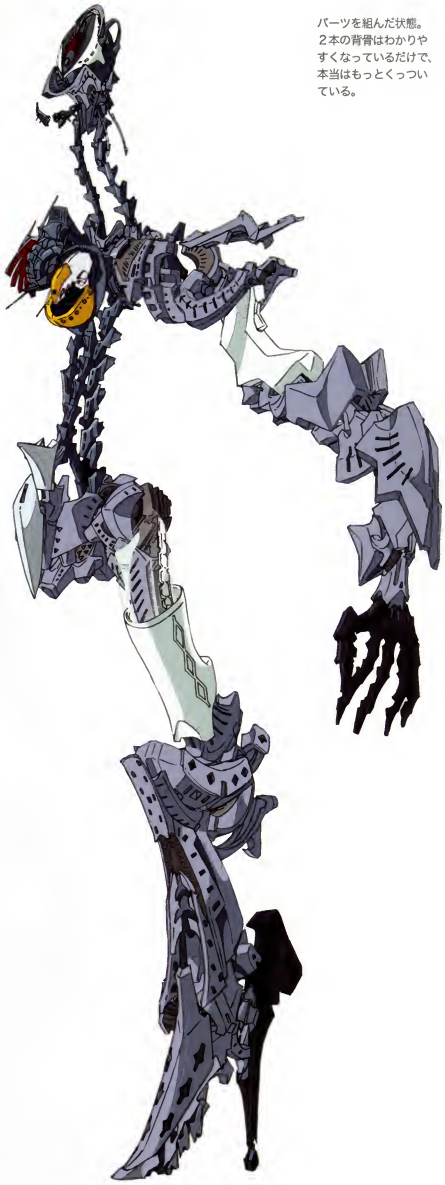
肩スイング部の構成

巨大なブロックで構成される肩と肩胛骨スイング部。「肩装甲」と呼ばれるアッパー・シールドの取り付け部が肩の上に見えているが、非常に小さく簡単なものである。これは肩装甲が小さく軽いことにもよる。ただ、多くのGTMはこの肩のアッパー・シールドは前と後ろでまったく違う形になっている。これは用途の問題で、フロントは簡単な放熱システムしかもたないが、バック・シールドはほとんどの場合アッパー・シールドより巨大で複雑な機能も併せもっている。ホルダ31Aはこの後ろのバック・シールドが翼のようになっており、放熱量が多い。これはカイゼリンの巨大な頭の放熱に相当している。

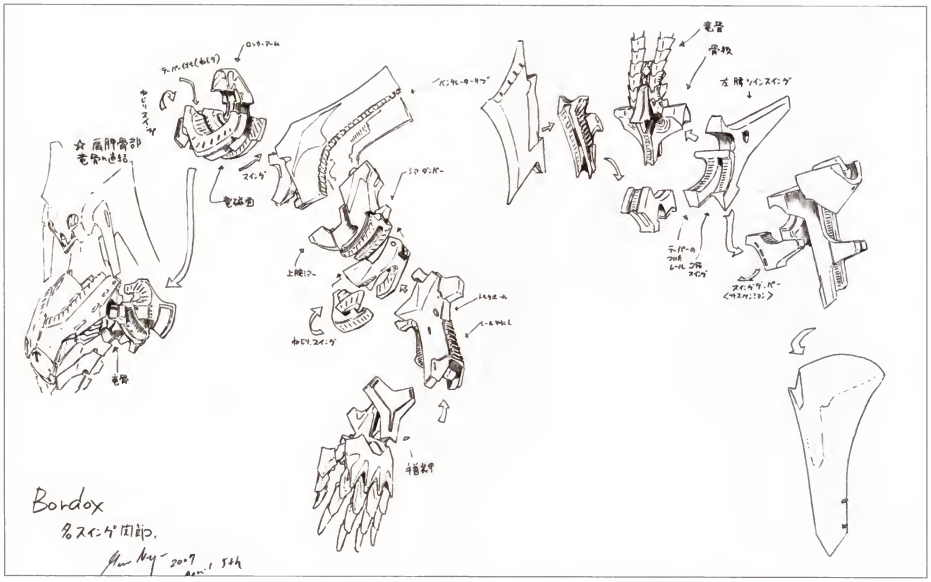
GTMのメインフレーム　ライオン・フレーム

GTMの出力や大きさはすべてこの「フレーム」によって決まり、すべてのGTMはこのルールに従っている。
間違いやすいのはこのフレームとは「GTMの脊椎と背骨」だけである。GTMはこれ以外の骨格が存在しない。ツインスイング・システムとは「装甲がそのまま骨格」となり、ツインスイング関節は装甲の塊でもあるために内部骨格や内部構造物がまったくない。従ってGTMの基本性能は四肢のツインスイング以外の脊椎から背骨までのフレームによって決定される。普通はありそうなエネルギーや電気のバイパス、冷却パイプなどはスイングレール伝導がこれらを兼ねてしまっているために必要がないのだ。
また、フレームを構成する背骨そのものは２対のツインスイング・システムが並列でセットされ１本しかない人間の背骨とは根本的に異なる。２本の背骨をもつのは強度もあるが、胴体のひねりをより柔軟に行なうためである。また、２対の背骨は強大なエネルギーを四肢に送る役目もあり、放熱やエネルギーの負荷に耐えやすくなっている。
このGTMを支えるフレームの強度は最も堅牢で、停止しているGTMの胴体をGTMがガットブロウで切りつけても切断不可能なほどに強固である。この場所を切断できるのは「剣聖」だけだと言われている。





パーツを組んだ状態。２本の背骨はわかりやすくなっているだけで、本当はもっとくっついている。



ツインスイング関節の仮デザイン

「花の詩女」でGTMを実際に原画にする前に描いたバンター・フレームのラフスケッチである。GTM X-3ボルドックスの基本的なツインスイング構造だが、いくつか描いたもののひとつで、このあとにカイゼリンのツインスイングが決定した。このボルドックスの間接部はまだパーツがいくつか足りず、完成形ではないがライオン・フレームとバンター・フレームの根幹的な差はもうできあがっている。
GTMのフレームは大きい小さいではなく、各部の構造が異なっている。カイゼリンとこのボルドックスは肘や股関節のスイング関節がまったく異なるブロックで作られている。例えばライオン・フレームの腰臀部パーツは３ブロックに分かれているが、ボルドックスのバンター・フレームの臀部は１パーツで後部カウンターブロックと一体化されている。また、肘に当たるパーツはライオン・フレームが上からカバーを掛けるようなブロックだが、バンター・フレームでは上腕部に内蔵する形である。
これがフレームの違いで、見てもらえばカイゼリン、ダッカス、ホルダ31、メロウラ、バーガ・ハリは見えるスイングパーツは形の違いこそあれ構成はほとんど同じである。バンター・フレームのボルドックスと比べていただければわかるだろう。
とはいえ、動きを停止させるトルクパーツや放熱パーツはすでに描き込まれているので、このあと最終的なパーツが増えてボルドックスができあがった。

超帝國時代のGTMフレーム

アウトメタ型

炎の女皇帝が開発したGTMの基本で、すべてのGTMの基礎である。「ハーモディック・エンジン」「電磁ツインスイング関節駆動」「ヘリオス結晶生成装甲」など、GTMを構成するすべてのものはここで完成している。
オリジナルのアウトメタ型は炎の女皇帝とともに星団を去っているためにどういったものかは不明だ。しかし、システム・カリギュラのもつ「ゾルダート０」はこのアウトメタ型にかなり近いと思われている。

スミロ・フレーム

炎の女皇帝が星団を去り、その後誕生したGTM製造組織「ガーランド」によって解析された製造方法にのっとって作られたGTMである。
炎時代の大粛清によって超帝國女皇帝配下の最強GTMは皆無の時代、そして、旧大国の台頭の時代、この各地の「ガーランド組織」の手によってGTMは再生産が開始されたのであった。
もちろん、この再生産には女皇帝の粛清を逃れた「システム・カリギュラ」の技術も数多く含んでいた。
その後、騎士と「ガーランド」が次々と登場するに至って、AD世紀最後の1000年でこの「スミロ・フレーム」のGTMが各国の主力戦闘兵器となったのである。
現存するものはシステム・カリギュラを除けば、今や天照家がもっているという「モルフォ」だけである。

GTMのフレームとは？

フレームとはその名の通り「竜骨」からなるGTMの骨格である。このフレームによってGTMの性能のほぼすべてが決定し、フレームの大きさや組み方によって分類される。
ただ、フレームとはGTMの大きさを決めるだけではなく、エンジンのマウントの位置や各エネルギー伝導の配列などを決定する。そのために見た目の大きさや形だけではフレームの種別はわからないことが多い。

星団暦のGTMフレーム

汎用フレーム

ライオン・フレーム

ブラウニー・ライド博士の設計した大型フレームで、高出力、重装甲が可能なフレーム。
３大GTMのホルダやバーガ・ハリがこのフレームであるが、他にこのフレームを採用しているGTMはあまりない。
これは基礎製造において莫大な経費がかかるために大国でしか製造コストが折り合わないことが原因だ。
しかし、製造ラインにさえ乗ってしまえば、開発コストはかからないために製造国以外のライセンス製造も容易である。
メヨーヨ朝廷の「ホウライ」が最も新しいライオン・フレーム使用GTMである。

ライオン・デトニクス・フレーム

GTMダッカスに使用されている特殊なフレーム。ライオン・フレームなのであるが、各部がわずかに縮められ、より小回りのきくフレームとなっているが、ライオン・フレームよりも多少扱いにくくなっている。そのため堅牢で汎用性に優れるライオン・フレームをあえてデトニクスにする必要もなく、ダッカスとアイオ・レーンのもつ「オスカード」だけが現在使用している。

パンター・フレーム

現在の星団のほとんどのGTMが使用する基礎フレーム。ユーゴ・マウザー教授とキルス・レミントン伯爵の設計したこのパンターフレームは現在でもほとんど手を加えずにあらゆるGTMに採用されている。
登場するGTMにあえてフレームの説明がないものはすべてこのパンター・フレームであると言ってもいいほどである。

レオパルト・フレーム

天照帝の前の時代、ブラウニー家から派生した「ヘンシェル」家の当主であったフラム・アトワイトが設計していたフレームで、現在のミラージュGTMはこのフレームを使用している。ライオン・フレームとほとんど変わらない構成で、出力系が異なっている。ライオン・フレームの派生型である。

プーマ・フレーム

最新のフレームで、フィルモア帝国の新型GTM。長らく使用されてきたホルダ型の発展展開型GTM「ドージョージ型」のテストGTM「ラミアス」のもつフレームである。
非常に強靭なライオン・フレームをチータ・フレーム並に圧縮したフレームで、フィルモアでは「強チータ・フレーム」と呼んでいたが、完成後のラミアスは「骨太」のGTMとなった。
そのために新たにプーマ・フレームの名称が与えられ、星団ガーランド協会で認められた。
プーマ・フレームはラミアス以外現在ないので、ラミアスの外見がそのままプーマ・フレームである。

特殊フレーム

ティーガー・フレーム

ストーイ・ワーナー博士によって作られた特殊なGTMフレームで、規模と大きさはほぼライオン・フレームと同等だが、スライド変形をもつ機構上ライオン・フレームよりもツインスイングレール駆動部が多い。また各関節機構も若干大きめで、背部に飛行ユニットを背負っているのが最大の特徴となる。MK1、Mk2、Mk3、Mk4が現存し、Mk1とMk2はカリギュラが、Mk3とMk4はクパルカン法国が所有している。
ワーナー博士の専売特許的なフレームで、ワーナー博士が天照のもとに赴いてからは、天照との共同設計でこのティーガー・フレームを持つGTMが誕生している。これはティーガー・フレームと天照の作った「ティティン・フレーム」の融合で、「スピード・ミラージュ」に進化している。

チータ・フレーム

マール・クルップ博士とルミラン・クロスビン博士によって作られた比較的新しいフレーム。
骨太の奄骨をもち、全体的には細身で小型の出力比が非常に高いフレームである。
採用しているのはコーラス王朝のハイレオン、コーネラ帝国のSBB-1等、新しいGTMに多い。

ティティン・フレーム

天照の開発した螺旋ハーモディック・ツインエンジンを搭載していると言われる特殊なフレームで、エンジンを２基搭載するためのフレームである。現時点では一切が不明。

GTMホルダ19
メロウラ／スクリーマー
GTM HOLDA 19 MERROWRA/SCREAMER

星団認識番号	Pz-kpfrbt-D-19A
騎体	キ-D-708
型式	ケ-holda19A2
発動機	ハ-HL-550
全高	26.0m
自重	215t
最大出力	３京馬力以上

フィルモア帝国皇帝騎。現クリスティンのGTM。
旧ドナウ帝国ハロルドラントのマーカス王家のGTMとして製造された。
GTMホルダ17ことカイゼリンの２番騎でもある。設計と製造は同じくブラウニー・ライド博士（３番騎はボリショイ・グーガント）。「駆逐型GTM」と言われる通り装甲を極限にまで減らした軽量なGTMである。巨大でごついライオン・フレームが各部むき出しとなり、装甲は通常のGTMよりも薄く軽くなってはいるが、ライオン・フレームの堅牢さのためにそれほど防御性に劣るわけではない。見ての通り装甲部以外はカイゼリンとまったく同じである。メロウラはさらに実戦を繰り返している騎体なので各部の装甲はカイゼリンよりも厚い。胴体部の真っ黒な装甲はブラックスモークでちゃんと透けて内側が見える。

各部解説

カイゼリンと同じ巨大な頭部は放熱のためである。カイゼリンのペダン型エンジンよりは出力は落ちるが、帝国最強のHL550型エンジンはAD世紀のペダン型エンジンよりも安定し、扱いやすく、何よりカイゼリンで頻繁に見られたエネルギーのオーバーロードが少なく、ツインスイングの各部から火炎を噴き出すようなことはない。とはいえ、スイング部が赤く熱せられるのは変わらない。
またこの頭部はGTM装甲成形技術の極みとも言え、超複雑な頭部形状が一発結晶成型で作られている。ものすごい技術である。巨大な角飾りをもつが、それでも放熱が追いつかず、後部にラジエテーション・フィンが長く伸びている。髪の毛のように垂れ下がる４つの張り出しは透明装甲なので、眼球システムの前に来ていてもちゃんと透けて見えるので問題ない。なぜこのような複雑で不思議な垂れ下がりがあるのかはまったくわからないが、この垂れ下がりはメロウラの代名詞ともなっている。
胸部はこのメロウラだけの特徴で騎士を守る胸最前部の装甲が飛び出ている。これも駆逐型ゆえの緩衝装甲である。
また、多くのGTMは左右対称の盾、フライヤーを装備しているが、メロウラは左側のみで、その代わりにフライヤーのすぐ下には手甲の装甲が大きく取られてここにレールマウントで予備のガット・ブロウなどを取りつける。
装甲各部にある丸形のボルト状のものはボルトではなく、バルブ形式のエネルギードレインホールである。戦闘中はここから熱と放電が吹き上がる。GTMはボルトやナットのようなパーツがあっても装甲などを止めるためのボルトではない。ほとんどがこういった放熱対策のパーツである。GTMはねじ込みや溶接などといった組み立て方はされていない。すべて一体成形の結晶パーツで複雑なパーツが組み合わさりお互いのパーツをロックする形で各部パーツは組まれている。
考えてみれば、20mを超える巨大な質量をもつ物体が、とてつもないエネルギーをもってぶつかり、破壊しあうのだ。その衝撃エネルギーたるや想像もできない。その衝撃に従来の組み立てシステムである、ボルトやリベット、ねじ込みや溶接、接着などでは簡単に各部のパーツはバラバラに吹き飛んでしまうだろう。そのためにGTMは機関銃の内部のような塊のブロックがお互いをロックすることで衝撃に耐える構造となっているのだ。
これら各パーツは窒化ホウ素並の硬度をもっている。
ともあれ、ライオン・フレームの駆逐型GTMということで、見た目よりもはるかに堅牢である。
この騎体をもってクリスティン・Ｖは魔導大戦で最大のエースとして星団中に知れ渡った。

星団暦535年のフィルモア帝国の統合後にはお互いの皇帝騎の交換を行ない親善とした。以後太陽王国所属となり、フィルモア帝国ボルガ・レーダース・フィルモア王家の皇帝騎となる。アルカナス・ブラウ・フィルモア王家には「プリンシパル」こと「ボリショイ・グーガント」が来ている。
ドナウ時代には「メロウラ」と呼ばれていたが、クリスティンの乗騎となってからは「スクリーマー」と呼ばれるようになった。そのためふたつの名前が併記されている。ガーランドや整備の人間からは型式名である「ホルダ19」と呼ばれることのほうが多い。
型式が19A2となっているのはファティマ搭載型に改装するときに再建造されたからである。ほぼオリジナル通りの姿をもっている。
ドナウ帝国時代はウルトラマリンブルーの装甲であったが、レーダー王家に移ってからはボルガ王家のラベンダー色に変更されている。現在のクリスの乗騎もこの美しいラベンダーカラーである。もちろんすべて透明装甲である。

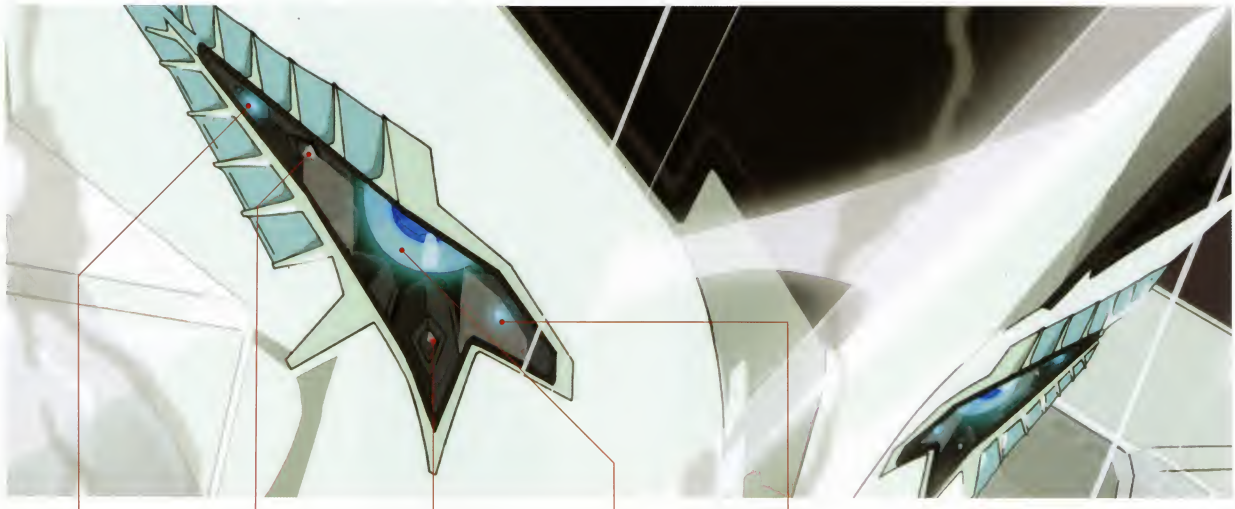
口径変動パルス・ビーム同軸砲
GTMは対地、対物などに使用する通常の攻撃兵器も数多くもっている。リンクビームに「同軸」で装備されているこのビーム砲もそういう用途で、GTM以外の対象に使用される。また、主武器のガット・ブロウの光線砲よりワンアクション速く撃てるために、まれにGTM戦闘でも使用される。
リンクビームと同軸のためにリンクビームの外側のビーム砲軸がよく使用されるが、どちらのリンクビームからも撃てる。最大４門発射可能である。また口径が変動するのは威力を調節するためで、戦艦の装甲を打ち抜く最大破壊力から、人間をバラライズさせる程度の弱いビームまで調節可能である。
尚、これらのビーム砲は「目標を絶えずロックオンし続け、そのロックオンされる目標の数は無限である」ということだ。
つまり、一度でもロックオンされれば騎士やGTM以外は絶対に逃れられない。これを制御しているのはファティマである。これがどれほど恐ろしいことかはGTMと対峙した者にしかわからない。戦場に１万人の兵士がいたとしたら、GTMはいつでもこれらの１万人の兵士を狙撃することが可能なのだから。１万回のビームを発射するのに必要な時間はたぶん１秒以下。恐ろしいことである。

統合索敵リンクビームシステム
眼球システムとは別の索敵専門のシステムをほとんどのGTMは別にもつ。たいてい片側２基、計４～８基の投射ビームをもっている。メイン眼球システムの複眼にもこの機能はあるが、こちらが使えない場合にのみメイン眼球ブロックが機能する。
わざわざメイン眼球システムと分かれているのは、「メイン眼球は騎士の目の情報を反映。リンクビームシステムはファティマと連動し、敵対する、もしくは目標となる物体を絶えず認識する」という違いである。
騎士が見ていないところを絶えず索敵し、必要なら無限の目標をロックオンすることができる。
またこのシステムは喉の部分と後頭部にも２基ずつ装備されている。

メイン眼球システムブロック
片側５基で構成される。人間と同じ光学反応式のパッシブ眼球を中心に、アクティブの全周波数帯の電磁投射眼球を４基もつ。これらはすべて操縦する騎士とファティマの目となる。GTMは両眼合わせて10個もの目をもつ。
10個の眼球はすべての周波数帯をカバーしているので、赤外線、紫外線、X線、α、γなどの放射線からパルス、音波、不可視光に至るまでこの世に存在するすべての物質を認識可能だ。
わかりやすく言えば、普通の目玉に望遠鏡、顕微鏡、レントゲン、電波望遠鏡、レーダー、ソナー、３次元スキャナー、テレビやラジオ、Wi-Fi、その他考えられるすべての光や電波や音波を「見る」ことのできるすごい目玉をもっているのだ。

大口径ビーム砲「ヴィー・ベロック」
カイゼリンやマグナパレスは頭部の装甲内に外部からは見えない大きな大砲を内蔵している。その口径は100cm以上もある。大砲とは言っても砲身のない大砲で、ビームを放つエネルギー集積部の直径が100cm以上ということである。
装甲内部に砲口があるのでビームそのものは装甲を貫通して発射される。映画「花の詩女」のカイゼリンのヴィー・ベロックの発射を見てもらえば一目瞭然だが、集積されたビームのエネルギーは砲口で輝くが、ビームが実体化するのはかなり離れたところである。この粘り着くようなビームは他のビームとは違いエネルギーが連続して波のように押し寄せるので、ヘリオス装甲すら破壊することが可能である。ただし、ものすごいエネルギーでチャージに時間がかかるためによほど優位にあるときにしか使用できない。また、まれに宇宙戦闘などで戦艦相手に使用されることもある。

ものすごい数をもつGTMの複眼
GTMは通常の光で反応する我々人間の目と同じ眼球の他に、人間が見ることのできない波長の色や物体を見ることができる。紫外線や赤外線を含めた高周波数や電磁波などの不可視光などこの世に存在するほぼすべての物質を目視可能である。眼球は我々の目と同じ構造をもつ光に反応するパッシブ型のメイン眼球と、電磁波を投射してその反射で反応するアクティブ型の眼球をもつ。
またフレキシブルな解像度システムを持つので騎士にあらゆる目視情報を伝えることが可能だ。例えば豪雨では雨と水蒸気が邪魔をして範囲が見えづらいが、GTMはこの雨と水蒸気を消し去った状態で騎士にその映像を見せる。闇夜でも砂嵐や雪などでも同じだ。
解像度システムは遠くの物体を大きく見せたり、X線を使用して建物の内部を任意の透過で見せることも可能である。つまりそこらを歩いている人間の服を一枚ずつ脱がせた状態や、さらには裸の内部の骨髄細胞まで透過することができる。これらはX線だけではなく電磁波の解像システムによって形や色を再現して人間に見せているのだ。
さらには１万km離れた人間の顔すら識別可能だし、星の内部をどんどん透過させることも可能なのだが、こういったことはまったく意味がないので騎士には最低限の情報しかコクピットに投影しない。いくらできるとは言え、パソコンの検索結果1000万件をひとつひとつ閲覧しているようなものだからである。
詩女もそうだがジョーカーの世界では「余計な情報、多すぎる情報は悪」という考え方によるもので、これは「情報は淘汰されるべきで、正確さこそが正義」ということである。氾濫する情報社会のでたらめさを経験してきたジョーカー星団ならではである。



サブ眼球４
電磁波、音波などすべての周波数帯の電磁波感知器。放射線なども含まれる。

サブ眼球３
パルスビーム。投射方向全域をカバーする。メイン眼球の視界に左右されない。上下左右に広範囲の視覚をもつ。

サブ眼球１
全波長をカバーする。赤外線から紫外線までの広範囲の波長を識別する。

メイン眼球
人間と同じ構造。目を守るためのシャッターもまぶたとシャッターの２重である。４つのサブ眼球とリンクし、望遠拡大、透過、補正すべての調整も行なう。

サブ眼球２
レーザービーム。主に騎士の見ている物体を捕捉する。目標の捕捉と距離などを測定する情報検出眼球で、メイン眼球の予備も兼ね、絶えずリンクしている。

黒・通常状態
このページのカイゼリンの色変化は星団暦451年の「詩女暗殺計画」の時のもので、すべての時代のカイゼリンが色の変化をするわけではない。基本的に黒い部分のみが変色する。これはこの時のセッティングで、その後の2992年のヤーボ・ビートが使用した時は赤とオレンジが基本色で、駆動状態による色変化は行なっていない。このようにその時その時で搭乗する騎士の好みなどでカイゼリンは色を変えることが可能である。

青・セーフモード
エンジンの出力が過剰の時に再起動状態となる。あまり見られない状態である。

白・セルフチェック終了状態
この時に防護バリアが張られるが、このバリアは敵の攻撃をはじくだけではなく、最も重要な索敵システム(眼球)への妨害をカットする機能をもつ。これによって妨害電磁波などの影響をなくし、標的を正確に捕捉する。妨害電波へのシールドである。すべての兵器がもっている。

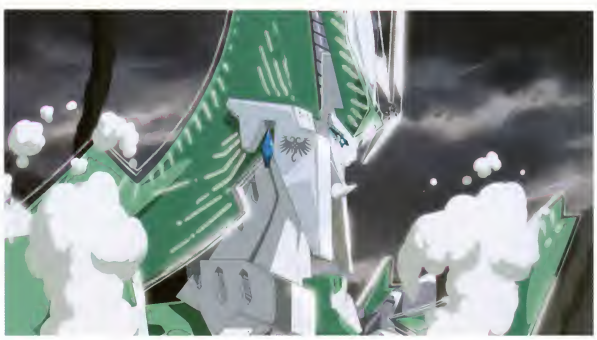
カイゼリンはそのすべての装甲色を任意に自在に変えることができる。「どうやって？」と不思議に思うかもしれないが、これは「色の本質」をご存じの方には別に何でもないことだと思われているだろう。

我々が普段目にしている色というものは実はこの世には存在しない。
ちょっと難しい話になりますがお付き合いを。
すべての物質はその表面の分子構造によって様々なテクスチャをもっている。例えば磨いた鉄の表面も磨いた金の表面も同じつるつるだが、電子顕微鏡で見ればその分子の配列は異なる。この表面の分子、もしくは物質の反射の仕方で我々からは「色が変わって見える」のである。
手っ取り早く言えば多少乱暴ではあるが、
「すべての物質に色はない。あるのは白と黒のみで、この世のすべてのものは“灰色”で構成されている」
ということである。
ではなぜ我々には灰色でなく様々な色に見えるかと言えば、先ほど言った物質の表面の僅かな「光の反射」によってその反射を人間の眼球は７色のスペクトルに分解し、それを大脳が「色がついて見える状態」に見せているのだ。これは色を認識できる動物すべてが、「すべてグレーの本当の状態ではなく、色をつけて見た方が捕食しやすい。もしくは生存に有利」という理由で「色彩細胞」という光の反射による波長を色に置き換え認識する細胞を手に入れたのだ。
人間もある一定以上の光の明るさがないと「色を判別できない」状態になる。
金属の光沢をもつ昆虫は「なして有機体が金属の光沢をもつの？」と不思議だが、これは昆虫が金属の物質をもっているわけではなくて、彼らの外骨格の表面が金や銀、メタリックの金属とほとんど同じ分子配列をもっているということです。

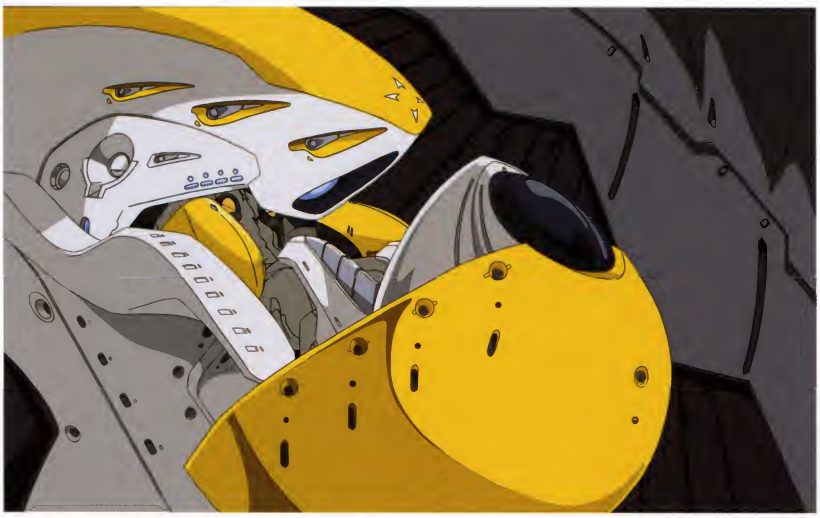
ここまで言えばおわかりと思うが、カイゼリンの色は装甲の表面にある分子の構成を変えて、低周波数は赤、高周波数は青というふうに変わっていくだけの話である。
この分子構造を変える物質は透明のヘリオス装甲の内部に薄く挟み込むようにインサートされている。ここに電磁波をかけて表面の反射の波長を変えてカイゼリンはじゃんじゃん色が変わるのである。
あまり戦闘や性能に関係ないことなのでカイゼリンくらいしかGTMでは装備していない機能である。

オレンジ・特殊チャージ
大出力ビーム砲の「ヴィー・ベロック」発射時など、特殊なエネルギー・チャージの時にこの色となる。

赤・最大出力モード
ヤーボのカイゼリンはこの赤い装甲色でアドラーに出撃していた。このエンジン全開状態では各ツインスイング部から余剰出力のエネルギーが炎となって沸き上がる。この炎もカイゼリンの特徴である。



ミント・クールダウン時
戦闘で関節部の莫大な熱や放出エネルギーで熱された装甲を冷やしている状態。頭部に浮き上がっている模様は強制冷却の液体が気化して噴出している箇所である。冷却用の触媒はハーモイド・システムがその時その時の環境で造り出す。この場合はたぶん二酸化炭素か窒素を使用して液化させて冷却バイパスに流していると思われる。

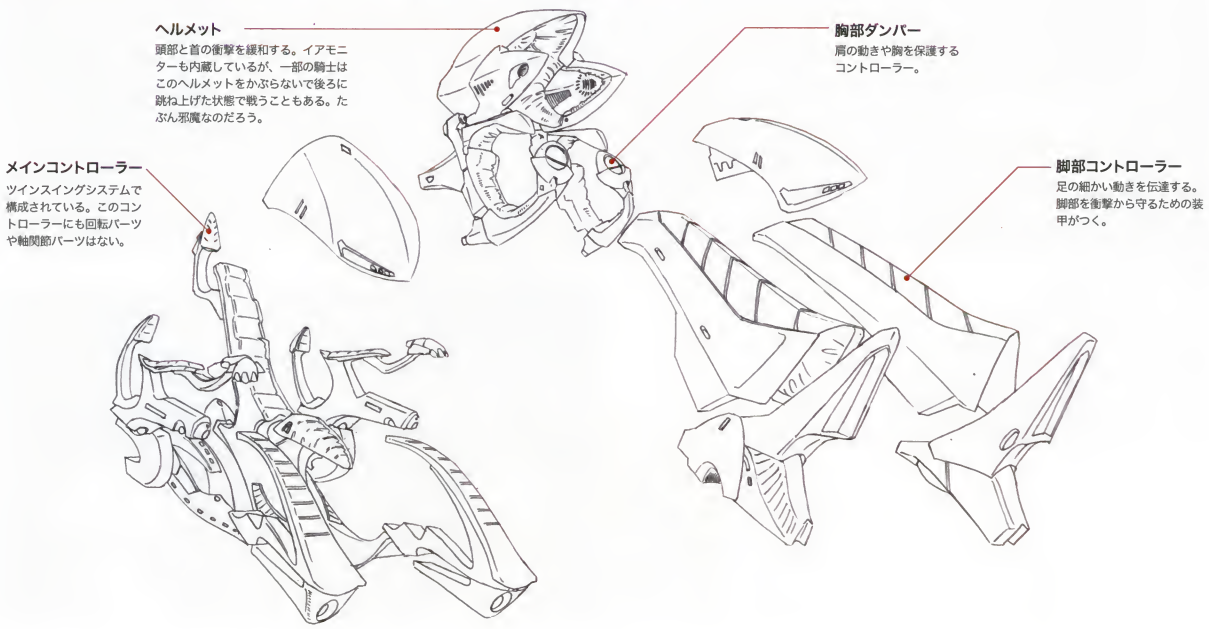


全周囲オーバーヘッドキャノピー
完全防御のドーム型で、騎士の頭部と上半身をすっぽりと覆う。中はすべてモニターとなり、肉眼で見ているのとまったく同じ周囲を映し出す。下図のコントロールシステムをすっぽりと覆い、卵の中の黄身の状態のようになっている。

重要な耐衝撃システム
耐衝撃システムの重要さはもし騎士とファティマのコクピットがこのシステムで守られていなければ、敵GTMのとてつもない質量とエネルギーをもった攻撃を受け止めるだけで中の人間はその衝撃でミキサーの中と同じになってしまう。普通の戦闘衝撃なら骨はバラバラで、GTMの剣の打ち込みクラスの衝撃なら人間はジュースになってしまうのだ。地球の重装甲の代表であるタイガー戦車ですら敵の鉄甲弾を至近距離で食らえば、装甲は貫通されなくてもその内側の搭乗員は気絶したりしていた。GTMの戦闘はそれらを遙かに超える衝撃との戦いなのだ。
GTMの装甲はGTMですら破壊するのは難しい。一番危険なのはその衝撃で騎士やファティマが負傷することなのだ。そのために耐衝撃システムは必須となり、騎士もファティマも浮いた状態でコクピットに収まり、そのコクピットは球形のカプセルとなって衝撃を緩和するゆりかごのようになっている。
実際GTMは装甲の強度よりもこちらの耐衝撃を最優先にすることが騎士たちの生存を高めることになっている。

操縦システム
騎士の動きすべてを感知し、GTMは騎士とまったく同じ動きを再現する。人間のすべての部位の動きを感知するが、実はそれとは別にコクピットそのものが騎士の動きを完全にモニタリングしているので、騎士がのけぞって後ろを振り向くというアクションにも平気で対応する。このコントローラーは「個別アクション」に対応するだけで、全体のアクションはコクピットそのものが感知して対応している。

オーバーヘッド・モニター
オーバーヘッド・キャノピー内部。モニターはGTMと騎士の動きに追随するためにGTMが下を見ればコクピットそのものが同じ角度で下を向くので、足下まできっちり見える。モニターはあらゆる情報を別のスクリーンで映し出すが、その時必要な情報しか出さない。目の前にあるのはターゲットマーカーで人間の瞳の動きに追随する。瞳の絞りとも連動し、焦点距離もすべて人間の肉眼と連動する。右下の赤いマーカーはカイゼリンのターゲットである。この赤と上の黄色い2つのマーカーが重なると完全にロックオンされる。モニターに走っている白いガイドは本来の視界領域で、騎士の目が動けば連動する。



ファティマ・コクピット
騎士とファティマという「副座」の制御システムをもつＧＴＭだが、騎士は実際の操縦。ファティマはそのフルサポートを行なう。状況に応じた出力マネージメントから各部関節、トリム調整などのＧＴＭの運動制御。そして最も重要な情報統制。ＧＴＭの状況からどの情報を優先的に騎士に与えるか、また騎士との「会話」による指示など、同時にいくつもの情報処理を行なう。
ただ、一度作戦行動などに入ればあとはＧＴＭ各所のモニターを行なうだけでよいので、ファティマはもっぱら外部のあらゆる情報、作戦区域の地形情報から気候、索敵と敵の状況、味方の情報、通信、そしてパートナーの騎士の状態などを絶えずモニタリングしている。

ファティマの場合、直接ＧＴＭの各部に命令するので騎士側のようなコントロールシステムは必要ない。騎士が負傷したときなど即座にコントロールを奪ってファティマがＧＴＭを動かす。
また、アシリア・セパレートの場合は「ホスティング」によって複数の他のＧＴＭをコクピット内からも外部からも制御することもできる。これはファティマが損傷した場合など遠隔で待避させたりするのである。
このファティマ・コクピットは２重の内部装甲とＧＴＭのファティマ・ハッチの計３つの装甲に守られているが、実はＧＴＭの装甲は透明なので、ファティマ・コクピット内から外は透けて見えるようになっている。ただし、ＧＴＭのものすごい動きを頭頂部の中から見るというのはジェットコースターの数十倍の感覚である。なのでファティマたちはあえて外を見ることはない。さすがのファティマでも目が回る。不思議なもので、GTMの眼球を通したモニターだと自分が見ているままの周囲が見え目が回ることなどないのに、実際騎士がハッチを開けたままにしたりファティマが透ける内部から外を見ると目が回る。感覚の違いである。

このファティマ・シェルの中枢部はフィルモア帝国ＧＴＭホルダ31型系列すべてのファティマ・シェル内部で共通である。
オキストロがいるので実際にはホルダ35「アルカナ・オーデル」のコクピットだが、まったく同じである。
騎士側もファティマ側も最も危険な「衝撃」によって体がバラバラにならないように強力な反発性のツインスイングアームと浮遊耐衝撃システムに守られている。また、ファティマのコクピット、「ファティマ・シェル」はＧＴＭの中でも最も頑丈に作られており、ここが破壊されることはまずない。
ファティマはＧＴＭの頭脳そのものなのだ。

ターゲットマーカー
騎士側と同じターゲッティングとアイマークはファティマ側にもある。しかしファティマはGTMと直結しているのでコクピット内でファティマは大半目を閉じている。自分の視神経に直接GTMの見た情報が入ってくるので、自分の体の五感は制御には必要ない。つまりこれらのマーカーは戦闘中には必要ないが、実際のターゲットとこれらのターゲットマーカーがちゃんと照準が合っているかを確かめる場合に浮き上がる。これはコクピットからではなく、アシリアのワイドレンジ・ヘッドキャパシタから投影される。

制御アンテナ
光学アンテナで各アシリア・インジェクターから照射されたアンテナはコクピットの壁に張りつくように照射し、GTMの全情報の制御を行なう。詳しくは「アシリア・セパレート」の項を参照。

アイマーク・ターゲッター
自分の見ている視線のマーカーでこちらはファティマ自身の目に追随する。このファティマのアイマーク・ターゲッターでロックオンされた目標はほぼ100%の命中率で通常兵器や人間などは絶対に逃れることは出来ない。 このロックオンをGTMがリアルタイムセーブして無限の目標を攻撃することが可能である。あまりに無慈悲なために余程のことがない限りファティマは使わない。無限ロックオンによる蹂躙や殺戮は星団法違反ではないが、使用後、騎士は軍法会議にかけられる。それくらいファティマの照準は恐ろしいのだ。

GTM側ターゲットマーカー
GTMのターゲットを投影する。騎士のコクピットにあるものともちろん連動している。

セットポイント
ファティマの肩につくアシリア・インジェクター「アンブレラ」はここにセットされる。ここで浮遊中のファティマを支えている。

ダンパーシート
白い革のダンパーはシートとヘッドレスト部に分かれているが、ファティマは宙に浮いているためにほんのわずか触れているだけである。フレキシブルに曲がるので、GTMのエンジンが停止時やアイドリング時には浮遊はしておらず、ファティマはこのシートにもたれかかっている。

シェル・ツインスイング
GTMの竜骨とまったく同じ作りのツインスイングの背骨がコクピット中枢である。あらゆる情報をGTMからファティマへ「体感的に」フィードバックする。また、浮遊状態でも吸収できない衝撃の最終的なダンパーともなる。

ファティマ・オキストロ
OCHESTRO

身長158cm　体重40kg

アルカナ・ナイトのケーニヒのパートナー。「オーケストラ」の別読みという優雅な名前をもつ。再開後にようやく登場したサリタ・アス・ジンク博士のファティマで、バランシェやモラードのファティマとはまた違った雰囲気をもつ。登場頻度は相変わらず高くアシリア・セパレート姿もここでお披露目となる。
現在はケーニヒとともにホルダ35アルカナ・オーデルを駆るが、アルカナ・ナイトは通常戦闘用にホルダ31ユーレイも与えられているので、もしかするとユーレイに乗っているほうが多いかもしれない。

黒騎士　ダッカス・ザ・ブラックナイト
DACCAS the Black Knight

星団認識型式	Pz-kpfrbt-LuX-033B
騎体	キ-LuX-033B
型式	ケ-holda-DTN31
発動機	ハ-HL550
全高	23.5m
自重	235t

「黒騎士」と呼ばれる星団でも最も有名なGTM。
GTMガーランドのルミラン・クロスビンとファティマ・ガーランドのモラード・カーバイトの２人の手による傑作GTM。ファティマ「エスト」を専任の制御システムとして設計され、ファティマが最初から組み込まれる状態で製造されたGTMはこのダッカスのみである。
あまりに強力なダッカスとエストのコンビは多くの騎士の羨望と争いを生んだ。そのためエストはダッカスの主となる騎士を探すことも使命となった。
また、後に多くのガーランドがこの専任システムに挑んだがよい結果は生まれず、何より片方が欠落するとその強さがまったく発揮されないために、国家も騎士団も敬遠した。今もこの専任システムはこのGTMのみである。

型式番号を見るとびっくりするが、フィルモア帝国の「ホルダ型」なのである。これはホルダ型GTMというわけではなく、ホルダ31Mが基本設計としてあるからである。「小回りのきくわずかに軽いGTMを」との要請でクロスビン博士はライオン・フレームを切り詰めた「デトニクス・ライオン・フレーム」を作ったが、計画自体が破棄となり、その時のフレームで作ったのがこの「ダッカス」と「オスカード」である。
また、エンジンはホルダ31と同じHL550という大出力エンジンである。実際ダッカスのメンテナンスはフィルモア帝国のGTMのパーツが使えるためにかなり楽である。これは各国を放浪する黒騎士としてもパーツの調達に都合がよい。とはいえ、ダッカスのメンテナンスは高名なガーランドに頼るしかないが、堅牢な設計であるために数十年フルメンテナンスがなくとも問題なく稼動している。ダッカスを駆る黒騎士が強く、GTMに無理をさせない戦闘が可能だからでもある。

現時点での永野デザインの最高峰である。

ボルドックス・ガーネット（X-9紫苑鋼）
VOLDOX X9 Zǐyuàn Gāng

星団認識型式	Pz-kpfrbt-UM-VX-9
騎体	キ-UM-VX
型式	ケ-VX-9
発動機	ハ-SM-34
全高	26.2m
自重	245t

ウモス連合共和国の主力GTM。
「パンター・フレーム」のGTMで、X-3から始まる「ボルドックス」は最優秀GTMとまで呼ばれるほど強力なGTMである。その汎用性、適応性、生存性、連続戦闘稼働率、戦略性すべてにおいて秀逸な性能を誇る。突撃戦から防御戦等、駆逐戦闘などすべてに対応可能である。
まさに騎士とファティマの腕が問われるGTMである。

「花の詩女」に登場したオリジナル・ボルドックス（Xa-01）とはまったく姿を変えての登場であるが、ユーゴ・マウザー教授の改良の結果である。ライオン・フレームと異なり、放熱パーツが巨大化せず、各部がコンパクトにまとまっている。巨大な菱形のアイホールを守るように大きなマスクが頭部を覆い、本来のフェイスは隠されているがこれらのパーツを外しても「花の詩女」に登場した姿にはならない。すべての装甲パーツの形状が異なっているからである。しかしパンター・フレームのツインスイング関節部分などにはまったく変わりはない。

ボルドックスはX-3からX-9まで各型があるが、すべて同じで、使用国や装備で呼び方が異なるだけである。生産はX-3型のライセンス以外はすべてウモスである。

X-3ボルドックス・ジェーム
X-4ボルドックス・ハルシュカ　紅騎士（1騎のみ）
X-8ボルドックス・アメシスト　紫仙鋼
X-9ボルドックス・ガーネット　紫苑鋼（指揮型）

X-8紫仙鋼（しせんこう）が俗に言われる汎用型で青銅騎士団をはじめとして多くの国家が保有している。各型には個別の名前がついているが、基本的にボルドックスと呼ばれている。かつてパイドパイパー騎士団が装備していたのもX-8である。
X-9紫苑鋼（しおんこう）はウモスの青銅騎士団が主力で装備するX-8型の指揮型で、頭部のカラーなどが異なっているが、X-9型は精鋭騎士に渡されるためにその意味では「エース騎」ということである。若干軽量に作られているため肩の装甲などが異なる以外、性能はX-8型とまったく同じである。物語では「アクト4・ロスト・マグダル」においてようやく登場したオリバー・メルシュがX-9を駆り、ボルドックスの姿を見せた。
X-3型はライセンス生産や輸出などに使われているタイプ。X-4型は1騎しかない特別なボルドックスで、ウモスの筆頭騎士クローゼの乗騎である。

バーガ・ハリBSハスハント
BAGA Ha-Ri BS

星団認識型式	Pz-kpfrbt-DK-M5-5
騎体	キ-Dk-M5-5has
型式	ケ-Dk-M5-5has-BS2
発動機	ハ-SM-60Mi
全高	26.0m
自重	265t

旧ハスハ、ミノグシア連合に４カ所あるGTMバーガ・ハリの生産工場のうち、ハスハント国南西にあるハスハント工場で生産されたバーガ・ハリである。
この工場では「スバース隊」「スキーン隊」「ドーチュー隊」「エンブリヨ隊」「スパチュラ隊」と特別仕様の「スクリティ隊」のバーガ・ハリを生産し、ミノグシアでは最大の生産工場となる。
ＡＰ騎士団の使用するバーガ・ハリは各ＡＰ支隊に合わせて性能や仕様が変えられていることが多いが、魔導大戦勃発によってこれらのバリエーションは生産効率のアップのために４つの工場で統一されて大まかに４つにまとめられた。
星団認識型式や型式にある「Dk」はバーガ・ハリの設計と改良を今も行なっている聖宮ラーンのGTM開発組織「ダリ・キア」のものである。バーガ・ハリそのものの設計は「ゼピア・コーター」博士が行なっているが、広大な旧ハスハ連合とイースト・ カステポーのラーンのために様々な改良が行なわれている。
各支隊の型に分かれているバーガ・ハリだが、型式はすべて「M5」に統一されている。
エンジンはホルダ31などと同系列のもので、ライオン・フレーム用の大出力エンジンである。

ライオン・フレームをもつ大型GTMであるが、開発には莫大な予算が投じられたのも広大なミノグシアに散る様々な思惑をもった各国家や民族が扱いやすくまた頑丈で壊れにくいGTMをという要求を満たすもので、当初よりフレームや装備などにかなりのゆとりがもたせてある。現在のM5-5型は2000年代中盤の設計だが、それより前の星団暦600年頃に基礎となるライオン・フレームはブラウニー・ライド博士によって設計されていた。カイゼリンがドナウ帝国より贈られたときにライド博士はハ・リに入り、ミノグシアのための新たなGTMを設計していたという。そのフレーム設計は今も残り、フィルモア帝国のホルダ型GTMとツインスイングは酷似している。いくつかのパーツ、特に下腕ツインスイング部分などは交換共用も可能である。

性能的には星団３大GTMと呼ばれるだけあり、フィルモアのホルダ31やクバルカンのルッセンフリードと変わらない重装GTMである。ミノグシア各国は先にも述べた通り、多彩な国家と多様な用兵をもつため、非常に堅牢で、多少の損傷でも作戦行動が可能な設計である。そのため、機敏性や総合戦闘力はわずかにホルダ31には劣ると言われるが、それを補って余りあるほどの「生存性」をもっている。
バッハトマのノウラン侵攻でつぶされた数騎のバーガ・ハリもあの程度の損傷ならば回収すればまた使えるはずである。もちろんバッハトマに占領されたのであの数騎のGTMはバッハトマに捕獲されたはずである。とはいえ、バッハトマにはあのバーガ・ハリを再起動するだけのガーランドはいないので、捕獲後は放置されたままであろう。

バーガ・ハリ・KK
Baga Ha Ri KK

星団認識型式	Pz-kpfrbt-DK-M5-5
騎体	キ-Dk-M5-5ys
型式	ケ-Dk-M5-5ys-KK
発動機	ハ-SM-60Mi
全高	26.3m
自重	255 t

ツラック隊の使用するバーガ・ハリ。イェンシング工場製。しかし魔導大戦勃発で旧ハスハ各国は分断され、中立不動の立場を取る北部ミノグシア、イェンシング国とバトランド共和国はミノグシア連合に属するベラ国へのＧＴＭ供給を停止しているため、ベラ国のツラック隊は苦しい立場にある。基本的にはスパース隊の使うハスハント工場のバーガ・ハリと変わりはないが、頭部やアイドラ・フライヤーに特徴が見られる。ある程度軽量に作られているのもコストダウンによるものだろう。装甲色はイェンシング工場の固定カラーである若草色である。

生産工場によって４つに分けられるバーガ・ハリは以下の通り。

ハスハント工場生産バーガ・ハリ
（型式M-5-5has）
- バーガ・ハリ BS スパース隊
- バーガ・ハリ SKS スキーン隊
- バーガ・ハリ DS ドーチュー隊
- バーガ・ハリ AE スパチュラ隊
- バーガ・ハリ EBS エンブリヨ隊
- バーガ・ハリ ESSQ スクリティ隊

ギーレル・パーフェーン工場生産バーガ・ハリ
（型式M-5-5gr）
- バーガ・ハリ HS パローラ隊

ナオス国工場生産バーガ・ハリ
（型式M-5-5Na）
- バーガ・ハリ FiTr ディスターブ隊
- バーガ・ハリ DDG SPK隊

イェンシング工場生産バーガ・ハリ
（型式M-5-5ys）
- バーガ・ハリ JG ジャーグド隊
- バーガ・ハリ KK ツラック隊
- バーガ・ハリ LA ラーン支隊

「アクト５」のエピソード中にツラック隊のバーガ・ハリKKは数騎がソープとツバンツヒの手にかかり機動性重視の特別騎に改造されている。これは支隊長ナルミと大隊を率いる連隊長となるツバンツヒ、そしてハレーのために動力性能と操作性をチューンアップしたもので、その操縦性能においては精鋭部隊仕様と言われるスパース隊のBSをも超えるものとなっている。これは余裕のあるフレームのためにできたことで、チューンアップされた分ソープかツバンツヒがいないと稼動保持できず、ベラ国攻防戦が終わったあとは元に戻されている。しかしそれ以外のツラック隊のバーガ・ハリもソープによってすべて工場出荷状態よりもはるかに性能アップされ、その後のツラック隊の基本チューニングとなっている。そのソープの残した改良点はマギーに伝えられ、その後の新型GTM「アトラ」にも引き継がれている。

ＧＴＭホルダ３１Ａ・幽霊（ユーレイ）
HOLDA 31A ÜREII

星団認識型式	Pz-kpfrbt-Fi-031A
騎体	キ-Fi-7014
型式	ケ-holda31A
発動機	ハ-HL630Fi
全高	25.5m
自重	266t

星団３大ＧＴＭと呼ばれるフィルモア帝国の主力ＧＴＭ。ユーレイは幽霊でÜreii（ウムラウトＵ）と書く。騎体番号から推察できるとおり707カイゼリン、708メロウラ、続いて709プリンシパル、7010ウィリーズ（ヴィリ）、7011は空白で、7012、7013が旧型ユーレイ、そして7014が現行型ホルダ31ユーレイとなっている。右の系列を見てもらえばわかるだろう。ユーレイ以降は7015バイカル、7016アムール、そして7017ラミアスとなる。

基本的な構造とプロポーションは「カイゼリン」とまったく同じである。だが、重装備（重装甲ではない）のためにカイゼリンと比べるとずいぶんごつく見える。その最たるものは胴体部の竜骨背面がごつくなっていることによるものだろう。これは指揮駆逐型であるカイゼリンやメロウラよりも長時間の戦闘を念頭に置き、戦闘継続性を持たせた装備のために発熱と大電力バイパスを兼ねた背骨のパーツが付いているのだ。また、カイゼリンやメロウラ、バーガ・ハリなどは頭部に放熱システムを集めているが、ユーレイは背中のアイドラフライヤーなどに分散させている。後部の肩装甲が翼のように広がっているのは放熱のためである。これは折りたたむこともできる。
そしてカイゼリンなどよりも長時間の戦闘状態を維持するために上腕部や脚部装甲ブロックと各部ツインスイング、特に膝のスイングブロックはあきらかに巨大化している。

このホルダ31ユーレイは両腕が長く伸びて、ツインスイング関節は完全弛緩状態である。膝の下にまで腕が伸びている。肘の第１ブロックは本来上腕内側に収納されているが、伸びきって完全に上腕部から飛び出している。連載の駐屯地のシーンで待機しているユーレイと比較してもらえばよくわかるはずである。脚部や膝は重量を支えているために通常状態であるが、これもふくらはぎのスイングが相当スイングスライドするので腕同様に伸びる。これらはすべてのGTMに共通である。前のページのメロウラがこのユーレイとは反対のツインスイングが緊張し両腕は縮んだ状態である。同じフレームなので弛緩と緊張でおもしろいほど変わるのがおわかりいただけるだろうか？
また両腕に付くフライヤーは他のGTMでは下腕装甲ブロックのアームガードの上にフライヤーが装着されるが、ユーレイはこのとおり下腕装甲ブロックがなく、下腕第３スイングブロックの背面に直接装着される。フライヤーにはガードスパイクという突撃戦闘用の巨大なとげが付いているが、状況に合わせて様々な装備のフライヤーが装着される。これもユーレイの特徴である。

フィルモア帝国GTM系列

ダス・ラント時代

ホルダ７型・クィーンズ・ホルダ・ライルンレー

帝国分裂時

ホルダ９型・ライルンレー・オーデル（太陽王国GTM）

ホルダ11型・ライルンレー・エルベ（バルバロッサGTM）

ホルダ13型・ライルンレー・ライン（ドナウ帝国GTM）

ホルダ17型・カイゼリン（ドナウ帝国皇帝騎～現詩女所有）

ホルダ19型・メロウラ（ハロルドラント王騎～現ボルガ・レーダー王家皇帝騎）

ホルダ21型・"プリンシパル"ボリショイ・ゲーガント（ブラウ・フィルモア王家）

ホルダ23型・ウィリーズ（略称はヴィリ）
（クバルカン法国太閤騎、現ダイ・グ乗騎・皇帝騎）

帝国統合後

ホルダ31型・幽霊（ユーレイ）（現３大GTM）

ホルダ33型・バイカル（重装型ホルダ）

ホルダ35型・アムール（指揮型ホルダ）

ドージョージ１型・ラミアス（現在３騎が実戦テスト中）

フィルモア帝国系列のGTMにはすべて例外なく女性の幽霊の名前がつけられている。その由来は起動時のツインスイングのスイング音が女性の泣き声や金切り声に聞こえるからである。
全てのフィルモアGTMを踏襲する名前「ホルダ」は妖精の女王の名で、愛の女神でもある。その歌声で船頭や人を惑わすと言われる「サイレン」や「ローレライ」の伝承の元となったと言われ、彼女らの女王である。
女性の名前がつくとは言ってもホルダ型GTMは大半が男性的でごつい姿である。女性型なのは「カイゼリン」と「メロウラ」「プリンシパル」だけである。新型の「ラミアス」は死神のような姿だと言われる。
自国の主力兵器に幽霊の名前をつける感覚は日本にはあまりないかもしれないが、強さや怖さは戦いの士気を上げ、弾よけや魔除けとして兵士たちが好んでつける。そして不吉な名前は「強い」事の証明でもあるために、悪魔や妖怪、そして骸骨などをモチーフとする国家や軍隊は多い。有名なのはドイツ戦車隊のどくろのマークや（国防軍親衛隊を問わず戦車隊はすべてどくろのマークをつけていた）、アメリカ軍の海軍旧第84飛行隊のどくろの海賊マークだろう。（現在は103飛行隊がこのマークを引き継いでいる）

帝国分裂時のホルダ型GTMの後につく個別名はすべて川の（大河）の名前がつけられている。また、現在のホルダ31のような派生型を多くもつ型式には湖の名前がつけられている。

＊ホルダ、妖精女王(Holdaゲルマン古語のため正確なスペルは不明である)
＊メロウラ、歌声で人を惑わす人魚（メロウラは造語 Merrow-la）
＊ウィリーズ、湖の妖精　（Willies）
＊ラミアス、人蛇の妖精（ラミアスは造語 Lamiya-s）
＊ライルンレイ、歌声で人を惑わす川の妖精（Lauernley）
＊ドージョージ、恋に狂った大蛇。（道成寺）

かつてフィルモアの一部であったクバルカン法国も同じ理由でネーミングを引き継いでいる。３大GTMの「ルッセンフリード」のクバルカン名は「白の婦人」「赤の婦人」ともに妖精の名前である。

型式番号に関しては「ダス・ラント」時代からの踏襲で、番号は奇数のみである。偶数番号のGTMはいない。奇数で欠落している番号はバージョンアップで上書きされた結果、欠番となっているので、ホルダ31の前には27、29各型があった。これらはすべてバージョンアップでホルダ31に踏襲されている。
ところで、「ホルダ25型」があるはずなのだが、ここは空白となっている。理由は不明だが、すでに何かに使用されているようである。

ティーガー・フレームのナンバーと名称

「Mk～」が通しナンバーで「ゲートシオン型」にはナンバー１から５があてられている。「ナンバー」は製造ロットの通し番号で、本来は表記されないものだ。

ゲートシオン型GTM

ゲートシオン・Mk1　ナンバー１　騎体名称なし

ゲートシオン・Mk2　ナンバー２　騎体名はなし
（ナンバー３のパイロット製造と思われる）

ゲートシオン・Mk2　ナンバー3「クローソー」

ゲートシオン・Mk2　ナンバー４（失敗作、名称なし）

リッタージェット型GTM

リッタージェット・Mk３　ナンバー５「破烈の人形」

マッハ・シャルトマ・Mk４　ナンバー６「赤の婦人」「白の婦人」

マーク３リッタージェットはマーク2の発展型でナンバー5がロットナンバーとして与えられているが、大型化した騎体とまったく異なる変形システムをもつため、あらたに別の名前であるリッタージェットが与えられ、マーク2とは別のGTMとなっている。
以上がシステム・カリギュラ時代の作品、以下A.K.D.時代。

スピード・ミラージュ型GTM

Mk７　Mirage-S1「スカイアギフト」

Mk８　？？

Mk９　Mirage-S2「ウーラソニック」

マーク６以後はすべてミラージュGTM同様の騎体、形式名称が使われている。また、マーク２もミラージュ後は型式が「Mirage S」型となり、従来の天照のミラージュGTMの型式と区別をつけるためにＳのあとにツバンツヒの本名の「sw」がつく。つまりマーク２はミラージュ後に「スピード・ミラージュ・マーク２」と呼ばれる。
　Mirage-Ssw である。

ツバンツヒがミラージュ騎士となってからはすべてのミラージュGTMの開発に関わっているが、ツバンツヒ設計のものだけは「Mk」の名称が併記されている。「スカイアギフト」は後にコーラス６の下でコーラス軍として戦った変形GTMである。「ウーラソニック」は星団暦3100年には完成していたとみられ、3159にも参戦している。

「ツバンツヒ――Mk8ってどこいったの？」
「あ、あああ、あの、……」
「ん？」
「わたし、だし巻き卵をいかにして焦げ目を作らずに焼けるかを考えてまして。だし巻きは半熟ではダメなんです！」
「……」
「で、ヘリオス積層装甲の熱拡散率が最適とわかってですね、その拡散率を補正可能な積層パターンにするために延々と研究しまして、卵の水分蒸発に伴う密着面積の変化を加熱されている積層ヘリオスが自然反応して熱伝導率を弱くすることに成功しまして卵焼き器を作ってみたところぱっちりで！」
「Mk8の型式番号はその新型卵焼き器に使っちゃいましたっ！！」
「売れに売れて20万台出荷しました！わたしの設計したものの中でも最高の生産台数を誇ります！！！嬉しいです！」

どこまでアホなのだろう。この人は……。
と、いうことでストーイ・ワーナー博士設計の最新型Mk8は8,500円くらいで全星団のスーパーマーケットで販売しているらしい。外側の磁性体塗布でIH対応とのこと。ほかにも奥様方に大評判のかわいい半透明の調理器具開発によってツバンツヒはかなり大金持ちである。
で、気がつかないところだったが、「Mk5」「Mk6」はどこにあるのだろうか？？　謎である。

GTMゲートシオン・マーク2
GTM GATEXION Mark2 No.3 "CLOTHO"

星団認識型式	未登録（型式なし）
型式	ケ-663-SW03mk2
発動機	ハ-DB603

後、天照が認識型式をつけている。以下

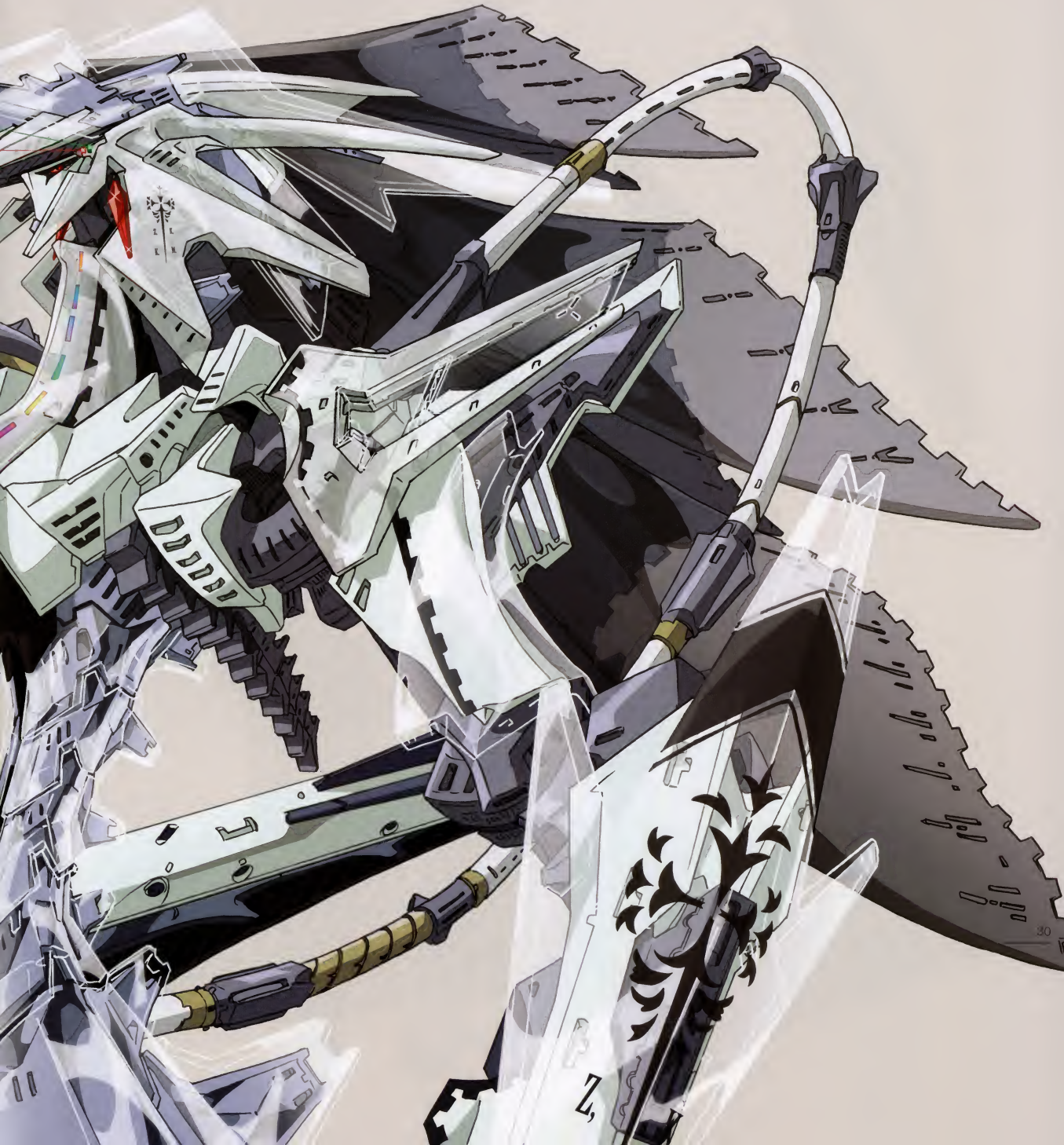
星団認識型式	Pz-kpfrbt　Ssw-663-mk2
騎体	キ-SW-663 mk2 No,3
型式	ケ-Mirage-Ssw-Mk2
発動機	ハ-DB603
名称	スピード・ミラージュ・マーク2（A.K.D.名）
全高	37.0m
自重	280t
最大出力	３京馬力以上

マーク２とだけ呼ばれることの多いこの特殊なGTMは開発も運用も他のGTMとは異なっている。
ストーイ・ワーナーと呼ばれる女性天才ガーランドが作りだした「ティーガー・フレーム」をもつ、人型から宇宙戦闘機型に変形するGTMなのだ。
ストーイ博士はのちに「エルディアイ・ツバンツヒ」と呼ばれるが、本名のストーイを名乗ると年代的に生存していないことになり、対外的にややこしくなるので彼女は3000年代以後はツバンツヒで通している。
この「ゲートシオン・マーク２・ナンバー３」は現在もシステム・カリギュラが大量に保有している。
後、3031年に１騎だけが太陽星団に戻ってきた時にツバンツヒごと天照の所有物となった。
ゲートシオンという名もマーク２という名前もナンバー３という番号も型式番号名で本当の名前ではないがマーク２という呼ばれ方が一般的である。
本当の騎体名称は「クローソー」である。

マーク2飛行形態（ミラージュ騎士団所属後）。すでにミラージュ・マークが打ち込まれ、一部の装甲がオレンジ装甲からツァラトウストラ・アプターブリンガーと同じ完全透明装甲に変えられている。

マーク2 GTM形態

これはまだカリギュラ時代のもの。非常に細い胴体部は変形のためのマージンを大きく取るためである。垂直尾翼ともなる腰後部の装甲は人型形体の時には下半身の放熱放電パーツとなる。



ツァラトウストラ・アプターブリンガー
ZARATHUSTRA APTERBRINGER

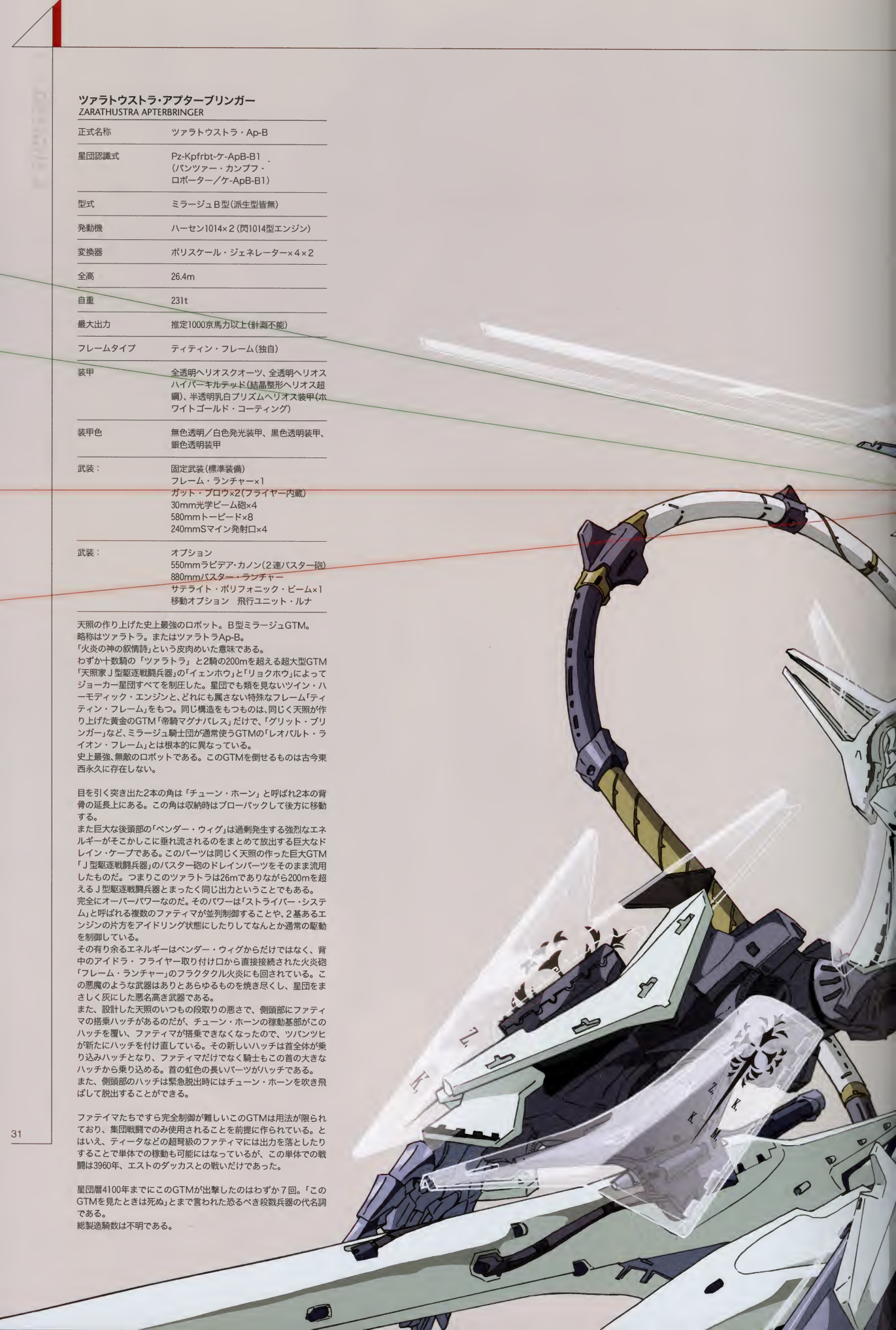
正式名称	ツァラトウストラ・Ap-B
星団認識式	Pz-Kpfrbt-ケ-ApB-B1 (パンツァー・カンプフ・ ロボーター／ケ-ApB-B1)
型式	ミラージュB型(派生型皆無)
発動機	ハーセン1014×2(閃1014型エンジン)
変換器	ポリスケール・ジェネレーター×4×2
全高	26.4m
自重	231t
最大出力	推定1000京馬力以上(計測不能)
フレームタイプ	ティティン・フレーム(独自)
装甲	全透明ヘリオスクオーツ、全透明ヘリオスハイパーキルテッド(結晶整形ヘリオス超鋼)、半透明乳白プリズムヘリオス装甲(ホワイトゴールド・コーティング)
装甲色	無色透明／白色発光装甲、黒色透明装甲、銀色透明装甲
武装：	固定武装(標準装備) フレーム・ランチャー×1 ガット・プロウ×2(フライヤー内蔵) 30mm光学ビーム砲×4 580mmトーピード×8 240mmSマイン発射口×4
武装：	オプション 550mmラピデア・カノン(2連バスター砲) 880mmバスター・ランチャー サテライト・ポリフォニック・ビーム×1 移動オプション　飛行ユニット・ルナ

天照の作り上げた史上最強のロボット。B型ミラージュGTM。
略称はツァラトラ。またはツァラトラAp-B。
「火炎の神の叙情詩」という皮肉めいた意味である。
わずか十数騎の「ツァラトラ」と2騎の200mを超える超大型GTM「天照家J型駆逐戦闘兵器」の「イェンホウ」と「リョクホウ」によってジョーカー星団すべてを制圧した。星団でも類を見ないツイン・ハーモディック・エンジンと、どれにも属さない特殊なフレーム「ティティン・フレーム」をもつ。同じ構造をもつものは、同じく天照が作り上げた黄金のGTM「帝騎マグナパレス」だけで、「グリット・ブリンガー」など、ミラージュ騎士団が通常使うGTMの「レオパルト・ライオン・フレーム」とは根本的に異なっている。
史上最強、無敵のロボットである。このGTMを倒せるものは古今東西永久に存在しない。

目を引く突き出た2本の角は「チューン・ホーン」と呼ばれ2本の背骨の延長上にある。この角は収納時はブローバックして後方に移動する。
また巨大な後頭部の「ベンダー・ウィグ」は過剰発生する強烈なエネルギーがそこかしこに垂れ流されるのをまとめて放出する巨大なドレイン・ケープである。このパーツは同じく天照の作った巨大GTM「J型駆逐戦闘兵器」のバスター砲のドレインパーツをそのまま流用したものだ。つまりこのツァラトラは26mでありながら200mを超えるJ型駆逐戦闘兵器とまったく同じ出力ということでもある。
完全にオーバーパワーなのだ。そのパワーは「ストライバー・システム」と呼ばれる複数のファティマが並列制御することや、2基あるエンジンの片方をアイドリング状態にしたりしてなんとか通常の駆動を制御している。
その有り余るエネルギーはベンダー・ウィグからだけではなく、背中のアイドラ・フライヤー取り付け口から直接接続された火炎砲「フレーム・ランチャー」のフラクタクル火炎にも回されている。この悪魔のような武器はありとあらゆるものを焼き尽くし、星団をまさしく灰にした悪名高き武器である。
また、設計した天照のいつもの段取りの悪さで、側頭部にファティマの搭乗ハッチがあるのだが、チューン・ホーンの稼動基部がこのハッチを覆い、ファティマが搭乗できなくなったので、ツバンツヒが新たにハッチを付け直している。その新しいハッチは首全体が乗り込みハッチとなり、ファティマだけでなく騎士もこの首の大きなハッチから乗り込める。首の虹色の長いパーツがハッチである。
また、側頭部のハッチは緊急脱出時にはチューン・ホーンを吹き飛ばして脱出することができる。

ファテイマたちですら完全制御が難しいこのGTMは用法が限られており、集団戦闘でのみ使用されることを前提に作られている。とはいえ、ティータなどの超弩級のファティマには出力を落としたりすることで単体での稼動も可能にはなっているが、この単体での戦闘は3960年、エストのダッカスとの戦いだけであった。

星団暦4100年までにこのGTMが出撃したのはわずか7回。「このGTMを見たときは死ぬ」とまで言われた恐るべき殺戮兵器の代名詞である。
総製造騎数は不明である。



Automaticflowers "Assiria Separate"

The Fatima Fates GOTHICMADE Control Suits

GTMを制御するためだけに生まれた人工の少女たち
その少女たちが着る服装はどれも特殊なものだ
「兵器が服を着ている」不思議さはそのまま彼女ら
「ファティマ」の不思議さでもある

“ファティマ”
オートマチック・フラワーズとも呼ばれる彼女らの戦闘服が
アシリア・セパレートである

ファティマ・町
MACHI

身長165cm　体重38kg

クリスティン・Vのパートナー。
第6話のヒロインはクリスなのでパートナーの町はヒロイン・ファティマとなる。
フィルモア帝国での「皇帝騎」のファティマとして「カイゼリン・スーツ」をもつが、通常はこの普通のアシリアやデカダン・スーツである。
さすが大国だけあり、アシリア・スーツも数種類がある。その色は透明ながらも強烈な蛍光バライバスカイブルーで、カイゼリンのアクセントカラーとなっているバライバイアリングの色である。印刷では不可能な色であるが、気合いでどこまで出るかやってみた。この子のセルの色は皆さんが劇場で見たものと同じ目の覚めるようなバライバカラーなのだが、印刷用の4色変換にすると濁って孔雀色になってしまうのだ。何とか再現したいものである。
尚、皇帝色である孔雀色のアシリアはないようである。このアシリア・スーツは別項で「分解図」が展開しているのでそちらも参照されたい。

連載が再開してファティマたちの活躍や彼女らのスーツを楽しみにしていた方も多いとは思うが、彼女らの出番が少ないのは人間たちのドラマが次から次へやって来るからである。ツラック隊のエピソードもGTMはガンガン出てくるがファティマたちの描写は少ない。とはいえ、アシリアを着込んだ彼女らは嫌になるくらい登場してくる。
そして「パート3」の6話目、ツラック隊の次は「アクト6」「トラフィクス3・パルスエット」で、彼女の活躍とともに「ファティマのもうひとつの特性」がわかるはずである。ファティマが作られたときに決定されたその特性とは？「トラフィクス1」の主人公はミューズと静、「トラフィクス2」の主人公はヨーンとエストで、「トラフィクス3」の主人公はパルスエットである。久々のファティマ主人公のエピソードである。

しかし、町である。コーラス編の第2話の最後あたりから3話に移る89年頃に静からちょっと遅れてデザインされた2人目の日本人型ファティマであるが、正直にゲロいたしますと、「こんなことになるとはおもわんかった〜〜〜!!」ですよ。ええ。あんた誰よりも先に「動く」なんて考えもしなかった。それもあんなに美しい色で。
町の名前のもととなったのは「小野小町」である。

アシリア・セパレート

GTMの制御システムとして、また、人類史上最高峰の演算機として誕生した「ファティマ」。そのファティマたちは軍隊、騎士団においては「オートマチック・フラワーズ」略して「AF」と呼称される。

〝アシリア・セパレート〟とは、このファティマのGTM搭乗用の戦闘スーツのことである。略してアシリア、もしくはビスケット・スタイルとも呼ばれる。正式には「アシリア・セパレート・ウェポン・ルール・スーツ」と呼ばれる。アシリア型分離兵器制御服という意味である。

ファティマが登場した2430年以後、この人工生命体のGTMでの活動を補助し、保護するためのGTM戦闘スーツの開発が急がれていた。

ファティマは1体あたり、価格ではなく20数年という歳月が必要で、とても金銭では計れないほど貴重なものであった。スーツは、国家にとって騎士にとって重要な戦闘兵器である彼女らを生存させ、なおかつ最高の性能を引き出すためのものであった。

まず暫定的に「チグリス・ライン」と呼ばれる通称「アイスダート・スタイル」から様々な改良がなされ、やがて戦闘スーツとして確立すると同時に「アシリア・セパレート」と呼称されるようになった。

その後、2800年代後半にはシアン夫人によって、アシリアは戦闘スーツとしての機能を成熟させ、同時に優雅で美しいラインをもつこととなった。また、このシアン夫人からは重装で装着に時間のかかるアシリアより、より軽快に普段着としての使用にも耐えられる半装甲スーツの「アラビク・ブレタボルテ」、通称「デカダン・スタイル」という新たな様式も生み出した。

アシリアの基本的なデザイン（ここでは形ではなく設計のこと）と構造は、ビリジアン博士が行なっている。ここで重要なのはスーツのデータではなく、ファティマという人工生命体がいかにGTMの内部で効率的に働くかであり、また、高価なファティマを生還させるという要求を満たすかであった。

ビリジアン博士がこの時代に生み出したものがGTMとの連動を行なうためのワイドレンジ・ヘッド・キャパシタやパニングスタビライザー、ヒールリンケージなどである。そして、その後、装甲生地の開発と優雅な外見、動きやすいカッティングを行なったのがシアン夫人である。

アシリア・セパレートはビリジアン博士が産みだし、シアン夫人が完成させたと言っても過言ではない。現在はフォーマットが確定しているために各国、各騎士団で独自のデザインと仕様で製作されているが、カスタムデザインのアシリアは相変わらずシアン夫人自ら製作している。

アシリアは平時や通常業務ではその制御システムが邪魔になるが、GTM搭乗時において最も効率よくファティマの作業が行なえるように作られている。

彼女らが頭部に装着するワイドレンジ・ヘッド・キャパシタは複数のGTMを遠隔操作することが可能な強力な通信システムで、その形も様々であるが、騎士団によって意匠が合わせてある場合が多い。またヘッド・キャパシタが帽子状になったものは「ポンネット」と呼ばれる。

6話のアクト3冒頭でウークーツが行なったのは複数のGTMバーガ・ハリを遠隔操作で戦域から離脱させることで、補助で数人のファティマが協力し、ウークーツがホストとなっていた。理論上は数千騎ものGTMを遠隔操作可能だが、戦場においては敵にもファティマがいるために遠隔操作は可能な限りファティマひとりに1騎のGTMが望ましいが、そうも言っていられないのが戦場である。

勘違いされやすいが、どのファティマも可能な遠隔操作と、ミラージュ騎士団のファティマたちがGTM「ツァラトウストラ・アプターブリンガー」で並列演算戦闘を行なう「ストライパー・システム」とはまったく異なるものである。また、天照のもつ開発型ファティマの「パクスチュアル」は複数のGTMを制御可能だが、これは遠隔操作のレベルではなく、騎士が乗った戦闘状態のGTMを最大5騎コントロールできるというもので、まったく制御内容は異なる。

アシリア・セパレートが「ビスケット・スタイル」と呼ばれるのはその膨大なパーツのためである。

そして、トップインナーは装甲スーツの場合もあればブラウスタイプの通常素材が使われている場合もある。肌の露出は抑えられ、脚はタイツ、手は手袋で隠すことが義務づけられる。星団法によりファティマは顔と手以外は素肌を見せてはならないからだ。

また、アシリアの特徴としてブリーフマントがあり、このマントは肩の「ショルダー・アンブレラ」を装着するためにあるもので、このパーツでGTMとの接合を行なうため、脱出時などにマントを外すだけで離脱が可能なようになっている。アウクソーやティスホーンなど、デカダン・スタイルにマントがついているものはそのまま上にショルダー・アンブレラが装着可能である。

各パーツの説明は別にあるのでそれを参照していただきたい。

アシリアとデカダン・スーツは同じ装甲スーツではあるが、その装甲の素材がまったく異なる。デカダン・スーツは流体金属生地や複合素材のラミネートによる装甲生地だが、アシリアの装甲素材はGTMの装甲と同じ「ヘリオス装甲を糸状にして編まれている「ヘリオス生地」である。蜘蛛の糸よりも細いヘリオスの糸で編まれたアシリアの生地は織り目が肉眼では見えないほど細かく、GTM同様の美しい光沢を発する。

そしてアシリアは裏地がないためにその下に着込んでいるブラウスやバルーンパンツが透けて見えるのもほかのスーツにはない特徴である。

また、一部のカスタム・アシリアはGTM同様、スペクトル反射の周波数を変えることができ、色を任意に変えることも可能である。

アシリア・スーツは非常に高価なためにデカダン・スーツと異なり、国家や騎士団が所有権をもつ。デカダン・スーツはファティマ個人のものだが、アシリアはファティマが死亡したり騎士団を離れた場合、国家に返却される。S、M、L型と大まかに3つの成長タイプに分類されるファティマはそれぞれ3種の様式のアシリアが用意されるが、小国や小規模な騎士団ではもともと数の少ないL型ファティマのアシリアがない、もしくは足りないということも多い。そのためにL型ファティマはS、M型のアシリアにマントを長く変えただけのこともある。M型のアシリアに長めのマント、足下はパンプスのL型ファティマはそういう応急的なアシリアということである。

星団法でもアシリアは特殊な扱いとなる。

ファティマは星団法による制限で人間に対して一切危害を加えることを禁じられているが、アシリアの装着時は「戦闘状態」と認定され、

「任務、もしくは命令に則って、自ら攻撃することを認められている」

のである。

アシリア・スーツは服の形をしているとはいえ、服でも装甲服でもない。

アシリア・セパレートは「服そのものが兵器」なのである。

＊尚、すべての種類のファティマ・スーツには欠色というものがあり、星団最高のファティマ・ガーランドであったクローム・バランシェに敬意を表し、オペラと呼ばれる蛍光ピンクはアトロポス、ラキシス、クローソー、そしてタイ・フォンの4人以外には使ってはならないという暗黙の決まりがある。

覇者の贈り物〜ゴティックメード

ジョーカー太陽星団において最強で最悪の兵器。
大轟音と地響きを伴って現われるその姿を見つけたら
できることはひとつしかない。
逃げまどうのだ。

とても恐ろしく、そして美しい、人型の兵器である。
人型でありながらツインスイングという
異形のオフセットスイング関節システムをもつゆえの異様な外見。

西洋の甲冑のように光り輝き、
東洋の鎧のように美しく彩られた25メートルの巨大な兵器は
それまでの兵器のようにつや消しでも塗装でもない
水晶のような光沢に覆われたきらびやかな装甲をもっている。
この兵器を目の前にしたとき
人はその駆動する轟音にさらされながらも引きつけられるのだ。

「なんて…美しい…ロボット……」

兵器、その究極の性能と美しさは国家を守るためでも、
愛する人や家族を守るために生まれたわけでもない。
兵器は人を殺すために作られたものなのだ。

恐ろしくも美しい。
それがゴティックメードである。

ゴティックメード概要

ゴティックメード(以下GTM)とは、星団暦より前のAD世紀において登場した人型戦闘兵器である。

「パンツァー・カンプフ・ロボーター」が正式な兵器名称。その強大な力と破壊力は戦争において圧倒的で、いまだこのGTMを超える兵器は存在しない。

GTMのその戦闘力はすべて騎士に依存するものである。騎士とは同じくAD世紀に誕生した特殊な人間で、非常に速い反応速度と強い筋力、普通の人間とは比較にならない力をもっている。従って、GTMは騎士にしかその戦闘能力を発揮することはできず、「巨大になった騎士」なのである。

GTMは普通の人間にも操縦することが可能である。ただし、そのコントロールはすべて騎士基準であるためにGTMに乗った普通の人間がいかに全力で剣を振るったとしても、騎士の破壊力には遠く及ばない。AF(オートマチック・フラワーズ)ことファティマが普通の人間をサポートし、剣を振る速度をブーストすれば騎士並みの速さにはなるが、それだけのことである。そのブーストされた速い動きに人間はまったくついていけないからだ。

また、一番肝心なことであるが、GTMはその性能によって強さが決まらない。出力2京5千兆馬力のGTMであろうが、3京5千兆馬力のGTMであろうが、強さは同じである。

騎士の強さがGTMの強さを決めるのだ。

戦闘機や戦車など、性能やその武装で強さの比較は確実とは言えないまでもおおよそ判定できるが、GTMに関しては性能やデータはその強さに一切関係ない。「強い騎士が乗るGTMが強い」ということなのだ。

では、なぜ星団3大GTMや黒騎士ダックスなどが一般的に「強い」と言われるのか? それはこれらの騎士団やGTMに乗る騎士が強いからである。

と、理屈はわかっているのだが、ではなぜ、様々なGTMが存在し、ファティマの性能が問われるのか?

騎士の強さはその基本的な力もあるが、経験やとっさの判断がものを言う世界でもある。そして騎士同士の強さは乱暴に言い換えればいかなる騎士もドングリの背比べと変わらないということでもあるのだ。

だからこそ、少しでも性能の良いGTMで、騎士たちは強さを補うのである。

これは人類に武器が登場して以来、まったく変わらない「真理」であるのかもしれない。ほんのわずかでも強い、性能が良いとわかれば命をかける戦いなのだ。おのずと人は微妙な性能差であってもよいと言われる方を選ぶのである。

動力源ハーモイド・システム

GTMの動力源となる「ハーモイド・システム」はハーモディック・エンジンを中心とするエネルギー発生システムである。燃料となるのは光や元素で、その変換エネルギーを使用する。そして、それらすべてを電気エネルギーに変換し、増幅して天文学的な出力を得ている。この出力は馬力換算で数京というとんでもない数値である。すべて電磁波という波形に置き換えられるために万能の出力システムとなっている。また吐き出されたエネルギーは再動力として回生されるので半永久機関ともなっている。

このハーモイド・システムの分子変換エネルギーを中性子レベルにまで圧縮して一気に放出する兵器が分子破壊兵器の「バスター・ランチャー」である。

ツインスイング・オートドライブ

ハーモイド・システムが生み出したパワーを「ツインスイング・オートドライブシステム」が受けて巨大なGTMを駆動させる。見た目には頭と胴と四肢があるので人に近い骨格だが、スイングスライドするために人間の球体関節や機械の回転軸運動とはまったく異なる動きである。

電磁エネルギーで蹴り出すようにスイングする関節はそのトルクもそれを受け止めて止めるのも任意で、瞬間的な始動から瞬間的な停止まで、他の駆動システムとは比較にならないほどに速く、そして何よりも無駄なエネルギーの放出がないためにその動きひとつひとつに使用されるエネルギーは見た目よりも少ない。各部の関節ブロックは「Z型」にセットされ、上腕と下腕などはそのオフセット関節の構造がよくわかる。

出力の大きさとツインスイングの亜光速の運動によって、GTMは各部が高熱になる。高熱になることによる摩擦の変化はないが(カーボンブレーキと似た感じである)、あまりの高熱にさらされることはGTMを構成する「ヘリオス超鋼」以外のバイパスや各種機器に支障をきたすために冷却が必須となる。ヘリオス装甲とスイング関節の各部には強制冷却のバイパスやボルトがいくつもつけられている。

ヘリオス結晶装甲

非常に硬く弾性のある装甲素材で、自己再生能力ももっている。基本的には「結晶生成」で製造され、多重圧力をかけられたヘリオス鋼の「種」が各装甲の形へと結晶化していく。現在のチタンの結晶成形と原理的には同じである。

結晶であるために各パーツの狂いやひずみはほとんどない。またこの装甲は透明で、すべてのGTMは半透明もしくは透明の装甲を装備している。「塗装」という、兵器にとってはやっかいな皮膜を排除したのがGTMの装甲である。装甲の色はヘリオス超鋼が作られるときに決定され、できあがった装甲に後から色を変えることは基本的にはできない。一部のGTMはこの透明な装甲の色を電磁波によって変化させることも可能だが、その数は少ない。

ヘリオス装甲は結晶装甲部とは別に薄い結晶板を幾重にも重ねた「キルテッド・ヘリオス装甲」があり、このキルテッド装甲は騎士のコクピットや竜骨を守る胴体部など、最も重要な部分に使用されている。

また、武器の「ガット・ブロウ」はこのキルテッド装甲を鍛錬して鍛え上げたさらに堅く強いヘリオス鋼で作られている。

ワイドレンジ・ヘッドキャパシタ
頭部に装着するメインアンテナである。デカダン・スタイルのヘッドコンデンサを外さなくてすむように上からかぶせるように装着できるものが多い。非常に強力な制御電磁波を発振する装置で、味方複数のGTMや兵器を同時に制御可能である。アシリアの複数制御はあくまで強制割り込み制御的なもので、GTMに搭乗してGTMを制御するレベルのコントロールではない。あくまで味方のファティマが制御不能になった場合の緊急離脱、また脱出ハッチを吹き飛ばすなどの介入制御が可能である。
騎士、ファティマが非搭乗のGTMに対してはエンジンのオン、オフ、防御戦等、戦場離脱や移動などを制御できる。また、リード・ホストを行なうファティマのみその上位の制御を味方GTMに行なうことが可能である。それはまさしく遠隔制御であるが、自身のGTMの制御能力を落とすことにもなるため、これもまた滅多に行なわれない。

連載でウークーツが行なったのがこのリード・ホストで、彼女はあの時GTMに乗っていなかったので、離脱させる複数のバーガ・ハリをバッハトマのGTMの攻撃から防御させることができたのだ。

ファティマ・コンコード
カイゼリン・スーツ
CONCORD Assiria Separate for KAISERIN

身長158cm　体重38kg

デブレのパートナーであり、GTMカイゼリンのファティマであるコンコードの特殊なアシリア・セパレート、「カイゼリン・スーツ」である。
カスタム・スーツの頂点で、シアン夫人の手によるもの。まったく同じものがフィルモアの町にも送られている。
GTMカイゼリンと同じデザインのこのカイゼリン・スーツはシリアル・インジェクターが「無制限」となっており、ミノグシア連合、並びにフィルモア帝国すべてのGTMに対して絶えず「優位」の信号を送っている。つまり、相手側の了解があればコンコードはミノグシア、フィルモアすべてのGTMを統制下に置くことが可能ということである。これはGTMカイゼリンのファティマであるという特権的なもので、町が同じものをもっているのもまったく同じ理由である。
その「アシリア・インジェクター」と呼ばれるGTM制御パーツとアシリア・スーツの解説をする。

ショルダーアンブレラ
肩に装着するアシリア・パーツで、ショートマントの上に装備して固定している。このパーツは光学アンテナの発信だけでなく、ファティマ・コクピットにおいてGTMとの接合パーツでもあり、ファティマたちはここを基点に浮遊している。見た目よりも軽い素材で作られている。

バニング・スタビライザー
両肘、もしくは両腕に装着されるアシリア・パーツ。ブラウスの場合は肘に取り付けられている。コンコードの場合は半袖の縁であるが、どちらも内側に固定レールがあり、裏から固定するようになっている。

ヒールリンケージ
靴のかかとに内蔵されているGTMのバランス制御アンテナ。GTMの脚部の状態をファティマたちはこのパーツから送られる情報によって、GTMの腰から下のバランスを我がもののように感じ取ることができる。
リンケージアンテナとその基部はかかとやヒール部から飛び出るが、モーフィングパーツのために靴を脱いでも内側にそのようなパーツは見られない。靴の表面装甲が変形して飛び出すのはリンケージを出す時（GTM搭乗時）以外邪魔にならないようにである。
通常のほかのファティマの靴はかかとからリンケージが飛び出すのだが、コンコードのこの透明のブーツはブーツそのものがモーフィングするためにリンケージがまったく見えない。

手編みニットのもこもこ靴下 〜アシリアの意外な決め事

……。ただでさえ描くのが大変なアシリアにこんな手編み毛糸の靴下なんてはかせるな！！と、わめきたいが、実はこれは最初からこの子にはニットの白く可愛いく触わるとほわほわの毛糸の靴下をはかせるつもりであった。今までのデカダン・スーツに比べて明らかに硬質でメカメカしいアシリアは見た目にあまりにソリッドになることは想定していた。これはGTMのもつソリッドなエッジの効いたカッティングラインと合わせるためだが、ファティマがそれほど硬質になってしまうと結局柔らかいデカダン・スーツのほうが描く機会が増えてしまうのではないか？という作業的な心配もあった。
それで考えていたのが、アシリアは半透明で硬質なエッジのカッティングを、デカダンは体の曲線を出す柔らかなラインを、という取り決めのほかに、その代わりとしてアシリア・スーツではスーツ以外のリボン、ネクタイ、フリル、手袋、靴下など、柔らかいパーツにできる限り柔らかい素材を使うということである。手袋などにはレースを、靴下はデカダンと同じストッキング生地であってもレースや柄を、そして「マフ」の多用である。マフはAPアシリアのコンコードがつけているのでご覧あれ。これでアシリアの極端なエッジの効いたラインが、ほわほわやレースで、硬いが柔らかいシルエットとなった。
で、実際連載が再開されるともう、オーハイネのレースのソックスの柄に目は疲れ、コンコードのブーツのマフに手は疲れ、これからいったいどうするんじゃと途方に暮れているのが現在の作者。

ヘッドコンデンサ
ワイドレンジ・ヘッドキャパシタを外すと普通のヘッドコンデンサが見える。ただ、大きなパーツをかぶることになるのでヘアバンド型の取り付けレールが耳にかけられる。これもヘアバンドと同じく簡単に外せる。

インサイドベルト
インジェクターパーツの中でも比較的重いショルダーアンプレラを装着するためのサポートベルトである。アシリア・インジェクターはどれも見た目よりはるかに軽いが、背中はGTMのコクピットに直結するのでサポートベルトがついている。

インナー
着せ替え人形みたいに服を一枚一枚外した状態のセルなんてよく描くなあ、と、感心して欲しいのではなくて、アシリアは半透明のためにこういう説明イラストの場合は下に着ているものを描いてその上からアシリア・スーツを描いているのである（もちろん順番的には右のフルセット状態を描いてから、中のパーツやら服を描いているわけだが）。
このコンコードを描いて「えらいこっちゃあ〜〜アシリアは」とか思っていたらこれはまだ簡単なほうであった。
NT連載再開の5月号表紙の町の上半身なんて5段のレイヤーで、透けるメカパーツの下に透けるカイゼリンスーツ。そのまた下にはまた透け透けのレースのフリルにネクタイ、その下に白いブラウス。アシリアは描くほうも地獄であった。

スウェルパンツ
アシリア・スーツは装甲生地で内張りがない。そのためスカート部がその重さで垂れ下がりただでさえ腰の細いファティマたちは下半身がすっとんとんになってしまう。これを防ぐためにセパレートパニエをつけることもあるが、もっぱらこの膨らんだスウェルパンツが定番となる。まあ、かぼちゃぱんつ、と言ってもいいんでしょうが。このパンツは半装甲のデカダン生地で作られていて、アシリアのヘリオス綱糸ではない。まあ、ここまで透けさせる意味は……ない。

透明の靴
コンコードのブーツはカイゼリンと意匠が合わせてあるために透明な特殊素材である。足が透けて見えるが、この透明色はガラスのような質感で、とても美しい。「町」のガラスのハイヒールはこれと同じ素材である。ガラスとはいっても本物のガラスではなく普通のパンプスのように足に合わせてちゃんと曲がる。でないと足が血だらけになってしまう。

カイゼリン・スーツ　バックスタイル
アシリアは生地そのものが重いため戦争時でもGTMのスタンバイ状態以外ではアシリア・パーツを外しているファティマが多い。スーツは透けて内部のブラウスとコルセット、バルーンパンツがうっすら見えている。透明ビニールやシースルー素材とはまったく異なるガラスのような装甲生地である。もこもこ毛糸の靴下はほとんどはかず、普通はS型ファティマ同様ナイロンソックスをはいている。透けていることを強調するためにかなり透明度を上げてはある。とはいえ、実際にもこれくらい透けて見えるはずである。
ニット手編みの白い靴下をはかないのは破れるからである！　手編みなのでめちゃくちゃ高いのだ。６万円もするのだ！　（買えなかった）シャネルもミウミウもなぜかこんなおっとろしいものを売っていたが、あれ、買った人いるんだろうか？ちなみに同じ素材の手編みのカラー（付け襟）は３万円だった。こっちは……ええ、買いましたとも！　このオレ様が靴下１足買えなかったのが積年の恨みである。おのれ〜〜〜。このニットの恨みは次のラキシスで晴らす！

ミノグシア連合、旧ハスハ連合共和国時代のコンコードのアシリア・スーツである。パートナーがヤーボだった頃のものである。S型のウークーツのものとは基本的にまったく同じである。ハスハの場合はS型とM型はまったく同じ、L型はロングマントになっているだけでほかは同じである。
これもツラック隊のエピソードでティスホーンが登場してくるので、旧ハスハのファティマたちは真っ先にすべてのバリエーションが公開される。
コンコードはM型なので手はマフつきの手袋、ブーツも同じくマフつきである。またなぜかシルバーグレーのタイツをはくべきなのだが、素足である。これは単純にヤーボの趣味だろう。

ファティマたちが着るとアシリアはさらにその細さが倍増する。強烈に絞り込まれた胴体のラインが彼女らファティマの異様な体型をさらに強調している。これもアシリアの特徴である。
装甲スーツの仕様上、デカダンのようなゆったりとした柔らかいラインをもつものは皆無(現時点で)ある。
もはやウエスト40cm級であろうとんでもない体だが、彼女らは10歳くらいの子供の体に長い手足が付いているようなものなのでこう見えてしまう。また彼女らは10cm前後のピンヒールをはいているので、コンコードのM型ならば170cmくらいの身長になる。170cmと言えばかなり背は高く、彼女らのプロポーションと相まって異次元空間になるのは間違いない。
いつも一緒にいる騎士たちが30cm以上背が高いからそう思わないだけであるが、ファティマたちはイメージよりもかなり身長はあると思っていいだろう。
ただ、顔の小ささが半端ではないので、もし彼女らと並んだら「スケール感と遠近感がおかしい」と感じるだろう。
彼女らの特異さは肌にも表われ、顔は天然のファンデーションをつけたような肌だし、アイシャドウも天然のグラデーションがついている。彼女らにはお化粧というものがまったく必要ないし、髪型も送り出される時に一度決定すればまったく変えることはない。なんとも基礎コストパフォーマンスの高い人工生命体たちである。
ただし、彼女らの声は若い少女のものではない。人間よりも長く生きている彼女らの声はそれなりに年を重ねた女性の響きとなる。以前F.S.S.がアニメになるときにも「ファティマの声は60歳以上の声優、女優さんにやってもらえないか？」と言っていたことがあるが、そういうイメージである。

通称デカダン・スタイル。アシリア・セパレートよりも扱いが簡単で、そのまま戦闘にも地上業務にも使えるために重宝されて戦争以外の場合はこのデカダン・スタイルが主流である。
コンコードの場合は特殊なスーツのバリエーションとなるためカイゼリン・スーツに合わせてある。また、タイツにひざ上のストッキングも珍しいが、これもカイゼリンの足の装甲に合わせてあるのだ。
ワンピースにベストという組み合わせはハスハ・ファティマの定番である。色がカイゼリン・カラーになっているだけで、ほかはハスハのデカダン・スーツと同じ仕様である。
でっかいトルマリンのイヤリングをしているが、米粒よりも小さなパライバ・トルマリンは高騰して現在数百万円にもなっている。トルマリンという貴石ではない半貴石、つまり半宝石がこんな値段になるとは馬鹿馬鹿しいが、パライバは20年以上前には10分の１くらいの価格だったはずである。ブラジルのパライバ鉱山から取れなくなって閉山してその価格は天文学的な値段ともなった。この10カラット以上ありそうなパライバ・トルマリンはいったいいくらくらいするのであろうか？？
カラット的には現在最も高価な宝石かもしれない。と、いう以上に物がないのである。
宝石の価格はその貴重性によって変動する。たとえ宝石でない半貴石であっても宝石以上の価格になるのは仕方がないのかもしれない。

というのは現実の話で、ジョーカー世界ではいくつもの惑星があるので、パライバ系列の石も地球より採掘量は多いのであろう。だからこんなに巨大なパライバを彼女は胸と合計３つくっつけているのだ。

コンコード　ユーフラ・コレクション
コンコードのプラスチック・スタイル。
現在も使用されてはいるが、お目見えするのはなかなか難しいかもしれない。このスーツは非常に人気があってもったいないので新たに描き直している。
光沢は相変わらずだが、アシリアではないので透明ではない。こういうもこもこしたのがちょこちょこ歩いていく姿はきっと素敵だろう。
アシリア・インジェクターは何の問題もなくそのままくっついてしまったので、このプラスチック・スタイルはフル装備のアシリアと同じ性能をもっている。ワイドレンジ・ヘッド・キャパシタもアンブレラも通常装備である。

ワイドレンジ・ヘッドキャパシタ
ヘッドコンデンサと耳に引っかけるようになっている。ヘッドフォンくらいの重さである。ファティマのコンデンサの形に合わせてカチューシャ部はいろいろな形があり、簡単に取り替えができる。キャパシタの形によってはヘアバンド型もある。

マント
ＧＴＭ搭乗時、接続ポイントとなるアンブレラごと脱出時には外れる。重くなるためヘリオス生地ではなくデカダン・スーツと同じラミネート透明布が使用されている。連載再開時、エストがダッカスのコクピットから出るカットでは、背もたれにこのマントとアンブレラがコクピットに残っている描写があるが、ああいう風に戦闘時にはマントをコクピットに残したまま外に出ている。

ショルダーストッパー
アンブレラとマントを留める肩留め。ツインスイングではめ込む。

アンブレラ・インジェクター
モーフィングパーツで変形する。アシリアのインジェクターパーツはすべてスーツから電源を供給される。

スーツ前面

スーツ本体
アクセサリパーツや装飾以外はすべてヘリオス繊維装甲。重い。ラインに沿って分解可能。また、胸元など各所についている飾りはセンサーであったり予備の無線システムである。また他国のアシリアでベルトなどがない場合はこの内側にインナーベルトなどが装着される。

生体モニター
デカダン・スーツはラミネート装甲材の間や裏地の間に通信システムやエアコン、光学電源システムが内蔵されているが、装甲生地のみのアシリアではこれらはすべて外付けとなる。他国のアシリアなどではこの裏側に緊急医療セットを入れるポケットがついている。

帯剣ストラップ
スーツの下、ブラウスの上につけ、ベルトにつなげる。中央が大きく開いているのは肩のアンブレラパーツの留め具が通るからである。

帯ベルト
柔らかい山羊革でできている。上部の金色のところは提灯袖のハーネスとおなじ弾性のある装甲材で、重いガット・ブロウを吊り下げるようにできている。内側にポケットがあり、救急セットが入っている。

スーツ背面

イオンセル
アシリア・パーツに電源を供給する光学電源システム。半永久。

肩パッド
アンブレラ等から肩を保護するパッド。

アームホール
袖の付け根には提灯袖を膨らませるフレームとパニング・スタビライザーを装着するためのポイントがついている。

ヘリオス装甲生地キャッチ関節

スーツ接合部
キャタピラのようなキャッチ関節で生地が接合されている。このキャッチ関節もツインスイングである。幅は５mm程度。緊急時にはファティマの制御で瞬時にバラバラになる。

フィルモア帝国・Ｓ型アシリア・スーツ。
Ｓ型ファティマ用のアシリア・スーツとその装着装備、肌着を含めた被服すべてである。

冒頭でアシリア・セパレートは服でも防護服でも装備品でもなく「兵器である」と書いたが、これを見ればアシリアスーツ本体はＧＴＭと同様、分解構造図がなければ何がどうなっているのかわからないかもしれない。
ついでなので今まではっきりと描かれなかった下着類もすべて一式まとめた。

アシリア・セパレートのメインとなるワンピースは「ヘリオス生地」で織られている。これはヘリオス装甲そのもので、ヘリオス鋼をミクロン単位まで細くした繊維を糸にしてそれで生地が織られているのだ。そのために非常に重く、ヘリオス装甲の特徴である透明の生地となっている。
装甲生地なので縫製はできず、特殊なツインスイング・キャッチ関節でワンピースの形に仕上げられているのだ。
すべてのファティマ・スーツに言えることだが、ファティマ・スーツのクリーニングは非常に手間がかかる。アシリアは装甲素材のみで構成されるためにスーツ本体は組み合わせラインからバラバラに分解が可能で、その後丁重な洗浄や修復のみで終わるが、これが半装甲のデカダン・スーツやプラスチック・スーツとなると半装甲生地の裏側には裏地があり、（多くはシルクだが）このスーツの洗浄には和服と同じクリーニングが必要となる。
つまり、表地の装甲素材と裏地のシルクをクリーニングのたびに縫製をばらして、裏地は新しく付け替える。このコストが馬鹿にならないためにファティマたちは内側にブラウスを着て、スーツの裏地を傷めないようにしているのだ。ただ、ファティマたちは汗など代謝が人間よりも低いので、分解クリーニングは数年に一度でも大丈夫な場合が多い。
とはいえ、ヘリオス装甲生地のみで構成されるアシリアはアシリア・インジェクターとともに服のクリーニングではなく機械のメンテナンスと同じになる。
フィルモアのアシリアではベルトがついたり提灯袖がついたりしているが、これは剣を吊るベルトや肘のパニングスタビライザーを固定するための留め具ともなっている。これらがついていない他国のアシリアではアシリアの裏にハーネスやポケットがついている。
緊急医療セットも標準装備されているが、中には止血パッドや痛み止めなどが入っている。
またすべてのアシリアがつけるショートマントは透明生地だがヘリオス装甲生地ではなくデカダン・スーツに使用されるラミネート生地である。これらはアンブレラ・インジェクターの保持と火災時の頭部を守る布ともなる。

各アシリア・インジェクターパーツは意外と軽く、見た目よりも負担をかけない。またアシリアは強力な電磁波統制を行なう機器でもあるために電源がアシリア・スーツから供給されている。この背中につくコンパクトな光学電源はデカダン・スーツにもつけられている。デカダン・スーツの場合は生命維持とエアコンシステムをもつのでその電源も請け負っている。

また、非常に重要なのは彼女らの靴である。デカダン・スーツと同じ素材のラミネート装甲が張られている。内側はクッションと張り替えのきく布が張られているのは人間の靴と同じだが、靴の縁でＧＴＭ制御時や戦闘時にこすれて足を痛めることを防ぐために、ブーツのファティマもタイツだけでなくソックスも重ねてはいている。そして靴底にはいくつかに分かれた装甲材がソールとしてセットされている。ヘリオス装甲を使用すると滑ってしまうからだ。
とはいえ、彼女らの靴そのものは戦場での活動を前提に作られているために靴底だけではなくレザー部もガレキの中や兵器の破片を踏んでも突き抜けないようにできている。

軍隊では古来から最も重要視されるのは靴である。どれくらい足にあった靴を入手できるかは兵士だけでなく将校にとっても重要なことであった。中世の時代から戦死した仲間や殺された敵からまずやることはその人間がはいていた靴を脱がせて自分がはいてみるということだったが、それはいまだに行なわれている。最新の軍靴を支給される先進国の軍隊はそういうことはなくなったが、装備の整っていないゲリラ戦や未開地での戦闘では敵の靴を奪うことが重要であったりするのだ。よく戦場の写真で捕虜が裸足になっているのは靴を奪われたからである。逃げにくくするのもあるが。
と、いうことでファティマたちの靴は非常に丁重に作られ、彼女らの小さく幅の狭い細い足に負担をかけないように最大限の注意が払われている。外反母趾になどなりはしないし、靴下に穴があくということもない。靴にこだわるのは女性だけではない。男のほうがもっともっと古来からこだわっているのだ。
言い換えれば靴にこだわらない男は生存本能が低いんじゃないかとも思う。私見ですけどね。

肌着はごく普通のものでさすがにファティマたちともいえど人間同様着替える頻度は同じである。アシリアは装甲生地のためにデカダン・スーツのようなエアコンや保温性のある服を中に着たりできないため、寒い地方では相当厳しい。こればかりはデカダン・スーツのほうが快適である。

またカボチャパンツに関してはこのぼわんと膨らんだパンツを採用したのは重いアシリアのスカートの裾を広げるためである。
脱線するが、男どもはあまりにもバカばっかりでお姉ちゃんフィギュアのスカートの中を意味もなく必死で作り込んではいるが「なぜスカートが広がっているのか？」ということをわかっている造形のその手のフィギュアは見たことがない。ほかでも述べているが、女性が普通にはくスカートは見た目よりもかなり重い。以前に安物のおまけフィギュアでマリー・アントワネットを見つけそのスカートの中を見てみたら案の定広がったスカートの中はがらんどうで足が丸見えの上になぜか20世紀後半のパンツをはいていて愕然となったものである。ショーツ、またはパンティとか抜かすあんな布きれみたいなものを履くようになったのは1970年代以降だし、何より悲しいのはそんな裾まであるドレスのスカートの中がなんもないすっぽんぽんの状態で広がるわけないだろうということで、フィギュア造形のあまりの情けなさとふがいなさに嫌になった。パンツのフリルや柄は必死で造形しているくせにスカートは無重力装置でも付いているかのごときあり得ない広がり方なのである。アホか！
んでまあ、スカートをどうふわっと広げるかというのは古来より女性の執念のようなものがあり、それはウエストラインからお尻のカーブを美しく見せる。または優雅に見せるという理由である。
古来は何枚ものスカートの重ねばきなどで下半身のボリュームをつけていた。寒さ対策が第一の理由だったが。その重ねる数は５枚から12枚とかものすごいものである。中世では鳥かごのようなフレームを腰からつり下げその上からスカートをかぶせていた。もちろん下着は膝まであるドロワースでこれも膨らんでいる。現在ではパニエとか軽く負担にならないものも増えたが、ウェディングドレスを作った方や着た方はよくご存じだろう。軽くするためにパニエ＋キルトクッション材がインサートされている。ほかにもいろいろあるが、ロングスカートを造形する場合はそういうこともきちんと考えて欲しいものである。パンツだけ見えればいいというのはあまりに情けなすぎである。

あと、ウークーツがやったが、靴下の利用も古来から軍隊ではオールラウンドに使われてきた。彼女らのストッキングは伸びる生地なのできつく縛れば止血もできるが、軍隊のソックスはもっと丈夫なハイソックスでチューブ型と呼ばれるかかとのないものが多い。これは多目的に使われることが多く、長いほうが使い道が増えるからである。軍隊での使用例は、ヘルメットに巻き付けてタバコや迷彩の草を差す。 予備の新品の靴下はレーション（野戦食料）の箱やカンズメまたは弾薬ケースをまとめて入れる。それをふたつつなげて首からぶら下げる。中にプラスチック爆弾やダイナマイトを入れてぶん投げる。骨折した腕を吊る。釣ったサカナを入れる魚籠。寒いときのマフラーなど本当に使い道は多い。戦場にはコンビニなどないから支給されるもので多目的に使うのだ。これは騎士やファティマも同じである。軍隊の服装は無駄なものが一切ない。

で、素朴な疑問。「何でアシリア・スーツは透けちゃってるんですかー？」
……そっちのほうが格好いいからに決まってるでしょー！　えすえふの未来スーツみたいじゃないですか！
おほほほほ。

袖補正ハーネス
提灯袖をきれいに盛り上げるハーネス。真ん中はパニング・スタビライザーの接合部を兼ねている。この接続部が外部にないスーツの場合はブラウスの袖の中にこういうハーネスが入っており、パニング・スタビライザーを保持する。非常に軽く50g以下である。

ブラウス
シルク製。滑りのよい素材が使用される。デカダン・スーツのブラウスとは異なって各部に接続ボルトがたくさん着いている。

パニング・スタビライザー
ハーネスの先端にセットされている。モーフィングパーツで、外側に開いてから変形し、アンテナを出す。

手袋
ストッキング生地もしくはシルクの肌が透ける生地に刺繍がしてあることが多い。また、革製も多いが、仔牛などの薄く柔らかい素材で作られる。

スゥエルパンツ（提灯パンツ）
デカダン・スーツ生地でここは透けない。ポケットがあり緊急医療セットが入っている。膨らんでいるのはアシリアのスカートをきれいに広げてみせるため。キルティングのパニエのような内張りがある。

シャツ
肌触りがよく引っかからない滑りのよいものが使われる。ファティマなのであまり汗の吸収は問題にされない。

パンツ
まったく色気のない普通のシルクか綿の生地である。肌にストレスをかけないようにゆるいゴムが使われている。

靴・ピンヒール
町のものだけ全透明の「ガラスのハイヒール」である。中敷きまでシルバーの透明素材となっている。すべて透けているのだ（シアン夫人のブランドタグ以外は）。ほかのファティマの靴は普通に色がついている。また、アシリアは靴のつま先が開いたオープントゥが圧倒的に多い。M型のブーツですらつま先が開いているものが多く見られる。

ストッキング
ごく普通の肌色のもの。ファティマたちが肌色のストッキングをはく場合は厚手の肌が透けないものである。ただ、ストッキングは緊急時など非常に使い道の多い多目的アイテムなのでそういう意味でいつも用意しているファティマは多い。

ヒールリンケージ
靴のかかと後部からモーフィングでアンテナパーツが飛び出る。通常は何もないただの靴に見える。表皮がモーフィングするのでファティマに靴を脱いでもらっても中には内張り以外何もない。この飛び出すモーフィングシステムはかかと基部に仕込まれている。 またかかと中央には1mmほどのサスペンションダンパーが仕込まれている。つま先のヒール部には騎士の靴などと同じ滑らない装甲が貼りつけてある。

靴下
ストッキング生地の透ける素材である。アシリアの場合は柄生地であったり手刺繍の豪華な装飾が入っている。

ファティマ・ザ・フォーカスライト
The FOCUSLIGHT

身長158cm　体重37kg

星団暦2310年に登場した星団初のファティマ、フォーカスライト。それまでのGTMの制御はプラズマガス演算有機体の「シン・ファイア」が行なっていた。ファティマ登場後、GTMの頭脳とのシンクロはツインスイングシステムの状態を体感的に感知するためのウィップハーネスで行なわれていた。GTMの状態とバランスをファティマが直接自分の感覚として感じることができ、その体感による瞬間制御はすさまじく、従来の制御システムとは比較にならなかった。
その姿は激しく人間とは異なり、小さな頭、長い首、あまりに細長い胴体と手足は見るものをぎょっとさせた。しかし妖精のような美しく可愛らしい姿は星団中のあまりに多くの人々を驚愕させたのである。当初生まれた４人のファティマはすべて同じ顔をしており、口の悪い人々は「整形手術の頂点」とまで言った。
その後ファティマは様々なガーランドや工場で生産されるに至り、育て方や環境によって同じ素体から生まれた彼女らでも様々な顔や髪の色をもつようになった。
そしてこのファティマたちの美しい外見に危惧を抱いた人々によってマスクを被された。これが「グロス・フェイス」である。その後、ファティマの外部への露出などが規制され、このマスクは外された。

この当時ではGTMのやりとりは巨大なウィップ・ハーネスと有線で、スーツはアンブレラが巨大なためにツーピースで、バニング・スタビライザー部はダブルスリーブの重装である。騎士たちの戦闘服をそのまま流用したものが多かった。服だけでもかなりかさばり、ズボンはウェットスーツのような装甲生地である。また、かかとは相当に負担がかかったのか、白い靴下の上からさらに厚い綿の靴下もはいて保護をしている。これは靴がまだ専用になっていなかったためでもある。
チグリス・メゾネットはすべてが手作りで、スーツの装着もGTMへのハーネス接合も非常に時間がかかった。
その後、この全身を覆うスーツは腕は軽いブラウス、足は薄いタイツで充分であると判断され、アシリア・セパレートへと発展していくのであった。治療可能な手足の損傷は運動性最優先で問題にならないと判断されたのだ。

ファティマ・インタシティ
フォーカスライトとほぼ同時に生まれたインタシティ。グロス・ フェイスことチグリス・メゾネットはその後のアシリアやデカダン・スタイルの登場によって、当初のイメージを残しつつ、新しい様式に合わせて作り直されている。これは当初のイメージを残したデカダン・スーツである。

ファティマ・ファッティス

オートマチック・フラワーズとはGTMを完全制御するためだけに生み出された人工生命体で、有機コンピューターをはるかに超える演算能力と情報処理能力をもっている。戦闘時や野戦状態では軍隊用語である「オートマチック・フラワーズ」、略してAFと呼ばれるが、一般的には愛称であり俗称である「ファティマ」と呼ばれている。

星団暦２３１０年にリチウム・バランス公爵の手によって生み出されたファティマはそれまでの有機演算システム「シン・ファイア」よりもはるかに演算性能、ＧＴＭ制御の反応速度や状況把握に勝り、そして人間と同じであるということの緊急対処と状況把握の柔軟性、なおかつＧＴＭと騎士への対応に関して圧倒的な優位性をもっていた。人型であることの騎士の生存確率も脱出のタイミングや負傷した騎士への応急手当など利点は数多い。

ただ、このファティマにはいくつかの欠点と、その開発、運用においてかなりの制限もあった。

ひとつはＧＴＭ制御能力のために騎士とほぼ同等の反応速度をもたせること。ヘッドライナー、つまり騎士を人工的に産み出すことは星団の科学では不可能で、騎士の力をもつファティマを生産するためには「超帝國の純血の騎士の情報」が必要なために生産が限られるのだ。

また、その純血の騎士の血からオートマチック・フラワーズを生み出すのは「ガーランド」という特殊な能力をもった科学者でなければ設計も生産もできない。つまり、早く安価に大量には生産できないということがある。

もっともこれはＧＴＭの生産数や騎士の数とも合わせてそれほど問題とはなっていないが、戦争などで大量にファティマが失われた場合、すぐに生産できるものではない。

ファティマの神経細胞の微弱電磁波を使用した演算性能はいかなる計算機よりも速く、反応速度は騎士同等ながらも筋力の差において騎士の８割程度の強さをもつ。ひと蹴りで30ｍもの壁を越え、時速１２０km以上で走るその力は人間から見れば超人である。

さらにその完成までには胎児状態から数十年もの歳月がかかり、その間に与え続けなければいけない情報は膨大で、普通の人間ではこの育成時の情報管理もままならない。

またファティマが精神的に人間よりかなり弱いため、その超人的な力で暴走すれば、騎士でなければ抑えらず、人間に甚大な危害を加えるという危険性もあった。

しかし、以上のことは戦闘兵器として生み出され運用されている以上、極当然のことで一般人の関知しない領域である。一般人が武装された戦車や戦闘機を所有することはあり得ないのと同じである。

最大の問題はオートマチック・フラワーズが人型であり非常に美しい外見をしているということなのだ。

ファティマはただひとつの純血の血の情報から作られるために外見的にはほとんど同じ顔と姿をしている。それに加えて、頭脳はいかなる科学者よりも優れ、筋力は先に述べた通り。

ジョーカー人類は我々より３倍から４倍もの寿命をもつが、ファティマは寿命に限界がなく、完成時点で成長を止めるために永久的にその若い姿を維持するという驚異もある。まったく、人類を超える超人類であることは間違いない。

また彼女らの性格は非常に温厚かつ冷静で、人間の持つ欲望や暴力性をもっていない。さらに人間に対して従順で、逆らうことをまずしない性格である。これほど美しく、魅力的なしもべを戦闘兵器として扱うことにはかなりの無理がある。

彼女らは戦いを好まないのだ。

その彼女らをＧＴＭの破壊と殺戮に、戦争に使わなければならないのだ。

ダムゲート・プログラム

思考制御システムと呼ばれる「ダムゲート」プログラムはそういう彼女らのために加えられる制御プログラムである。ＧＴＭに乗り、戦い、人を殺すことがファティマの使命なのだ。

人間に絶対服従させるために。

ファティマに唯一の欠点があるとすれば、生殖能力をもっていないということくらいであろう。彼女らはひとつの胚から生産されているために昆虫の「働き蟻」と同じく、遺伝子の受け渡し能力が停止させられているのだ。また雌型が大半なのは雄型よりはるかに安定して成長するからである。不安定なＸＹ遺伝子（男性）をもつファティマをあえて生産するガーランドは少ないが、それでもわずかながら雄型のファティマも存在する。

ファティマのタイプ

彼女らはほとんど同じ顔つきと外見なのは同じ遺伝子を使用しているためであるが、それでも外見的な差はある。

髪の色や目の色、身長。それに育成方法の違いによる筋肉のつき方の差によって声や顔つきも微妙に変化する。

また成長をどこで止めるかによっても外見的に差は出てくる。Ｓ型は最も早く成長を止め、完成させて若さ故の期待値とその後の経験で能力に磨きをかけるというタイプで、少女型とも呼ばれるが、このＳ型が最も多いのは単純に「一日でも早くファティマが必要」「早く完成させた方がかかるコストが少ない」という単純な理由である。

反対にＬ型と呼ばれるものは時間をかけて能力を限界近くまで成熟させて安定したＧＴＭ制御能力をもたせたもので、身長も一番高く、成女型と呼ばれる。このＬ型は時間がかかるために個体数は一番少なく、高名なガーランドでなければ余裕がないために生産できない。コストは最もかかるが精神は一番安定している。

Ｍ型はこのＳ型とＬ型の中間で、性能の安定性も外見も中間である。「乙女型」と呼ばれている。しかし、実際には安定したＬ型で完成させるつもりが、国家や騎士の要望によって早く完成させられてＭ型ということも多い。

各タイプの割合はＳ型が６割、Ｍ型が３割、Ｌ型は１割という比率である。

物語にＭ型やＬ型も普通に出てくるのは高名なガーランドのファティマの登場が多いからである。

星団法による制限の数々

彼女らにはその性能と外見故に数々の制約がある。

まず、ファティマを所有可能なのは個人の所有物として騎士。兵器として一括に所有可能な国家や騎士団などの代表者。そしてGTMやファティマを製作するガーランドとスライダーだけである。

例外は一切認められない。

人工生命体であることから人権や倫理問題の対象として絶えず議論が重ねられるファティマだが、「兵器」であるという結論で、人間としても物としても扱わないというのが星団の認識である。

その外見を人目にさらしてはいけないこと。

外見の美しさだけで優劣が決まるなら人類はとっくに滅亡しているだろうが、ファティマの驚異的な美しさはやはり多くの人を惑わすためにその外見は戦闘時以外は軍隊以外では見せてはならない。そして、軍隊内であっても顔と手以外は肌を見せてはならない。

こういった普通の人々に「特殊なものである」と絶えず認識させるための決まりがある。

これらはすべて「星団法」の下に非常に厳しく管理されており、多少この規約が緩やかになるのは実戦地域だけである。だがこれもお目こぼしの範囲であり、規定違反なのは変わらない。

また、ファティマのタイプをすぐ見分けられるようにS型は白いソックス、M型はブーツ、L型は膝下以上のスカートという訳のわからない規定があるが、これは数多いファティマの精神ケミカルや再調整を行なう場合に非常に役に立っている。S型は最も精神状態が不安定なために、戦場でのストレス、戦いを重ねることによって生まれる戦いたくないのに戦うという精神的な矛盾をほかのタイプよりも多く抱える。不調をきたしたファティマを見るガーランドやスライダーにとって型式を一目で見分けて初期治療を誤らないためである。

……とかいう理由もあるが、これが規定としてずっと守られているのは

「そのほうがかわいいじゃん」

という大方の反応である。

プラスチック・スタイルのファティマの場合の識別法はS型白ソックス、M型ブーツ、L型ロングマントかロングコートという規定になる。

これらの規定は3159年以後、星団法委員会を離脱したA.K.Dと天照もしっかり守っている。

オートマチック・フラワーズことファティマの着る服には大まかに2種類あり、カンプ・スーツとライト・スーツに区別される。どちらも最初の「チグリス・メゾネット」(グロス・フェイス)から発展したもので、ファティマが生まれてしばらくの間はGTMに搭乗して戦うための戦闘スーツが「カンプ・スーツ」と呼ばれ、「アシリア・セパレート」(ビスケット・スタイル)に進化した。

もうひとつのラインが、戦闘用でない普段着「カレント・スタイル」から発展したもので、カンプ・スーツがあまりに戦闘重視の重装でファティマへの負担がかかりすぎるために、星団暦2800年代にカンプ・スーツと普段着のカレント・スタイルの中間的な半装甲GTMスーツが開発された。これを「ライト・スーツ」と呼び、カンプ・スーツと区別している。

ライト・スーツは「アラビク・プレタポルテ」(デカダン・スタイル)と呼ばれ、その簡易性とファッション性がファティマたちの定番スタイルとなった。しかし、デカダン・スタイルはその見栄えのよさから「ファティマは肌を出してはならない」という星団法の規制からどんどん外れて、手足の露出がエスカレートしたために一時期「ユーフラ・コレクション」(プラスチック・スタイル)への移行が進んだ。プラスチック・スタイルは肌の露出を極度に抑えた全身スーツで、頭の大きなボンネットが特徴的であったが、「体のラインを出し過ぎる」という風評によって、結局ライト・スーツはデカダン・スタイルとプラスチック・スタイルの混成が現在の主流となっている。

カンプ・スーツのアシリア・セパレートが実戦用でそのコストがかかりすぎるために集団に属さない騎士などはデカダン・スタイルだけですませていることが多い。

現在は「アシリア・セパレート」「デカダン・スタイル」「プラスチック・スタイル」の3つが使用され、普段着はカレント・スタイルということになる。しかし、プラスチック・スタイルはその機密性から当初より宇宙戦闘用としても使用可能になっていたためにイオタ宇宙騎士団などは全員プラスチック・スタイルのファティマで編成されている。

また、ミラージュ騎士団はアシリア・セパレートとプラスチック・スタイルが融合したような「ガーメント・スタイル」を採用しており、地上戦等から宇宙船等まですべてを網羅可能な特殊なスーツを装備していると言われる。ただ、このガーメント・スタイルはまったくファティマの顔は見えない。

どのファティマ・スーツも非常に高価で特にアシリア・スーツが戦闘などによって破損した場合その修復には莫大な出費を強いられる。しかし、国家にとってはファティマを失うことよりはスーツの新造は金銭的な問題だけで済むため、問題にはされない。

またここに紹介されている各ファティマ・スーツは現在もすべて生き残っている。なくなった様式のスーツはない。初期アシリアこと「アイスダート・スタイル」も残っている。

グロス・フェイス・マスク付き
(チグリス・メゾネット)
(星団暦2340年～2400年頃まで)

応急的に作られたとはいえファティマ・スーツの原型をすでにもっている。ただ、ウィップハーネスなどの装着やスーツの装着に時間がかかり、緊急時の脱出にも影響を与えている。

カレント・スタイル
(星団暦2340年～現在)

ファティマ・スーツはあくまで戦闘用である。グロス・フェイス・スーツやアシリアを年中着ているわけにはいかない。最初のファティマが作られたとき、リチウム・バランス博士はすでにファティマが非常に各アレルゲンに対して弱いことをわかっており、自然素材の下着から服が用意されていた。そのファティマたちの普段着をカレント・スーツと呼ぶ。基本的に日常の普段着で、合成人工物質に弱いファティマの肌を守るためすべて天然素材を使用した服である。革に使われる染料にも弱いので靴などにも細心の注意が必要だ。

ビスケット・スタイル
（アシリア・セパレート）
（星団暦2500年頃～現在）
現在の戦闘スーツ。守るところは最小限になっているのがわかる。が、面白いことにスーツのネーミングは、「～～スタイル」というのが俗称で定着しているのだが、アシリアだけは軍事兵器名称のアシリア・セパレートが一般的に呼ばれてビスケット・スタイルとはあまり呼ばれない。不思議である。

アイスダート・スタイル
（初期アシリア・セパレート）
（星団暦2400年～2500年頃）
アシリアへの移行はまず装甲性と運動性の調整であった。見ての通り、腕と足は装甲生地で覆われているが、脚部はパンツがむき出しとなっている。この頃開発されたヘリオス鋼糸のためになるべく重くならないようにと上着はジャケットとなっている。ハーネスはもうない。

プラスチック・スタイル
（ユーフラ・コレクション）
（星団暦2992年～現在）
ファティマの肌の露出がエスカレートしてきたために体すべてを覆うスーツとなったのがこのプラスチック・スタイルで、気密性を高めたものが宇宙用のファティマ・スーツとして使用され続けている。体を覆うスーツのために柔軟性のある半装甲生地で作られている。「井天」は相も変わらずこの姿で登場する。宇宙用なので袖口からつま先までスーツ地で覆われる。

デカダン・スタイル
（アラビク・プレタポルテ）
（星団暦2340年～現在）
ライト・スーツとも呼ばれる軽装戦闘服。ヘリオス生地ではないが騎士服以上の防御性をもっている。口径の小さな実弾やビーム砲は跳ね返す。また、騎士団に属していない騎士のファティマはほとんどこのデカダン・スーツだけである。普段着からGTM制御まで万能のスーツとも言える。また、クローソーとアトロポスの「オペラ・スーツ」はアシリア対応のデカダン・スーツである。このふたりのスーツは一生変わらない。

マンティック・モード
（インカティック・フラッグス）
（星団暦2500年～現在）
アシリア・スーツから発展した非常に特殊なファティマ・スーツで、長期の宇宙航行のために作られた。「タイ・フォン」とこの「ダイオード」くらいしか着ていない。マント状のゆったりとした電磁波遮断生地が使われており、非常に長持ちする。数万年くらい。スーツの中は見ての通りアシリア・スーツの中身と同じである。

ファティマ・エスト
EST

身長160cm　体重38kg

GTMダッカスのパートナー。GTMと対になるファティマで、星団では最も名前の出るファティマである。彼女の登場するエピソードは非常に多く、中でも「トラフィクス」は彼女がメインのエピソードでもある。
彼女に関してはあまりに多く語られているので今回は省略するが、彼女のあまりに誠実かつ純粋な騎士への想いは時として「魔性の女」とまで言われるが、これも致し方のないところ。現在の黒騎士、デコースはそのエストを最もうまく使う騎士で、彼女を完全にコントロールしている。エストがデコースに寄せる絶対的な信頼はデコースがエストを「戦闘兵器」としてしか見ていないことである。そのエピソードは「ツラック隊」の中でも垣間見える。決してデコースは大人になったわけでも、エストに惹かれているわけでもない。あの男は最後まで変わらない恐ろしい騎士である。
それ故、天照はデコースを「超一流の騎士」として認めているのだ。

エストのアシリアは特殊でほかのアシリアにはない数多くの特徴をもっている。彼女のアシリアのワイドレンジ・ヘッド・キャパシタはシンクロナイズド・フラッターのために巨大なハーフヘルメット状態である。また、肩のアンブレラも大きく非常にごつい。これもダッカスのためにのみあつらえてあるものだ。

ファティマ・ウークーツ
OOCUTU

身長160cm　体重42kg

コークスの作ったファティマ。
連載の再開と同時に登場し、アシリア・セパレートのデモンストレーションを行なった。
パートナーはAP騎士団スキーン隊の支隊長、シュマイスである。今までのオリーブグリーン基調のハスハのイメージとはまったく異なるシャンパンゴールドのカラーのアシリアスーツにはびっくりした方もいるだろう。
基本的にAPのアシリアはGTMバーガ・ハリに合わせてあるので、APとミノグシア騎士たちのアイコンともなっているフリンジ（服の裾などにつく細い短冊や紐の飾り）は、大きな切り込みが多数入った縁取りとなっている。
気がついた方もいるかもしれないが、アシリアになって変わったのは服や先にも言った柔らかい素材の使用だけではなく、靴がオープントゥになっていることが多い。これも靴からつま先が出ることで柔らかさを出している。
彼女の役割はアシリアのデモンストレーションだけではなく、GTM同様に変化したファティマたちの体型の発表でもあった。手足は相変わらず細く長いが、首と胴体もさらに細く伸びている。これもGTMのシルエットに合わせてバランスをとったためである。
また、戦闘攻撃をすることも今までにはなかったことである。

ファティマ・タワー
TOWER

身長167cm〜無限　体重0kg〜惑星より重い

ようやく本編にその名前が登場したタワー。
本格的な登場は次の「パート４」からだが、意外と簡単に彼女の素性ははばらされた。セントリーの幼生の素性をもつファティマである。
彼女の発表は非常に古く、２話の中盤にはできていた。騎士とファティマの両方の特性をもち、ひとりでGTMの制御が可能というファティマで、ミラージュ騎士のラストナンバーでもある。実際にはそのあとレディ・スペクターなどがいるので本当の最後のメンバーではないが、ナンバー的にはミラージュの一番最後に来るメンバーである。
GTMカイゼリンこと、「ゼノア・アブターブリンガー」が彼女のGTMとなる。かなり先……ではなく魔導大戦のラストにはカイゼリンは天照の下にやって来る。
魔導大戦のラストはすべてのエピソードが集結するが、それはまた大きな歴史が動く起点ともなっている。
3100年から3300年にかけてまでの星団の動きはすべてマグダルの目覚めから始まっている。

で、タワーであるが、半分セントリーなのでとてもとても強い。どれくらい強いかというと惑星ひとつを吹っ飛ばすくらい強い。あと、変身もできちゃうファティマなので、不用意に近づいてはならない。
そのへんは天照にきつく言われているのでタワーはしっかり守っている。タワーは「天照の言うことだけを聞く」ファティマなのである。このあたりの設定は80年代からできていて、彼女の目がその当時から金色の爬虫類みたいなのはこの設定があったからである。まあ、セントリーはそのあと出たのですが。
で……番外の番外なのであまり彼女には期待しないほうがよいだろう。とほほ……。
彼女のスーツはファティマ・スーツではなく騎士服である。つまりデカダンと同じ素材に近い。アシリア・インジェクターはカイゼリンと同じデザインのものが装着可能である。スーツもカイゼリンのドレインスリットと同じ文様がついているが、タワーの出す熱を逃がすものではなくただの飾りである。本来バルーンパンツかショートパンツが可愛いかと思っていたのだが、「タワーはハイレグ」という圧力に負けてハイレグにしたら、「なんか白いとこがふんどしみたいですよ」とか言われて泣く泣く黒いベルトを着けてV型のハイレグになった。ひっどい言われようである。ぶんぶん。

ファティマ・光のタイ・フォン
Optical TY-PHON

身長162cm　体重41kg

バランシェの母、アルセニックのファティマ。
モナーク・セイクレッドの中心にいたが、炎の女皇帝の来訪によって再び目覚めた。
おもしろいのは時間軸的には炎の女皇帝のほうが数千年も先にモナークに到達しているはずなのだが、タワーのほうがあの時間軸では先にいたことになっている。時間の停止する空間だからこその、「後先がない」世界での出来事である。
すでにタイ・フォンはモナークのすべての調査を終わっており、詩女以上に星団を知る生命体となっている。
彼女が人工生命体で演算システムをもつことがモナークからの吸収を速めたのだろう。とはいえ、10億年かかっていてもわずか1秒でもある世界なのだから大変にややこしい。
彼女の本来着ていたスーツは「マンティック・モード」のマントスーツだったが、形状記憶なのかモーフィングなのか一瞬でアシリア・セパレートに変化した。ホントに不思議な科学力である。
以後、ナインをマスターとしてジョーカー星団に帰ってくる。だが、その彼女の立場上、人類と接することはないであろう。GTMウーシングを駆るのも彼女ならでは。

ファティマ・アウクソー／ザ・フォーカスライト
AUXO

身長160cm　体重39kg

バランシェ・ファティマの38人目。
剣聖ダグラス・カイエンのパートナーとして製造された。また、アウクソーはそれだけではなく星団初のファティマ「ザ・フォーカスライト」の新しい体でもあり、アウクソーとフォーカスライトは同一人物である。
今まではフォーカスライトとの関連は明言はされていなかったが、アウクソーがもうひとつの記憶をもっていることはわかっていた。
それは単行本の10巻にてもうひとりの星団初のファティマ、インタシティによって明言されたわけだが、それ以後もアウクソーは変わらずアウクソーと呼ばれている。
長い第６話のもうひとりのヒロイン的な位置にあり、第６話のラストではそのヒロインとしての役割がはっきりとわかることだろう。運命の３人の女神以後、初めてのヒロイン扱いのファティマとなる。
カイエンのために生まれた彼女がカイエン以外をマスターと認識しないのは当たり前のことで、これはもうガーランドたちがどう頑張ろうとどうしようもない。
それをツバンツヒとはそれとなく言っただけで、今後どう物語が展開しようともアウクソーがカイエン以外をマスターと呼ぶことはない。
つまりはアウクソーは永遠にあのままであるということだ。

アウクソーの持つガット・ブロウは「懐園剣」の♀にあたる剣で、♂にあたる剣はアルルが持っている。
この懐園剣は天照の娘、カレンがログナーに与えたもので、「この世のものではないものを切る」ための剣で、通常のガット・ブロウとはかなり異なる。
この剣自体が神剣、それもほんまもんの神様の剣なので、自分の意思をもち（しゃべりはしないが）自分の意思で自在に時空を移動する。
時間軸的にはいま星団暦3030年あたりに存在しているが、別の時空ではほかの時間帯にいる。たまに吹っ飛んでどこかに行ってしまうが、その時間帯には必ず存在しているので、いきなりなくなったりはしない。

ファティマ・ニナリス
NINARIS

身長165cm　体重44kg

クープ・ファティマでジィッドのパートナー。
剣聖カイエンの使用していたGTM「デムザンバラ」とともにバッハトマの最右翼として多くの戦場を戦い抜く。
物語中ではジィッドに暴言を浴びせられ悲劇のまっただ中のニナリスだが、ファティマは「最も強い騎士をパートナーにする」という不文律がある。だからどんなにひどい目に遭い、傷つけられようとニナリスはジィッドからは離れない。
それはやさしいけれど普通の騎士やそれ以下の騎士のパートナーになることなどあり得ないからだ。人間の姿をしていても彼女は戦闘兵器である。ここに人間の理屈は通用しない。
とはいえ、描いてる本人も「デコース、ジィッドぶった切れ」くらい思っているので、あまりにかわいそうなニナリスはさらにかわいそうになっていくが、ニナリスはひたすら頑張る。もともとL型ファティマなので落ち着いて地味なのは仕方のないところである。
なんやかや言いながら実はニナリス、プラスチック・スタイル、アシリア・セパレート、カレント・スタイル、そしてこのデカダン・スタイルと、なんと！彼女はすべてのファティマ・スーツを披露している。実はかなりひいきにされているのであった。
このバッハトマのデカダン・スーツは騎士などと同様、黒に赤のパイピングですぐバッハトマとわかる意匠である。このスーツの威力は現在絶大で、どの国家の騎士もこの色の服を見れば一歩退くと言われるほど、バッハトマは強い立場にある。

で、ニナリスだが、彼女はクープ博士のファティマの中でも1、2を争う超級ファティマで、その彼女のGTM制御能力はすぐにわかることだろう。
彼女だから「デムザンバラ」を制御できているのである。これに気がついているのはエストとデコースだけでもある。ジィッド君はそんなことに気がついていないが、それでいいのだ。そういう奴だから。

ファティマ・バクスチュアル（ブライド）
The Bride BACSTUAL/BASHKUSTUAL

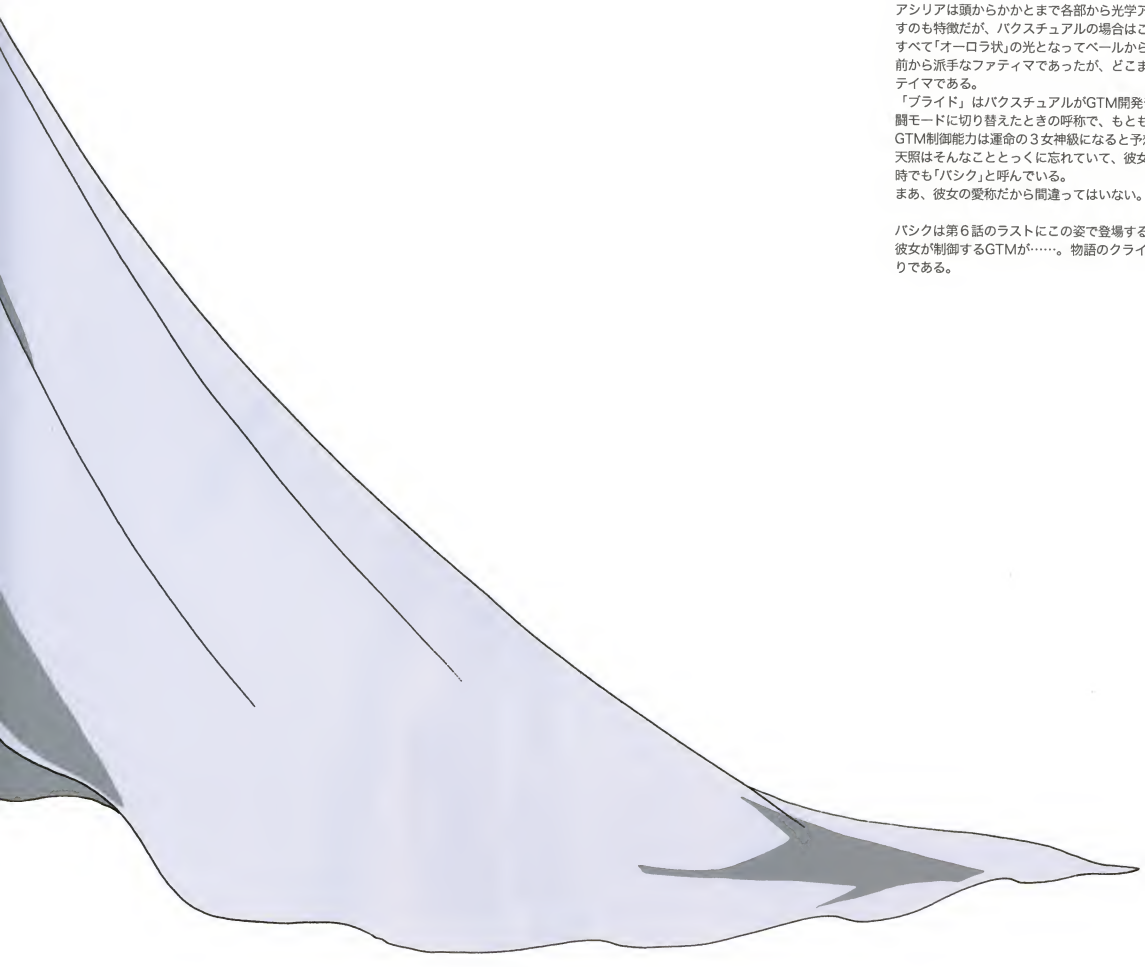
身長165cm　体重39kg

天照のもつ開発型ファティマ。
バランシェ・ファティマで、GTMの開発を専門に行なう非常に特殊なファティマである。
「DESIGNS 1」の最後のページで公開されたこのイラスト、実はなんとアシリア・セパレートである。ワイドレンジ・ヘッドキャパシタはベールボンネットとなり、このボンネットにはバクスチュアルだけがもつ複数のGTMを制御する機能をサポートするための巨大なキャパシタが隠されている。黒い花の飾りがそれで、この花の飾りは布ではなくヘッド・クリスタルと同じ素材のGTM制御パーツである。
装甲スーツのアシリアをウェディングドレスでやってしまうと大変な重さとなるため、腰のところでカットされている。スカート部はシルクである。さらにサイドから背中にかけては肉抜きのためのパンチングによって網状になっている。
下着を着けていないように見えるが、ちゃんと肌色のボディスーツを着込んでいる。また太ももにはスカートを膨らませるためのセパレート・パニエが幾重にもあるはずである。このパシクのスカートを思いっきりまくり上げても足はひざ下までしか見えず、その上はパニエである。ざんねーんだが、膨らんだスカートはこれが当たり前なのだ。

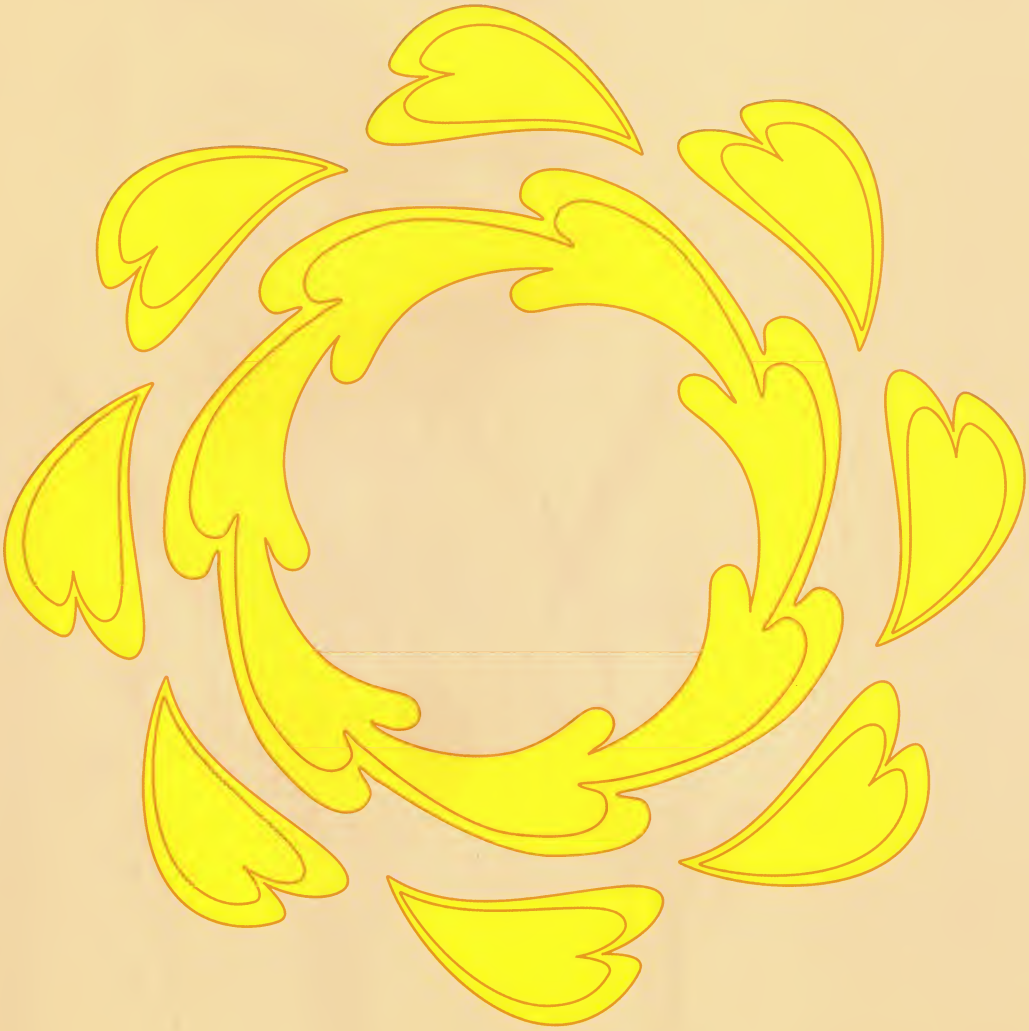
「DESIGNS 1」において、発表となったミラージュ騎士団のマークだが、この時は消されていた「Z,K,K,M,」の文字も今回で復活させてある。白黒の線画にはちゃんと描き込んである。
ついでに今回の再掲載にあたり、ガット・ブロウも最新のものに置き換えてある。十字架タイプのガット・ブロウは彼女が持っていたものが初登場となる。と、いうかガット・ブロウはたぶん彼女の持つものが「花の詩女」よりも早くお目見えしているはずである。
彼女のこのウェディング・アシリアでミラージュ騎士団の全体的な意匠とデザインが決定したと言っても過言ではない。これに続くリィのイラストやツバンツヒのミラージュ正装などはすべて彼女のこのドレスが基本となっている。

ミラージュ・マークを漆黒の花十字の形にするのは10年以上前から決めていたが、意外と時間がかかり、「DESIGNS 1」の表紙のアマテラスの袖のマークでようやく決定している。
公式サイトではこのマークがしばらくトップを飾っていた時もあったはず。この時はZ,K,K,M,はドナウ文字で表記されていた。
アシリアは頭からかかとまで各部から光学アンテナが飛び出すのも特徴だが、バクスチュアルの場合はこれらアンテナはすべて「オーロラ状」の光となってベールから浮かび上がる。
前から派手なファティマであったが、どこまでも派手なファテイマである。
「ブライド」はバクスチュアルがGTM開発モードをGTM戦闘モードに切り替えたときの呼称で、もともと強力な彼女のGTM制御能力は運命の３女神級になると予想される。ただ、天照はそんなこととっくに忘れていて、彼女がこのモードの時でも「パシク」と呼んでいる。
まあ、彼女の愛称だから間違ってはいない。

パシクは第６話のラストにこの姿で登場する。そしてこの時彼女が制御するGTMが……。物語のクライマックスの始まりである。



K,
K M,
Z, K,
K, M,



惑星ボォス星とウエスタ太陽系の謎

ボォス星。

ジョーカー星団で最も謎とされる惑星。

物語に登場するボォス星は星団暦より4000年も前。AD世紀5000年代、炎の女皇帝が支配する時代にこのボォス星への植民は開始されたとされる。そして、そこでこの星の不定形不可視の生命体である「セントリー」と遭遇、セントリーの攻撃によって10億人以上と言われる超帝國植民を失い、その代償と引き替えに炎の女皇帝はこの星の植民をセントリーより許された。

そのためにこの星は中央ナン大陸のほぼすべてがセントリーの支配する「カステポー」となっている。

ハイパーテクノロジーの権化であるAD世紀に「なぜこの星の発見と植民がそんな時代にまで遅れていたのか?」。ジョーカー星団の4つの太陽系が「星団」つまりソーラー・クラスターである以上、とっくにこの星の存在は知られていたはずなのである。

この謎はそれ以前のモンソロン帝の時代にまでさかのぼらなければ解明できない。

このボォス星を含むウエスタ太陽系は、「不可侵の太陽系」で、あったのだ。

AD世紀、超帝國は炎の女皇帝の代までこのウエスタ太陽系を侵すべかざる恒星系として認識していた。それを守り続けたからその後AD世紀7000年代までボォス星への植民はなされなかったのだ。

モンソロンの時代、ボォス星の存在はよく知られていた。しかし、ウエスタ太陽系には太陽系すべてを覆い尽くすほどの巨大な暗黒星雲がかかっており、他の星からの侵入が許されなかったというのだ。この暗黒星雲はハイパードライブの航路を狂わせ、人類のこの太陽系への調査も植民も不可能であったのだ。ウエスタ太陽系はジョーカー人に一切の干渉をされないまま太陽星団の一員として存在してきた。

その不可侵の枷が外れたのはAD世紀になって、スタント遊星が星団を通過した時。スタント遊星の不定出現惑星「バスター」が突如出現し、その力によってこの暗黒星雲が消滅してしまったことから一気にウエスタ太陽系への調査とボォス星への植民が実行に移されたという。

しかし、それでもまだ謎は残る。モンソロンの時代、ホーラ・モンソロン大王はなにゆえこの太陽系とボォス星を不可侵としたのか?

その証拠は「ファンタスマゴリア」とファティマ・タイ・フォンが目指す「モナーク・セイクレッド」。この人類の記憶装置を作り上げたと言われるのがモンソロンの時代である。AD世紀を超える想像を絶する科学力で万物を支配していたからなのだ。

これほどの技術を持つ旧時代、その存在を調査することもできたはずのウエスタ太陽系にもかかわらずなぜ不可侵としたのか? それはモンソロンの時代にはボォス星の存在が知られ、調査が行なわれていた証拠ではないのか?

ボォス星はモンソロンやアズデビュートの時代には解放されていたのかもしれない。スタント遊星の惑星バスターの力で暗黒星雲が取り払われたのであれば惑星バスターの力で暗黒星雲が発生することも充分考えられるからなのである。それどころか、惑星バスターはモンソロンに作られた人工星ではないかと。

その真実を知るものはもちろんバビロンの王「ログナー」である。

「あの者たち」との戦いがこのボォス星であったということなのであろうか? セントリーはすべてを知るが、人類には沈黙したままである。

ナインは星団暦3075年、ジョーカー星団の謎を廃都アマダ・ジーにおいて全知の神・天照に問いかける。

人類発祥の星はここ、ボォス星ではなかったのかと。

セントリーの長、ライブ……

その正式な彼の名は

「ライブ・コントローラー」である。

ボォス星はいったいどのような歴史をもっているのだろうか?

それは誰もわからない。

聖宮ラーンと詩女

そして魔法使いたち
星団の歴史すべてを知る詩女たち
その恐るべき力は一般的には一切知られていない
詩女の力を実際に知るものはすべて歴史に名を残した人物たちだけである

ジョーカー太陽星団の作った人類の記録者
なぜ人類は記録を残そうとするのだろうか?
詩女はこう結論している
「それは人々が人生を幸せに歩むために必要なもの」

ボォス星の驚くべき語り部「詩女」

AD世紀から星団暦の現在にわたるほぼすべての歴史と人々の記録をもつ女性たち。その女性たちを惑星カーマインの人々はいつしか「詩女」と呼ぶようになった。

詩女の役割

詩女は超帝國からの膨大な歴史を自ら経験したのと同じ知識をもつ。それは歴代の詩女が見聞きした莫大な記憶の蓄積である。

この知識は数千年にもわたる人類の記録で、星団のいかなる歴史学者も足もとにも及ばない。学者たちが得られる知識がひとりの人生分の書籍やデータから学んだものでしかないのに対して、詩女は歴史を自分の経験として覚えているからである。

詩女はこれらの記憶から得られる数々の出来事を参考に、相談に来た人々にその時その時に必要な助言として与える。政治的判断に迷った指導者から、失恋して生きる希望を失った人まで、その地位、身分にかかわらず助言を分け与える。

たとえば、ギーレル王朝の立ち上げには初代国王が会いに来たが、詩女はその独立時期はいつにすればよいのか？という指導的な言葉ではなく、かつて星団の各国が新たな動きを始めた時は国家代表はどういう立場にあったのか、人々はどういう気持ちであったのかを伝えた。詩女は決してギーレルの独立時期がいつが最適なのかを教えることはなかったという。それどころか独立が最善の選択であるのかどうかの助言すらしなかった。

また、寒村の長老が水不足で悩んで相談に来た時にはどこに井戸を掘れば水が出るのかなどを教えたりしている（水はハーモイド・システムの触媒として様々なものを生み出す最も手っ取り早い“燃料”となるからである。だが、エネルギー効率を考えれば自然の水を使うのが一番なのは変わらない）。政治から庶民の生活の些細な相談まで詩女は話し相手になる。

また、助言が必要ないと詩女が判断すればまったく別の話だけをする時もあるし、実際にはこの助言が必要ないという場合が多いのも確かだ。この場合、詩女は「自分で考えて」という遠回しの助言を与えているのだ。

これからわかるように詩女は自ら人々の指導者として表立つことはなく、あくまでその時代の人々に生きていくために必要なことを伝え、ささやかな人々の支えとなることでミノグシアの人々から絶大な信頼を得ているのだ。

詩女の噂を聞いて、様々な人々が詩女のいる場所に訪れるが、こういうあいまいな詩女の言葉に失望する者が多いことも確かである。

「相談しに助言を求めてきたのに漠然とはぐらかすようなことしか言われなかった」

それにはこういった理由があるのである。

歴史を変える言葉「預言」

詩女の助言を求めに来る者はミノグシアの民だけではなく、密かに星団列強の権力者も訪れているが、こういった回答によってはぐらかされた気持ちで帰るものが大半である。詩女を信頼し、心の支えとしているミノグシアの民だけが詩女の言葉の中の真実を見つけられるのである。それ故、ミノグシア以外では詩女の何千年にもわたる記憶と力を信じていない者が現在においてもほとんどである。

かつて星団暦初頭、ボォス星を訪れたフィルモア帝国初代皇帝が当時の詩女ラーンを侮辱するように言った言葉が星団の大半の人々の詩女に対する評価である。

「昔からの記憶をすべて受け継いでいるって？　それは大脳インストールか何かで効率よく星団の歴史を覚えているだけじゃないの？」

「記憶を受け継いでいる？　信じられないな」

しかし、普通の助言とは違うまったく別の言葉を詩女は発する時がある。

これが「詩女の預言」と呼ばれる歴史を変える言葉なのだ。預言を受けた者は間違いなく星団史に名を残し、その後の歴史を変えていく人々である。

この預言がなぜ行なわれるのかはまったくわかっていない。それは預言を発する詩女すらわからないのである。

詩女原母　炎の女皇帝ナイン
Mother Documenteress N.E.I.N. UNIO Ⅲ

身長???cm

詩女の母。炎の女皇帝の名で呼ばれる。
「記憶継承」という驚くべきシステムをジョーカー太陽星団に残した。
ナインは超帝國ユニオの３代目の皇帝として君臨したが、超帝國を統治し、科学の暴走と情報社会の飽和による社会において人類を絶望から救うために人工的に作り出された超人類である。そう、彼女もまた人工生命体である。
「ユニオ１」と「ユニオ２」とはナインの母体で、実体はない。「統制システム」の名称で「超帝国ユニオ」そのもののシステムである。
ナインが生まれた背景は第６話の最後にナイン自ら天照に語るが、絶望的なAD世紀の「希望を失った人類」に生きる希望と幸せとは何か？を生涯をかけて模索し、超帝國ユニオを統治した。
その中でナインが造り出した「GTM」や「バスター・ランチャー」「ヘリオス超鋼」「ウォーキャスター」「グリント・ツヴィンゲン」はその副産物的なものである。
星団暦に入って、騎士やパイター、ガーランドたちの驚異的な才能はすべてこのナインの力の一部を引き継いでいるといえる。
ナインが最後に生み出したのが「記憶継承」で、実の娘、ヤーン・ダッカスに引き継がれ、その後「詩女」と呼ばれる女性たちに代々超帝國ユニオから歴代の詩女までの想像を超える情報と記憶が受け継がれている。
この記憶継承システムによって生み出されたもうひとつのシステムが外部補助的な記憶装置としての「ドウター・イニシャル・コントローラー」で、本来はナインが自分のために使用するシステムであった。
９巻でこのドウターチップは初代天照のミコトに渡され、モナーク・セイクレッドから来た戦士、ログナーに使われることとなった。

年齢は最終的に軽く10,000歳を超え、ドウターによる自己再生をどれほど行なったのかは不明。超帝國皇帝として恐ろしい面ばかりが記録に残されているが、これほど慈愛に満ちた人物は誰もいないだろう。

預言とは？　その驚異的な能力

炎の女皇帝こと、「詩女原母」ナインがもつ超帝國ユニオの記録から星団暦の詩女、現在のフンフトがもつ魔導大戦の記憶まで、詩女たちは星団の歴史や出来事を次の詩女へと渡す。

この歴代の記憶を別の人間に受け渡していくという信じられないシステムはナインが生み出した「記憶継承」システムである。ナインの生み出した記憶継承システムは自分の頭脳にある確実な記憶をデータ化して別の人間の頭脳に引き継がせるというテクノロジーだが、受け渡しは誰にでも可能なわけではない。

「スコーパー」の力

記憶の受け渡しはグリント・ツヴィンゲンの力のひとつ、「スコーパー」（全視者）という、ナインが生み出した精神パワーが必要となる。スコーパーは魔法使いの「ポルテッツ（雷人）」と同じ、グリント・ツヴィンゲンのひとつだが、霊能力者とも呼ばれる通り、「全視」という能力をもっている。

これは

「見えないものが見え、離れた場所でも物事を見通す不思議な千里眼の目をもつ者」を指す言葉だが、特定の別の人間に自らの精神を飛ばし、その人物の見ているものを共有する力である。

たとえば、本編9巻でムグミカがヤーボに語ったように、２０００年代初頭、天照家を襲ったボスヤスフォートと天照のミコトの戦いを当時の詩女、ナカカラがリトラを中継し、ミコトの目を通して見ていたというその力である。また、ムグミカ自体も全視を仲介する特定の相手がいない場合でも、カステポーでセントリー「ライブ」の消滅地点をアイシャに伝えている。

スコーパーはこの全視の能力の副産物としてＧＴＭと同じように紫外線や赤外線など通常見ることのできないものも見ることが可能で、故に霊能力者とも言われる。

また、この能力には複雑な記憶システムと脳細胞の伝達速度の速さが必要になるため、スコーパーたちは二重人格的な大脳の記憶システムをもっている。記憶中枢の伝達速度を加速させ、いくつもの記憶や記録を並列状態にして様々な事象を的確に分析するという有機コンピューターの人間版である。その的確な分析能力は、現在のファティマのもつ分析能力とシステムこそ違え同じ発想である。これは有機的な記憶システムなのだ。

詩女はこのスコーパーの能力のさらに上を行く

「預言」

を行なう人物である。

詩女の最大の能力、預言

不思議なことにこの力、「ボォス星で生まれた女性」だけが「詩女」として星団の記憶を継承する。

詩女の大脳は、驚異的な記憶並列処理能力をもつために、膨大な星団の記録と記憶を混乱することなく短期間に引き継いでいけるのである。つまり「自分としての自覚と記憶とはまったく別に他人の記憶を並列で持っている」ということである。歴代の詩女の記憶が自分の記憶とごっちゃになって混乱することはない。ただし、この複合してもつ記憶はお互いをバックアップしているために次に継承されるときにはまとめて同時に引き継がれていく。

これに似た話を物語ではすでに語られている。

「ファティマ・アウクソー」の頭脳がほとんどこれと同じである。

星団の名だたるガーランドがＧＴＭの設計やファティマの製造以外に超帝國のテクノロジーの解析を生涯の仕事としているが、モラードやコークスがこの件に関して詳しいのは当然なのだ。また、ファティマ理論を生み出したウラニウム・バランスが「東宮西宮の乱」で聖宮ラーンにいたのはこの研究のためである。

（詩女のもつ、スコーパーの脳細胞の処理速度は騎士の反応速度と同じもので、ファティマの処理速度は神経細胞の微弱電気を使用したデータ処理。ただし詩女のものは並列処理を行なうが、それはもっている記憶の処理のみに適用される。ファティマの処理能力は主に視覚と聴覚など感覚から得られる現状の解析とＧＴＭの物理計算に特化している）

スコーパーやファティマは現状解析に関しては述べた通りであるが、詩女が「預言」を行なえるのは膨大な星団の歴史を知るものだからである。スコーパーが自分の知る範囲での記憶や経験から予測をかなり正確に判断できるのに対して、詩女は自分ひとりではなく歴代の、それも炎の女皇帝からの記憶と経験をもっている「重合人間」である。

予測をはるかに超えた提示、つまり「預言」を行なえるのは詩女のみがもつ驚異的な能力なのだ。

なぜ詩女はボォス星だけでしか生まれないのか？

女性だけに限定されるのか？

歴史と記憶をどうやって受け継いでいるのか？

謎は多い。

詩女の歴史と「セントリー」の関わり

詩女はナインから直接娘のダッカスにその力を受け渡して以後、現在まで脈々と記憶を受け渡されている。

詩女の引き継ぎは非常に不思議で、特定のボォス星に生まれた女性だけが選ばれるのだが、まれに2人存在していたり、次の詩女は決まっていることもある。詩女ナカカラの時にはもうひとりの詩女がいたし、ムグミカの時もマグダルが次の詩女と認証されていた。

このような次の詩女がすでに決まっている場合はたいてい大動乱の時代で、一時代に2人の詩女が同時に存在することで受け継がれる記憶のバックアップを取っているとも言われる。

しかし、反対に詩女が存在していない時代もある。次期詩女が決まらず、詩女がいなくなっている時代もあるのだ。

この場合の記憶の継承はどうなるのか？実は現在のミノグシアもそれにあたり、ムグミカが死亡して、フンフトが詩女復帰により業務を引き継いではいるものの次期詩女と言われたマグダルが消息不明の上にその詩女としての「スコーパー」を失っていることで、ラーンより詩女継承権を剥奪され、正式な詩女が空白状態である。

フンフトがいるのになぜ空白なのかは、「フンフトにはムグミカの記憶の引き継ぎが行なわれていない上に『預言』の力を失っている」からなのだ。ムグミカが詩女であった時代の記憶が現在欠落しているのだ。

全視を行なう詩女が見た世界は我々が知り得るより遙かに多くのことを見ている。ムグミカが見ていた4話での天照の死亡とすえぞうの発生や、天照が幼少の頃にボスヤスフォートを倒した場面をボォス星で見ていたナカカラなどを見てもわかる通り、星団で起きた主要な出来事は詩女が千里眼で見ているのだ。

ムグミカが見ていた時代の記録の欠落をどうするのか？

さて、この場合どうなるのかは、「時の詩女」のラストシーンでわかることだろう。

詩女の謎

ボォス星で生まれた女性のみしか詩女になれないという不思議はガーランドも研究しているが、その答えはバランシェが墓まで持って行ってしまった。

しかし、大方の予想はついている。

詩女の生まれるミノグシア大陸の人々はAD世紀にカラミティやデルタ・ベルンから移民してきた人々だし、その後もミノグシアに移住や引っ越してやってきた人々は非常に多い。カラミティ出身の女性がミノグシアで産んだ娘が詩女となることもあるのだ。ボォス星での血統は関係ない。

ボォス星という環境が詩女誕生にはある。

ボォス星にあって他の星にないもの。

それは未知の生命体「セントリー」の存在である。

セントリーはボォス星のおとぎ話に登場する奇怪で荘厳な美しさをもつ形のないものである。

ある時は光の鞭のような姿、ある時は大地を流れる風のような姿。

その姿は一定せず、ジョーカー星団が産んだ最強兵器「バスター・ランチャー」ですら傷つけることもできない生命なのである。

セントリーは人類とは異なった思考で人類と接触してきた。ボォス星に移民を開始した超帝國を一瞬で消し去り、別の伝説では異世界から来た悪魔と戦ったと言われる。

人類の敵なのか味方なのか？ またこのボォス星を支配する真の主なのか？ 現在でもまったくわかっていない。

唯一わかっているのはセントリーは5種の個体から構成されているということで、それぞれが発光する色で区別されている。

「ライブ」 セントリーのリーダー。

「ブリッツ」 雷と共に登場する青い光。

「カラット」 まばゆいばかりの黄金の光。

「マグマ」 赤い溶岩のようなもの。

「バルサー」 暗黒のセントリー。見えない。

わかっているのはこれだけである。彼らの姿は一切記録映像には残っておらず、どんな姿なのかと言われても答えようがない。

もうひとつわかっているのは彼らには「休眠期」があり、一定のエネルギーを消費すると消滅し、その間、別の姿になるということである。

美しい動物であったとか、ひときわそびえ立つ美しい巨木であったとか、大海に漂っていた碧い漂流物であったとかいろいろであるが、すべて人々の言い伝えである。

……と、これが星団で一般的に知られる「セントリー」であるが、詩女はセントリーのことを非常によく知る人物でもある。いや、セントリーのことを知る唯一の人物と言ってもいい。

詩女は聞かれてもセントリーのことを話すことはないが、歴史の中で数多くセントリーと遭遇している。詩女の中にはセントリーの王者「ライブ」と行動をともにしていた者もいるという。

その「セントリー」の力が相当詩女の力に影響していると言われている。詩女はセントリーを一瞬で召還する力を併せもっているが、詩女とセントリーの間には相互作用が必ずある証拠でもある。

星団の名だたる科学者の頂点、ガーランド達が下した結論は、

「詩女になるための認証はセントリーが行なっているのではないか？」

これが詩女がボォス星でしか生まれない理由のひとつとされている。

詩女の不文律・記憶の非公開と処女性

星団のあらゆる歴史を知る詩女だが、その恐るべき力が信用されていなかったり、あまり知られていないのは詩女たちが過去の星団の話を語らないということがある。

詩女が話したとて、それを信用するかどうかは別だが、詩女の語る過去の話はすべて真実である。では、なぜ詩女はそういう重要な、人類に警鐘や啓示を与えたほうがよい歴史の出来事を語らないのか？

これが詩女の不文律である。

詩女たちは炎の女皇帝の時代を知っている。

「すべてを知り、あらゆる事象を知ろうとすることがどれほど不幸であるか」

なぜ人類はAD世紀、絶望に置かれていたのか？ 知りすぎることがいかに人間から幸せを奪うことなのかをよくわかっているからなのだ。だから詩女たちは過去の星団の歴史を知っていようと語らない。歴史学者の要求する謎の解明や失われた歴史の真実を語らず、そしてそれらを記録に留めるということを一切しない。

詩女はナインが残した星団の記録者であり、ボォス星の人々の血統である。故にボォス星の人々からは絶大なる信頼と尊敬を受けているのだ。人々が困り、相談されたときにのみ詩女はその知識から得られる提案を人々に示すのだ。

詩女の想像を絶する記憶を延々と狙っている組織があるのも事実だが、彼らはセントリーとの関係を知っているので手が出せないのである。

またもうひとつの不文律に、「処女性の維持」がある。ずいぶんとアナクロな戒律かと思われるが、別にこれは男性と性交してはいけないということではない。正確に書くと、男性の遺伝子を体に受け入れ、別の生命を体内に宿すと詩女の能力が破壊されるからなのである。

炎の女皇帝から受け継いだ詩女の力のもととなっている「ブリッツエン・スコーパー」の力は騎士と同じく、星団中のすべての「女性だけ」が発生する可能性をもっている。この力は女性に限定され、男性の魔法使い「ポルテッツ」はいても男性の「スコーパー」は存在しないのだ。

フンフトはコーラス王家のメロディ家の王子との間に子供、桜子をもうけた。その瞬間、詩女の力は消滅し、詩女の資格を失った。失ったとはいえ、継承した記憶まではなくならないが、「預言」の力を失っているのだ。

詩女は自分の体内に自分とは異なる遺伝子を受け入れることでその力をなくす。つまり妊娠状態になると「預言者」の力はなくなってしまうのである。

この因果関係は星団中のガーランドが解明しようとしているが、なにせ相手は詩女であるために、まったくその調査や研究はされていないのが現状で、謎のひとつとなっている。このことが一般的に「詩女は処女」という、間違ってはいないが正解ではない通説を生んでいるのだ。

詩女はそれに対して否定も肯定もしない。

普通のスコーパーは妊娠しても全視の力は失われないことから、詩女だけが妊娠するとその力を失うということである。

黒の聖女　ダッカス

カーマイン皇帝　ヤーン・ダッカス・カステポー
超帝國皇女　ジェット・クィーン
JAN DACCAS Jet Queen UNIO Ⅳ

身長190cm

初代の「詩女始祖」として残るダッカスはナインこと炎の女皇帝の実娘である。とはいえ、彼女もまた超帝國の歴代皇帝と同じ生まれ方をしているので、我々の言う本当の娘とはちょっと異なる。「ユニオ４」を名乗る超帝國母体システムの４番目となるが、ナインの直系で実子である。「ユニオ」はここから血統を引き継いでいく。
ナインの実子でもあるので、すべての能力を引き継いでいる。騎士、４つすべてのグリント・ツヴィンゲン、そして皇帝の血、超帝國の時代、万能の力をもつ者が皇帝となっていた時代である。
ただし、ナイン以後すべての超帝國皇帝は男性であるために、女性の跡取りということはそれまでの皇帝とはまったく異なる意味で生まれたのだろう。

ダッカスはカステポー、つまり当時の惑星カーマインすべてを統治する皇帝として君臨していたが、これは「皇帝ツェールンフ」の時代、彼女は別の皇帝として開拓の始まったボォス星を統治することを目的に送り出された。
ナインの実子であるにもかかわらず、このことを当時知っていた者は皇帝を含め皆無で、彼女は単に「王女」と呼ばれていた。そして彼女は「普通の女性」で、ナインのように数万という子供をつくることはない。

ダッカスはまた、一番最初に「セントリー」と遭遇した女性でもあり、カーマインを制圧するために武力で交戦を望んだ超帝國とセントリーを倒すという欲望に駆られた超帝國皇帝ツェールンフを裏切って、セントリー側に立った人物である。
ナインの再統治後はボォス星でその生涯を過ごしたと言われるが、彼女のもつ記憶はすべて次の女性「ナイミン・ハスハ・アトール」に伝えられた。
「詩女」の始まりである。
ダッカスは正確には詩女ではない。ただダッカスはナインと自分のすべての記憶を初めて超帝國系列ではない普通の女性に受け渡すという「起点」であった。そのために「詩女始祖」と呼ばれている。
つまり、「詩女の記憶の継承」においてダッカスとナインの記憶は別格で、後の詩女たちはすべて「自分の生存中の記憶は受け渡せない」のだが、ナインとダッカスは現在別の形で生存しているにもかかわらず記憶の継承が行なわれるのだ。

剣聖ダグラス・カイエンの本当の母であり、超帝國の騎士であった美しい少女。
その面立ちはファティマ・エストのイメージとなり、また彼女が駆り、指揮していた超帝國皇帝騎士団「カンプグルッペ・シュバルツ」は後のGTM黒騎士ダッカスの基ともなった。

いまだ存命である。パートナーはあの星団４ファティマのひとり、「ザ・ニープ」。彼女がどういう形で登場するのか待たれる。

ナイミン・ハスハ・アトール
NIMMIN HATHHA ATOLL

身長168cm

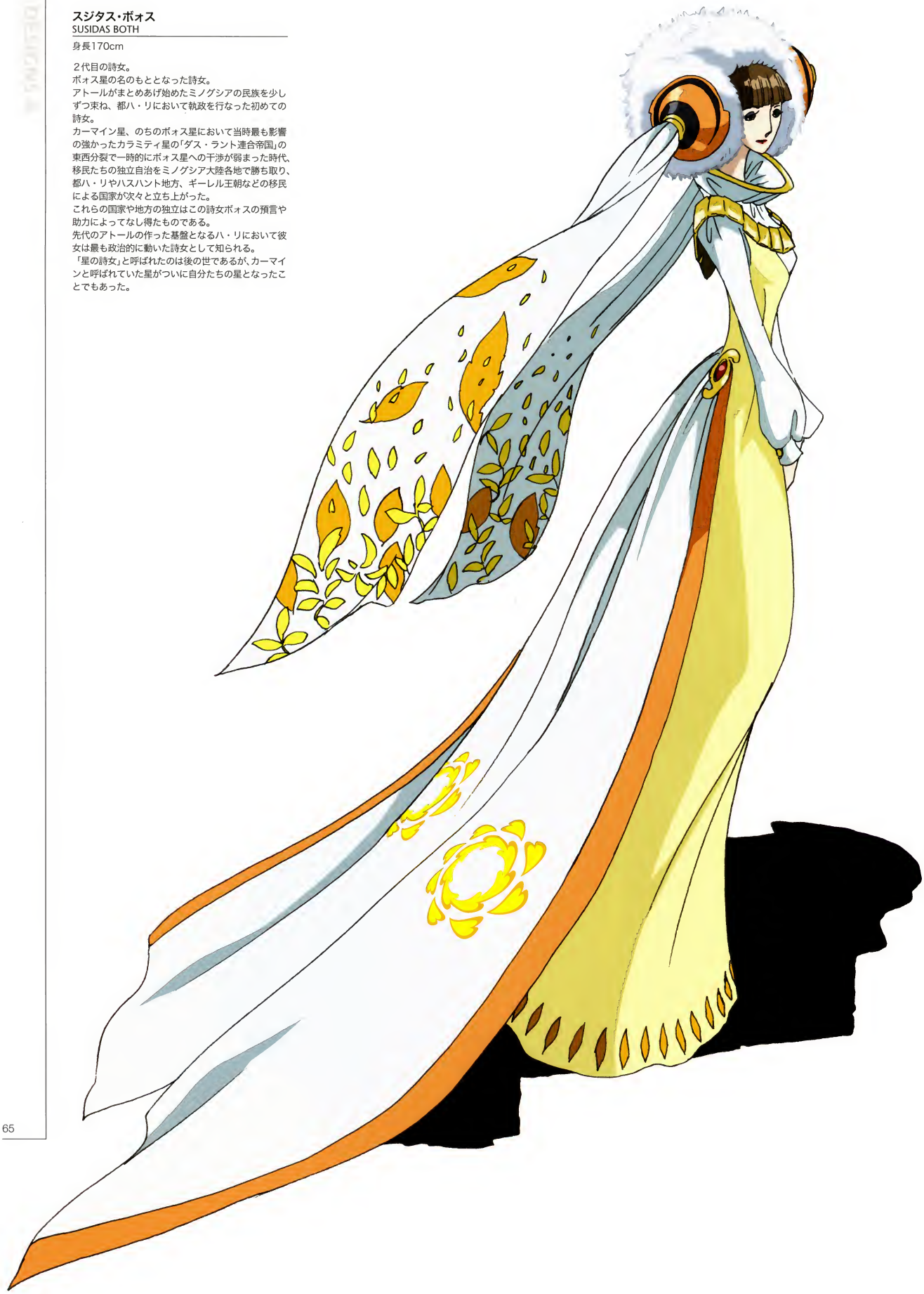
ダッカスの跡を継いだ、正式な意味での「初代詩女」。その名からわかる通り、ハスハ地方とアトールの名前のもととなった女性で、ダッカスがナインとともに星団を去り、超帝國なき後の惑星カーマインの移民をのちの都ハ・リに集め始めた。
しかし、この時代、詩女の力は一般的にはほとんど認識されておらず、また、非常にわかりにくい詩女の役割が理解されず、詩女を理解し信奉する少数の者たちとともにミノグシアの民に助言を与え、超帝國や移民たちの歴史を人々に伝えていた。
ダッカスとは異なり、なんの血統も後ろ盾もない状態でのスタートは困難を極めたことであろう。だが、その超帝國の血統も影響もない状態でスタートさせることが彼女の使命でもあった。

彼女はイースト・カステポーとカステポーのほぼ中心にあった小さなオアシスに拠点を構えた。このオアシスの名がハ・リであった。彼女はまだそれほど蓄積されていない記憶の中でこの小さなオアシスが巨大な地下水脈をもっていることを調査し、巨大な都市になることを預言していた。
そしてオアシスであるが故に多くのミノグシアの人々の交通の要として様々な人が行き交うことも計算し、詩女としての認識をミノグシアとカステポーの人々に伝えることを生涯の仕事とした。
そして詩女としての仕事は自分の代だけでは終わらないことを十分承知し、次の詩女「ポォス」に託したのである。
「中原の詩女」と呼ばれたのは没後であるが、まさしく現在のポォス星中原、イースト・カステポーとミノグシア中原地方を創りあげた女性であった。

スジタス・ボォス
SUSIDAS BOTH

身長170cm

２代目の詩女。
ボォス星の名のもととなった詩女。
アトールがまとめあげ始めたミノグシアの民族を少しずつ束ね、都ハ・リにおいて執政を行なった初めての詩女。
カーマイン星、のちのボォス星において当時最も影響の強かったカラミティ星の「ダス・ラント連合帝国」の東西分裂で一時的にボォス星への干渉が弱まった時代、移民たちの独立自治をミノグシア大陸各地で勝ち取り、都ハ・リやハスハント地方、ギーレル王朝などの移民による国家が次々と立ち上がった。
これらの国家や地方の独立はこの詩女ボォスの預言や助力によってなし得たものである。
先代のアトールの作った基盤となるハ・リにおいて彼女は最も政治的に動いた詩女として知られる。
「星の詩女」と呼ばれたのは後の世であるが、カーマインと呼ばれていた星がついに自分たちの星となったことでもあった。



アオイ・ラジョラ
AOI RADIORA

身長175cm

詩女ポォスからしばらくしての詩女。「水引の詩女」と呼ばれるのは現在「タイダル川」と呼ばれる大きな大河を作った詩女だからである。
都ハ・リは徐々に巨大になっていったが、アオイはそのハ・リの内政と都市の安定に生涯尽くしたと言われる。詩女たちは何らかの役目を行なっているが、彼女にとっては都の安定と言うことが最大の役目と考えていたようだ。
人工大河タイダル川は当時はただの「ハ・リの運河」と呼ばれていたが、現在正門のある場所にダムを造り治水を始めた。そしてこの人工大河にそって都の特徴である巨大なリンク(城壁)が建造されていったのである。巨大な地下水脈を引っ張り上げ、川にしてしまう事業は彼女の代だけでは終わらなかったが、安定した水を得る願いは今も昔も変わらない。

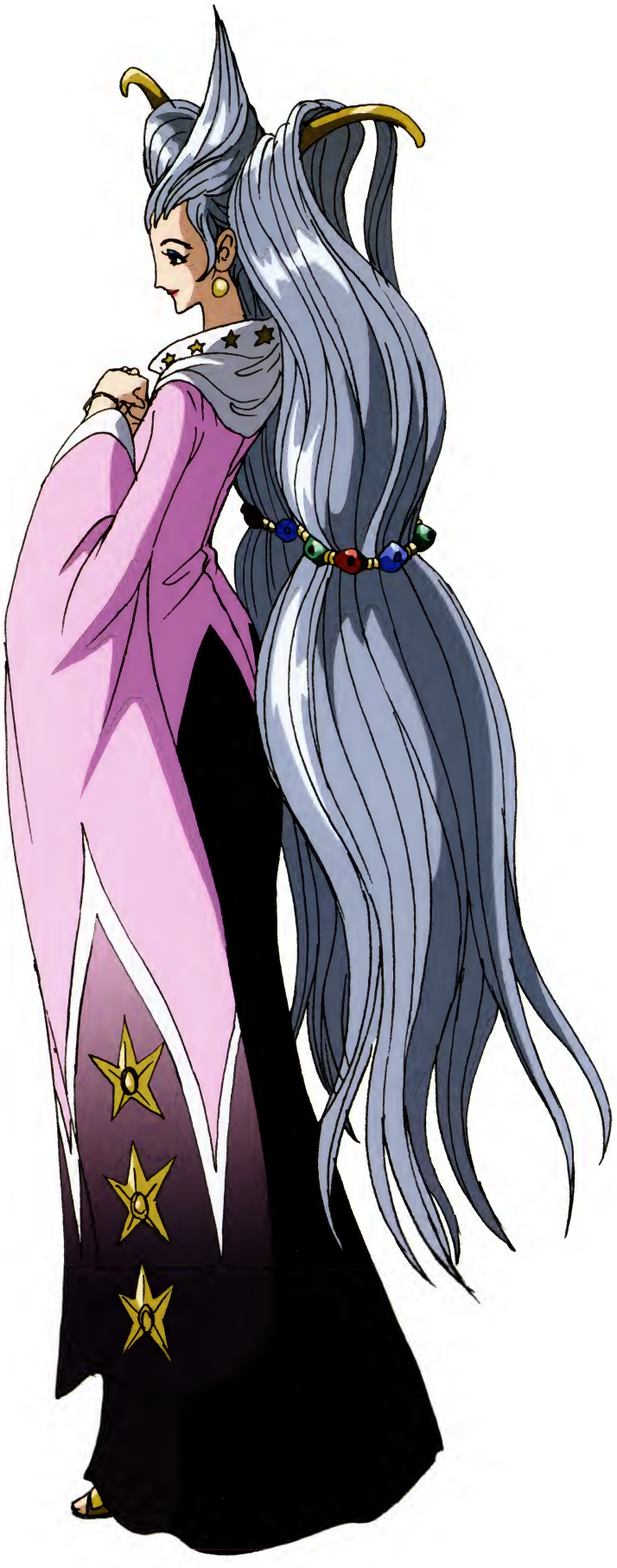
詩女たちのファッションは皆独特である。
それは出身地方の出で立ちがもとであったり、その時代の流行を取り入れたものであったりする。アオイの衣装はあまり見られない全身を覆うタイツに大きなかぶり物で後のファティマたちの「プラスチック・スタイル」にも似ている。多分に柄は彼女の出身地方のテキスタイルなのであろう。

ジスデラ・トークナン
JISSDERA TOKNAN

身長165cm

都ハ・リが現在の形態になったころの詩女。彼女の代には巨大なハ・リの農業プラントが稼動を始め、いよいよ巨大都市として人々が安定して定住できる環境が整った。とはいえ、この頃のミノグシアは星団列強の圧力も増え、ハ・リ以外の各国は独立や列強の干渉による内戦を繰り返すという時代でもあった。
生産施設を拡張しながらも彼女は内乱の各国へ出向き、様々な調整を行なっていたという。
そのためハ・リにいる時間は短く、いつもカステポーやミノグシア各国で人々の相談に乗っていた。
ジスデラの時代は年表にもほとんど記述がないが、農業プラントの稼動とともにさらにハ・リの人口は増え、現在ヘリオスリンクと呼ばれている中央の巨大なリンク(城壁)だけではなく、周りにいくつものリンクが建造され始めている。

さて、詩女が預言を行なう場合たいてい過去の詩女たちが一緒に登場してくるが、過去の詩女すべてが登場するわけではなく、登場する詩女たちはその預言される相手によって変わるらしい。後半になってくると歴代の詩女だけでも数十人という数になる。何らかの法則でその時その時登場する詩女が決まっているようである。



ローショー・オーハイネ
LOISIOU OHEINE

身長170cm

北限の詩女とは彼女の出生が北部バトラントである事による。豊かな中原やハスハント地方よりも開発の遅れた北部ミノグシアは北限地方とまで呼ばれた氷と荒原の土地であった。現在のバトラント、イェンシング、ベラ３国はその中で生まれた比較的新しい国家である。詩女オーハイネはこれらの北限地方の安定と発展に尽くしたと言われる。そして後に上記の３国が誕生したのだ。

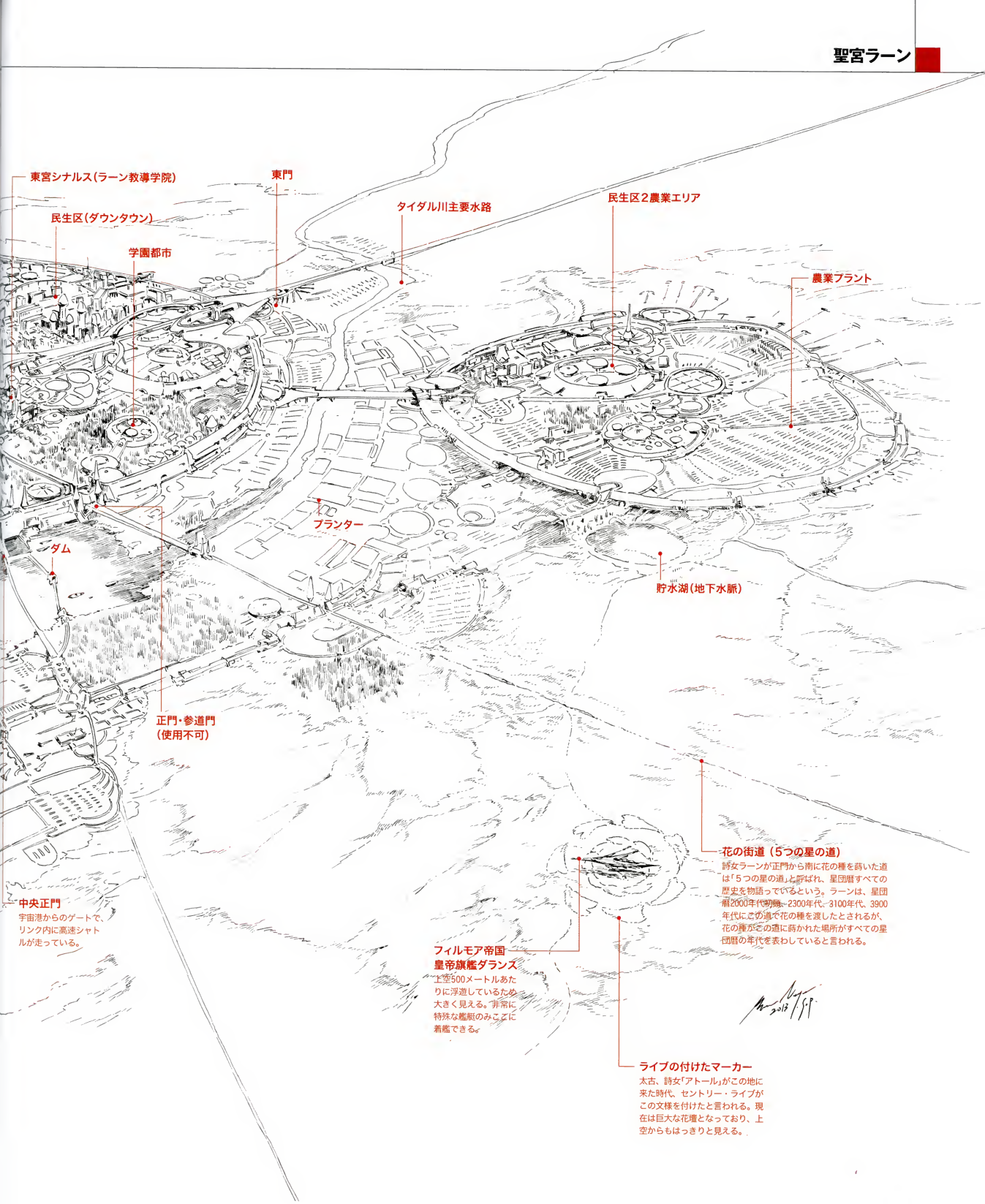
オーハイネはファティマの名前ともなっている。現在ツバンツヒのパートナー、オーハイネはこの詩女から名前をもらったものである。
また、よくみると彼女の靴下は最初にもこもこ素材を使ったキャラクターでもある。オールインワンのスーツには蛇の模様が数多く打ち込まれているが、詩女は必ずどこかにこの白い蛇の文様をつけている。服の刺繍であったり、杖やアクセサリの文様になっていたり、フンフトのように入れ墨になっているものまで多岐にわたる。「癒し」を意味する白い蛇だが、詩女とていつもこのマークをつけているわけではない。

ヒュツァ・リルレ
Hiyuza Liruree

身長165cm

「花の詩女」のポスターには登場していないが画面ではちゃんとアップで映っていたのが彼女。
詩女ラーンよりも3代前の最も新しい詩女である。
最も新しいというのはラーンの先代と先々代の詩女はこの時点でまだ生存しているからである。
そう、つまり記憶の継承の可能な最も新しい詩女ということである。言い換えれば記憶の継承は歴代の詩女すべてからではなく、まだ生存している詩女からは継承されないのだ。最近の歴史の継承ができないとよくないのでは？と、思われるかもしれないが、これは大丈夫。
まだ生存している詩女がいろいろと教えるからである。
中にはナインやダッカスのようにまだ生存している詩女もいるが、この2人に関しては自分の記憶を次世代の詩女に引き渡しているから問題ないことと、実際もういなくなっているのも同然なのでこの2人は除外される。
3031年時点での詩女であるフンフトも次の詩女であるマグダルには渡せない記憶が数多くある。それらは語り継がれることによってさらなる未来の詩女へと正確に残されていくのである。生存している詩女から聞かされた話とその詩女が死亡して記憶の継承で本当の記憶を受け取るそのわずかな差が、また詩女の経験となっていくのである。

リルレはボォス星の人間ではない。両親がボォス星に来ているときに生まれた女性で、リルレの代で詩女はボォス星で生まれたことさえ満たしていれば詩女となると言うことがわかったのだ。
ボォス星の人間ではない。このことはミノグシアの民に少なからず動揺を与えたのは確かであるが、それもリルレがハ・リで司政を行なっている数年でわだかまりは消え、カラミティ星出身の両親をもつことも受け入れられている。
後のボルサはアドラーの超帝國血統、バスコ家の血統でバキンラカンの聖帝の血を引く女性である。
リルレはそういう民族意識を超えて詩女となった初の女性である。開国の詩女とはミノグシアの外からやって来たと言う意味も含んでいる。
ハ・リの安定化とローカルな存在であった詩女を徐々に星団に知らしめていった時代の詩女である。



聖宮ラーン（旧称、都ハ・リ）

聖宮ラーンはミノグシア大陸とカステポーのあるナン大陸の丁度中間に位置する。ポォス星最大の都市と言ってもいいほど巨大な都市であるが、ラーンはこの上図を見てもわかるとおり、円周（リンク）に囲まれた城壁都市の作りとなっている。

描かれていないが、本宮の後ろにはさらに10以上のリンク、つまり民生区と産業商業エリア、重工業エリアがある。この作りはかつて超帝國が最初の移民の時に使用した宇宙コロニーの規模と形に似ている。

AD世紀に超帝國が開拓し、繁栄したすべての都市はセントリーによって跡形もなく消し飛んだ。炎の女皇帝によってセントリーとの講和が始まり、ダッカスの時代になってようやく再植民が再開、現在のミノグシアの主な都市が発展していった。

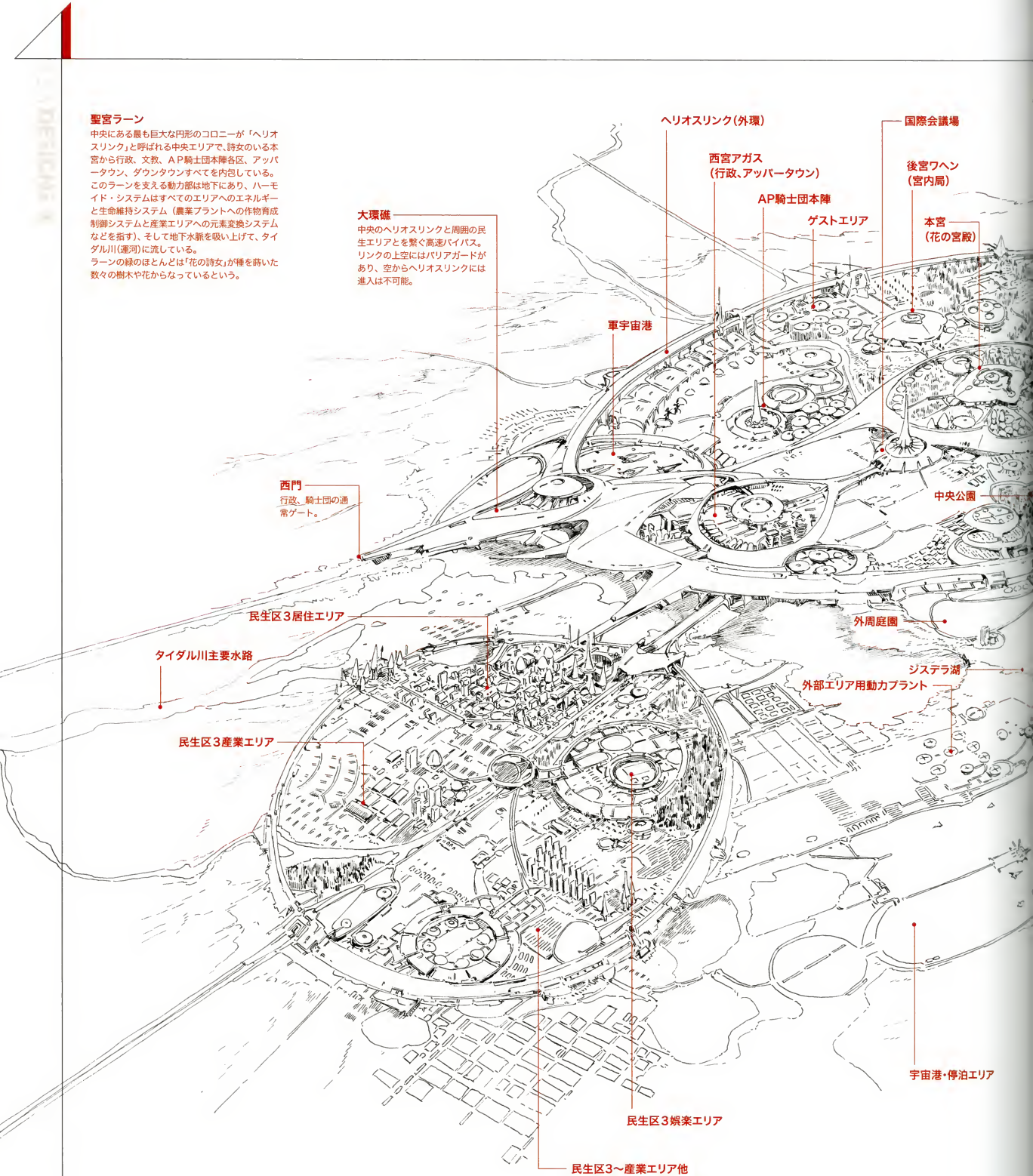
カステポーのナン大陸とミノグシア大陸のほぼ中間にあるこの場所はもともとはオアシスで、当時の交易の中心的なところであった。周囲は砂漠や荒れ地でけっして町として適した場所ではなく、あくまでオアシス規模であった。だが、地下水脈が豊富だと指摘し、ここに住み着いた詩女「アトール」によってこの場所はやがて大きな交易都市として発達した。

これが「ハ・リ」である。

同じ頃、ミノグシア各地にはハスハント王国やギーレル王国などの基となった国家が生まれ、各地で繁栄していった。そんな中で炎の女皇帝からの記憶を引き継いだ詩女アトール、そして次の詩女ポォスはここ、ハ・リで詩女として移民の民の話や相談に乗っていたのだ。

当初はこの星の歴史や移民の歴史などを聞くために集まった者が住み着いていたが、やがて詩女の預言や助言などで詩女を信頼する多くの人が集まってきた。詩女を慕うカーマインの人々の手によってハ・リは徐々に大きくなり、やがて移民の人々の中心都市となっていった。人々が集まってきたのはほかにもミノグシアの国家が安定せず、動乱や内戦に疲れ果てた人々が逃げ込む都市でもあったのだ。

都ハ・リと呼ばれ始めたのはこの頃からである。



都ハ・リから聖宮ラーンに

星団暦に入り、カーマイン星がついにミノグシアの人々の力によって「ポォス星」と呼ばれはじめた頃、ひとりの詩女がまた誕生した。この詩女は広大なミノグシア大陸に散って繁栄している多くの国家をまとめ上げることにその一生を尽くした。

彼女はAD世紀から絶えず受けていた星団列強の国家の影響力を弱め、細い糸のような繋がりでしかなかったミノグシアの民をひとつにし、列強の支配下から離れ、ミノグシア連合ともいうべき大きな国家体制をまとめ上げようとしていた。

この当時、ミノグシアに最も強い影響を与えていたのはカラミティ星の軍事大国、フィルモア・イーストこと「ドナウ帝国」であったが、詩女とドナウ帝国との話し合いでついに、「ドナウ帝国統治領であった「ミノグシア中原地方」がミノグシア民族に返還された（後のナカカラ王国、現フィルモア帝国が駐屯している国家）。このあとすぐにドナウ帝国はフィルモア・ウエストこと「太陽王国」と再統合して「フィルモア帝国」となったが、この詩女の存在と、フィルモア帝国初代皇帝の発言と動きに星団は徐々にミノグシアへの干渉を弱め、ポォス星の人々は都ハ・リを中心とし、「ミノグシア民族連合」を誕生させたのである。

しかし、今の地球の国際連合のように大国のエゴで左右往生する当時のミノグシア連合はまだまだその連合としての力は弱かった。

詩女は生まれたミノグシア連合各地の結束を高めるため、ミノグシアを構成するどの国家にも属することなく、ハ・リの独自性を強めながらもハ・リの統率性を高めるために、ハ・リにミノグシア全土から学生を集め、神学院を設立した。

ハ・リの「東宮」と呼ばれるこの区域は現在でも学問の中心で、アドラー星の「パルチック・アカデミー」と並んで学術の最高峰として君臨している。結果としてこの神学院から育っていった人材が地元に戻り、要職について連合各国の結束を強め、また詩女の重要性を人々に伝える役目も果たした。

人々はこの功績を讃え、いつしか都ハ・リはその詩女の名字をとって、「聖宮ラーン」と呼ばれるようになったのである。

詩女ラーン・ユニオ5（アジェリ・マグダル）
The Documenteress of JOKER, LAAN UNIO Ⅴ

身長158cm

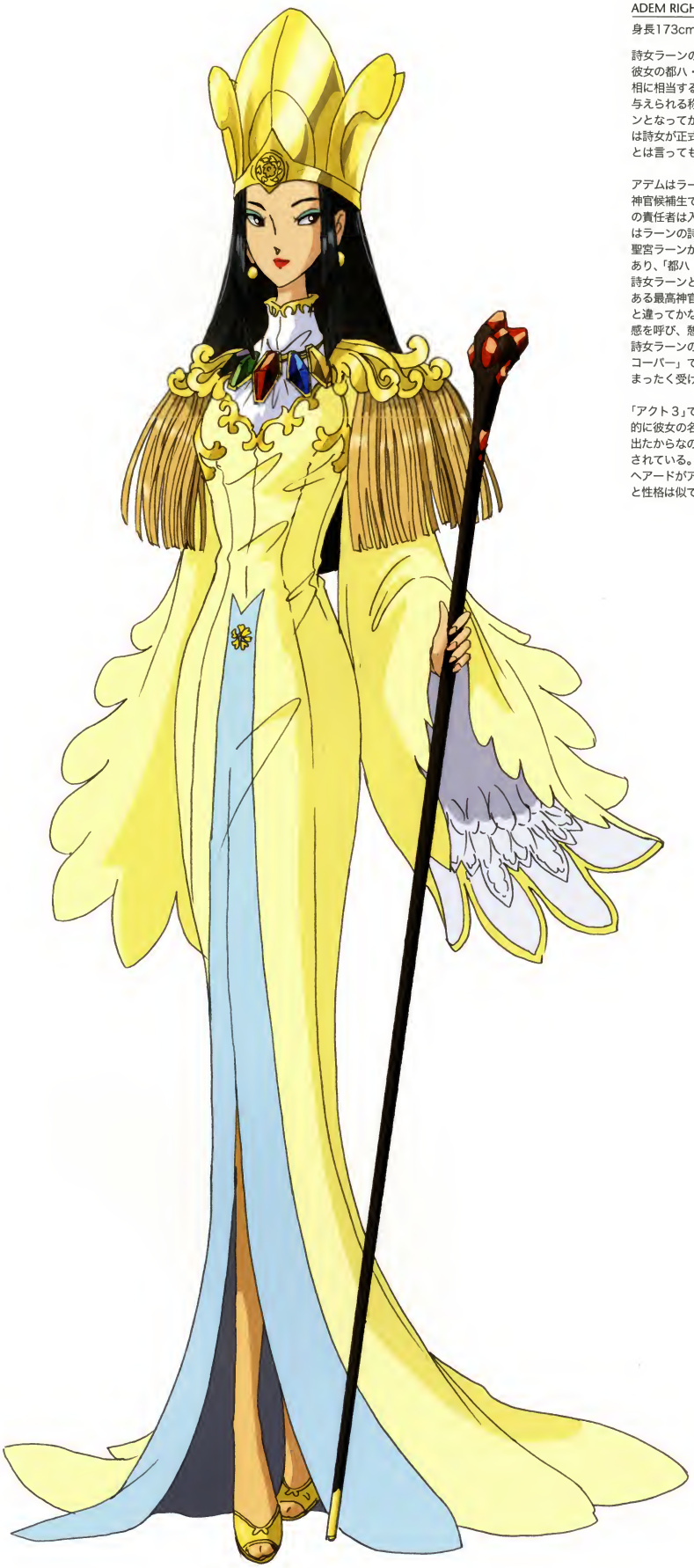
「予言者」。
生涯花の種を蒔き続けたと伝えられる。
または
「星団暦」
と、呼ばれる女性。

ポォス星カステポーの北部、イースト・カステポーにある旧超帝國北都マグダルの村に生まれた。
歴代の詩女の中でも最もやさしく、人々に人気のあった詩女である。
多くの詩女は村や町の普通の娘が神託され詩女となっているが、彼女はラーンという名の他に「アジェリ」（阿蘭梨）という称号をもっている。このアジェリは名字でも名前でもなく、出身地の年または地方の名前となる。

ラーンの持っていた花の種はのちのフィルモア皇帝に渡され、長い年月を経て、やがてクリスティンとともにミノグシアに戻った。
彼女は星団暦の要所要所に登場している。星団暦2000年代に彼女がもうひとりの人物に渡した種は、ラキシスが今も持ち、7777年惑星フォーチュンに花を咲かせる。
花の種を蒔き、そこに花が咲く。
彼女の持っていた花の種は星団暦すべてを網羅し、すべての重要人物に手渡され、そこで花の咲く時を待っていた。
フィルモア帝国の統合からファティマの誕生、天照の星団侵攻、惑星フォーチュンの出現まで、星団暦のすべてを予言した詩女。
他の詩女たちはみな「預言者」と呼ばれているが、彼女だけは「予言者」と呼ばれている。ほかの詩女たちの英語表記は「ドキュメンターレス・オブ・ポォス」であるが、ラーンのみ「ドキュメンターレス・オブ・ジョーカー」と呼ばれる。
物語全編を通してその名が登場する。
彼女こそが「星団暦」そのものであるという者もいるほど、ラーンは深く星団暦に関わっているのである。

詩女としては非常に質素で、幾度もの暗殺計画に巻き込まれながらも王宮から市外に出て人々との会話や交流を楽しんでいたという。また、ハ・リを巨大な学術都市として成長させたのも彼女の時代である。そのラーンの一般住民への浸透はやがてハ・リが「聖宮ラーン」へと名前を変えることとなった。
とはいえ、油断するとすぐ護衛のないまま市外に出てしまうラーンを捜し回る側近たちは大変だったろう。

Laan



アデム・ライト・ミカレス
ADEM RIGHT MICHALESS

身長173cm

詩女ラーンの副官的な役割で最高神官。
彼女の都ハ・リ、後の聖宮ラーンでの立場は国家の首相に相当する。ミカレスは代々都ハ・リの最高神官に与えられる称号で、名前ではない。ハ・リが聖宮ラーンとなってからも、詩女の「都行き」に同行する神官長は詩女が正式に都に入ったときからこの名で呼ばれる。とは言っても、普段は「神官長」と簡単に呼ばれている。

アデムはラーンとの都行きまではハ・リで学ぶ普通の神官候補生であった。新しい詩女とともに都のすべての責任者は入れ替わるというしきたりの通り、アデムはラーンの詩女継承とともに都の最高責任者となった。聖宮ラーンが「ハ・リ」と呼ばれていた最後の神官でもあり、「都ハ・リの最後の神官長」と言われる。
詩女ラーンと同じく、アデムは後の世にも最も人気のある最高神官として残っている。それはやはり見た目と違ってかなりおっちょこちょいなところが民衆の共感を呼び、慕いであったと記録されている。
詩女ラーンの側近である以上、彼女もまたかなりの「スコーパー」であることに間違いはない。そんな感じはまったく受けないのだが。

「アクト３」でヘアードがマグダルを探す旅の中で一時的に彼女の名前を使い「アデム」と名のるのはとっさに出たからなのだ。それほどに彼女は神官たちから尊敬されている。
ヘアードがアデムの子孫というわけではないが、意外と性格は似ているようである。

西宮アガス“ル・ゾラ”

ムンセン・ルルラン “ル・ゾラ”
“Ruu Zou Lah“ MUNSEN RULLAN

身長165cm

ナナドと同じく強力なボルテッツである。
基本的にナナドとコンビを組むムンセンだが、いざ実戦となればムンセンは攻撃と索敵捕捉、ナナドはバックアップと目標の撹乱を担当していたようだ。とはいえ、ボルテッツの力は２人ともほぼ同等なので、役目が入れ替わることもあったであろう。基本的にこの2人は万能のボルテッツである。強力な電磁波によるプラズマ攻撃からイオン化バリアの防御まですべてこなす。
ムンセンは都行きのあとは「西宮アガス」の長官として後進のボルテッツを育てる教官となった。魔導士ギルドの総称である「ブリッツェン・バイター」の最高司令官である。
ムンセンはナナドに比べると活動的で、よくサボる学生たちに雷を落としていたという。これは怒るほうの雷ではなくて、ほんまもんのボルテッツのプラズマ攻撃である。おっとろしや。そういうおちゃめなところのある人物でやはり非常に人気があった。とは言ってもムンセンもナナドもあまりしゃべらない女性である。
後にラーンに配備されたＡＰ騎士団ラーン支隊は彼女らの下につく。

尚、彼女らの称号「ル・ゾラ」と「フ・リエ」は魔法使いの最高称号で、現在も受け継がれている。この称号をもつ者がラーンの護衛神官というわけではない。

東宮シナルス“フ・リエ”

ナナド・ホル “フ・リエ”
“Fou Liee“ NANADO HOL

身長180cm

星団最強の「ボルテッツ」。
都ハ・リを守る最強の魔法使い。ムンセンと２人でコンビを組む。
非常に強力な「ボルテッツ・パワー」をもつ。ただでさえ強い魔法使いなのに２人でペアを組んだときのコンビネーションは騎士さえも一瞬で葬り去ると言われるほどムンセンとナナドの２人は強い。そのコンビを組む２人は詩女を警護するために生涯を尽くすと言われている。
星団中から優秀なボルテッツたちが集まる聖宮ラーンだが、その中でも著しい力をもつ者が詩女の「都行き」メンバーに選出される。ナナドは都入りをともにしたあとは、詩女の警護だけでなく、星団最高の学術機関である東宮シナルスの最高責任者となった。

ナナドは「東宮シナルス」の長として幅広く学生たちを見ていたが、詩女ラーンがしょっちゅう王宮を出て、一般市民、特に子供達に様々なことを教えて話すために、そのたびごとに王宮は大騒ぎになって詩女ラーンを探し回るハメになった。ナナドは詩女ラーンの「脱走」につき合い、市街地や公園で人々に様々なことを教えていたという。
背の高い女性だが、非常にやさしく、学生たちにも人気があった「先生」である。

ツィー・ミーン
ZI MING

身長165cm

通称ミン。ラーンの落ちこぼれ女学生のひとり。その彼女がジョーカー星団でも最高クラスの学校に入学できたのは「裏口入学」だからであった。
ラーン教導学院は「パークレー」に相当する難易度を誇り、そう簡単には入学できない。その一方で実はラーンにはこういう裏口入学も多く、資産家や権力者は自分の子供の学歴のために裏口入学がやりやすいラーンに子供を入れていたのである。
ミンがいた時代はこういった裏口入学の学生ばかりが集まっており、ラーンでも最悪の生徒ばかりが揃っていたという時であったので、ミンの駄目っぷりもあまり目立たなかったようだ。

しかし、裏口入学が公然と横行していたとは穏やかではない。当時の詩女ナカカラはこの大量の裏口入学に関して聞かれた時、笑いながら言ったという。
「いいんじゃないですか〜〜？　入りたいというのですから〜〜。まる」
おおらかというか、詩女もまた一般世間の常識では物事を考えていないようだと非難もされたが、詩女は真実だけを言うことを考えると、こういう裏口入学などは卑怯でも反則でもないらしい。
さらに裏口入学の窓口は詩女ご本人であるとのことで、つまり１兆円出そうとも詩女が気に入らなければ入学はできず、「裏口入学」とはそういうことで、「別枠入学」と言えるのかもしれない。やはりそう簡単に入れないのは致し方ない。
きれい事だけですまされないことは世界の誰よりも詩女が知っていることだ。
詩女はあらゆる知識を動員してミノグシアの未来を考えているのである。

んでまあ、このミンはナカカラを「強敵」と言っている。次のページのナカカラのガッカリさ加減を見ればなんとなく「あ〜〜、そうかもしれない」と思うことだろう。そのボケッぷりに関してのことである。

詩女とラーンのしきたり

詩女とラーンには一見不可解なしきたりがある。

まずは詩女。

詩女は世襲でも民衆などの選挙によって決まるものでもない。多くの場合は詩女は詩女から「指名」されて生まれる。たいていの場合は現・詩女が次の詩女を指名する形で引き継ぎが行なわれるが、詩女には次の詩女がわかるらしい。この詩女の交代時期については後述する。

また、詩女が空白の期間も多々あるが、この時には新たな詩女は「セントリー」とともに現われると言われ、この詩女空白期間の歴史や記録は完全ではないにしろ、わかっているらしい。

これはセントリーからその間の歴史を一部受け継いでいるとも言われる。

詩女の「都行き」

詩女を象徴する習わしとして、「都行き」と呼ばれる行事がある。これは新しく生まれた詩女が「記憶の継承」のために生まれ故郷に戻り、約1年後、聖宮ラーンへと再出発する。生まれ故郷に戻っている間の1年間に受け継いだ膨大な記憶の整理をするために必要な期間と言われている。

ラーンへの旅路は飛行を使わずに特殊な装飾の施された地上船「セイラー」を使用して陸路でのゆっくりとした旅である。その途中で立ち寄るすべての町や村で歓待を受け、新たな詩女は初めての仕事としてそれらの町や村で助言や話をするというものだ。

これを「都行き」と呼び、最初に詩女となった「詩女アトール」の時代、ハ・リもなく人々に信頼もされていない時代にアトールが集落やオアシスを転々と渡り歩いた再現であるとも言われる。

で、肝心の記憶の継承はどういう風に行なわれるのかは物語が進めばわかるはずである。

聖宮ラーンのしきたり

詩女と同じく、聖宮ラーンにも非常に厳しいしきたりがある。このしきたりは星団でも有名なので、なんとかこのしきたりを取り入れたい国家は多いのだが、このラーンのしきたりをなし得た国家はまだない。

それは、詩女が代わると同時に、ラーンの詩女を支える神官、ラーンの司政の中枢の人々がひとり残らず同時に引退して新たな詩女とともに新たなラーンの中枢が生まれるというシステムである。

それは人が老いるのと同じように国家や政治システムも老化し、硬化する。また、国だけでなく、会社やクラブ、同好の集まりであっても、わずか20年ほどで老化し、ほとんどが保身に向かう。

新しい物を拒み、また若い人材を入れるとしても自分たちが制御しやすい人材を本能的に選んでしまうように、いつしか国家や会社とそのシステムも非活発になり、やがて腐敗していくか死に絶える。それが人間の本質的な老化とかたづけてしまうのは簡単だが、若い人々が革命を起こし、新しい人々が興した政治であっても30年も経てば以前と変わらない政治システムにどんどん似ていくのと同じである。これは歴史的に専制君主であっても民主政治であっても変わらないようだ。

ラーンはこれを実際に行なっているのである。詩女というトップが入れ替わり、それと同時に中枢もすべて入れ替わる。

変わらないのは人民だけである。

もちろん政治のシステムまで変えてしまうと混乱するだけなので、ほとんどすべての行政システムはそのまま継続されるが、管理制御する人間が入れ替わっているので、長きにわたる政治腐敗を抑えているのだ。変えられてしまう旧ラーンの中枢の人間の中には自分の影響力を残そうとする者もいるが、ラーンから出されてしまえば、どうがんばっても今までもっていた自分の権力は戻ってこない。

優れたシステムといえど、これを実際にやればあまりの改革に普通は暴走や混乱を極めてしまうだろう。だが、中心となるのが詩女なので、そういった神官や行政の新しい人間の制御はきっちりと行なわれているし、幾人かの神官たちは相談役として残っているのですべてが切り替わってもゆったりと新しい詩女とともにラーンの治世が行なわれていくのである。

詩女の入れ替わりはラーンの人間にとっては役目の終了でほっとする者が大半である。しかし、しがみついて権力を手放したくない者がいるのも確かである。

また、この入れ替えの期間からわかるように詩女が在任する期間もほぼ100年前後で、ジョーカーの人々の寿命が280年程度としても地球時間に置き換えると30年以下である。

だが、このシステムが現在停止しているのだ。ムグミカ不在のラーン時代と、そこに戻ってきた詩女のフンフト。ムグミカの時代、ハスハ連合共和国の圧力によって入れ替わりが行なわれたのはお付きのヘアードだけである。

そして現在もまだフンフトのいた時代のラーンの神官たちが残っており、フンフトの復帰に加え、これらの神官たちはラーンにいるのである。

この入れ替えが行なわれなかったラーンは現在どうなっているのだろうか？

ライヒ・ナカカラ
LEICH NAKAKARA

身長155cm

……数多い歴代詩女の中にはきっといるんじゃないかと、ぼんやり思っていた方もいるかと思いますが、います。トホホ詩女。
前ページからの悪い予感は当たっております。

和魂の詩女（にきたまのうため）と呼ばれる。もうひとつ、輝きの詩女という呼ばれ方もする。「アクト3」に登場し、クリスティンに預言を伝えた。

歴代の詩女たちの中でもこの女性の名前は頻繁に登場する。それは2017年に起こった「東宮西宮の乱」とそれに続く2020年の出来事である。
ナカカラはミノグシアの平定だけではなく、その後の星団暦に深く関わる出来事に関わっているからなのだ。
東宮西宮の乱が生み出したものは「星団法」である。直接星団法を生み出したのはクパルカン法国のマリーナだが、星団法を作るきっかけとそれをマリーナたちに示唆したのはこのナカカラである。
また、詩女の歴史においても初めて「複数の詩女」が在位していたのもこのナカカラの時代である。
次の詩女のタイダルの時代、中原で独立したクルル王国を中心とした「ナカカラ王国」の名前も彼女から取ったものである。
中原地方の出身で都市部の平均的な家庭の娘として生まれている。中原とは言っても高原のかなり寒い地方なので厚着である。バルーンスカートはその地方の代表的な衣装であるという。

ナカカラと同時期に存在した詩女は次のページで紹介されているので多くは語らないが、ともかくナカカラの関わった事例は非常に多く、数え上げていけばきりがないくらいである。
また、このナカカラの物語はすでにシナリオにして連載10回分ほどのものが作られているのだが、いったいいつこれを公開できるのかさっぱりわからないのが頭の痛いところである。

そういうこともあって、ナカカラは主人公クラスのデザイン画が用意されている。こいつ作るのに２年くらいかかっている。
見たとおり、非常に若い、というより少女である。物語中では詩女ラーンに匹敵するくらい幼く、まだ10代中頃であろう。
ほかの詩女たちと比べると明らかに「気の抜けた衣装」なのはそういう理由からである。突っ込みどころ満載のドレスはこのドレスと同じく頭の中も花が開いているんじゃないか？と言われそうであるが、それは外れてはいない。かなり楽天的な女性である。こんな頭から足までもこもこした服でひょこひょこ歩いていればあんまり威厳というものは、さっぱりない。詩女マークの頭飾りはいつもずれているし、すぐそこらで寝てしまうし、よく転ぶし、トホホ詩女の最高峰である。ついでにカラータイツはいてる詩女はこいつくらいのものだろう。
子供か！……とか馬鹿にしてみても、ナカカラはこのデザインズ４のサブタイトルにもなっている「詩女たちと皇帝の物語」の一角を担っている。
フィルモア皇帝、ヨミとの幼く淡い恋物語はそのうち語られることになるであろう。
また、ナカカラはこの時代から現在にかけてまでのすべての重要人物と非常に深い交流があり、星団列強の王や代表者たちからもこの女性の名前が今後出てくる。
さらに、ナカカラはアマテラス家を襲ったボスヤスフォートをも知っている。その時ナカカラはボスヤスフォートの正体を一瞬で見抜いた。
その記憶は後のすべての詩女に引き継がれ、フンフトもマグダルも、そして亡くなったムグミカもボスヤスフォートが何者なのかを知っている。

セントリー「ライブ」が彼女を見守っている。詩女たちは絶えずセントリーたちが見守っているが、中でもライブがつく詩女は非常に重要な、または危険な時代であることの証である。
「輝きの詩女」とはその大激動、聖宮ラーンの危機を乗り越えた彼女に対する親愛と尊敬の名前である。
またもうひとつの、「にきたまの詩女」と呼ばれるのは調和と穏やかなその性格を表すものということで後年そう呼ばれた。
そして同じ時期に同在位で存在したもうひとりの詩女が「あらたまの詩女」である。

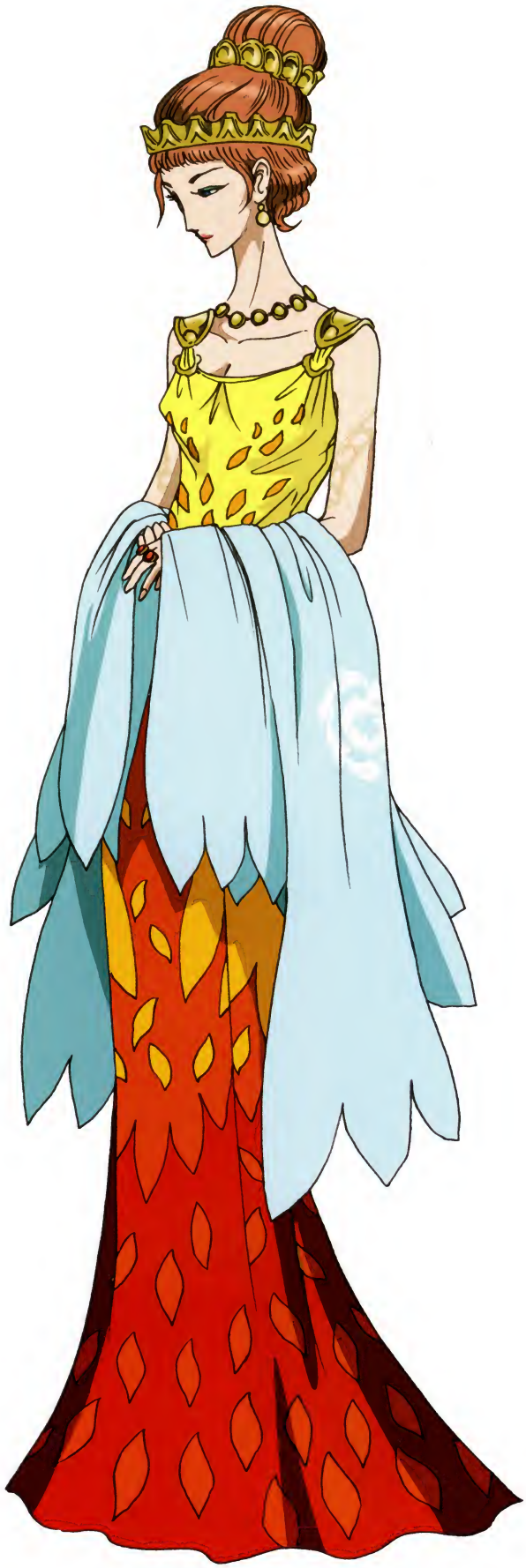
クルル・タイダル
CRUL TYDAL

身長172cm

歴代の詩女たちが様々な男たちと噂されるのはフンフトに限らない。詩女たちは皆やさしく、あらゆる人々を温かい目で見守る。それがたとえ犯罪者であろうと悪名高き人物であろうと物乞いで生活している人生と世界を呪っている男であろうと。
それゆえ詩女たちは在任中に様々な噂に取り囲まれることが多い。
詩女はその立場上、星団中の権力者や実力者たちと会見することも多いが、詩女という者をよくわかっていない、詩女の力を信用していない者たちからは強引に迫られるということもあるだろう。
詩女たちはあらゆるそういった誘惑から身をかわすが、中には事件に発展することも多々あったようだ。
しかし多くの民は詩女のこういった色恋沙汰をゴシップとして求めていることも事実だし、いつの時代になってもそういう報道が絶えることはない。
それらすべてが人間の求めることだと詩女はわかっているからこそ、いつも彼女らは微笑んでいるのである。

トホホなナカカラの次の詩女はギリシャ彫刻のようなタイダルである。筒状の布の上端を留め具で留めてドレスにしている古代の様式である。
タイダルはナカカラのあと、数十年の詩女不在の空白期間をおいて詩女となり、聖宮ラーンを流れる人工大河タイダル川の名前のもとになった女性である。それまでは単にラーン運河と呼ばれていた。
タイダルの在任中にナカカラ王国の独立があった。ナカカラとその中原地方はかつてフィルモア帝国の統治領であったが、ミノグシアのど真ん中に位置する穏やかな気候のナカカラ中原はミノグシア内部においてもハスハントやギーレルからの圧力、そして外国からの圧力に不安定であった。クルル王国の王女であったタイダルはこの地を統合し独立に挑んだ。
この空白地帯であった中原が完全独立することによってミノグシアの中央は安定し、ミノグシアは大きな塊となり、のちにハスハ連合共和国の誕生ともなったのである。
また、この時には様々な国家が独立に介入し、メヨーヨ朝廷、フィルモア帝国も参戦している。これらの介入国家は中原を不安定にさせる目的での参戦であったが、どちらもあくまで介入ではなくハスハントとギーレルの圧力を和らげ、中原を独立させるためという名目であったが、実際に戦闘は極小規模で、戦いらしい戦いはなかった。
この時の戦いがなぜ小規模に終わったのか？？
それは2310年に起きた出来事で、星団の列強はナカカラ中原の介入どころではなくなったのである。それもタイダルにとっては都合がよかったし、そのことをタイダルはとっくに知っていたからである。
集約の女王と呼ばれるのはミノグシアの「塊」を作ったということである。

彼女の在位中には歴史に残る出来事があった。
「ファティマの誕生」である。
それ以前にタイダルはナッカンドラ・スパースの制御を託されていたようである。このスパースの血液からリチウム・バランスはファティマを生み出した。スパースの目覚めとともにファティマの誕生が決定したと言っても間違いではないので、彼女がファティマ誕生を司った詩女なのである。



メル・クール・リトラ天照
[a Apostlress on Dark side of the Moon]
Mell COUL LITHORA AMATERASU

身長145cm

特別な詩女。
星団暦2020年のためにラーンからやって来た詩女である。詩女でありながらミノグシアではなくデルタベルンを生涯の場とした。
そしてその役目も他の詩女とはまったく違っていた。

荒魂の詩女(あらたまのうため)と呼ばれる。
彼女がいなければ天照家はとうに崩壊している。少なくともアマテラスは生き残っているかもしれないが、天照王朝はどうなっていたかわからない。
それが彼女の寿命を激しく縮める結果となったが、2020年にログナーは「タンツミンレ」に殺されているので、アマテラスの星団最強戦士を失ったあと、それ以後ソープと天照家を守れたのは彼女しかいなかったのだ。
スコーパーの能力に加えて彼女は今は失われているグリント・ツヴィンゲンの力のひとつ、「グレイン」を併せ持つ強力な白魔導士であったからだ。
ゆえに最も恐ろしい詩女「あらたまの詩女」と呼ばれているのだ。
この姿はラーンからやって来てアマテラスが生まれたころのものである。

あらたまの詩女　リトラ

ついにその正体が公開されたリトラ。天照の最初の正妻である。

ボォス星出身のリトラは詩女ナカカラの時代にすでに詩女として認証され、記憶の継承まで受けていた女性である。イースト・カステポーのフランダー出身で、内戦で両親を失い、その時最問にやって来た詩女ナカカラに引き取られている。

ただ、この女性は生まれたときから重要な運命を持たされていた。

リトラがラーンで暮らしている頃、ラーンは存続の危機にあった。星団各国がミノグシアの統一を目指して徐々に巨大になる聖宮ラーンと詩女の力を危惧し、抑えにかかっていたのだ。ラーンと詩女をつぶしにかかっていたのは表向きは星団列強であったし、星団連合委員会であったが、その後ろで暗躍し、詩女ごとラーンをつぶそうとしていた巨大な勢力があったのだ。そして、星団の列強はこれを幸いにとラーンを突き放していた。それに立ち向かったのは少女の詩女ナカカラとラーン教導学園の生徒たちだけであったのだ。

ラーンで正規の詩女としてナカカラがちゃんと治世しているのに詩女として記憶継承を受けていたのはもうひとり、このリトラがいたことは詩女ナカカラ以外は誰も知らなかった事実である。

そのため、リトラが天照家に嫁いだときもミノグシアと天照家の縁組みと言っても大いい重大な出来事であるにもかかわらず一切公表されなかった。ミノグシアの民の動揺を避けるためである。

彼女が「あらたまの詩女」と呼ばれるのは詩女たちからだけで、一般にはまったく知られていない。

リトラは歴代の記憶を受け継いでいたが、リトラ自身の記憶は次の詩女には引き継がれていない。その代わりに、リトラが見たこと、経験したことはラーンにいる詩女のナカカラがリトラの目を通して千里眼でモニターしていた。

リトラは最初から自分が天照家に行くことを知っており、この時代になぜ2人の詩女が並行して存在するのか理由もわかっていたようだ。

正式な記憶の継承ルートはナカカラから次の詩女に受け継がれ、リトラの継承記録は途切れている。しかし、重要なのはリトラが天照とともに見た数々の超常現象やこの世のものではない恐るべき者たち。すべてのセントリーを召還し、最後には85代目天照家女帝の「カレン」までが参加して「懐園剣」を受け取って戦った恐るべき戦い。その戦いではセントリーの王者「ライブ」が「アヴァ・フレーム」を使用してひとつの空間そのものを消し去っている。この、いまやログナーと天照しか知り得ない驚愕の歴史。

いったい星団暦２０２０年に何があったのか？

星団年表ではたった5行しか書かれていないその年に。

リトラは若くしてこの世を去ったが、その特別な力は死後の自分と母のミコトにも使われ、現在でも天照を陰から見守っている事に変わりはない。

リトラ、典星舎での姿
リトラが天照家にやって来てから天照家のブリッツェン結社「典星舎」に入り、別格の扱いを受けていた時代の姿である。
詩女であることは伏せられてはいたものの、天照家の力の象徴である、「ポルテッツ」パワーをすべてはじき返し、無力化するその力は、天照家においても対抗できる者などいなかった。
天照家にはないスコーパーの力をもつ彼女は天照家重鎮からも恐れられていただけではなく、王子天照と会話なしで直接やりとりのできるただひとりの人物でもあった。
この姿は典星舎の学生女官服で、典星舎の学校の制服である。特別な格好ではない。
ふわりとしたワンピースを胸の下で留め、頭にケープをかぶっている。スカートの下は膝下まであるバルーンパンツ。
特別な女性とはいえ、天照家の慣習によって、リトラも廊下のぞうきんがけから、庭掃除までひと通り下働きは経験している。
天照家に来たときはまだ幼かったが、この姿はもう高校生くらいの時であろう。

ボルサ・バスコ
BORSA BASCO

身長168cm

星団暦2800年代の詩女である。
超帝國の純血の血を引く詩女である。
バキン・ラカン帝国の聖帝ランダの娘として生まれたラシャ・バスコはボォス星に渡り、ボルサを産んだ。
バスコの血は超帝國の騎士スパースにまで直系で繋がる濃い血をもち、親戚筋にはフィルモア皇后慧茄がいた。
ハスハ連合共和国の建国のきっかけを作った詩女であり、カイエンやクーン、アウクソーとも非常に繋がりが強い。
カイエンが一時的に姿を消していたとき、カイエンを復活させたことでも有名である。
彼女の詩女としての最後の仕事はカイエンから離れたクーンをセントリー「マグマ」に預け、同時にスライドするように「アウクソー」が成長途中で誕生しているので、アウクソーの二重記録さえも彼女が関わっている可能性が高いのだが……。

ナトリウム・フンフト（2期目）
NATRIUM HUNFD

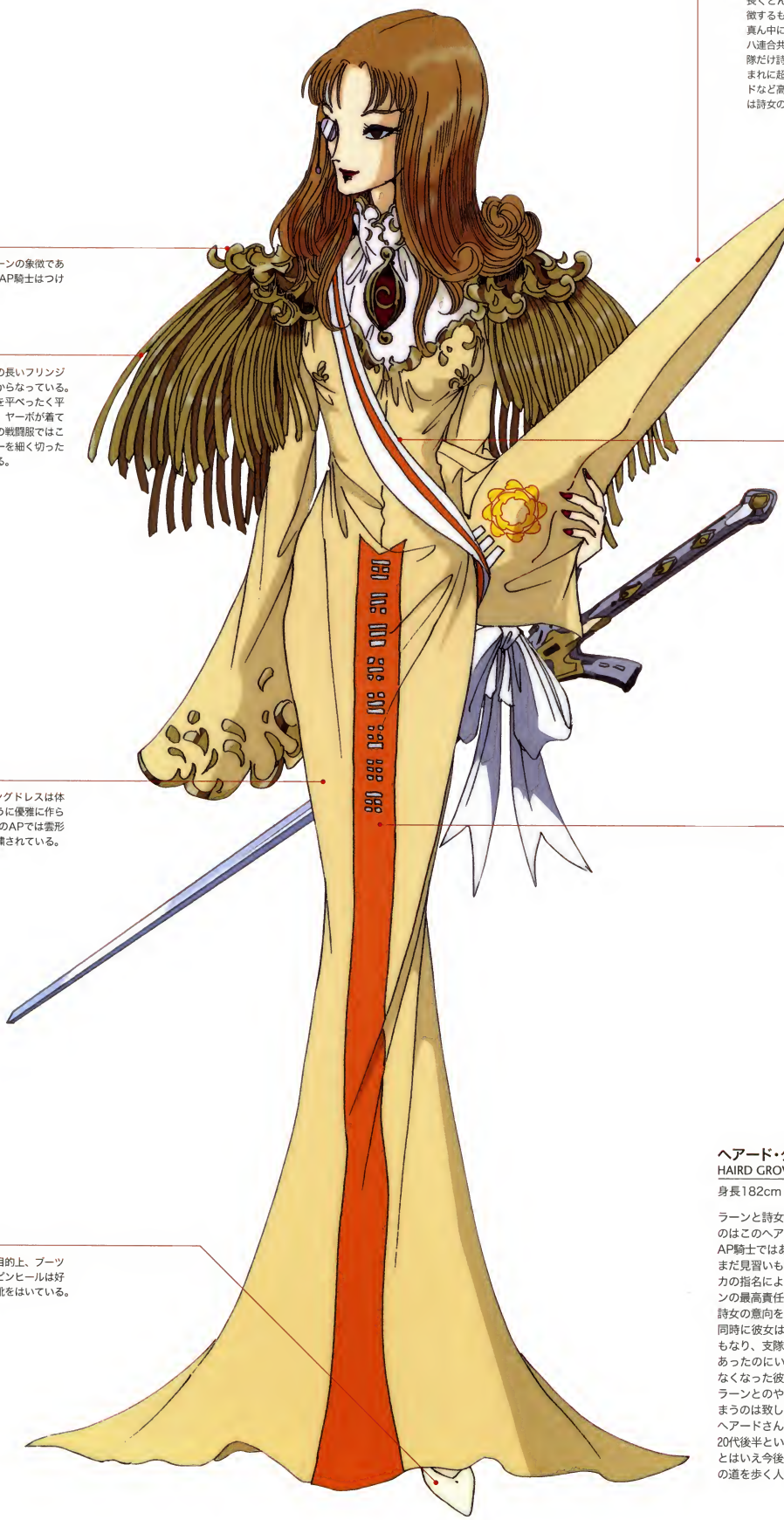
身長168cm

沈黙の詩女と呼ばれるフンフトは現在の詩女である。
また、「2期」にわたって詩女となった珍しい詩女。
壮絶な美しさをもつ詩女で歴代詩女の中でも1、2を争う美女である。
物語を読まれた方にはもうおわかりだと思うが、詩女はどこの誰よりも、フィルモアの元老院や天照王朝の狡猾な人々よりもはるか上を行く老獪さをもっている。
当然である。フィルモアの元老院の老人たちなど詩女からすれば赤子以下でしかないのだから。
フンフトの行動はすべて予定通りの行動である。
が、とはいえ、彼女の言った「過去の詩女の記憶だけではなく想いも受け継ぐ」というのも本当で、ダイ・グに対する彼女の愛情も極当然のことなのだ。
これがややこしさを倍増させているのだが、仕方がない。

フンフトはコーラス王家の王子との間に子供を身ごもってしまったために詩女の力「預言」を失ったと言われている。
この子供がファティマ・ガーランドの「ナトリウム・桜子」である。ここまでが1期目で、詩女の名を激しく汚したと追放されたのである。
その後、ハスハント近郊の屋敷で隠遁生活を送っていたが、ムグミカの死によって再びラーンにおいて詩女としての執務を行なうようになった。
強力な「スコーパー」の力と記憶は引き継いでいるものの、まさしく「出戻り」の立場となったフンフトをミノグシアの民は複雑な気持ちで見ている。そのために口さがない人々やラーンの神官たちからは「沈黙の詩女」。預言できない詩女と言われている。
本当はすべてを知る彼女だからこそ「沈黙を守った」ということなのだが。

その後の歴史では「魅惑の聖女」とまで呼ばれたが、それは魔導大戦にあってミノグシアとラーンを守れたのは彼女だからであったためと言い伝えられている。その絶大な美貌とあらゆる相手を翻弄する立ち振る舞いはミノグシアの人々をも大いに動揺させたが、列強入り乱れるミノグシアにおいてフンフトの見事な立ち回りはある意味詩女が政治に関わったらどうなるか？を見事に示した。
最も狡猾であるフィルモア帝国元老院も天照家も彼女に翻弄されまくっていたのだから……。
これほど魅惑的な詩女なのに聖女である。それは彼女の誇りでもある。

子供を産んで詩女としての記憶はあるものの預言などの力を失ったと言われているフンフトだが、そこには恐るべき仕掛けもあった。
……考えてはいけないことなのだが、フンフトの1期目、その過ちによる追放は彼女自身が確信していたのではないかとまで後の世では噂されている。



AP騎士のかぶる帽子
長くとんがった帽子はAP騎士団を象徴するものとして有名である。帽子の真ん中につく紋章はハスハ時代はハスハ連合共和国のマーク。ラーン近衛支隊だけ詩女のマークをつけている。
まれに超帝國のマークをつけるヘアードなど高位の神官もいるが、基本的には詩女のマークである。

雲形のかざり
雲形の肩飾りはラーンの象徴である。ミノグシアのAP騎士はつけていない。

フリンジ
儀仗用の制服のこの長いフリンジはシルクの編み紐からなっている。細いシルクの織物を平べったく平織りにしたもので、ヤーボが着ているようなレザーの戦闘服ではこのフリンジはレザーを細く切ったものが使われている。

ショルダーリボン
たすき状に肩からかけているリボンは詩女の警護騎士となった勲章で、ラーンのAP騎士は全員がもっている。通常はかけていない

ロングドレス
AP騎士特有のロングドレスは体のラインが出るように優雅に作られている。ラーンのAPでは雲形の文様が金糸で刺繍されている。

ドレスのマーク
ドレスには八卦のような文様が刺繍されているが、これもAP騎士団全般や詩女の身辺にいる者によく見られる文様である。

パンプス
詩女の警護という目的上、ブーツなどごついものやピンヒールは好まれない。上品な靴をはいている。

ヘアード・グローバー元最高神官
HAIRD GROVER Michaless

身長182cm

ラーンと詩女の歴史上でも２人の詩女に連続で仕えたのはこのヘアードのみである。
AP騎士ではあったが、彼女がムグミカに仕えたときはまだ見習いも同然の新米騎士であった。だが、ムグミカの指名によって最高神官となり、彼女は一気にラーンの最高責任者となりムグミカの側近としてラーンに詩女の意向を伝え続けていた。
同時に彼女はラーンのAP近衛騎士団の最高責任者ともなり、支隊長のニナの上官でもあった。まだ新米であったのにいきなりAP騎士団を仕切らなくてはならなくなった彼女の苦労は大変だったろうし、さらにはラーンとのやりとりなど、見かけより年上に見えてしまうのは致し方ない……。
ヘアードさんは見かけより若いです。まだ地球年齢で20代後半といったところ。
とはいえ今後彼女に待ち受けているのは、まさしく茨の道を歩く人生であった。

例外的な女性　ヘアード

ラーンと詩女の歴史上でも2人の詩女に連続で仕えるという特例、いや例外といってもいいのがヘアード・グローバーである。詩女が交代すると同時にすべての高官や神官は引退するというしきたりを唯一の例外として認められた女性である。

ヘアード・グローバーはイーストカステポーの北部地方都市に生まれた。両親はラーンの行政官としてポルサに仕えていたが、フンフトの代に替わった時にラーンのしきたりによって解任されている。その間、彼女に騎士の血が表われ、両親は迷った末に、ラーンを守る騎士となってほしいと騎士科があるハスハント王国のスバース市にある国立王宮女学院に進学させた。

やがて彼女は優秀な成績で騎士課程を卒業し、AP騎士として任官することとなった。その時に当時の詩女であったフンフトの不祥事が起き、新たな詩女ムグミカが誕生したのである。

ムグミカがラーンを離れてハスハントで詩女としての執務を行なうこととなり、さらに民族の統一を急いでいたハスハからはラーンの影響を最小にするべく、ムグミカの都行きには「ただひとりだけお付きとしてついていく」ことを条件として出された。

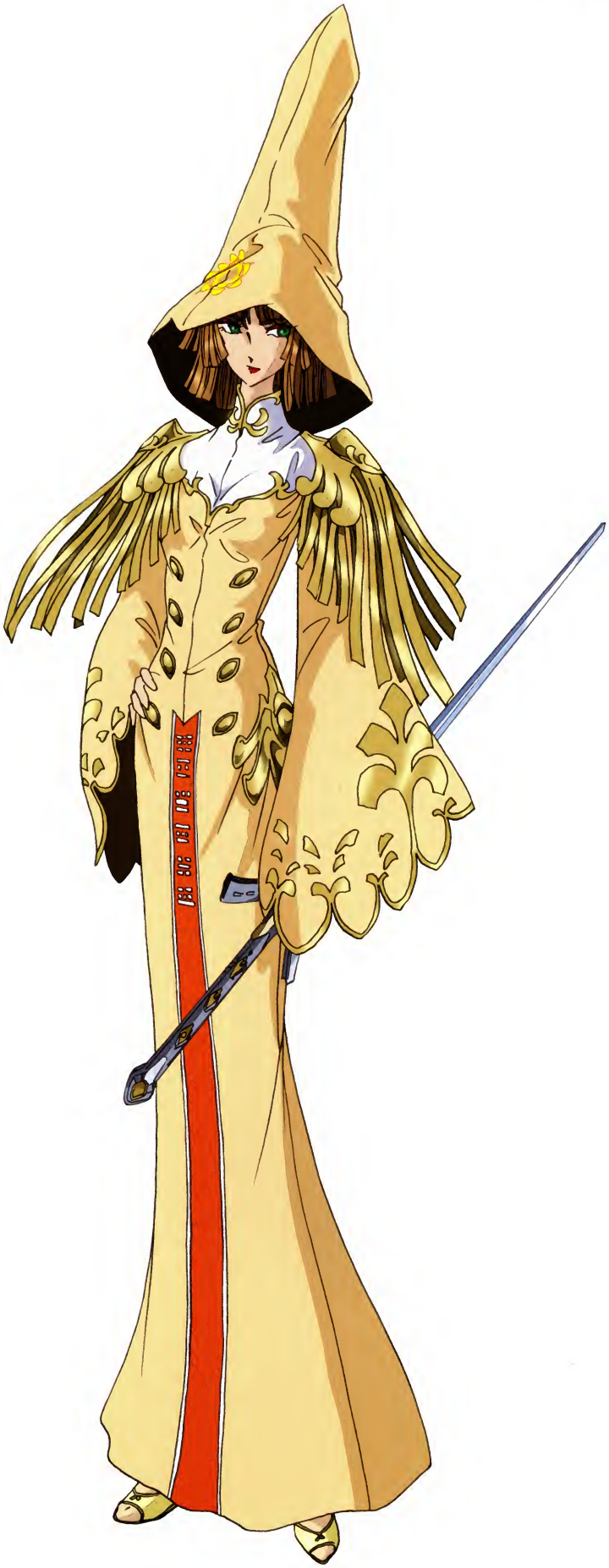
当時のラーンはこのハスハの無謀な要求に激怒したが、詩女のムグミカは彼女をラーン最高神官として任命し、ここにラーン始まって以来の騎士の最高神官が誕生したのである。

ハスハ側は譲歩し、ラーンの近衛支隊を半数ハスハの王宮に置くことを許し、さらに数名の技官とポルテッツをハスハ王宮に招いた。ヘアードはハスハントへの留学経験もあり、AP騎士でもあったためにすべてハスハの都合のよいように動いたとその後もラーンからは糾弾されていた。

最高神官となったヘアードはムグミカにずっとついていた。騎士でもありラーンにもいない最高神官ということでラーンからは煙たがられていたが、ムグミカの指名は絶対的なもので、人民からは信頼されていた。そしてハスハが崩壊し、彼女は自身に科せられた使命、新たな詩女マグダルを守り抜き、マグダルが正式な詩女としてラーンに戻る時までを生涯の役目としたのである。

彼女はそれが史上初めての、詩女二代にわたり仕える役目となることをまだ知らない。

女学生時代のヘアード
女学生時代、彼女はラーンではなくハスハントの騎士女学校に通った。ラーン神学院には騎士の学科がなかったためである。
本当ならラーンに仕えた両親の願いに応えて女官となるはずだった彼女だが、騎士として生きていかねばならなくなったために、ハスハに行くことになったのだ。
だが、それが彼女をラーンの最高神官にする過程だったなどと両親には想像もできなかっただろう。



ドヌーブ・ガセット
DENEUVE GASSET

身長185cm

聖宮ラーンを守る宮殿AP騎士団の支隊長。
本来は現在ミノグシア連合に残りバルンガの補佐をやっているニナ・エリスが支隊長なのだが、ラーンに戻ったヘアードの命令でラーン支隊長となった。
彼女はまだ若く普段着で登場するなど見せ場を作ってくれるが、詩女に対する忠誠心は非常に強く、フンフトの傍目から見れば非常に怪しげな行動や発言に対しても一切の疑問をもたず、フンフトに陰ながら仕えている。
彼女の制服はラーン近衛支隊（LA）のみが着ているロングスカートの制服で、他のAP騎士団とは異なる。帯剣パーツも花柄の大きな飾りの付いたものである。しかし、その立場上、実際に剣を装備することはほとんどない。
ラーン近衛支隊はほとんどが女性で、男性は数名しかいない。これは詩女の警護という立場や、ラーンの本宮そのものが男子禁制の場所が多いためでもある。

LA支隊はミノグシア全土の騎士たちから構成される。故にバラバラに散った現在、ラーン支隊の騎士たちは複雑な思いで詩女に仕えているのも確かだ。
現在ラーン支隊には12名の騎士が所属し、男性は2人である。ニナのスパース市に４名が分離した状態で駐屯しているために今ラーンにいるAP騎士は8名となる。
GTMは特別な「バーガ・ハリLA」を使用するが、このバーガ・ハリはスパース隊とまったく同じ仕様でカラーリングのみが異なる。バーガ・ハリの中でも最も高価で強力なものを装備しているのだ。

ムグミカ・コレット王女
MUGMICA RAO CORETTO

身長158cm

転生の王女または詩女と言われるムグミカ。
3030年、ハスハ陥落とともにこの世を去った。
まだ少女の幼さの残る彼女にとってあまりに早い死であった。
次の詩女の指名をマグダルとしていたが、その指名は反故にされる。ラーンの神官たちの思惑によって。
詩女として最も短命であった彼女だが、彼女は自分の運命をわかっていたのかもしれない。
たとえそうであったとしても彼女は最後の瞬間まで戦っていたのだろう。詩女は生を自ら放棄したり未来に絶望したりしない。

ムグミカの代、ついにミノグシアはイースト・カステポー以外を統一し「ハスハ連合共和国」を誕生させた。
しかしその代償は「ラーンからの離別」でもあった。
統一し、コレット王の下で司政が行なわれる以上、ミノグシアの民が支えとしてきた詩女がラーンにいることはせっかくの統一がハスハとラーンの意向によってぶれてしまうからである。
ムグミカの祖父、コレットはそのため詩女をラーンから離し、政治と詩女がハスハント王宮にあるということでミノグシアをひとつにしたのであった。
強力なハスハ連合共和国はフィルモアと並ぶ大国となったが、聖宮ラーンは政治に関わらないためにそのまま蚊帳の外に置かれていた。
そしてハスハがバッハトマにより分断され、また再びバラバラのミノグシアとなった今、詩女不在のラーンは……。
彼女が指名したというマグダルは詩女として認識されず、ラーンからはじき出されたのである。
ムグミカにとっても、ラーンを預かるフンフトにしても、そして苦境の中生き抜いていかねばならなくなったマグダルも、すべてが苦しい時代となっていた。

セントリーは詩女を守ると言われているが、マグダルはそのセントリーたちの加護を受けられていない。それもマグダルが詩女ではないと言われている根拠でもある。
ライブはアトロポスと行動をともにし、カラットはなぜかフンフトに寄り添う。ブリッツはムグミカの話の通り、タワーとともにある。マグマは姿を消しており、バルサーに至っては噂すらない。彼らはマグダルを守る気はないようである。なぜなのか？
それに加えてムグミカが召喚した炎の女皇帝ナインは実のひ孫であるマグダルに対して何の手助けもしないのである。それがボスヤスフォートと最終決戦を挑むその時ですらナインはマグダルを無視している……。
すべてがわかるまでには長い年月が必要となる。
ムグミカはマグダルの正体を知っている。彼女が何者なのか？　何のために生まれてきたのか？　なぜ超帝國の北都マグダルの名をもっているのか？
だが、それを秘めたままムグミカはこの世を去った。

このイラストはかなり前のものであるが、気に入っているのであえて描き直さず色を塗り直した。

超帝國が生み出した超常の力
ボルテッツ、スコーパー、グレイン、オペラの総称

AD世紀に生まれた、騎士と対になる力 グリント・ツヴィンゲン

AD世紀に圧倒的な力で人民を支配するために炎の女皇帝が生み出したのは驚異的な力をもつ超人、「ウォーキャスター」だけではない。「グリント・ツヴィンゲン（Glänzende Zwingen）」と呼ばれる精神パワーを実体化する驚くべき能力をもつ者「バイター」が生まれていた。彼らは皇帝を中心としてその力をもっていたが、すべては社会と秩序を力によって支配していくためのものであった。産みの親の炎の女皇帝は騎士の力だけでなく、あらゆる力をもっていたが、直下に置かれる皇帝たちや貴族たちには権力の集中を避けるためにバイターとウォーキャスターの力を分け、騎士と魔導士を分離させていた。この力を両方ともつ者は皇帝の支配者、総帝ナインだけである。
さらに「グリント・ツヴィンゲン」は精神パワーという特性上、４つのカテゴリーに分けられ、これらもすべて同時にもてないようにプログラムされ、超帝國皇帝団の皇帝や支配階級のものはこれらの力を別々に振り分けられてその役目を担っていた。時を重ねほとんどの力は失われるか弱体化したが、この４つの魔法パワーを同時にもつ者は存在しない。リトラやボスヤスフォートが複合した力をもつと言われているが、その明らかな証拠はない。さらに現在でもまれに「ツバイ」と呼ばれる騎士と魔法使い両方の力をもつ者が存在する。ただその魔法の力は「ボルテッツ」の力に限られ、ほかの魔法パワーと騎士の力をもつ者はいない。
「ブリッツェン」とはグリント・ツヴィンゲンの「閃光」を意味する単語。その「ブリッツェン・バイター」とは魔導ギルドのこと。「バイター」とは魔導士を指す言葉。「グリント・ツヴィンゲン」は４つのブリッツェン・パワーの総称で「セントリー」の強大なパワーもこう呼ばれる。

スコーパー（女性のみ）

「詩女」に代表される霊的な力。
女性のみの限定で、男性にこの能力をもつ者はいない。
離れたところから人間や動物の目を通してその場所を見る「全視（千里眼）」が最も有名だが、視覚を飛ばすことができるために異次元のものやGTMのように赤外線、紫外線などの通常見えないものも見ることができる。
ただ詩女の「預言」はまったく別のもので、記憶継承を受けたスコーパーのみがもつ力である。
通常のスコーパーはもっていない。

また知られていない能力に「念話」がある。テレパシーとも言えるこの力は思考を目標の相手に伝えるというものだ。
念話は天照家のリンクスや詩女が「預言」を行なうときによく使っている。

ボルテッツ

最も代表的なバイターの能力で、増幅されたイオンパワーを自分の体内と周辺に集め、プラズマを発生させてそのエネルギーで物体を破壊する力のこと。
イオンパワーが集積していく状態では足下にパワーサークルと呼ばれる模様が浮き上がるために攻撃状態のボルテッツは関知されやすく、騎士の敵ではない。が、いったん打ち出された電撃は光の速さなので騎士でも回避不可能のために騎士とボルテッツの混成で戦われると対応できる騎士はほとんどいない。
星団暦の現在では強力なボルテッツ自体が少ないために、こういった騎士との連携はまずお目にかかることはないだろう。
不思議な魔法の力だが、「雷」と同じ発生システムである。イオンパワーを放出する体は頭部がプラスの電荷で足下がマイナスの電荷である。それを雷として打ち出しているのである。
騎士がその力を最大限に発揮するために攻撃用の武器「ガット・ブロウ」を持つのと同じく、ボルテッツも杖と腕輪かリングを必ず装備している。杖は電子を増幅させるシステムが組み込まれ、発生するプラズマの「照準器」を兼ねている。腕輪などは防御バリアを張るときのプログラムが組み込まれている。とはいえ、ボルテッツにも「剣聖」クラスがいまだに存在すると言われ、彼らが使うボルテッツ・パワーにはこれらの杖や腕輪などは必要ないと言われる。

スコーパーのホワイト・リンクス。
ボルテッツの殿堂、天照家にも少数だがスコーパーがいる。メル・サッチャーがその筆頭だが、リンクスも念話で斑鳩王子に連絡をとっていた。

ボルテッツのフ・リエ・シグダ。
単行本12巻でその名が登場した。天照ですら警戒する魔法使いであることは間違いない。彼女が今、どこにいて何をしているのかは不明である。もうひとり、ララトゥ・ル・ゾラという魔法使いもいることを東の君が言っているが彼女の動向も不明である。彼女らがボルテッツの「剣聖」なのである。騎士も一撃で殺される恐るべき魔法使いだ。

グレイン

物体を組成し、物質の構造を変える力をもつ者たちで、この力が弱まった星団暦では、現在の「ガーランド」たちのGTMを設計する能力やファティマを造り出す能力の基本となっている。
この力をもつ者は星団暦すべてを見ても見つけるのが難しい。ほとんどいないのである。
最も強力なグレイン・パワーをもつ者は「召還」という別の生命体を組成して攻撃する能力をもっていたというが、それがどういうものなのかは今ではわからない。
グレイン・パワーをもっていた人物と言えば天照家に嫁いだ詩女のリトラであるが、どういったものであったかも謎である。

魔導大戦のラストではボスヤスフォートとマグダルがこのグレイン・パワーによる壮絶な戦いを見せる……。

オペラ

やっかいで恐ろしいのがこのオペラである。
オペラは人間の思考中枢に介入し、他人を操る能力で、本来は騎士を制御する力として超帝國の支配階級の者だけがもっていた能力である。
9巻で登場したタイインがオペラの能力をもっていたし、ボスヤスフォートはすべての力をもつために、オペラの力によって剣聖カイエンを操れると言っていたが、騎士の血自体が薄まって弱くなった現在の星団では、あまり意味がない。
しかし8巻でボスヤスフォートがバスター砲の使用を命じ、とまどった乗組員すべての思考を停止させた力こそが騎士以外の一般人に使用された本来のオペラの能力である。

グレイン・パワーをもつ数少ない魔導士、ビューティー・ベールは超帝國の末裔のためにその力をもっているようだ。自分の分身を作りだし、ミラージュ騎士と戦った。

ボスヤスフォートが憑依していた魔導士パロー。オペラの能力をもっていたと言われるが、それがボスヤスフォートの力なのか、パロー本人の力なのかは不明。

にきたまの詩女ライヒ・ナカカラ（星団暦2010〜2130年頃）	2017年	聖宮ラーン東宮西宮の乱。フィルモア帝国皇帝ヨミ、ラーンを防衛。
	2121年	天照家を襲ったボスヤスフォートを監視。
あらたまの詩女 メル・クール・リトラ（ナカカラと同在位）（2015〜2122年没）	2020年	天照家内宮の大事件以後天照家のミコトに次ぐ地位となる。
集約の女王 クルル・タイダル（2220〜2300年代）	2241年	ナカカラ・クルル王国樹立。
	2280年	蘇生したナッカンドラ・スパースを天照の依頼により制御。
	2310年	「ファティマ」誕生。
全視の詩女 ホルリ・エダクダ（2355〜2400年代末）	2364年	ファティマがマスターと初めて呼ぶ。
	2490年	剣聖ビザンチンとインタシティ、ハスハント内戦。 ゼビア・コーター、インタシティにGTMカイゼリン改修。
抱擁の詩女 ルーザツギィ・ダルタン（2501〜2600年頃）	2515年	ハスハ内戦終結。
	2577年	パトランド共和国創立。ミノグシア連合加入。
静寂の詩女 トーティー・ジキジディ（2600年代〜2700年代末）	2700年代	剣聖カイエンを封印。聖宮ラーンに封じる。
晴天の詩女 ボルサ・バスコ（2803〜2918年）	2810年	ハスハ統一戦争。カイエン蘇生、制御。
	2859年	「剣聖慧茄」指名。
	2880年頃	エストを保護。以後エストは詩女の観察下に。
	2916年	クーンをセントリー「マグマ」に預ける。
沈黙の詩女 ナトリウム・フンフト（2920〜2961年）	2961年	コーラス王朝のピアノ公爵との間に娘、桜子誕生。詩女剥奪。
転生の王女 ムグミカ・コレット（2962〜3030年没）	2989年	ラキシスの言葉をヤーボに伝える。モラードに予言。タワーの製作。
	3030年	セントリー「カラット」の幼生とともに、ナインを召還。
魅惑の聖女 ナトリウム・フンフト（3030〜3070年？）	3030年	魔導大戦でセントリー「マグマ」によって詩女復帰。
	3031年	クリスティン・Vにフィルモアの未来を託す。
	3075年	フィルモア帝国と連携し、惑星カーマントーを解放。 以後カーマントー、聖宮ラーン・ミノグシア連合に編入。
時の詩女 マグダル・カイエン（3070？〜3200年？） 在位が司政年と合っていないのは「新たな詩女」が登場するからである。 ただし、マグダルは存在している。	3075年	天照の帝個人と永久不可侵条約締結。
	3100年？	超法規講和条約締結。
	3960年	カステボー、アトール聖導王朝に編入。
	4078年	コーラス反抗軍、コーラス・シックスに代表を認める。
	4100年	星団解放。

※（　）内は在位期間
※リトラとムグミカは死亡による退位

詩女暗殺計画

星団暦451年この事件は起きた。

「詩女暗殺計画」である。

当時の国家間調停機構である「惑星連合」はドナウ帝国に「カーマイン星（ボォス星）で新たに生まれた詩女に対し暗殺計画が行なわれている。警護してほしい」という緊急要請を出した。

帝国は第3皇子で騎士の力をもち、帝国民にも人気の高い「サイレン皇子」を送り込んだ。詩女の護衛として出陣したサイレンは、ドナウ帝国旗艦「ダランス」と帝国近衛騎士団を率い、詩女の警護にあたった。だが、この護衛は星団史に残る事件となった。

「詩女ラーン」だけではなく、皇子サイレンまでを亡き者にするというテロが仕組まれていたのだ。

砂漠での戦闘後、GTM「カイゼリン」が発見したバッジに「星団惑星連合委員会」の紋章が打ち込まれていたのだ。

この陰謀には数多くの国家と要人が関わっており、いまだにその真実は語られていないが、要は、

1．皇子サイレンを亡き者として帝国の次期皇帝選抜から外すことによって利益を受ける者たちの陰謀説

それは「ドナウ帝国次期皇帝選抜に選出されていた貴族たちの陰謀、ドナウ帝国元老院の一部」。

そして、

2．サイレンを亡き者として、ドナウ帝国の将来にわたる弱体化を望む国家。つまりサイレン以外の与し易い王子を次期皇帝に祭り上げたい周辺国家説

その正体は「太陽王国とロッゾ帝国、クバルカン法国他カステポーに領地をもついくつかの国家」でもある。

さらに、別の国家では、

3．詩女の護衛失敗で、詩女を暗殺したのはドナウ帝国の陰謀であるとし、ドナウ帝国への反発を強め、独立自治を加速させたいボォス星の者たち説

その正体は「ミノグシアのギーレル王朝とハスハント王国」である。

それだけではなかった。

4．詩女暗殺によってカステポー、ミノグシアの混乱を期待し植民化を進めたい国家説

その国家は「ボォス星に領地を拡大したいと狙うアドラー、ジュノー星の国家」である。

以上であるが、あまりに漠然とし、これではどこが首謀で音頭を取ったのかもわからない。そう、それ以外の本当の黒幕が存在したのである。その国家とは、あまりに明確な答えをもつ国家である。それは、「超帝國の記憶をもつ詩女の存在が邪魔な者たち。または詩女そのものの力を充分にわかり、その力を恐れた者。そしてドナウ帝国の皇子を暗殺することによる帝国の弱体化で一気に星団内での影響力を高めたい国家」である。関わったすべての国家の思惑、それらすべてを欲した国家があったのだ。

その国家こそが、

「天照家」

である。

しかし、システム・カリギュラの送り込んだ最新鋭のGTM「ボルドックス」ですら倒せなかったサイレン皇子の「カイゼリン」はサイレンと詩女ラーンの人気と信頼をさらに高めることとなってしまった。そして、サイレンとラーンにお互い、「民族をまとめ、星団を安定させる」という共通の目的をもたせることとなってしまった。

闇に隠された詩女の暗殺計画、その真実はラーンはもちろんのこと、サイレンもわかっていた。それだからこそ、この2人は「ミノグシア連合構想」と「二重帝国の再合併～フィルモア帝国誕生」に動いたのである。

その真実は？

このようにこの「詩女暗殺計画」はテロなどというものではない。「星団のパワーバランスのリセット」を望むすべての国家が「無意識に」荷担した陰謀であったのだ。つまり、どの国家もどの人々も直接計画に参加し、荷担したわけではない。こういった思惑をもつ国家や人々が「なんとなくそういう意向」をもっていたことが実際の暗殺計画になったわけである。

当たり前である。いったいこれら老獪な国家や貴族が自らこういう指示や計画を実行するわけがないのだ。

誰が計画したわけでもなく、誰がそう望むと口に出したわけでもない。

ただ、この暗殺計画はサイレンのカイゼリンがボルドックスを撃退しなくとも失敗に終わっていた可能性が高い。なぜならラーンのそばには絶えず「ラブ」がついていたからなのだが……。

恐竜に食われて死んだり、サイレンに時速300キロでぶん投げられて死んだりしたが、数秒後には生き返っているという恐ろしい小動物なのである。

またあの雷の鳴る砂漠の上空にはラーンも言っていたが、セントリー「碧のブリッツ」が周回していた。ラブがその本体を出すまでもなく、ブリッツがライトニング・ブラストでテロリストを一掃したことであろう。

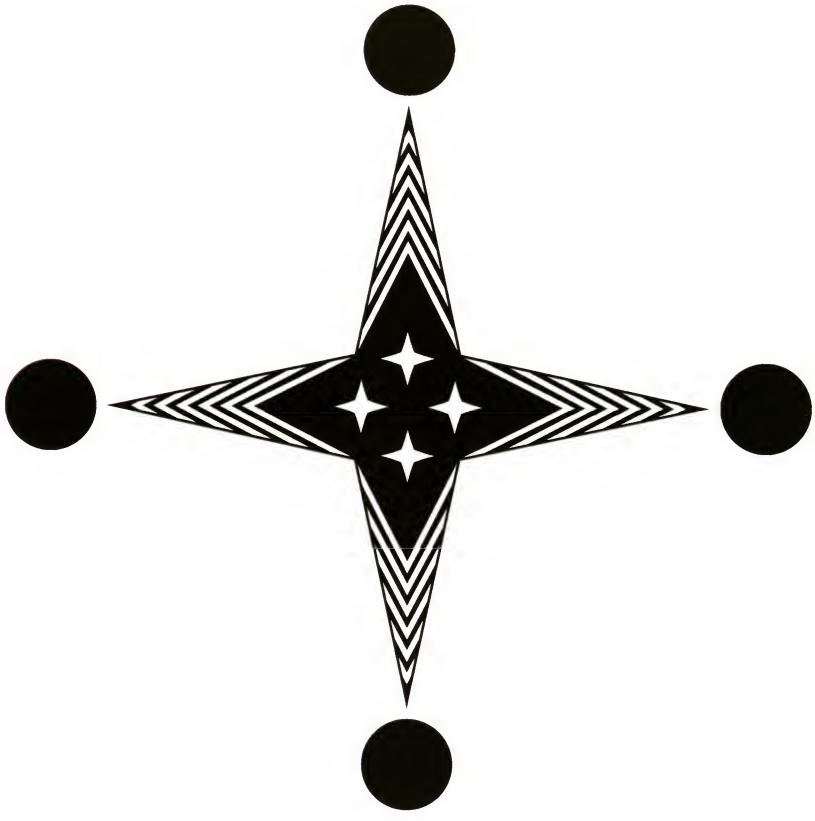
それは炎の女皇帝の保険である。

詩女を守ること。それはセントリーたちへの契約を守るということでもある。

The Empire FILLMORE
GREAT SCHOLTI Combinart

フィルモア帝国

ダス・ラントから統合フィルモア帝国へ
グレートショルティ連合とその歴史



フィルモア帝国初代皇帝　サイレン
"SILENE" Das Kaiser ist FILLMORE 1

身長208cm　体重88kg

「サイレン」そして「フィルモア１」と呼ばれるフィルモア帝国初代皇帝。
古の帝国、ラント・フィルモアの分裂時、ドナウ帝国、またはフィルモア・イーストと呼ばれていた時代、星団暦初頭ドナウ帝国の３番目の皇子として生まれた。
文官気質の兄２人とは異なり騎士の血をもって生まれた。その騎士の血をもつ皇子であることが帝国内に微妙なバランスを生み出していたのは事実である。
皇子時代から絶大な人気と力をもっていたサイレンだが、辺境の任務として嫌々赴いたポォス星で出会った詩女ラーンによって、帝国内では経験しえない数多くのことを学んだ。
詩女と同行したわずか数ヶ月で学んだことはその後の彼の礎となり、のちに武力を一切使わずに統合フィルモア帝国を誕生させた。

辺境の詩女の護衛に建造直後の最新鋭戦艦であるドナウ帝国皇帝旗艦のダランスが与えられ、さらに皇帝騎であるGTM「カイゼリン」が与えられていたこと。そして帝国に２人しかいない「皇帝騎士・ハイランダー」が２人ともサイレンに同行していたこと。
すなわち皇帝旗艦に乗り、皇帝騎を駆り、ハイランダー２人がつく彼こそがドナウの中心であったことを物語る。
……ただし、これは彼の父と母、アルカナス皇帝とリン皇后の采配であったはずである。カイゼリンが与えられていたのを知っていたのは皇帝と皇后、そしてバルバロッサ王だけであったのだ。
最新鋭戦艦のダランスが与えられていたのは処女航海的な扱いであるから問題にはされなかったとしても、ドナウ皇帝アルカナスは不穏な帝国内や惑星連合の動きを察知し、身内の中だけではなく星団中に陰謀を企てる者がいることを知っていたのかもしれない。そしてそれを知っても尚、何も言わず送り出した皇帝はサイレンの行く末に賭けていたのかもしれない。

ポォス星から戻った彼はもう二度と剣をとることもなく、GTMに乗ることもなかった。
のちにサイレンは自分のカイゼリンを詩女ラーンに渡し、永久の不戦を誓った。
彼はドナウ帝国皇帝にはならず、皇帝の座を兄に譲り、自分は周辺国家と太陽王国との和平調停に奔走し、フィルモア帝国統合の準備を進めドナウ皇帝の立場ではできない様々な調整を行なった。
武器を引き、政治的な立場からも裏役に徹するその一歩も二歩も退いたサイレンの行動は多くの人に感慨を与え、やがてもうひとつの大国、フィルモア・ウエストの太陽王国をも会談の場に引き出すこととなった。
彼は自らが統合後の頂点となる事を望まなかったと言うが、統合後の帝国をまとめられるのはサイレンだけであるという両国の強い要望によって、「フィルモア帝国初代皇帝」となった。
その後の帝国はサイレンが君臨する時代に作られたフォーマットに沿い現在の帝国がある。
その名「サイレン」はフィルモア帝国の創始者としてだけではなく、偉大なる統治者としての意味をもつ。
また、その名は帝国民にとって口に出すことも畏れ多いとまで言われるようになった。

ボットバルト・デュー・バルバロッサ王
BOTERBART due BARBAROSSA

身長210cm　体重115kg

ドナウ帝国を構成する王家のひとつ、バルバロッサ王国の国王。
とはいえ、バルバロッサ王国の国王と言うよりもサイレン皇子の副官的な人物で、自分の国はすべて一族の者に任せていた。
ドナウ帝国の第３皇子であるサイレンに惚れ込み、その一生をサイレンのためだけに捧げたと言っても過言ではない。星団暦451年、ボォス星で新たに生まれた詩女の警護にサイレン皇子とともに赴き、詩女の暗殺計画が単純なテロではないと薄々気がついていた節がある。詩女の要求に屈していくサイレン皇子を彼は苦々しく思っていたに違いない。
しかし、あの通りバルバロッサはサイレン皇子に従い、危険度が上がることも承知で詩女の警護を行なっていたのであろう。長く緩やかな旅の中でサイレン皇子が少しずつ変わっていく、その姿を彼はどう見ていたのであろうか？
本星に戻ったサイレンはその後武力を使わないで巨大な帝国を統制していくことをはじめた。バルバロッサがそれに従っていたのも、彼も詩女との旅の間に感じたことが多々あったに違いない。
統合フィルモア後はのちに３大王家と言われるバルバロッサ王家の創始者として、彼もまたサイレン同様、帝国民から敬われている存在である。

ルドルフ・サヤステ　シュペール太閤
Governor SCHPERE' RUDOLF SAJASTE

身長210cm　体重115kg

ドナウ帝国ハイランダー。皇帝騎士である。
ルドルフはサヤステ家の筆頭当主、つまり君主でクバルカン法国の重要な太閤家である。
その彼がドナウ帝国のハイランダーとして他国にいるのはドナウ帝国と独立して間もない生まれたばかりのクバルカン法国の力関係である。クバルカン法国はドナウ帝国に対して絶対に敵対しないという証明として、最強騎士のサヤステを送り込んでいたのだ。
サイレンが帝国を再統合した後もサイレン皇帝のハイランダーとして一生を終えている。
ただ、彼の子供はクバルカン法国に戻され、サイレン皇帝の采配であるが、後のサヤステ家となる。ここからアルテン・サヤステ、ヘリデ・サヤステ、現在のヨースト・サヤステとイゾルデ・サヤステが生まれている。
また、2000年代中盤にはナッカンドラ・スバースの娘であるネリス・バスコとハスハント王、ローレル・ビサンチンの間に生まれた「剣聖デューク・ビサンチン」だが、その妻がエイノーク・サヤステで「剣聖ヘリデ・サヤステ」を生んでいる。そのヘリデの娘がバキン・ラカン帝国へと嫁いでユーゾッタ家を興している。
サヤステの血はミノグシアとアドラーにも残っているのだ。このように騎士というよりは「剣豪」と呼ぶにふさわしい人物を次々に送り出しているのがサヤステ家である。
その影響力は国家をまたがって強い。
創立以来サヤステ家は「ガバーナー(州首相)」と呼ばれているが、日本語では太閤が一番近い立ち位置だろう。

ルドルフ太閤はドナウ帝国時代から統合フィルモア帝国では統合帝国初のハイランダーとなったが、剣を取らないと誓ったサイレン皇帝に代わり、ルドルフの役目は重大であった。なぜならサイレンが剣を捨てた以上、ハイランダーも「剣を抜かずに相手の剣を納めさせる」ことがその役目であったからなのだ。サイレンの行なった統合には穏やかではない場合も多々あったであろう。その時においてもサヤステもシャンディーもGTMも剣も使わず、終始穏やかに対応していたという。彼らには迫力も脅しも必要はない。それほどまでに強力な騎士であったのだ。

ルドルフの持っていたハイランダーのガット・ブロウは後、サイレン皇帝の感謝の印としてサヤステ家に贈られ、今もイゾルデ・サヤステが持っている。

シャンディー・マーカス　ハロルドラント王女
Princess HAROLDLAND' SHANDIE MARCUS

身長202cm

詩女暗殺計画の時にサイレン皇子に同行していたハイランダーの一人。ドナウ帝国ハロルドラントの王女で、非常に強い剣の使い手である。もうひとりのサヤステが正式にはクバルカン法国の騎士であるために、実質的なドナウ帝国の最強騎士でもあった。
ハロルドラントの騎士たちは皆、ドナウ帝国の武家王家としての誇りをもっていたという。
非常に強いこの騎士の血は大きく２つに分かれて、直系のブラウ・フィルモア側とボルガ・レーダー王家系列に継がれている。現在のV家はこの分離した方のハロルドラント王国の血統である。つまりクリスティン・Vはシャンディーの遠い子孫である。
現在の直系の子孫はブラウ・フィルモア王家に仕え、ブラウ女王の親衛騎士ローラ・マーカスとして登場している。ハロルドラントはフィルモア帝国の武家の筆頭王家であるとも言える。長きにわたり帝国の武の中心として君臨してきたのだ。
シャンディーが当時使用していたGTMメロウラは統合時にボルガ・フィルモア王家に贈られ、レーダー王家の皇帝騎となったが、現在クリスが使用しているので、これも何かの縁かもしれない。

トップ・マスト

ムーンレイカー（メインベント）
トップセイルのこと。非常に巨大で大出力セイルであることの証。風ではなく光粒子と浮遊元素をかき集める「熊手」のことで、高速帆船がもつ特殊な呼び方。

ハーモイド・ノズル
ハーモディックエンジンの生み出したエネルギーはハーモイドシステムによって増幅され、推進エネルギーとなってここから噴射される。目には見えず、電磁波が発生しているだけとなる。

ジガー・マスト

熱交換機
放熱放電システムx２

ハイパー・ドライブ・フルフレア
メインセイル（帆）ハイパードライブの亜空間航行のためのとてつもないエネルギーを発生させるマストで、船自体の推進システムとは別になる。通常航行中はうっすらとオーロラのようなベールが見えているだけである。
天照の持つ「ベル・クレール」はこのフレアを２基もつ大出力船艦である。また、巨大戦艦「ザ・ウィル」は船体すべてを覆う巨大なフレアを持っている。

ミズン・マスト

スタンセイル（補助ベント）
ハイパードライブの増幅器

ダランス
Flagship The Dullance

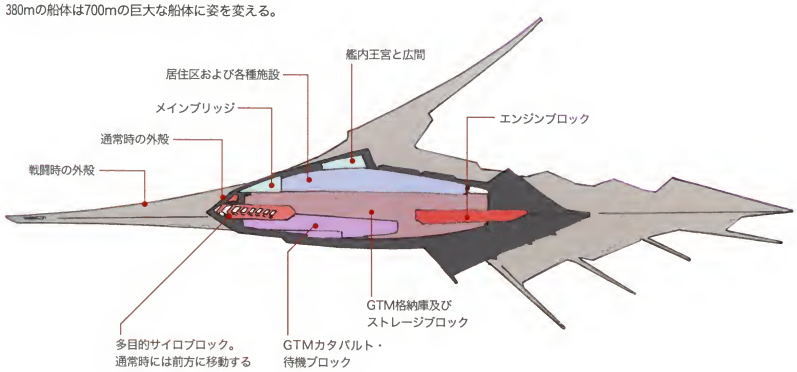
全長780m　排水量30万t

単行本１巻より登場しており、映画「花の詩女」にも登場した巨大戦艦。フィルモア帝国の旗艦である。
建造は古く、星団暦の初頭、450年あたりであると言われる。
「３本ベントのダランス」という通り名をもつ通り、スリー・ベント・ダランスとも呼ばれる。
背中と胴体部の２本の巨大なベントセイルが特徴で、さらに「戦闘形態」への変形を行なうことができる。この変形モードをもつ戦艦はこのダランスくらいである。
ダランスは現在２隻がフィルモア帝国にあり、１番艦は歴代の皇帝の旗艦で、ダイ・グが使用している。
２番艦はブラウ・フィルモア王がもち、色も姿もまったく同じである。ダランスは他の戦艦と異なり、１番艦、２番艦ともに名前は同じである。
次席艦は単行本11巻にも登場している「グアラント」で、ダランスと対で運用される。これも２隻あり、１番艦はダランスの随伴艦、２番艦はボルガ・レーダー・フィルモア王家がもっている。
戦隊両舷にあるドーム状のバルジにマークが浮かび上がるので、皇帝が乗っているのかブラウ・フィルモア王が乗っているのかの判別は可能。
GTM１個師団を丸ごと収納し運搬する機能を持ち、会議や舞踏会に使用する大広間や数々の貴賓室をもっている。どの国家の旗艦と呼ばれる国家を代表する戦艦は内部にこういった要人たちが会議や国際会談を行なうための特別な広間と設備を持っている。戦艦は昔から国際外交の舞台でもある。

建造数	２隻
全長	780m通常時～380m戦闘防御形態
排水量	約30万トン
主武装	480mm２連装空中砲塔×8（分離浮遊空中砲塔） 581mmロボットトーピード（ロボット魚雷） （発射口、前部6、後部4） 機首前部多目的ミサイル発射サイロ8×2 バスター・ランチャー×1
搭載装備	GTMホルダ31Ａ　48騎 貴賓小型連絡艇レモーハ　2隻 宇宙戦闘機Ha－2　12機 輸送艇　6騎 重戦車H－4　12機 他軍師団１個分の物量、装備を収納

主砲以外の内部武装がないのは必要ないからである。あり得ないことだが、もし宇宙戦闘機やロボット魚雷などが攻撃してきた場合はGTMホルダ31が甲板に出てその攻撃で打ち落とすからである。
またごくまれにこういった戦艦クラスが戦闘に巻き込まれた場合、航行、戦闘、防御、通信などすべてのオペレーションはファティマが行なう。ファティマ以上の制御システムは存在しないからだ。つまり、戦艦でありながら戦艦などによる戦闘はほとんど考えられていないのがジョーカーの戦艦である。これはA.K.D.のベル・クレールなどもまったく同じで「戦艦はGTMを効率よく運ぶ輸送艦」であればよいのである。この場合ファティマたちは各所にあるアクセスポイントから強制制御の指示を出し、戦艦のすべての制御を行なう。ただ、これらの場合は余計な妨害を防ぐために「チグリス・メゾネット」同様のウィップ・ハーネスが使用され、つまり有線で接続される。

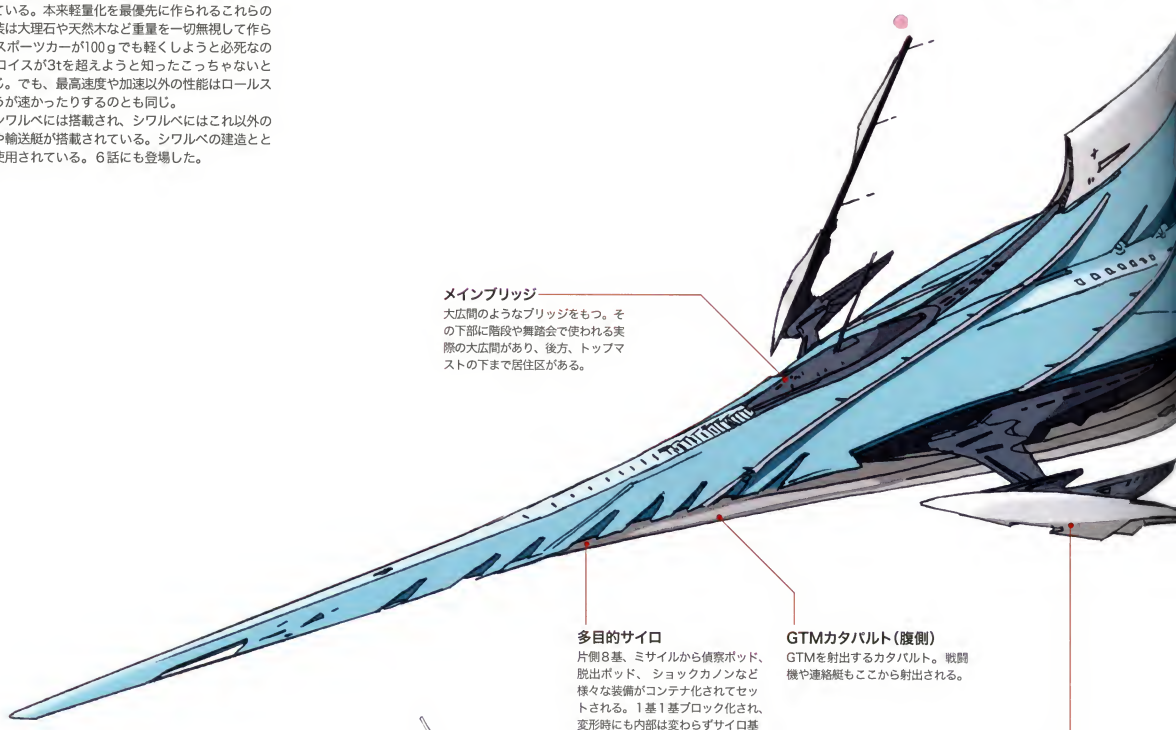
ダランス変形時の内部移動図
内部構造は巨大化しても大半の構造は元の位置のままである。移動する多目的サイロは前方に、エンジンブロックは後方に移動する。それ以外のブリッジや居住区、GTM格納庫は位置もその容積もまったくかわらない。外部の装甲板が変形して380mの船体は700mの巨大な船体に姿を変える。



小型連絡艇レモーハ
Cutter Sailer REMORA

全長38m

英語で「コバンザメ」の意。英語読みだとレモーラだがドイツ語読みでレモーハとなる。
すべての戦艦を含む巨大なセイラーに言えることだが、戦艦クラスのセイラーが地上に降着していようと浮遊状態で停泊していようとそのまま乗組員が地上に降りることはほぼ不可能である。宇宙ドックなどでも乗り込みゲートをステーションなどから直接戦艦にドッキングさせることはない。これは戦艦や宇宙船が規定に沿ってドッキングベイや乗り込み口を作っていないからである。そもそも50mクラスのセイラーから1000mを超えるセイラーの搭乗口を統一させることは不可能だからだ。これが軍艦になるとさらに個別の乗り込みゲートやドッキングベイ、エアロックシステムの場所は軍事機密となり公開されないので一定以上の巨大なセイラーは「はしけ」で乗員や物資の往復を行なう。このあたりは地球の船舶と同じである。
このレモーハはそういうはしけとして使用されている。といっても最低限の武装と装甲をもっている。
提督や艦長、重要人物専用の小型艇で、内部は非常に豪華な作りとなっている。本来軽量化を最優先に作られるこれらの船だが、内装は大理石や天然木など重量を一切無視して作られている。スポーツカーが100gでも軽くしようと必死なのにロールスロイスが3tを超えようと知ったこっちゃないというのと同じ。でも、最高速度や加速以外の性能はロールスロイスのほうが速かったりするのとも同じ。
2、3隻がシワルベには搭載され、シワルベにはこれ以外の宇宙戦闘機や輸送艇が搭載されている。シワルベの建造とともに延々と使用されている。6話にも登場した。



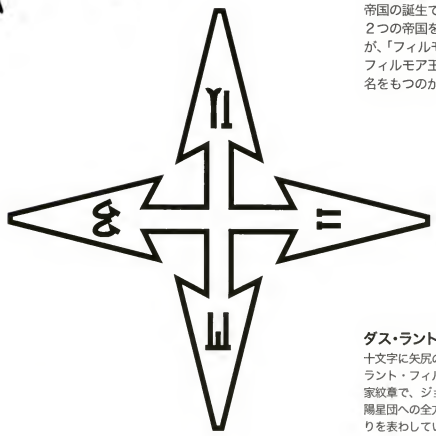
ダス・ラント皇帝紋章
巨大なふたつの頭をもつ龍の紋章に「四方矢尻十字」の二重マークをもつ。龍と四方矢尻のマークはどちらも現在まで受け継がれている。

ダス・ラント連合帝国

＝ラント・フィルモアの時代とその解体＝
AD世紀末期、解体した超帝國ユニオに代わって登場したダス・ラント連合帝国はカラミティ星において強大な勢力をもつに至った。超帝國の中心となっていた者たちは炎の女皇帝によって粛清されたことで新たなる民族による新しい時代が始まったのだ。
しかし数百年にわたる支配の中で、フィルモア王家の独裁と巨大化故に数多くの国家や地域を束ねることに限界が生じ、ショルティ大陸西の「クバルカン・サヤステ騎士連合王国」や南の「ロッゾラント」の分離独立を許すことになってしまった。帝国を構成する国家の利権争いが繰り返されすぎたのだ。
帝国の中心国家はやがて「構成国家の自国領地の利益」を考え、ダス・ラント連合帝国は解体へと進んでいった。
ダス・ラント連合帝国はフィルモア王家がその中心となっていたために、この時代のラントはラント・フィルモアの時代とも呼ばれる。

２つの巨大帝国への分裂
分裂前にラント・フィルモアを構成していた各国家はひとつの考えに達し、合意した。
それは「国家縮小再構成」というべきもので、かつての帝国を構成した数多くの国家、従属国家の完全独立を認め、その中で強固に残る国家だけで堅牢堅実な帝国を再構成しようとしたのである。
これが帝国の東西大分裂と言われる、太陽王国とドナウ帝国の誕生である。
２つの帝国を支配する各フィルモア王家は間違えやすいが、「フィルモア」の名をもつものが「ドナウ帝国」系列のフィルモア王家で、「レーダー」もしくは「レーダース」の名をもつのが「太陽王国」のフィルモア王家である。

ダス・ラント略章
正式紋章を簡略化したもので、兵器などのマークに使用される。
このマークはそのまま中央の十字を取り払ったものがドナウ帝国の国家紋章となっている。



ダス・ラント正式紋章
十文字に矢尻のマークがラント・フィルモアの国家紋章で、ジョーカー太陽星団への全方位の広がりを表わしていた。

太陽王国（フィルモア・ウエスト）

西側にはボルガ・フィルモア王家が中心となって「太陽王国」が誕生した。
この王国は名前こそ王国だが、多くの国家や領地からなる帝国である。
ボルガ・フィルモア王国はレーダー王家の家系からなる国家ばかりで構成され、ドナウ帝国とは異なり、内需拡大によって国家自体を充実させようという指針を掲げた。
隣には「クバルカン法国」が生まれ、すぐ南には「ロッゾ帝国」も誕生していたこの時代に、カラミティ星の重鎮、長老としての国家を目指し、「グレートショルティ連合体」という緩やかな連合を組むことによって帝政とは違う政治形態を目指したのである。そのために帝国ではなく「王国」と名乗っていた。
クバルカンやカーグ連合、ロッゾとの平和条約や経済連合は今でも残り、太陽王国の「グレートショルティ連合体」構想は今も続いている。単行本９巻に登場したスパチュラ国のエピソードはこの時代の話である。

太陽王国正式紋章
有名な水仙の紋章は「ウォータークラウン」とも呼ばれ、ボルガ・フィルモア王家の象徴である。現在ではレーダー王家と総称されるボルガ・フィルモア系列の王家はこの水仙の紋章をつける。下部につくどくろの文様は王家の強さを物語っている。
レーダー８世の紋章はこのどくろを残した水仙の紋章であった。

ドナウ帝国（フィルモア・イースト）

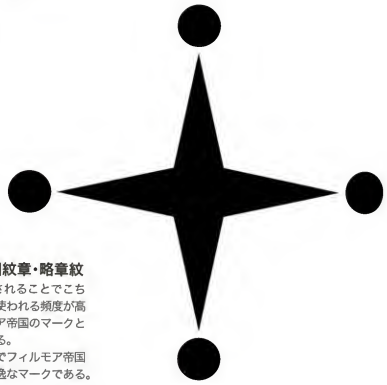
東側にはブラウ・フィルモア王家が中心となって「ドナウ帝国」が誕生した。
この帝国はかつてのダス・ラントの帝国理念を突き通すべく、星団各国に軍事力によってその力を誇示し、星団すべてに影響を与え最強帝国として君臨することを目的とした。
ここでドナウ帝国の理念として重要なのは、決してかつての帝国のように他国家の支配を目的としたわけではない。ラントの終焉のように支配国家を増やすことは、被支配国に対してのリスクと行政コストがかかりすぎるために、あくまで帝国の影響を強くするということに重点を置いていた。
ドナウ帝国自体はこれ以上の領土拡大は求めず、中心となった４王国で、強固な軍事帝国を構成し、星団の各惑星にもっていた領地等への影響を強めるべく星団各地へと干渉、経済強化を進めていった。だがその国家理念も他国から見れば超大国の支配と変わらないことも事実である。

ドナウ帝国皇帝紋章
双頭の竜が羽を広げた紋章で中央にダス・ラント連合帝国の旧紋、四方矢尻がついている。現在もこの双頭竜の紋章は四方矢尻をフィルモア王家の太陽マークに変えたものをブラウ・フィルモア王家が使用している。このマークをつけられるのはブラウ王だけなので見る機会は少ないだろう。

帝国再統合への道・フィルモア帝国皇帝の誕生
星団暦の時代に入り、デルタ・ベルンの天照家、コーラス王朝、バキン・ラカン帝国の独立台頭など、時代の波は新しい惑星の新しい国家の時代になりつつあった。
気がつけば独立を許した隣国のクパルカンは星団でも1、2を争うほどの強国となっており、分裂したフィルモア2国は時代の波に取り残されていく道をたどっていた。
それどころか、分裂したドナウと太陽王国の間はお互いを牽制し、足を引っ張り合う状態になっていた。
その中で、ドナウ帝国の皇子は詩女から受けた「預言」を達成するために、その生涯をかけて、両国の統合への道を模索した。隣国との和平、そして太陽王国のボルガ・フィルモア王家との調停を経て、無血での両大国統合をなし得たのである。
ここに統合フィルモア帝国が誕生した。

フィルモア帝国の時代
構成するすべての王家や代表から政治システムにのっとって皇帝を選抜し、王家や構成国家の間に上下関係が生じることなく運営されること。
それを理念に星団暦の最強国家として長く君臨してきたが、皇帝選抜を行なう機関である「元老院」が徐々に閉鎖的になっていき、2000年代末期には元老の権力が肥大化する傾向にあった。
その中でダイ・グが選抜されたのは元老の狡猾な思惑があったからなのである。「ミノグシアとゆかりが深く、初代皇帝の理念を貫こうとするダイ・グをミノグシアに送り込み、ナカカラを再び帝国の支配下に置いて植民地化する」で、あった。
「いかに優れた政治システムであっても、時代という流れの中で生命と同じく老化する。それを刷新していくことこそが最も重要であり、難度の高いことでもある。決して過去の習わしや歴史伝統にこだわってはならない！　だがその変革は緩やかに行なうことが堅牢な国家を生むのだ」
初代皇帝サイレンが最後に帝国に遺した言葉だが、これは現在の元老にはほど遠い。
すでに元老が独断で動き始め、その思惑は統合時の思想とはかけ離れた元老院の支配する帝国政治になっていこうとしている。

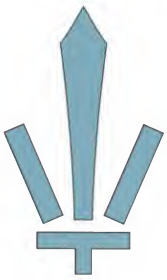
フィルモア帝国正式紋章
ダス・ラント連合帝国時代の紋章から四方矢尻を受け継ぎ、ドナウの矢尻と太陽王国の星紋が組み合わさったものとなった。



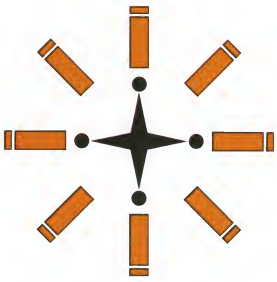
フィルモア帝国紋章・略章紋
GTMや軍に使用されることでこちらの略章のほうが使われる頻度が高く、通常フィルモア帝国のマークと言えばこっちになる。
遠方からでも一目でフィルモア帝国とわかる非常に秀逸なマークである。

レーダー王家紋章
「ウォータークラウン」の紋章はダス・ラント時代からのもので、現在もボルガ系列の王家はこの紋章を使っている。前レーダー8世のパーマネント家やアルク家など、レーダーの名をもつ王家はすべてこの水仙紋章が入っている。下部のフィルモア紋章は入っていないこともある。

フィルモア王家紋章
太陽ともひまわりともとれる円状に配置された山吹色の花びらが紋章となっているが、これはサイレンが詩女のマークをもとに作ったものだとも言われている。旧ドナウ帝国系列のブラウ家を始め、エス・ニー、ド・ラハスラーなどこの紋章もしくはこの紋章の入った家紋をもつ。



レーダー王家略章
複雑なレーダー王家の紋章は略章で描かれることも多い。
また、この簡略化されたマークを帝国章と組み合わせて使っている王家も多い。
前レーダー8世のGTMメロウラにもこの紋章が打ち込まれていた。



ダイ・グ・フィルモア皇帝紋
皇帝ダイ・グの個人紋章。パートナーのチャンダナやGTMウィリーズに打ち込まれている。
フィルモア王家の紋章がモチーフで、中央の帝国紋章は略されている場合もある。歴代のすべての皇帝はこういう個人紋章をもっている。

全フィルモア総本家紋章
フィルモア帝国すべての王家の筆頭を表す紋章で、この紋章を掲げることができるのはただひとりである。
この紋章こそがダス・ラントより280代以上も続くフィルモア全王家のシンボルである。
ダス・ラント、ドナウ、太陽各時代の3つの星と現在の統合フィルモアの星の4つの帝国の星をもっている。また、この4つの星のマークをつけるものは限られてはいるが、のちのクリスティンと町が王冠と腰にこの4つ星のマークをつける（「DESIGNS 3」表紙）。

フィルモア帝国　建国の歴史

ダス・ラント連合帝国(ラント・フィルモア)
(AD8000?〜AD9000)
=Das Land=

ボルガ・フィルモア帝国　ブラウ・フィルモア帝国

クバルカン騎士連合国家　バルバロッサ王国　ジルメア王国　カーグ王政共和国

カラミティ星内帝国飛び地、および帝国支配領多数　ロッゾランド　ダラーン騎士団領　ハロルドラント　カラミティ星以外の帝国領および統治領多数

クバルカン法国
ロッゾランド(後帝国)
ジャスタカーク・カーグ連合
ダラーン騎士団領

帝国より分離。

分離時に離脱、もしくは独立。

アドラー星ロマン大陸フィルモア帝国
(ユレッカ、シャブリテ、ゴータウン、ナランシ、ゴルンフォート各国)

ボォス星フィルモア帝国
パントラ・カステポー王国
ドラグ・フィルモア帝国

ジュノー星ペテルファ帝国領
フィルモア・ライン帝国

太陽王国
エンパイア・フィルモア・ウエスト
AD世紀末期〜星団暦535年

ボルガ・フィルモア王家が中心となって、安定した国家を運営していたが、星団暦に入り、前帝国より独立した国家の台頭や、次々と分離政策を行なう周辺国家に危惧を抱き、再合併となる。

ドナウ帝国
(エンパイア・フィルモア・イースト)
AD世紀末期〜星団暦535年

ラント・フィルモアより分離し、巨大軍事帝国として星団に君臨した。
ドナウ帝国はブラウ・フィルモア王家を中心とした巨大帝国で、双頭の竜の紋章を掲げ、中心となった4国家、ブラウ・フィルモア王国、バルバロッサ王国、ジルメア王国、ハロルドランドという旧ラント・フィルモア帝国の中枢が集まって生まれた巨大帝国であった。

超帝國純血の騎士
太陽王国にはAD世紀末期より超帝國が生んだ最後の剣聖が凍結保存されていた。ネッド・スパースである。当時の皇帝によりスパチュラ壊滅の使命をもって送り出される。

ネッド・スパースは天照家へ。
後にフェイツ公国にてファティマ創造のための基礎を築く。

炎の女皇帝
フィルモア王家には炎の女皇帝が関与する機会がたびたびあった。
フィルモア王家のハスハへの影響はここから来ている。

フィルモア・イーストより独立

バキン・ラカン帝国

ハスハ・ナカカラ王国

ハスハ・ベラ国

統合フィルモア帝国
(星団暦535〜)

主要構成王家
帝国を構成する主な王家であるが、その数は40を超える。衛星王家を含めるとその数400以上と言われる。
青地はレーダー王家系列、黄色はフィルモア王家系列、衛星王家系列は灰色である。

ボルガ・フィルモア王家
帝国西端にあるボルガ・フィルモア家で「レーダース」の名をもつ。この「レーダー」の名をもつ王家は非常に多い。

パーマネント・レーダー王家
ボルガ・フィルモア王家から分離した王家で、レーダー8など高名な人物が数多く出ている。

ブラウ・フィルモア王家
帝国東部にあるフィルモア王家。統合フィルモア帝国初代皇帝家系。

エス・ニー・フィルモア王家
帝国東部にあるフィルモア王家。

ジー・ポリショイ・バルバロッサ王家
帝国分離時はブラウ・フィルモア王家の傘下にあった。が、現在では帝国元老院をとりまとめる大帝バルバロッサの家系。
レーダー、フィルモア両王家に関わり、独自の家紋と王家の色をもつ。

エラルド・フィルモア王家
ダイ・グ家
アドラー星ロマン大陸西部のエラルド島にある王家で現皇帝ダイ・グの生家。

ド・ラ・フィルモア王家

ティルバー王家　アルク・レーダー王家　トライトン・レーダー王家

ケンタウリ・バナー家　クルップ・ショルティ財閥　ブラウニー・AG　ハスラー家　シャープス家

ダス・ラント

フィルモア・ウエスト（太陽王国）

ジー・ボルガ・フィルモア太陽王家
太陽王国側のフィルモア王家で、フィルモアの名はラント・フィルモア時代からの構成国家であることの名残り。

ジー・ボルガ・プリンシパル・レーダース王女
太陽王国正王家ボルガ家の王女。
ドナウ皇家との婚姻によって「統合フィルモア帝国」が誕生した。

ボルガ・レーダー・フィルモア王家
現当主ジェイン女王。
統合時に残ったボルガ・フィルモア王家の名を引き継ぐ王家。

パーマネント・レーダー1
統合フィルモア帝国2代目皇帝となったレーダー王家の主。
現在のレーダー8まで続く。

トライトン・レーダー家

ケンタウリ家

ポーラ・ボルガ・レーダー王女
レーダー王家の筆頭。

ドル・パーマネント・レーダー8
レーダー王家の筆頭、パーマネント家の家長で、前皇帝。引退してなお非常に強い発言力をもっている。

ジェイン・ボルガ・フィルモア女王
モーズ・レーダーの妹。
現ボルガ・レーダー家の家督を兄モーズと分け合っている。

クリスティン・V・レーダー
茄里が「正式に」登場する頃にはクリスはレーダーの養女となっている。

ジー・ボリショイ・バルバロッサ王家

ボットバルト・バルバロッサ大王
ドナウ帝国、ブラウ王家の第3皇子に生涯仕えたドナウ帝国の参謀で、バルバロッサ家の家長。

ティルバー王家
現当主アネッサ女王。

アルク・レーダー王

バシル・バルバロッサ大王
バルバロッサ家の家長。
大王と呼ばれる元老院の長。
レーダー正王家のボルガ家王女ポーラとの婚姻で帝国の発言力を増す。

アドー・バルバロッサ大王
現在一時的に王を名乗り、バルバロッサ王家を仕切っている。

モーズ・ボルガ・レーダー王
元老を仕切るバルバロッサ大王の息子で、バルバロッサ家筆頭でありながらボルガ・レーダー王家の王子という二重の青い血をもつ。
バシルの息子とは思えない穏やかでやさしい人物であるという。

??

皇女　茄里
その存在が遂に明らかにされたフィルモア帝国、皇位継承1位の女性。
元老院が、フィルモア帝国がひた隠しに隠す、「最後のカーテン」である。
完全直系の王女のため、その存在は一般帝国民はおろか、元老院、筆頭王家、構成貴族にすら知られておらず、彼女が今どこで何をやっているのか知る者は元老議長、そして帝国皇帝のダイ・グだけである。
王女ではなく「皇女」と呼ばれていることこそ、フィルモア帝国の正式なる皇位継承者の証である。その名は剣聖慧茄から1文字をもらったもの。
後の帝国元老議長。

フィルモア・イースト（ドナウ帝国）

ドナウ・ガァ・アルカナス・ブラウ皇帝

ドナウ・ガァ・ブラウ皇帝
ドナウ帝国最後の皇帝であり、サイレン統合皇帝の実兄。
ブラウ・フィルモア王家の始祖。

サイレン皇帝（フィルモア1）
統合フィルモア帝国初代皇帝
ドナウ・フィルモア新王家筆頭家長。
皇帝としての権力を世襲によって維持させないために、生涯独身を通した。

ブラウ・フィルモア王家
（統合フィルモア帝国母体王家）
ブラウ・フィルモア王家はフィルモア帝国初代皇帝のサイレンの兄で、ドナウ帝国最後の皇帝ドナウ・ガァ・ニーゼルと太陽王国王女プリンシパル・レーダースとの婚姻によって再融合した。
この婚姻によってブラウ・フィルモア王家が誕生した。

ヨミ・ルーカ・レーダー・フィルモア2
ブラウ・フィルモア王家宗主。
星団暦2000年初頭の皇帝である。
フィルモア1ことサイレン皇帝から1000年以上もの時を経て、正フィルモア王家から皇帝が誕生した。このことからも帝位1位をもつ王家であっても皇帝には滅多に選ばれないという認識を帝国に定着させた。

エラルド・フィルモア王家

アンデ・ファウ・フィルモア3
エス・ニー・フィルモア王家宗主。
エラルド系列とは別のブラウ王家筋の皇帝となる。

ド・ラ・フィルモア家

剣聖慧茄

フルダ・ダイ・グ・フィルモア4
フィルモア2からは久しぶりの約700年後のブラウ系列皇帝。后の慧茄は剣聖であると言うだけでなく、当時の詩女、ボルサを姉妹に持つ超帝國血統である。

ニーゼル・ブラウ女王
ドナウ帝国直系及び、ボルガ・レーダー王家の血を引く全フィルモア王家の筆頭王家家長。
帝国内でも最も強大な発言力をもつ。
この人物は「双頭の竜」の紋章を引き継いでいる。

ノーランド・フィルモア
フィルモア4と慧茄の息子。
ダイ・グの父。

エラニュース・ダイ・グ・フィルモア5
現フィルモア帝国皇帝。
現エラルド・フィルモア王家当主。
フィルモア王家は見てわかる通り、歴代帝国皇帝を出す度に新しい王家が生まれている。初代皇帝サイレンはブラウ王家の筆頭で、フィルモア2はエラルド・フィルモア王家をフィルモア3はド・ラ・フィルモア王家を作った。
2のエラルド・フィルモア王家はフィルモア4と現在のダイ・グを選出し、そのために新たな王家は作られてはいない。

フィルモア帝国元老院

帝国議会とは別に運営される王族貴族、重要人物たちだけで構成され、その議員の選抜や登用などは元老院の中でのみ行なわれ、一般国民は関与できない。多くの国は上院、下院や衆院、参院などといった2院制という議会形式をとるが、専制君主の場合は一般的な国家運営は議会に任せ、国家そのものの運営や君主の決定などは「元老院」がその決定を行なう。A.K.D.などは上院と下院に分かれて運営されているが、その2院とは別に元老院があるのはアイシャの発言でわかる。A.K.D.の元老院は専制君主である天照王朝の予算や運営を決めていくために存在し、わかりやすく言えば天照帝がもっているおさいふの中身をどう使うかを決定している。天照個人のお財布の中身をどうするかなどは一般的なA.K.D.国民には関知しないところなのでA.K.D.議会とは切り離されている。ただ、天照のお財布は東方10カ国の土地から生まれる税金やその産業の利益など、A.K.D.そのものの国家予算よりも多い。メナーがワスチャに見せたブラックカードはこの端末で、たぶん銀行預金にして数百兆円は入っているはずである。それすらたぶん天照のお金の一部だろう。

フィルモア帝国の元老院はそれとほぼ同じで、膨大な王家の調整や皇帝選抜などを行なっている。いちいち帝国議会の承認を取っても仕方がない政を扱っているのである。

皇帝などが一般国民の選挙で決まってしまえば民主議会政治の最大の弱点である「選挙はただの人気投票」になってしまうからである。国家の財政や外交や福祉など、国民に調子のよいことを言う人間が代表になってしまうのである。これでは国家が腐敗するのだ。

元老院は初代皇帝の帝国創立の意志を守り通してきた。星団最大の軍事国家ということは我々の地球に当てはめれば軍主導国家でもあるということである。フィルモアは騎士が統治する時代が多く、騎士でもある皇帝を多く選んできた。それはやはり軍事国家たる由縁でもある。そのため騎士偏重の政治が続けば騎士ではない、または文官気質の皇帝を選出し、バランスを取ってきた。口で言うのは簡単だが、各主家や騎士たちを納得させるのは大変である。そのための調停役としてバルバロッサ主家が中に立ち、時には疎まれ、憎まれて帝国のための元老院を支えてきたのだ。

貴族とは「統治する土地をもつ者」のことである。決して王様が血縁だからとかお金持ちだからとかで貴族と呼ばれるわけではない。フィルモア帝国も同様、国内外に貴族の数だけ統治領がある。この統治領を広げるのも失って貴族でなくなるのもその主たちの采配、才能である。

一般的にはその領地の主の家族や親戚も貴族と呼ばれるが実際には統治するのは主だけで本来の意味での貴族は各家一人しかいない。帝国元老院はその貴族たちの中でも強い力をもつ貴族たちで構成されるが、それだけだとただのパワーゲームになってしまうので、元老院議員は貴族以外のメンバーも数多くいる。GTMガーランド系列のブラウニーAG家系や、騎士家、下院の帝国議会を含めた発言力の強い者たちもいる。彼らをまとめ皇帝に進言するのも元老院だが、それに至るまでの調整をバルバロッサ王家が行なっているのだ。

そしてもちろん、2院制であるために、元老院の決定が覆される審議もある。これはどういうことかと言えば、元老院議会での最大発言者、つまり「皇帝」が元老側ではなく帝国議会側の審議を支持すれば元老院の決定は覆されてしまうということなのだ。これが専制君主である。ただ、帝国議会に審議されない元老だけの執政もあるということなのだ。皇帝選抜やそれに伴う帝位継承順列、貴族序列などがその筆頭である。

しかし、その皇帝の決定も危ぶまれているのだ。それはなぜかと言えば、「アルク・レーダー」が司法長官となったからである。

さっぱりわからないと言われても仕方がないが、アルク・レーダーはティルバー側の人物であり、バルバロッサ家についていることがわかるはずである。

「司法」とは何かと言えば法律である。で、この司法に司られる国家が「司法国家」である。司法国家なんて聞いたこともないという方がほとんどかもしれないが、地球にもその司法国家が存在する。「アメリカ合衆国」がその司法国家とも言え、国政の多くが司法によって動いているのだ。大統領選挙の最終決定すらちょっと前の選挙では合衆国最高裁判所が裁定を下している。議会でも国民でもなく、最終的には裁判所が大統領を決めたのだ（いろいろともつれ込んだからであるが）。意外と知られていないが司法国家とはこういうことだ。

これでおわかりの通り、本来司法とはものすごい力をもつところなのだ。その司法をバルバロッサ側が押さえているということは、今後皇帝の裁定すら覆される可能性があるということなのである。

帝国元老院
軍事国家や専制君主、貴族支配の国家においては「みんなが平等、公平」などということはあり得ない。それが顕著に表われるのが元老院の会議においての「議決権」である。これは皇帝は10%もの議決権を一人でもち、ブラウ女王ならば配下の全フィルモア王家を統括した20%もの議決権をもっている、ということなのだ。
つまり皇帝、ブラウ王家、レーダー王家、バルバロッサ王家だけで過半数を超える議決権をもち、下位の貴族たちが結託しても絶対に議決の決定は左右できないということでもある。
もちろん皇帝と3王家がすべて合意するということもなかなかないのでそう簡単には決定されることはない。
しかし、実際には専制君主国家ならではの皇帝の決定にすべて従うという慣例も多いので、やはり皇帝の意志が最も強力である。そのためには皇帝の意見をどう自分たちに有利にもっていくかが各貴族たちの思惑である。
ちなみに天照王朝の場合は、天照帝は100%の決定権をもっているので、おっとろしいことになっている。天照の場合は上院下院、元老院すべてにおいての決定権である。でも、「神の決断」が下りることはほとんどない。これは「完全専制君主」と呼ばれる。

元老院のメンバーは多岐にわたるが、現在登場しているキャラクターでは以下のメンバーである。

円卓の騎士
元老院最大の謎。彼らがいつどこにいるのかはまったく明かされていない。その名も「エルダー・オブ・ジャッジメント」。裁きの騎士である。

皇帝フィルモア5
当然ながら最も強い発言権をもつ。

剣聖慧茄
太皇后でもある慧茄も自動的に元老院のメンバーである。

アドー・バルバロッサ
現在元老院を取り仕切っている。

前皇帝レーダー8
前皇帝は自動的に元老院のメンバーとなる。発言力は強いが、隠居状態なので会議などには出ていないようだ。

アルク・レーダー
元老院のメンバーではない。司法代表として出席しているのである。下のド・ラに代わり司法長官となった。

ティルバー女王
元老院の中枢。
元元老院議長。

アビエン・ヒートサイ
この4人は現在役職を引退し、元老院からは距離を置いている。とはいえ議決権は維持している。

ド・ラ・フィルモア

バルミドラン・シャープス

スティール・クープ

バシル・バルバロッサ大王
BASHIL BARBAROSSA

身長182cm　体重 110kg

バルバロッサ王家、現当主。
アドーによればバシル王はすでに隠居し、バルバロッサ王の名をアドーに渡したが、自らは「大王」と呼んでいる。
噂では皇位１位の茄里を手元に置いているらしいが、その目的は不明で不気味である。
バルバロッサ王家の役目である帝国への苦言と各王家の調停と元老院の調整、これらが長年になってきたからの野心なのか、それともその野心が長年の積算となって権力の掌握に動いたのか、このバシルの感情のない目からは何もわからない。
アドーらの暴走はバシルも関知していないのかもしれないが、それは予定通りなのかもしれない。

見た目よりも非常に信義には厚くあらゆる人々に寛大で優しい物腰で応対する。
だがやはり彼の目からは何も読み取れない。

アドー・バルバロッサ王
ADO BARBAROSSA

身長178cm　体重78kg

バシルの甥筋にあたるのがこのアドー・バルバロッサである。それまで議会においても表に出ることのなかったバルバロッサ家が突如として議会を仕切り始めたのは魔導大戦の勃発だけではなく、若いダイ・グ皇帝とその役目が表面化したためであろう。
現在の元老議長であるが、その前はティルバー女王であった。元老院の議長は持ち回りという比較的穏やかな取り決めであったのだが、ティルバーのそれまでの発言を見る限りはすでにバルバロッサ支配に向けて動いていたということであろう。
ナカカラで元老議会を開き、ブラウ女王まで呼び寄せたあの会議には、元老院と帝国を今後動かしていくのは自分であるとの表明でもあったのだ。
下院である帝国議会のミヤザを呼んだのもすべて彼の計算ずくである。

と、まあ、いやな雰囲気バリバリのアドーさんですが、こういう人物は絶対に何があっても生きながらえていくはずなので、どーんな悪役でもたぶん死なない。きっとこの人物なりの幸せな人生を送るのであろう。
腹も立つが仕方がない。それこそが貴族の見本!!

アネッサ・ティルバー バリトー女王
Queen BARRITO' ANNESSA TILBUR

身長163cm

……。
いや、シリアスに延々と書いてきて、ここらで一発落としておかないと読んでいる皆様も疲れるだろうからと……うそです。
…すいません、描きたかっただけです。ごめんなさい。

フィルモア帝国元老院の参謀的な女性で、アドーの片腕としていろいろと動き回っている。本人も言っていたとおり元軍参謀で、その功績から若くから元老院のメンバーとして登用された。元老院では古参の人物である。
ボルガ・レーダー家系のバリトー王家の女王で、広大な領地も持っている。この見事な悪役ッぷりをアドーとともに最後まで頑張って欲しいものである。

これでフィルモア帝国近衛兵学校の制服は全季節登場である。暖かい季節はスカーフが黄色となる。このスカーフは全季節を通じて胸元の中心できっちりと結ぶ。フィルモアの夏は短いので華やかにということなのだろう。
ティルバーはこの頃まだ王女で、兵学校は大学部の科目のみ参謀科である。と、簡単に言っているが兵学校と呼ばれる軍士官学校では参謀コースは超エリートである。士官学校は将校を育成するところだが、参謀コースはその名もズバリ「軍司令官」を育成する特別な科である。つまり、会社で言えば社長コースである。
年は地球年齢で17歳くらいだろうか。それくらいで参謀科にいるのだから彼女の頭は相当なものである。騎士ではないので騎士科ではないが、通常の学校は飛び級をしているのであろう。通常参謀科は将校となった者を再教育するためにある場所だからだ。「DESIGNS 1」でも書いたが、参謀は中佐からスタートする。
彼女は高校生だが、参謀コースのみ大学部から取っているのだ。これも飛び級のひとつである。
このあと高等部を卒業後、軍参謀見習いとなり、少尉から大尉まですっとばして少佐から軍歴がスタートしている。
王女で女性とはいってもフィルモア帝国は情け容赦なく鍛え上げる。一般兵以上の厳しい軍事教練も男同様こなし、若く参謀となった彼女は男顔負けの冷静さで、内戦や介入戦に実戦参加しそのフィルモア参謀ティルバーの名は星団の軍人ならば一度は聞いたことがあるとまで言われる。実際、A.K.D.の参謀でミス宇宙軍の夫であるトッカータ少将(昇進している)もまだ宇宙軍少尉のころに共同演習でしごかれたという。
ティルバーは家の騎士の血の強化のためにナイアスを養女にし、今はそのナイアスを手駒として使っている。また、軍出身という経歴なので、フィルモア騎士団と軍にはかなりの発言力をもつ。

で、高校生のティルバーさん。
すでにトレードマークの扇子を持ち、ちょっぴり恥ずかしそうなのが可愛いが、まさか彼女も遙か昔の高校生の自分を描かれるとは思っていなかったであろう。悪役は得である。

アネッサ・ティルバーさん
好きな科目：戦略理論と戦術理論の矛盾。国語。
　　：手芸。

好きな食べ物：代官山春水堂のタピオカミルクティー。
　　：エルメのイスパハン。

と、いうことで、ナイアスにイスパハンを教えたのはこの方である。あと、次回ナイアスが再登場するときは再び、「連載時においての最強のスィーツ」を登場させる。ご期待あれ。たぶんその頃でも知れわたっていないはずだ。

ダイ・グ・フィルモア皇帝
Emperor DAI GU FILLMORE 5

身長195cm　体重 80kg

レーダー８世の跡を継いでフィルモア皇帝となったエラルド・フィルモア王家の出身。
ダス・ラント時代から数えて238代目の皇帝となる。古から続くフィルモア帝国だが、帝国の分離時には２人の皇帝が存在していたためにその分皇帝は多い。
とはいえ、フィルモア帝国は「血統によって皇帝を決めない」という不文律があり、これは遵守されてきた。
ブラウ王家直系筋の血統で、祖父はフィルモア４である。またその后であった剣聖慧茄を祖母としてもつ。
統合後２千年以上経つが、この間にブラウ王家筋が輩出した皇帝はダイ・グを含めたったの５人。太陽王家側のレーダー王家筋は８人なので、直系の皇帝の少なさはフィルモア帝国という巨大なシステムがきちんと機能している証拠でもある。

しかしここ300年の皇帝は、ダイ・グの祖父であるフィルモア４、そしてレーダー８と連続して直系王家系列の皇帝が輩出されている。
これはフィルモア帝国の鬼門と呼ばれている「いずれ近いうちに帝国をどこかほかの星に移住させなければいけない」という暗黙の了解があってのことである。
カラミティ星は現在も人工太陽や人工的な気象システムによって生命を維持しているが、星が冷え続けているのは確かで、AD世紀からわかっていたことでもあった。
この枕元の上の剣の状態を続けてきた帝国は、ダイ・グにその重責を負わせることになる。
目的はかつて帝国領であったボォス星のナカカラ王国を含む中原一帯。
詩女をその血筋にもつダイ・グは政治的にもその条件にはまり、王家筋の皇帝がなぜ連続して皇帝となったかをすべての帝国民もうっすらとわかっている。祖母の慧茄は詩女ボルサ・バスコの妹でもある。
そしてその長きにわたる動きが元老院の力を強めることにもなってしまったのだ。
ダイ・グは若い皇帝故にその思いが強い。ミノグシアの安定という強いダイ・グの意志はエラルド島時代に培われたものだ。
彼を支え支持するものは多いが、どれだけ支持者がいようとも支えきれるものではないこともわかっている。

いけにえ〜サクリファイスとは本当はダイ・グなのかもしれない。それ故、総本家でサクリファイスのブラウ・フィルモア女王も全力で彼を守っているのだ。
ダイ・グはパートナーのチャンダナについこぼしてしまう。「エラルドはよかったね」。
生まれた時より皇帝になるまで過ごしたエラルドには母も慧茄も、チャンダナも、なぜかイオタのジャコーもよく遊びに来ていた。そしてダイ・グを兄のように慕う黒髪の少年もずっと一緒にいたのだ……。

ハイランダー・クリスティン・V
Highlander CHRISTINE-V

身長178cm

ハイランダー。パートナーは町で、皇帝騎のGTM「ホルダ19メロウラ」を駆る。
幼い頃の凶状によって、一生を帝国に捧げる誓いをした少女。現在地球年齢で17歳くらいである。帝国では高校生としての生活もある。しかし当然だが今は休学してナカカラに赴いている。
彼女には他の人間がもっている基本的人権はない。騎士であり、その過ちに対する生存の代償として彼女は基本的な人権を放棄した。最低限の生活保障、自由、選挙権などが彼女にはない。
もともと騎士という特殊な戦闘人間には特権も与えられるが、その代償に基本的な人権は制限されている。「生存の権利」がないのだ。
半人間、半兵器として扱われるのが騎士である。クリスはそれ以上の制限を課せられている。「帝国の犬」として人として扱われない彼女はミヤザや元老院に兵器としてのみ酷使される運命にある。もちろん普通の人間としての生活も恋も許されない。
クリスティンはV家という強い騎士の血統に生まれている。シャンディーのところでも述べられているが、古くはハロルドラントのマーカス王家の血筋である。
V家はレーダー王家の下につく騎士家であるが、この強い騎士の血を狙う貴族や政治家は多い。
つまり、クリスに子を産ませ、その強い血を自分たちの家の血として欲しいということなのだ。

帝国の多くの貴族家はこの騎士の強い血が欲しいためにかなりの養子縁組が行なわれている。ティルバー家の養女であるナイアスもそうである。
元老院や貴族の思惑とクリスを妾、愛人にしようとする帝国貴族たち。そしてそれだけではない。
帝国には凶状持ちであるクリスが大戦最大のエースとして、またその美貌、ダイ・グとの仲などで持ち上げられ人気が出ることを望まない者たちもたくさんいる。これは帝国の貴族だけではなく一般帝国民にも数多くおり、クリスがその任務「帝国のために死ぬ」ことを、つまり大戦で早く戦死することを願う人々も多いのだ。
凶状持ちには速やかな戦死を。または愛人として子を産ませる。このふたつのとてつもない大きな圧力にクリスはこれからどう立ち向かっていくのだろうか。

ブラウ・フィルモア女王
Queen of SCHOLTI BRAU FILLMORE

身長185cm

フィルモア帝国の「最後のカーテン」と言われるブラウ女王である。表に出ることはまったくない帝国王家の総本山であるブラウ・フィルモア王家の君主。
ブラウ王家には独自の騎士団が存在し、このブラウ王とブラウ王家を守ることを使命としている。
その出で立ちは大きな黒と白のストライプで、かつてのドナウ帝国の親衛騎士団とまったく同じ姿であるという。
感情をまったく出すことのない人物で、その威厳と威圧に満ちあふれた姿は帝国元老院の誰もが畏怖する存在である。
ブラウ女王はサクリファイス・ニーゼルの本来の姿で、元老院から畏怖されているのはその騎士の血でもある。帝国の誰よりも強いと言われるその力は慧茄のみが知っている。帝国最強と言われたヒートサイもブラウ女王の剣に対する思いは誰よりも強いと言っている。
また、何かの決まり事なのか、ニーゼルの時は古のガット・ブロウを、ブラウ女王の時には大きなこれまた古い指輪を右手にはめている。

フィルモア帝国の皇帝や王のトレードマークとなっている羽布団帽子だが、見た目よりもずっと軽い。絹の帽子だが、中には最高級の羽毛が詰まっている。軽くてぱふぱふの帽子なので、形が崩れないように骨組みが入っている。

本名は「不定」である。フィルモアの名がつく時は王家を代表する時にのみつけられる。名前も名字も一定の法則でつけられてはいないのは天照家も同じ。また、場所によって呼び名が変わってしまうのもたくさんの名前を引き継ぐ王家ならではである。また、この「不定」の名は現皇帝のダイ・グも同じで、本人もどれが名前かわからないと言っている通り、場所や立場によって呼ばれ方が変わってしまうのである。ダイ・グの場合は皇帝名として「エラニュース・フィルモア5」だが、なぜか普通に「ダイ・グ」と呼ばれている。
ちなみにブラウ女王の英語での呼び方は「クィーン・オブ・ショルティ」である。フィルモア全土とクバルカン法国を含むショルティ大陸の女王という意味だ。これもまた正式な名前でもある。

“サクリファイス”・ニーゼル
“Sacrifice” NEEZEL

身長185cm

フィルモア帝国にはその長い歴史の中で「サクリファイス」と呼ばれる人物がいる。
「生け贄」と呼ばれる人物がいったい何の目的で、何のために存在するのか、またサクリファイスそのものは一般的にはまったく知られていない。また、サクリファイスはいつの時代にもいるというわけではなく、不在の場合も多く、いったいいつ頃からいるのかもわからない。これは元老院の隠匿性によるものである。
また、基本的にサクリファイスは帝国の最強騎士の代名詞でもあるため、当然ニーゼルの前はアビエン・ヒートサイがその役を担っていたのかもしれないが、ヒートサイがサクリファイスであったかどうかは今はもうわからない。
ニーゼルがフィルモア帝国の最強騎士と言われるのはヒートサイがレーダー前陛下とともに隠居に入ったからである。

また、サクリファイスの役目のひとつは「皇位１位の人物を守る」ということがあるが、現在皇位１位の皇女「茄里」はバルバロッサ王家のバシル大王の下にいると言われている。これはサクリファイスの関知しない域に茄里がいるということで、帝国内のパワーバランスに変化があったということでもある。

※図に収めるため恒星(太陽)の大きさ、衛星間の距離は実際とは異なる
※スタント遊星は上の４つの太陽系よりも巨大。太陽惑星ナインを回る衛星「環」と「信」の大きさは大体デルタペルンと同じ
※不定出現惑星「超」はジョーカー星団でも実際に確認された記録はない。伝承のみの惑星として知られているが、スタント遊星が不定軌道なのはこの「超」の重力圏によるものと言われる。
　スタント遊星は真ん中の太陽、「無」を中心に紫外線放射光を放つ巨大な太陽スタントと、「超」が引きあいながらゆっくりとジョーカー星団の回りを螺旋状に回っていると言う仮説が有力である。
　スタント遊星の各惑星、衛星の名は「エンシェント・ディメンジョン・センチュリー」(ＡＤ世紀)に付けられたもので、本当は別の名をもつかもしれない
※ジョーカー太陽星団の英語表記は以下
Joker Star Cluster (Star cluster is Agreement of solor systems of Jokere 5 solors with those planets)

Characters Designs 4

ワスチャ・コーダンテ(ちゃあ・ティ)
Imperial Princess WASCSHA CORDANTE

身長175cm

天照家王女。幼名は「ちゃあ・ティ」。
今まで本編でも「DESIGNS」でも「ちゃあ」で通してきたが、プロムナード3のエンディングとともに「ワスチャ」として物語中でも作品集でも扱われる。とはいえ、物語中では相変わらず「ちゃあ」のままである。
巨大な天照王朝の中にあって武家の「右大臣」とも呼ばれるコーダンテ家。その跡継ぎとなる王女である。
彼女が他の天照家の王女とまったく異なるのは英語の肩書きを見れば一目瞭然である。
現時点では姉のアイシャが「Queen」なので、ワスチャはアイシャよりも格上となる。
とはいえ、現在の王朝内ではコーダンテ家の地位が非常に危なくなっており、長年続いたコーダンテ公国とその領地、天照王朝の筆頭王家としての地位は風前の灯火とも言われている。それは姉のアイシャの王朝追放とも呼べるコーダンテ家の家督の剥奪。グリース首相の降板、ルーマー王国へ女王として赴任、など、確実にアイシャは天照王朝から遠ざかる立場にある。そのアイシャもミラージュ騎士としてカステポーに移動しており、浮遊城を守っているのは実質的に元老院と斑鳩王子、ハインド、ルンくらいで、確かにほかにもミラージュ騎士はいるが、ほぼ全員が高校の授業で忙しく、公務には就いていない。
言わずとしれた、バナールや、タイトネイブ、キンキー、メナー、おまけのツバンツヒで、こいつらは元老にも王朝にも「一人前」としては認められていない。
ワスチャは物語中でも言われている通り、王女としての格も、騎士としての力も最低以下と言われ、天照王朝ではほとんどワスチャの存在は無視されている状態である。
そんな絶望的な状況から逃げるようにワスチャは家を離れ単独でフェイツ公国のルミナス学園で学園生活を送っている。当主の跡取りが公国を離れたことで、王女不在のコーダンテ家の地位はもはや風前の灯火。
ただ、そんな彼女でも家のことを考えているのか動乱のハスハにおいて実戦に出るが、結果はあの通り。
ただし、このワスチャの行動はお家のために騎士としての腕を上げるという目的ではなく、もっともっと個人的な思いで彼女は身の危険も顧みず、戦場に出たのだ。

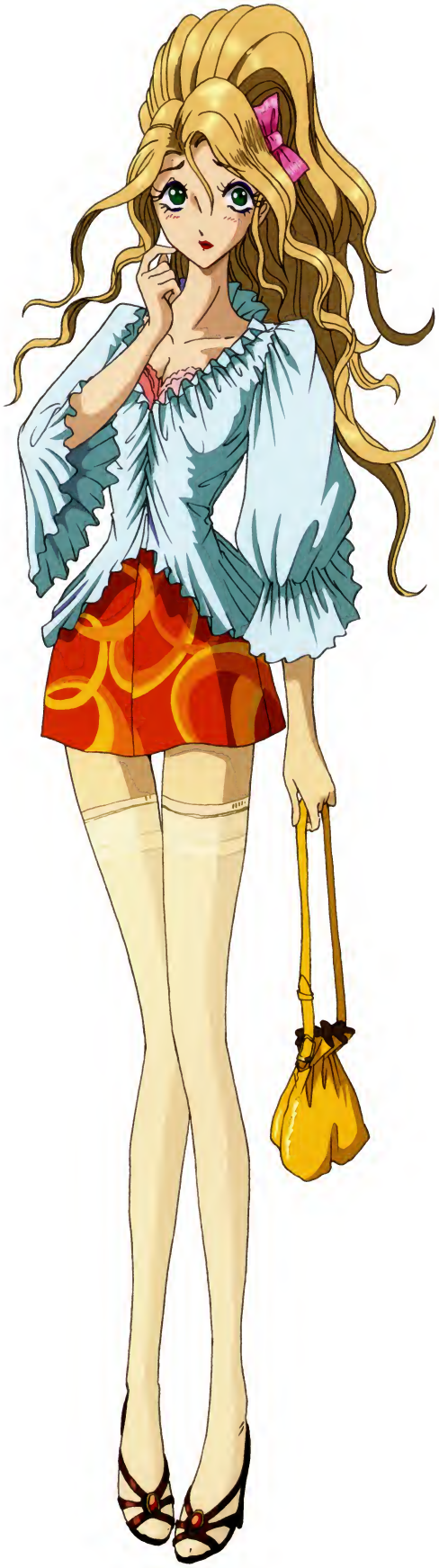
ワスチャの持っているガット・ブロウはミラージュ騎士のヴィーニッヒだが、これは天照から渡されたもので、この血の十字架のガット・ブロウがどういう意味をもつものかワスチャはまったくわかってはいない。
ミラージュ騎士にとっては「天照の代理」の証で、A.K.D.天照王朝においての最高権力なのだが、ワスチャにとっては「もらい物の短剣」くらいにしか思っていない。
本人はミラージュ騎士ではないし、知ったこっちゃないというところだろう。
とはいえぇ〜、もちょっとましな持ち方はできないものか？　これでは傘扱いである。

シトロン・メナー
Princess XITRON MENNOR

身長178cm

天照王朝、メナー家王女。
グリース王国の内宮内にある高校、王立内宮高等学校、騎士科の女学生。
ハスハ動乱において、単身ミノグシアに向かったワスチャをサポートし、守るために天照から派遣された。
この時にミラージュ騎士として正式な入団をしている。
現時点でパイズビスよりも新米となる。すぐあとに新入りのツバンツヒがやってくるとはいえ、新品のミラージュ騎士である。
ワスチャに言われた通り、いかなる場合においても冷静な彼女はその感情を表に出さないことで、昔から「フリーズ」というあだ名をつけられていたが、これがそのままコードネームとなった。

ミノグシアにおいても彼女は高校の制服のままで何とも緊張感のない姿である。朝、髪のセットの時間が無駄と、いつもベレーをかぶり、平日も休日も制服で過ごしている。たしかに学校の制服は平時でも有事でも戦場でも、冠婚葬祭でも、褒章式典や戴冠式などにおいてもどこでも「礼服」として通用するので、彼女の言うことはもっともである。
ただ、メナーにとって頭が痛いのが、高校を卒業してしまうと、この制服一点張りが効かなくなり、天照家とミラージュにおいてどれだけの服の着替えが必要なのか考えるだけでも頭が痛くなるので考えないようにはしているらしい。
ワスチャの護衛としてミノグシアにいるが、魔導大戦が終わってもメナーはワスチャの側近的な役割でコーダンテ家と天照王朝に仕える。メナー家そのものが後にコーダンテ領に引っ越してきたくらいメナーとワスチャのつながりは強くなっていく。



リリ
Ri Ri

身長185cm

めちゃくちゃな人。
何から何までめちゃくちゃな人である。
なので、「こいつ」呼ばわりでいいだろう。
プロムナード３で登場。
頑張りすぎて、ブラジャーは丸見えだわ、着ていく服を選んでいるうちにどんどんスカートの丈は短くなって、太ももむき出しになっちゃったけど、それでも一生懸命息子に嫌われないために頑張った結果である。
なんという愛らしい女性だろうか。

彼女の息子に対する態度は異常を通り越して狂気をはらんでいる。母親ではなくなっている。でもこれは仕方がない。
彼女には息子なのに息子でないものが見えているからである。母として息子が息子でなくなったとき、できることは何なのだろうか？
でも、単純に可愛い人である。男に引く隙すら与えないあの連続攻撃は見事すぎる。
「でっかく描かれた目のメイク」→「盛りすぎ感丸出しのヘア」→「縦ロール攻撃」→「パット２枚入れて上げ底＋寄せ胸だが丸出しの胸元と丸見えのブラジャー」→「太もも丸出し」→「おまけにニーハイではなくひざ上ストッキングも丸見え」→「それによる絶対領域攻撃」→「もじもじ」→「ドキドキ」→「相手の言葉尻を捉える突っ込み」
……と、この手の服装はヤンキー姉ちゃんたちに「武装ドレス」と言われるのも当然である。
あと、細かいことだが、連載でもこいつを描くのめんどくさかったのはよりによってスカートが「シャネルのパチもの」で、それの何がうざいと言えば、ホンマモンのシャネルはスカートの縫製ラインに柄が１ミリも狂わずきっちり合わせてあるのだが〜〜、こっちはパチものなので合わせ目で柄が合っていないのだ。ずれているのだ！　ここ、これがもう大変でいやになった。
あのあとジークと長く過ごしすぎて、どこかの井戸端会議に遅刻しそうになったが、なんとか間に合ったようだ。
たぶん迷惑を顧みず700mくらいある巨大戦艦でぶっ飛んでいったのだとは思うが、ムンスターから10分くらいで到着したらしい。よくこの髪型を帽子に押し込んだものである。

で、まあ、強い強いと言っているこいつだが、どんくらい強いかを言っても「またか」とか言われそうなので誰にでもわかる例えをする。
「ジークを守ろうと戦うこいつは、天照を守ろうと戦うアイシャとまったく同じ強さである」。
……強いわ。これはマジでつおいわ！　剣聖だってやばいわこれ！
リリはかつて剣聖慧茄と３回も戦って、手も脚も胴体もバラバラにされかけながらも生き残っている。生命力もハンパではないようである。
ややこしいと思うので、現時点での設定、物語すべて含めた「人間の騎士」の強さは以下。

１：剣聖マドラ
１：剣聖慧茄
（同格）
３：アイシャ
３：こいつ
たぶんほぼ同格。ただし、特定の人間を守るときのみの強さであるが、特定の人間を守らないときにおいてもあまり変わらないはずである。
除外：
ログナー
ラキシス等
この２人は人間ではないので入らない。
また本当は１位にはもうひとり特殊な人間が入る。デブレだが、マグダル不在の今、昏睡中なのでこのランキングには入っていない。デブレの強さは父親と同じである。また、すぐあとに１位はマキシが来るが、後にマキシは「姉上がいるデブレ兄さんに勝てるわけがないでしょう」と言っている。

ということで、女性ばかり４人が現在星団最強の騎士である。男性陣にも頑張っていただきたいものだが、この４人以下だと、順不同でだいたい以下である。
黒騎士デコース
イゾルデ・サヤステ
ランド・アンド・スパコーン
ジャコー・クォン・ハッシュ
クリスティン・Ｖ
エルディアイ・ツバンツヒ
以下、天位持ち騎士たちに続く。

イゾルデ・サヤステ太閤
Governor ISOLDE SAJASTE

身長195cm　体重108kg

クバルカン法国サヤステ家現当主。
サヤステ家に関してはルドルフに詳しい。
イゾルデは最も新しい当主で、女性ながらその剣の腕は法国一である。ただ、法王枢機卿騎士団の「ルーン騎士団」は伝統で男性ばかりで構成されるためにイゾルデは騎士団長ではなく、法国筆頭騎士とだけ呼ばれる。クバルカン法国にはノンナ・ストラウス大神官率いるローテ騎士団というこれは女性ばかりの法王神官騎士団があり、これでバランスをとっている。
法国最強の騎士として使用するGTMは特殊なMk4マッハ・シャルトマで、ツバンツヒ博士の設計した変形GTMである。色は白と深紅で、すぐに判別できる。法国の旗騎GTMである「破烈の人形」を使用することのできる立場でもあるが、そこはちゃんとミューズを立て、自分が使用していたMk4を使い続けているが、魔導大戦終盤には彼女が「破烈の人形」をもって出陣する。パートナーはバルタンである。

初登場時は誰よりも早くワスチャとジークを守ろうとする別の２人に気がついた。たぶんその後ろで見ていたメヨーヨ大帝もイゾルデの動きに気がつき、すぐにルーン騎士団を下げたのだろう。
イゾルデが誰よりも早く気がついたのは気配などという曖昧なものではない。メナーがバイオリンケースを開ける音の速さと、すぐそれに続いた足を組み替えた女性の動きの速さである。そのヒール音と空気の振動に気がついたのだ。これだけで気がついたのはイゾルデだけで、ほかの誰も気がついてはいない。サンダルの女性はイゾルデに警戒を促したのだ。
なぜならそれほどの動きをするサンダルの女性がヒールの音をわざと立てたと瞬間的に本能で気がついていたのだ。もっとも、イゾルデもルーン騎士も事を起こす気はまったくなかったので何があっても変わらなかったであろうが。

イゾルデは歴代のサヤステ家筆頭騎士がもつ「ガット・ブロウ・ラングン」を受け継いでいる。この剣はもともとドナウ帝国のハイランダーである証明の剣でもある。
非常に刀身が長いので扱いづらく、滅多にないであろうが、自分と同等の強さを持つ騎士と戦うときにははっきりいって不利である。
たぶんあの時、イゾルデは自分を猛省したことだろう。「戦場ではどんな奴がいるかわからない。絶対なめてはダメだ」と。実際フィルモア帝国最強の騎士と戦うハメになったかもしれないからである。リリ相手にこの長いラングンでは圧倒的に不利なのだ。
それ以後、イゾルデはもう一本、通常のルーン騎士のガット・ブロウを持ち歩いている。これで二刀流にも可能だが、イゾルデすらも実戦では頑張って修行しているのだ。

ちなみにあの時メナーよりリリのほうがわずかに遅れて動いたのは、イゾルデへの威嚇だけではなく、ミラージュとはいえまだ実戦経験の少なそうなメナーを引き留めるためである。

ナルミ・アイデルマ
NARUMI IDEELMAH

身長184cm

「アクト５・ツラック隊」の主人公。登場人物全員を引っ張っていく本来の主人公の立ち位置そのまま。この作品では珍しいちゃんとした主人公である。
まだ若き女性だが、3030年の魔導大戦勃発でハスハントのすぐ北にあるベラ国はハスハ首都ベイジから放射状に広がっていく枢軸軍の猛攻に巻き込まれ多大な被害を出していた。ベイジ陥落とともに攻勢は若干おさまったが、ツラック隊は見事に分断され孤立。
AP騎士もベテランや支隊長を失い、ベラ出身で在籍の一番長い彼女が支隊長として任命された。
大雑把な性格で、ある意味騎士団長としての適正はある。GTMの扱いも大雑把なようで、かつてのヤーボのごとく制服はいつも破れっぱなしである。その風体にあまりこだわらないためにラキシスに服の破れなどを直されている。
アクト５の中、彼女もいろいろな格好で出てくるが、こちらの場合はおしゃれとかではなく、戦場の軍人のいろいろな格好ということで、騎士団内の普段の生活が見られることだろう。

アクト５の後、ミラージュのアイシャとは連絡を取り合っていたようで、魔導大戦の最後まで登場する。

ファティマ・ビューリー
VIEWRY

身長156cm　体重37kg

ミース製作のファティマ。これはデカダン・スタイル。アンテナがピュンピュン飛び出ているのでアシリアと間違えそうですが、ワイドレンジ・ヘッドキャパシタではない、マントがない、ショルダーアンブレラがない等で見分けはつきます。
実際にはスーツの光沢が異なることや、そのスーツが透けていないのですぐ判別は可能ですが、イラストではわかりにくい。
デカダン・スーツでもGTMの制御は必要なので最低限の制御パーツ、頭のコンデンサ、肘のバニング・スタビライザー、靴のヒール・リンケージはデフォルトで装着されている。本編にはアシリア・セパレートでの登場が多いだろう。
ビューリーはミースの初期ファティマだが、マスターのナルミが3030年の初戦でファティマを失い、その後ビューリーを娶った。戦争になるとお披露目も簡略化され、速攻で実戦に入るため、ナルミはいったんベラを離れ、どこかのお披露目でビューリーをパートナーとしたのだろう。

エルディアイ・ツバンツヒ
L-D-I 20(ZWANZIG)

身長192cm

ジョーカー星団に再び戻ってきた、ストーイ・ワーナー博士ことツバンツヒ。ツラック隊にミースの伝言を伝えに来ただけだったのだが、そこはさすが数千年もの歳月を生き抜いてきた人物。なにか引っかかるものがあったのだろう。不利な環境での実戦だろうと彼女にはあまり関係なかったようだ。
実質的なツラック隊の切り込み隊長として数々の戦績をあげるもその後いずこかへと姿を消した。
なかなか珍しいAP騎士団の制服姿である。規律ではAPのガット・ブロウやロングブーツのはずなのだが、剣客的な立ち位置のために細かいところは私服のままである。ツラック隊のバーガ・ハリが異様とも言える稼動状態を維持していたのはソープの存在もあるが、その陰できちんとほかのGTMを見回っていたのは彼女である。そこらあたりはさすがガーランドの責任感というか壊れていれば直すという本能なのか。ともあれ、ソープもツバンツヒが修理に回っていたことは気がついてはいたようだが深くは突っ込まなかった。
彼女の本名はストーイ・ワーナーで、エルディアイ・ツバンツヒはカリギュラのコードネーム、LDI20をそのまま呼んだものである。
いつもしている彼女の頭飾りだが、これは両脇にまとめた髪の毛にかぶせるもので中国の民族衣装で見られるものと同じだ。彼女の頭はそり込んでいるわけではなく、脱毛ケアで毛根のない状態にしているだけでその後高校生になってからはちゃんと生え際は額になっている。何ともうらやましいジョーカーのケア技術である。目と眉毛の入れ墨も皮膚の色を変色させているもので、ケアしなければやがて消えていく。

ファティマ・"湖のオーハイネ"
"The Moon Lake OHEINE"

身長162cm　体重40kg

ツバンツヒのパートナー。称号付きのフローレス・ファティマである。「破烈の人形」のファティマでもあった。
たぶんサヤステ家にいたはずなのだが、現在ツバンツヒのパートナーになっていることを考えると、当時何らかの取引があったのか、「破烈の人形」や「マッハ・シャルトマ」の引き渡しや改良時点においてオーハイネがツバンツヒを見初めたのかはわからない。
オーハイネのアシリア・セパレートは完全なカスタム・スーツで類似のスーツはほかにはない。
スカートの中はバルーンパンツだが、スカートもサイドにスリットが入るコートタイプである。また、アシリア・インジェクター類もすべてカスタムで、ワイドレンジ・ヘッド・キャパシタの光学アンテナも独特の形である。

マスターとともに久しぶりに戻ってきたジョーカー星団。数多いファティマの中でもスタント遊星を知っているファティマは現時点では彼女だけである。
フローレス・ファティマだけあって、落ち着いた物腰とS型とは思えない安定を誇るが、実は相当お茶目である。その片鱗はツラック隊でも垣間見えるが、その後の彼女はと言えば……。
ツバンツヒをいろいろな窮地に貶めているのはどうも彼女のようであるとの噂がある。さすがフローレスである。

エルディアイ・ツバンツヒ
(ミラージュ騎士団服)
L-D-I 20(ZWANZIG)

身長162cm～不定

で、まあ、姿を消したはずのツバンツヒはこういう服を着るところにいつの間にかいたわけである。
ほぼ廃人と化して、聞くも涙、語るも涙……なのは見ている側で、本人はたいへん幸せそうである。そっとしておいてあげましょう。
身長は162cmで延々固定している。これは天照に「学生服姿がかわいいね」と言われて一生戻す気はないらしい。なのでツバンツヒはこのままである。高校生になってからは髪型もちゃんと普通に戻し、目の上の入れ墨も消してしまったので普通の女高生に見えなくもない。

で、天照の手下になってからはマーク２のところでも述べたとおり、玉子焼き器だの「旗竿ランス」だの「けん玉フレイル完全版」だの、天照が付け忘れたツァラトウストラ・アブターブリンガーのファティマ・ハッチの付け直しだの、ろくな仕事をしていないが、こっちのほうがまともな仕事ではある。
なぜなら、彼女がその後設計し作ったものは、恐るべき兵器であったからだ。それに比べれば玉子焼き器はちゃんとした一般社会に貢献する誇れる仕事であろう。
ツバンツヒが関わったもので有名なものはもちろんティーガー・フレームを使用したスピードミラージュの２騎、スカイアギフトとウーラソニックの製造や、その飛行システムを転用した「ザ・ウィル」の航行システムもある。しかし、彼女がかつて設計したものはもうひとつある。

そう、「連射可能なバスター・ランチャー、〝ラピデア・カノン〟」である。
マーク３が装備しているラピデア・カノンは２発の連射が可能なバスター砲だが、この連射可能なバスター砲を装備するもうひとつのGTMがあることを皆さんご存じであろう。
理論的にできあがり、とりあえず完成までしていた巨大な化け物GTM「天照家Ｊ型駆逐戦闘兵器、イェンホウとリョクタイ」のもつ２本のバスター・ランチャーは連射が可能なバスター砲である。が、実戦で使用するにはあまりにエネルギーの放射がすごく、実際何発連射できるかは天照ですらわからなかった。また、カートリッジシステムのチャージによるチャンバーの発熱があまりに危険で暴発の恐れが絶えず伴っていた。
ツバンツヒは「チェーンカートリッジ」システムを再設計し、ラピデア・カノンの速射システムを取り込み、大幅にそのシステムを変えた。
そして48発もの連射が可能なバスター・ランチャー「ツイン・グローサー・レンジブレーカー・KwK44」を生み出したのである。

ツバンツヒはラキシスとはまた異なる立場での天照のよきパートナーである。そのノリもラキシスに匹敵する。

イェンホウとリョクタイという名は開発コード名でその後も２騎を区別するため使用されているが、本当のＪ型駆逐戦闘兵器の正式名称はずっと非公開であった。だが、3159年の侵攻時にアイシャがその名を呼ぶ。そして初めてその名が明かされる。

ユーゴ・マウザー教授
Professor JUGO MAUSER

身長200cm～可変　体重90kg～可変

システム・カリギュラのGTMガーランド。
3030年、同じ組織に属するツバンツヒよりも早くジョーカー星団に戻ってきているが、その目的はツバンツヒとはまったく異なる。
バッハトマ魔法帝国に所属し、裏からバッハトマのGTMを支えているのかと思いきや……。
謎の彼の行動は「パート４」にて判明する。
GTMガーランドとしての名声もさることながら彼はツバンツヒと同じ人間である。つまり、「騎士でもある」のだ。
それはかつて「マーク２」を操縦していたことからもすぐわかることだが、ともあれ彼に戦いは挑まないほうが無難であろう。
流体繊維を使用したこの反射装甲コートはボスヤスフォートが着ていたものと同じで、バッハトマの高級指揮官たちの制服ともなっている。一種の形状記憶繊維で防御にも攻撃にも使えるのはすでにボスヤスフォートが見せている。

謎の組織、システム・カリギュラはまだその全貌を見せない。彼らに関しては次の「DESIGNS 5」において解説されることだろう。
だが、マウザーやツバンツヒなど、明らかにカリギュラの中でも別格の人間はその騎士的な強さにおいても別格のようである。現時点で語られることは少ない。
デコースの言葉を信用するならば、現在彼はバッハトマ本国で「ダッカス」の再組み立てを行なっているはずである。
ツラック隊の次のエピソードとなるトラフィクス３－１ではヨーンとジークのエピソードやパルスエットの物語となるが、マウザーやベールがここにからんでくる。ただ、この２人は次の７話の中心人物でもあるので、星団暦3100年がマウザーの本当の舞台である。

久しぶりの格好いい悪役である。ツバンツヒ同様今後の物語に深く関わってくる。そう、それは4100年まで……。

ブラックプリンス
NORGAN SIEGBOU
Der Schwalt Prinz von Antik

身長185cm　体重60kg

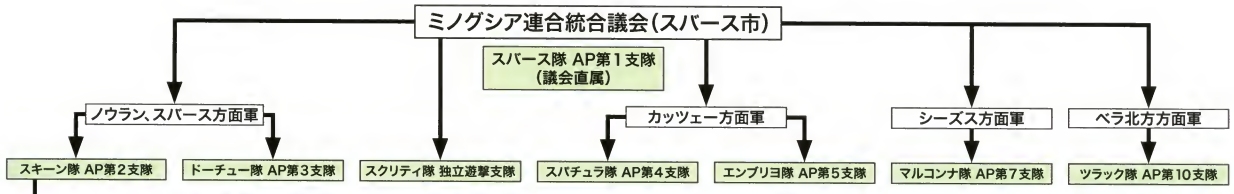
６話パート３より登場した６話から７話の主人公。
映画「花の詩女」にもラストシーンで登場している。
本編内では「ノルガン・ジークボゥ」と呼ばれているが、これは仮の名前で、ジーク、またはジークボゥと呼ぶのは彼の親しい人物たちだけである。
彼の本当の名前は、
「ない」。
名前をもたない人物で、本当に彼は名前をもっていない。戸籍も出生記録すらない。星団のデータベースに彼はいない。 通称としての通り名はジークではなく「ブラックプリンス」。こちらの名前で呼ばれることが多い。ただ、それでは生活に支障が出るのでノルガン財閥の戸籍を借りているのだ。ノルガン財閥は母親が所有している重化学工業コンツェルンである。現在はバッハトマのビューティー・ベールのユーコン財団と化学事業でシェアを争っている。
名前はないとは言っても彼の母親の言葉で何らかの名前があることはわかっているが、その名前は人の名前ではない。なので、母親は「ジークボゥ」という呼び名をあとから彼につけたのであろう。

「ブラックプリンス」という呼び名は彼がどこで何をしていようとついて回ったあだ名で、彼の母国と言われる国家でも、所属しているルミナス学園でもいつしか自然とそう呼ばれている。
様々なエピソードがさすがにたくさん用意されているが、彼がいったい誰で、どういう人物なのかは明確には示されない。
彼の本当の姿がわかるのはまだまだ先である。
それまでは、何となくどこかの国の格の高い家の息子。
自分の地位を捨てて星団を放浪している。
フィルモア帝国から命を狙われている。実際に何度も暗殺されかけている。
信頼する兄のような人物がいる。天照もこの人物のことをよく知っている。ワスチャに恋心を抱いている。
ヨーンとも先輩後輩以上のつき合いがある。
戦いを好まない。お母さんから恋をされている……。
などなど、徐々にいろいろな人物からこのジークの人物像が語られるが、本当にジークが何者なのかはわからない。

「ブラックプリンス」、彼の名が明かされないのも、彼の目的が明かされないのも、当然なのだ。
その彼が存在していることを知る人間はわずかである。
ただ、彼は非常に大きな「何か」に守られているようでもある。
それは超巨大なふたつの国と民族を守り通すために生まれた彼の宿命なのかもしれない。

「ブラックプリンス」という呼ばれ方はその彼の本質を指している。
この世にいない人間なのだ。

Appendix 付録



ノウラン方面騎士団配備全軍(軍団)
スキーン隊 2大隊(師団)
ミノグシア連合騎士団(AP騎士団の下位)4大隊
合計配備GTM 約350騎

ミノグシア連合の保有する全GTM数3000騎のうち、スバース隊とスキーン隊だけで700騎ものGTMを装備している(ただし稼働率は65%)。

スキーン隊 概要

AP騎士数 約90名(変動。基本的に装備GTM数よりも少ない)
国家騎士団騎士数 約300名(変動)

スキーン隊、国家騎士団 所属士官、兵数 約1500名
所属戦闘軍・師団 所属士官、兵数 約12000名

スキーン隊 支隊長 シュマイス騎(軍団指揮官)
副官騎 2騎
支隊本部 計3騎

スキーン隊 全GTM数、2個大隊
定数 94騎 予備機12機
(現状:実質可動騎総数36騎 予備機0)

スキーン隊 全軍編成図

スキーン隊
支隊長(軍団長)
シュマイス・バイダー中将

スキーン隊
支隊ホスティングAF
ファティマ・ウークーツ

騎士団

- AP騎士団スキーン隊 第1大隊
- AP騎士団スキーン隊 第2大隊
- ミノグシア連合 連合騎士団 第3大隊
- ミノグシア連合 連合騎士団 第4大隊
- ミノグシア連合 連合騎士団 第5大隊
- スキーン隊 GTM回収整備大隊

↓

スキーン隊戦闘師団
(主な大隊以上を抜粋)

- スキーン隊・戦闘師団(歩兵連隊、工兵大隊、補給大隊、火力大隊、騎兵大隊、他多数の兵種部隊)
- スキーン隊・空挺戦闘団(スコードロン)航空攻撃師団、空挺補給師団、他空軍系列集団
- スキーン隊・輸送船艦隊(宇宙軍)戦艦1、巡洋艦3、フリゲート艦12、輸送艦多数

その他、軍集団に必要な部隊すべて

第1大隊(第1、第2,第3中隊)

第1大隊長騎 副官騎 計 2騎
大隊合計 全50基

R01 大隊長騎
R02 副大隊長騎
スバース市で再編成中 稼動騎0

第1中隊

4個小隊	16騎
中隊長騎、副中隊長騎	2騎
	計18騎

100 第1中隊長騎
101 副中隊長騎
スバース市で再編成中 稼動騎0

第1小隊 111 112 113 114
第2小隊 121 122 123 124
第3小隊 131 132 133 134
第4小隊 141 142 143 144

第2中隊

4個小隊	16騎
中隊長騎	1騎
	計17騎

200 第2中隊長騎
スバース市で再編成中 稼動騎0

第1小隊 211 212 213 214
第2小隊 221 222 223 224
第3小隊 231 232 233 234
第4小隊 241 242 243 244

第3中隊

3個小隊	12騎
中隊長騎	1騎
	計13騎

300 第3中隊長騎
ノウラン防衛ライン配備 稼動騎 10騎

第1小隊 311 312 313 314
第2小隊 321 322 323 324
第3小隊 331 332 333 334

第2大隊(第4、第5,第6中隊)

第2大隊長騎 副官騎 計 2騎
大隊合計 全41基

R03 大隊長騎
R04 副大隊長騎
ノウラン防衛ライン配備 稼動騎 2騎

第4中隊

3個小隊	12騎
中隊長騎	1騎
	計13騎

400 第4中隊長騎
ノウラン本陣配備 稼動騎 8騎

第1小隊 411 412 413 414
第2小隊 421 422 423 424
第3小隊 431 432 433 434

第5中隊

3個小隊	12騎
中隊長騎	1騎
	計13騎

500 第5中隊長騎
ノウラン本陣配備 稼動騎 6騎

第1小隊 511 512 513 514
第2小隊 521 522 523 524
第3小隊 531 532 533 534

第6中隊

3個小隊	12騎
中隊長騎	1騎
	計13騎

600 第6中隊長騎
ノウラン本陣配備 稼動騎 7騎

第1小隊 611 612 613 614
第2小隊 621 622 623 624
第3小隊 631 632 633 634

スキーン隊のGTM編成図

旧ハスハ連合共和国の騎士団であったAP騎士団は12の支隊に分かれて12国に配備されていたが、現在は大きく4つに分裂し、AP騎士団もそれぞれに分裂した。

スキーン隊は旧ハスハAP騎士団の中でもスバース隊と並ぶ精鋭騎士団で首都ベイジ防衛の要の支隊であった。そのためGTMバーガ・ハリの配備数はスバース隊と並び非常に多く、100騎を超えるバーガ・ハリを装備している。スキーン隊すべては他のGTMも含め300騎近い数を装備している。

スキーン隊は2個大隊編成からなり、各大隊には歩兵連隊や飛行大隊、工兵、補給大隊など通常の陸海空宇宙の軍隊からなる。大隊は各3つの中隊から構成され、第1、第2中隊のみが4つの小隊からなり、他の中隊よりも小隊数は多くなっている。これは第1、第2中隊が主力ということもある。各中隊には4騎のバーガ・ハリでなる小隊があり、これが最小単位となる。

これはあくまで、スキーン隊とスバース隊のみの編成で、アクト5に搭乗するツラック隊などはバーガ・ハリ自体が少なく定数は24騎しか配備されていない。ツラック隊は3個小隊15騎で1中隊を構成するが、バーガ・ハリは各小隊長だけがAP騎士で15騎中3騎しかない。ほかはベラ国家騎士団の混成編成である。

またフィルモアは2騎で1小隊を構成する「ロッテ編成」で、GTMの編成数は国家によって、また各騎士団によってまったく異なる。

さらにミラージュ騎士団などは小隊、中隊といった編成すらない。クバルカン法国も小隊、中隊といった軍編成をとっていない騎士団である。

定数と実際の実質稼働率

スキーン隊保有バーガ・ハリ総数は総計107騎ということになるが、これはあくまで「定数」(編成上の装備数)であって、実際には損失、修理などで稼働率は70%を切っている。特に現在は首都ベイジでの緒戦においてスバース隊もスキーン隊も相当数のバーガ・ハリを失った後で、再編成中である。連載再開の冒頭時、バッハトマに襲われたノウラン本陣にいたのはデコースの言葉通り2個中隊で、第5、第6中隊がおり、第3、第4中隊はジィッド達の襲撃した防衛ラインに配備されていた。主力の第1、第2中隊はスバース市で再編成中で、現在は編成外である。また防衛ラインにはAP騎士団以外のミノグシア国家騎士団も配備されており、150騎以上のGTMがいた。

それに対し、バッハトマはデコースが率いた8騎以外すべてを防衛ライン奇襲に回し、300騎近いGTMで防衛ラインのGTMを襲ったのである。

デコース達が襲った第5、第6中隊のバーガ・ハリは合計定数26騎だが、実際には修理などでスバースに送られ、第5、第6中隊の13騎に支隊本部の3騎、計16騎しかおらず、うち1騎は支隊長シュマイスの騎体であった。

つまり、あそこで3騎のバーガ・ハリが緊急出撃し、格納庫にあった6騎が失われたということは出撃した3騎に加えて7騎の計10騎が脱出に成功したということである。さらにジィッドの襲った防衛ラインにいた第3第4中隊は半数を失い、スキーン隊は壊滅的な損害を被っている。(軍隊用語ではこの損失率は「全滅」と呼ぶ。全滅とは一般的に使われる全員死亡とかではなく戦闘状態を維持できなくなった状態を全滅と呼ぶのだ。だから戦争記録などで、「師団が全滅し、半数が帰還した」という表現はまったく間違っていない。一般的には「全滅したのに半分が無事帰ってきたというのはおかしい」と思われるだろうがこれで正しいのである)

ついでになるが、あの時点での本陣にいた「アシリア装備」のファティマは7名。バーガ・ハリに飛び乗れたのが3名で、ウークーツほか3名もスタンバイ状態だったのだが、格納庫が破壊されて搭乗できなかった。このファティマたちがウークーツについて、ウークーツから割り振られたコードレターのバーガ・ハリを遠隔操作していたということである。

本陣にいた稼動バーガ・ハリ16騎のうちアシリアを着込んでいたファティマが総計7名ということで、半数のバーガ・ハリがスタンバイ状態にあったということである。この数は臨戦態勢である。決してスキーン隊本陣が油断していたわけではないということだ。

ナンバリングについて(コードレター・ファティマ管理)

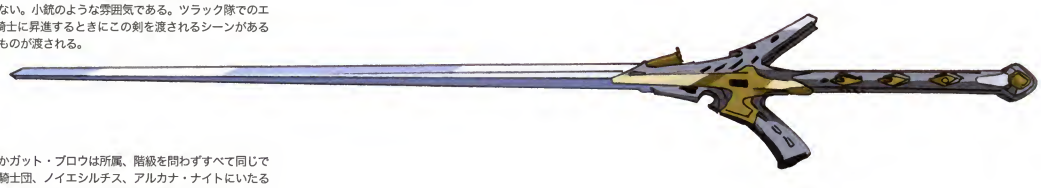
左の編成表のバーガ・ハリの右や下についている数字は各GTMの個別番号で、「コードレター飛行機)」や「ターレットナンバー(戦車)」や車両番号と呼ばれるものである。ただしGTMにはこれらのナンバーは書かれていない。このGTM各騎の番号は騎士団に属するすべてのファティマが認識しているコードナンバーで、見た目にはどれがどの騎体なのかはわからない。実際の戦争では中隊や小隊は分離されたり、他の部隊に緊急併合されたりで頻繁にナンバーを打ち直す必要がある。そのため戦闘ごとにファティマがナンバリングをし直すのである。このナンバーは騎士のコクピットのマルチレーダーに各バーガ・ハリのナンバーが表示されるので、肉眼で見るよりも間違いが少ないのである。ファティマたちの仕事は本当に膨大にある。旧ハスハのように戦争状態になればなおさらである。

ミラージュ騎士正式電磁剣

刀身から柄まで一体となったガット・ブロウである。ミラージュ騎士団の持つガットは特殊でその剣自体に意味がある。この剣を持つものは天照の代理人であることを示し、A.K.D.と天照王朝すべてにおいて、天照同等の権限をもつということである。ガットの柄だけでなく、刀身にまでその朱色が使われており、朱色のスペクトル反射をもつヘリオス鋼を使用して製作されている。ミラージュ以外ではあまり見られない。ガット・ブロウはつばの部分が銃把になっており、光学武器としての使用も可能だが、一体となったこの剣ではこのつばの部分が肉抜きされ軽くしてある。また鍛え方も刀身部分と柄の部分で異なる。赤い色は塗装などではなく、赤いヘリオス錬鋼が使用されている。

ミノグシア連合(旧ハスハ)・正式電磁剣

上品で金色の装飾が入っている。これはAP騎士の持つもので、ミノグシアの騎士たちにとってはこの剣を持つことがAP騎士団の誇りであこがれである。他のガット・ブロウはつばに十手のような返しがついていることが多い。これらは相手の剣を絡め取ることができるが、ハスハのものにはついていない。小銃のような雰囲気である。ツラック隊でのエピソードではベラ国国家騎士がAP騎士に昇進するときにこの剣を渡されるシーンがあるが、同時にファティマたちにも同じものが渡される。



フィルモア帝国正式電磁剣

フィルモア帝国はその巨大な国家故かガット・ブロウは所属、階級を問わずすべて同じである。下位の帝国騎士団から、王家騎士団、ノイエシルチス、アルカナ・ナイトにいたるまですべてこのガット・ブロウを装備している。もちろん各王家の騎士などは色を変えたり紋章などを入れている場合もあるが、剣そのものに変化はない。他国のガット・ブロウに比べて刀身幅が広く、柄が長い。これらは肉厚や中抜きで他国のガット・ブロウと重さは変わらないようにしてある。つばは完全なピストルグリップである。また、ファティマたちにはこのタイプのヴィーニッヒを支給されている。

ガット・ブロウ・ラングン(Gutt Blow Lange)

ガット・ブロウの長剣が「ラングン」と呼ばれる。
フィルモアのクリスティンや、クバルカン法国の筆頭騎士イゾルデが持っている。この長い刀身をもつガット・ブロウはまた特別な意味をもつ。長い刀身は扱いづらく、またさらに重く、持つ騎士を選ぶ。ガット・ブロウ・ラングンはその長さから背中に背負う事が多いが、日本刀などと違ってさやはないので抜くのに手間はかからない。巨大なつばは通常後方に寝ているが、これでは持つときに邪魔になるので戦闘時には180度近く開くようになっている。ラングンは「ラング」(長いの意味)と読むが、ドイツ戦車などで「ラング」と表記されてはいても実際の発音はどう聞いても「ラングン」と聞こえるのでそれに従っている。

ガット・ブロウ
Gutt Blow
(エレクトリック・マグニフィケート・カーソル・ガット・ブロウ)

騎士(ヘッドライナー)の持つ携行武器で主力の武器。
10kgを超える重さがあり、とても普通の人間には扱えない武器だが、この重さとヘリオス超鋼の硬さであらゆるものを切断、もしくは破壊する。使い方は日本の「太刀」と同じで、片手持ちの剣である。ガット・ブロウは柄の中に電磁フィールドを発生させるバッテリーを収納しているが、実戦においてはほとんど使われることはなく、そのまま刃の付けられていない刀身でぶった切る。
ガット・ブロウには様々な拵(こしらえ・刀の外装)があり、ミラージュの剣のように刀身から剣が一体成形されているもの、柄と刀身が別に拵えてあるもの、さらに刀身が伸縮するように作られているものなどバリエーションは多い。重くなりすぎても仕方がないので刀身以外は肉抜きや別の軽い素材で作られている。
最も重要な刀身部は騎士が任意で刀身が対象物に接触するときに電磁波を出して電解エネルギーで物体を叩き割ることが可能な作りであり、刀身自体がエネルギーの伝導を行なう。
この刀身はGTMのヘリオス超鋼すら叩き切ることが可能で、GTMの持つガット・ブロウとまったく同じ作りである。
ヘリオス超鋼すら切断可能な(なかなか難しいが)この刀身は他のヘリオス鋼とは異なる特別な造りとなり、薄いヘリオス・キルテッド超鋼を何万層にも強力な電磁波で重ねて「鍛えた」ものである。その幾重にも密着されて打たれたヘリオス・キルテッドは分子間の密度が高く、さらにキルテッド鋼を様々な重ね方をすることで柔軟性が増している。
この技術は工場成形では不可能で、刀身専門のスライダーが製造している。有名なところでは出雲アストロシティの錫華御前がいる。
GTMに使用されるヘリオス鋼は「結晶装甲」で、各装甲は結晶のために非常に堅く破損しにくいが、絶えず大きな衝撃にさらされることを目的とするガット・ブロウは「鍛錬」重鋼(かさねはがね)のほうが頑丈なのである(それでも折れることは頻繁にある)。
刀身は通常の刃物と違い刃がついておらず、触っても指が切れることはない。ソニックブレードなどの発生のさせ方はそのうちエストが物語中で解説する。
ガット・ブロウを騎士らが携帯する場合、その重さでベルトなどに吊るすのは不可能で、騎士達は上着の下に剣帯を吊るし、それをさらに上着についたガット・ブロウの装着パーツに通して剣を引っかけている。これはエレキギターなどを下げた状態で上着を着るのと同じ感覚である。
尚、騎士を指す「ヘッドライナー」という言葉は星団暦451年に当時の詩女がその言葉を発して、初めて一般に認知された。それまでは一部の騎士のみがうがった意味で使っていたが、この後一般的となった。それまでは「ウォーキャスター」と呼ばれていた。

ガット・ブロウ・ヴィーニッヒ(Gutt Blow Weig)

フルサイズのガット・ブロウに対して携帯性をもたせた小さいサイズのものをこう呼ぶ。
上が展開状態で、下が収納状態。イラストはミラージュ騎士団のもの。
このヴィーニッヒもいろいろな拵があり、多くは携帯性を重視して刀身は短く、つばの代わりともなる銃把は省略されたり折りたたまれたりしている。
これらは携帯性よりも装飾品や一般人への報償として与えられるものが多く、騎士のパートナーであるファティマにはこのタイプが支給されている。またガーランドやスライダーはこの短いヴィーニッヒをよく持っている。刀身はかなり短く、重さも3kg前後である。
ミラージュや騎士が持つヴィーニッヒはより実戦的に刀身が伸縮するタイプで、軽くするために柄は短めとなっている。
フルサイズよりも軽いとは言えその重さは6、7kgはあり、かなり重い。現実の自動小銃の重さが2～4kgなので、その重さでは常時携行は騎士以外難しい。

比率	地球人	ジョーカー人
約3倍	1～7歳	1～20歳
約3倍	8～14歳	21～50歳
約4倍	15～20歳	51～80歳
約4倍	21～30歳	81～125歳
約4倍	31～40歳	125～170歳
約5倍	41～50歳	171～220歳
5倍	51～60歳	221～270歳
4倍	61～70歳	271～310歳
4倍	71～80歳	311～350歳
4倍	81～90歳	351～380歳

360年以上生きる者はほとんどいない

ジョーカー星団の歳月と地球時間の対比。　個人年表と地球年齢の対比。

ジョーカー太陽星団と地球では時間の進み方が異なり、また人間の成長速度もはなはだしく異なる。
ジョーカー人と地球人の年齢の比較は左の表にあるが、注意は単純に３倍の比率というわけではなく若年では３倍、思春期から壮年までは約４倍ほどの年齢比率だが、その後５倍となり、中年期では地球人との成長は５倍も遅くなる。その後老年になるに従って４倍となり、晩年では３倍となる。

物語に登場する重要なキャラクターが、いくつくらいなのか。身近なキャラクターのタイムラインを見て参考にしていただきたい。
また、物語の年代の進み方と我々の感覚での年月がわかりにくいが、これは年齢対比で大体地球の１年がジョーカー世界での４、５年と見てもらってかまわない。
魔導大戦は3030年に始まり3075年に一応終結するが、この45年間は我々の感覚だとだいたい11～12年の戦いであったという感じである。3030年にドタバタやっていた女学生軍団や高校生たちは皆、大戦の終わり頃には20代中盤から後半ということになる。（はずなのだが、ひとり残らず留年しており魔導大戦末期においても彼女らは高校生である）
今後の魔導大戦では物語はスピードアップして４、５年が一気に飛んだりするが、その年月は１年程度だと思ってもらってよいだろう。
さらに地球の歴史を見てもわかるが、科学技術と文化の発展とともに、人間はどんどん老化しにくくなってきている。
ジョーカー人はさらなる文化レベルをもっているので、見た目が我々の感覚よりかなり若く見えるということを覚えていていただきたい。
別格のキャラクターとして天照がいるが彼は時間が関係ないので参考にはならず、またログナーも同じような年齢で年を取っていくが、再生を繰り返すとしてもその成長はジョーカー人と変わらないために3010年に死亡して再生したログナーは3030年時には本当に８歳くらいである。

キィ・キャラクター
アイシャ・コーダンテ

星団暦	
2845	アイシャ生まれる、0歳（0歳） コーダンテ家長女ニャン・ティ。
2910	アイシャ（ニャン）、65歳（16歳） バランシェ邸でメイドのバイト。
2943	
2968	
2988	アイシャ・コーダンテ、143歳（35歳） 初登場時、確かにまだ若い。
2995	
2998	
3001	アイシャ・コーダンテ、156歳（37歳） 少年ヨーンと出会う。
3007	
3013	
3014	
3030	アイシャ・ルーマー、185歳（42歳） 魔導大戦、コーダンテ家王女剥奪。ルーマー王国の女王に。
3032	
3068	
3069	アイシャ・ルーマー、224歳（51歳） ミラージュ騎士団引退。
3070	
3075	アイシャ・コーダンテ、230歳（52歳） 旧姓に戻り隠居。A.K.D.、天照家、コーダンテ家からも離れる。
3085	
3100	アイシャ・コーダンテ、255歳（56歳） ポード死去。
3159	アイシャ・コーダンテ帝、314歳（70歳）

ルミナス学園
ちゃあ、ヨーン、桜子、ジーク

星団暦	
2845	
2910	
2943	
2952	ヨーン・バインツェル生まれる。0歳（0歳）
2968	ワスチャ（ちゃあ）生まれる。0歳（0歳）
2974	桜子生まれる。0歳（0歳） ジークボゥ生まれる。0歳（0歳）
2988	
2995	ヨーン、43歳（12歳） エストと出会う。 桜子、21歳（8歳） ヨーンと出会う。
2998	
3001	ヨーン、49歳（14歳） アイシャと出会う。
3007	
3013	
3014	ちゃあ、46歳（14歳） バランシェ邸でエミリィをゲット。
3030	ヨーン、78歳（19歳）ルミナス学園卒業。ちゃあ、62歳（17歳）魔導大戦参加。 桜子、56歳（16歳）魔導大戦参加。
3032	ちゃあ、64歳（17歳） ジーク、58歳（16歳） 魔導大戦で2人再会。 ちゃあ、メヨーヨ朝廷と友好条約を結ぶ。
3068	ちゃあ、100歳（24歳） ジーク、94歳（23歳） 魔導大戦復帰。2人それぞれが最後の戦い。
3069	ヨーン、117歳（28歳） ヨーン、ミラージュ騎士団入団。
3070	ワスチャ・コーダンテ、102歳（25歳） ちゃあ、コーダンテ家当主になる 桜子どさくさにまぎれ天照家のガーランドとなる。
3075	ワスチャ・コーダンテ、107歳（26歳） ちゃあびっくり。
3085	ワスチャ・コーダンテ、117歳（28歳） ちゃあ、もっとびっくり。
3100	ジーク、126歳（31歳） アドラー星動乱始まる。ジーク出陣。
3159	

※桜子はガーランドのために飛び級を繰り返している。そのため、ルミナス学園ではちゃあやジークより学年は上。実際には桜子は年下である。
　プロムナードでは便宜上年上に見えるように描かれているが、魔導大戦では見たとおりちゃあより幼い。

フィルモア帝国
クリスティン、ダイ・グ

星団暦	
2845	
2910	
2943	ダイ・グ生まれる。0歳（0歳）
2968	クリスティン生まれる。0歳（0歳） ダイ・グ、45歳（13歳） カイエンから天位を受ける。
2988	
2995	
2998	クリス、30歳（10歳） 同級生を殺害。フィルモア帝国騎士となる。
3001	
3007	クリス、39歳（14歳） ダイ・グ、64歳（17歳） クリスとダイ・グ出会う。
3013	ダイグ、70歳（18歳） ダイ・グ、戴冠。フィルモア帝国皇帝に。
3014	
3030	ダイ・グ、87歳（21歳） クリス、62歳（17歳） 魔導大戦、2人ともにナカカラ王国に。
3032	クリス、64歳（18歳） ダイ・グ、89歳（22歳） クリス、フンフトに「予言」を託される。
3068	ダイ・グ、125歳（30歳） 天照と会う。帝国の未来を決める。
3069	クリス、101歳（24歳） エンペラーズ・ハイランダーとなる。
3070	
3075	クリス、107歳（26歳） ミノグシア解放戦線参加。 カーマントー星解放に参戦。
3085	
3100	
3159	クリス、191歳（43歳）

剣聖

慧茄、マドラ、ベルベット

星団暦	
2721	慧茄、生まれる。0歳(0歳)
2859	慧茄、138歳(32歳) カイエンに代わり剣聖となる。
2860	慧茄、139歳(33歳) フィルモア4と結婚、皇后となる。
2862	慧茄、141歳(33歳) 息子、ソリトー生まれる。
2895	マドラ、生まれる。0歳(0歳)
2943	慧茄、222歳(50歳) 孫、ダイ・グ生まれる。
2955	マドラ、60歳(16歳) 聖帝ランダに預けられる。カイエンに会う。
2969	マドラ、74歳(18歳) AP騎士団入団。
2988	マドラ、93歳(23歳) ミラージュ騎士団入団。
2992	マドラ、97歳(26歳) 浮遊城混乱に参加、カイエンと会う。
3007	慧茄、286歳(64歳) クリスティンと出会う。
3010	マドラ、115歳(27歳) 浮遊城でデコースと対決。
3030	慧茄、309歳(70歳) マドラ、135歳(32歳) ナカカラで魔導大戦参加。
3060	マドラ、165歳(39歳) ベルベット、生まれる?(0歳)
3075	マドラ、180歳(44歳) ミノグシア解放戦線参加。
3077	慧茄、356歳(82歳) 帝国元老院を引退。
3159	ベルベット、99歳(22歳) アドラー侵攻作戦参加。
3239	ベルベット、179歳(41歳) カラミティ星攻防戦参加。 (実際にはベルベットの生年は推定)

バランシェ・ファティマ

星団暦	
	(ファティマは完成時が誕生、ラキシスやアウクソー、メガエラなどの幼少期は計算不可)
2629	クーン誕生、ハイアラキのもとに。
2680	パルテノ誕生、マージャ誕生。
2770	チャンダナ誕生、慧茄のもとに。
2790	アイエッタ誕生、ログナーのもとに。
2810	オデット誕生、ダンチヒのもとに。 オーロラ、ジゼルも同時誕生。
2830	時、町、京誕生、静誕生。 静はアルテン・サヤステのもとに。
2895	ティータ誕生。
2900	クラカライン、エフロシューネ、カレ誕生。
2930	パテシア、アグライア、タレイア誕生。
2946	アウクソー未完成で勘当。 天照に預けられる。
2968	アレクトー誕生、アイシャのもとに。
2974	メガエラ誕生、ルースのもとに。
2976	ティスホーン誕生、ランドのもとに。
2987	アトロポス誕生。
2988	ラキシス、クローソー誕生。

長期生存組

F・U・ログナー、エスト

星団暦	
	(ログナー、エストに関しては公開できる年月日のみ)
2020	カラミティ・ログナー・ラスト1登場 「タンツミンレ」に敗北、カラミティ死亡、 ドウターにより再生開始。
????	ログナー1、復活、出生年不明
2122	ログナー1、?歳(?歳) バビロン王国の国王になる。
????	ログナー2、出生年不明
2300	ログナー2、?歳(?歳) ナッカンドラ・スパースの蘇生に立ち会う。
????	ログナー3、出生年不明。
2813	ミラージュ騎士団創立。
2876	エスト、誕生。20歳(永久に16歳のまま)
2880	エスト、24歳 バキン・ラカンの聖帝に預けられる。 のちの詩女ポルサより永久観察下に置かれ、彼女より「黒騎士ダッカス」の称号を受ける。 しばらく剣聖ディモス・ハイアラキのもとに。
2885	エスト、29歳 初代黒騎士ツーリー・パイドルのもとに。
2930	エスト、74歳 クバルカンのサヤステと静に敗北。 コーラス22世の庇護下となる。
2933	エスト、77歳 ドラグーンを2代目のマスターに。
2988	ログナー4、140歳?(35歳?) ラキシスのお披露目参加。
2989	ログナー4、141歳?(35歳?) コーラス、ハグーダ戦に参加。
2990	エスト、134歳 デコースに敗れ、放浪の旅に。
2992	エスト、136歳 メヨーヨ朝廷のもとでGTMホウライ開発の手伝い。その後再び放浪に。
2995	エスト、139歳 放浪中ヨーンと出会う。 3代目黒騎士、デコースと出会う。
3010	ログナー4、160歳?(38歳?) ボスヤスフォート戦で死亡、再生。
3030	ログナー5、20歳(8歳) 魔導大戦、ちゃあの護衛につく。 エスト、174歳 魔導大戦、バッハトマで参戦。
3069	ログナー5、59歳(22歳) 魔導大戦復帰。 エスト、213歳 天照家に入る。
3075	エスト、219歳 ミノグシア軍に参加、解放。
3159	ログナー5、149歳(35歳) アドラー侵攻作戦参加。 エスト、303歳 アドラー侵攻作戦参加。 フィルモア帝国に身を寄せる。
3200頃	エスト、304歳 聖宮ラーンに戻り、4代目黒騎士、バントラインを得る。
3239	ログナー5、229歳(51歳) カラミティ星攻防戦参加。
?	ログナー6、再生(0歳) 年代不明、その後凍結保存?
3891	エスト、1035歳 最後の黒騎士、グラードを得る。
3950	エスト、1094歳 コーラス軍にてA.K.D.と戦う。
3960	エスト、1104歳 GTMダッカスとともに眠りにつく。
4100	ログナー6、70歳?(18歳?) 浮遊城攻防戦、突如出現。

※ログナーに関しては便宜上、歴史に登場した時代とその風体で年齢を割り出してあるが、実際にどれくらいの回数の完全再生を行なっているのかは不明。また、凍結睡眠時期もあるようだ。

カイエン一家

カイエン、ヤーボ、マグダル、デプレ、マキシ

星団暦	
	(カイエンの年齢は40歳前後で停止したままである)
2629	カイエン、母体クーン生まれる。
2672	カイエン生まれる、0歳(0歳)
2755	カイエン、83歳(21歳) 剣聖となる。クーンをパートナーに。
2780	カイエン108歳(26歳) 詩女ジキジディーによって封印される。
2810	カイエン138歳(見た目26歳のまま) 詩女ポルサによって封印解除。
2866	ヤーボ生まれる、0歳(0歳)
2869	カイエン、197歳(見た目33歳) 消息不明となる。剣聖は慧茄に。
2946	カイエン、274歳(見た目30代後半) カイエン暴走、ポルサにクーンを預ける。 ミラージュ騎士団のエースに。 成長終了のアウクソーをパートナーにする。
2955	カイエン、283歳(成長停止) マドラのスカートをめくる。
2958	ヤーボ、92歳(23歳) AP騎士団入団。
2969	ヤーボ、103歳(25歳) マドラと会う。
2989	ヤーボ、123歳(29歳) カイエン、317歳 ヤーボ、詩女ムグミカの預言を受け、カステポーに出される。カイエンと再会。
2991	カイエン、319歳 ダイ・グと会う。
2994	ヤーボ、128歳(31歳) マグダルとデプレ出産。
2998	ヤーボ、132歳(32歳) ヤーボ、死亡
3007	カイエン、335歳 慧茄、クリス、ユーゾッタに会う。
3030	カイエン、358歳 詩女ムグミカに抱かれ死亡。
3035	マキシ生まれる、0歳(0歳)
3060	マグダル、デプレ、66歳(17歳) マグダル、デプレ目覚める。
3075	デプレ、81歳(21歳) デプレ、ミノグシア解放。 マグダル、81歳(21歳) 聖宮ラーンに入る。 天照との永世不可侵条約締結。 魔導大戦終結。 マキシ、40歳(11歳) マキシ、剣聖マキシを名乗る。
3159	マグダル、165歳(39歳)

ガーランドとは？

「ガーランド」とは超越した能力をもつ科学者のことで、専門的な学術の権威者であるが、通常の科学者がひとつの専門を極めるのに一生を費やしても不可能なのに対し、ガーランドはいくつもの複合した専門を同じレベルでもつ人間のことである。わかりやすく言えば、医者という専門ひとつをとっても、内科、外科のような直接的なものから生体科学やさらに薬化学などに広範囲化され、それぞれが特化した能力と経験をもつ必要があるが、ガーランドは医学ではなく、科学というもの全般において特化した能力をもち、さらに電子工学や遺伝子学においてもそれ以上の能力を複合してもっているということである。

つまり、こんな超広範囲で万能なことを学習で覚え、経験を蓄積するなどというのは時間的にも物理的にも不可能なのである。つまり、ガーランドと言われる人間は学習などしないし、誰かに教えてもらうというようなこともない。学習は一生かかっても足りないし、教えてもらうと言っても人生の数十倍もの長さが必要となるからである。

では、どういうことなのかと言えば、「最初からわかっている」ということである。もちろん自分の学習能力の高さもあるが、基本的に学術は「教えてもらうのではなく自分で考える」ということだ。

ツラック隊ではソープが久々にGTMの修理を行なうが、一晩で10騎以上のバーガ・ハリを直してしまう。なぜこんなことができるのかと言えば、現代の自動車のエンジンでたとえれば、「エンジンの調子がわずかにおかしい。テレメーターからのデータだと2%落ちてる」というはっきりとしない症状では、まず分解して調べて、エンジンの状態をモニターしているテレメーターのデータとパーツで徹底的に調べておかしいところを調べて修理交換となる。たぶんこれには数時間から1日以上かかってしまうことだろう。

これが例えばソープだとこうなってしまう。

「えーと、排気音の音おかしい。えと4番目のシリンダーの異音で、不完全燃焼の音だから吸気じゃなくて排気がうまくいってないね。音からカムじゃないから4番シリンダーの排気バルブが曲がってるかちゃんと開いてないね。そこ直して、たぶんバルブの軸が0．05ミリほど曲がってると思う」

で、終わってしまう。普通の人間では気がつかない「雰囲気」で気がつくのだ。これなら30分もあれば修理は終わる。

これがガーランドやスライダーなのだ。具合が悪いということは原因がわからないから治療や修理をするのだ。原因が一瞬でわかってしまう人間には余計な調査や治療はまったく必要ないのだ。もちろんソープならばGTMの機関故障の場合も破損した場所ではなく、なぜ破損したのかを判断し、破損した箇所ではなくその原因の箇所から直してしまう。それに必要な数値なども一瞬でわかってしまうのだ。エストがダッカスで左肘のスイングの不調が腰のスイングブロックの消耗から来ていることを見抜いていたが、ソープなら腰のスイングをどう調整すればいいのかもわかっているのだ。

また悲しいことだが、現在の医療は悪くなった箇所を治すのが精一杯である。糖尿病なら腎臓の不具合からも起きることはわかっていても、なぜ腎臓が悪くなったのか、そこがわからない。原因がまったくわからないためにそうするしかないのだ。ミースならばその疾患の原因から治すので治療は早く、余計な投薬などまったく必要ない。しかし、それでもまだまだわからないことはあるのだ。

現実の話に戻すと、またエンジンの話だが、エンジンのバルブを作動させるカムがあるのだが、このカムのレーシング用は鋼材を削って作る。この鋼材のカムの表面をなでるだけでミクロン単位で判断するエンジニアたちがちゃんといる。コンピューターで削るよりも正確なのだ。

自動車の複雑な形をしたボディに真っ直ぐで均一のラインを筆一本で一気に引いてしまうおばあさんや（BMW・アルピナの側面を走るあの矢羽根のラインである。シャネルのメゾンの職人たちが何人挑戦してもできない縁取りのパイピングの織り組みをひとりでやってのけるおばあさんもいる。アルピナもシャネルもこのおばあさんがいなくなればこの技術はもう終わりとまで言っている。誰が挑んでも習得できないのだから。

人間とは凄いものである。

この特殊で騎士と同じく超人的な能力はやはり超帝國時代に改造されて能力を特化した人々の末裔ともされ、特殊な頭脳の構造をもった「グリント・ツヴィンゲン」の力のひとつ、「グレイン」の能力の派生型であると言われている。ガーランドは騎士と同じく、ジョーカー人類なら誰からも発生する能力であるが、その発生確率は騎士よりも遙かに低い。

現在、ガーランドと呼ばれる人々は2つのカテゴリーに分けられている。

GTM・ガーランド

GTM・ガーランドはその名の通り、戦闘兵器GTMを開発、設計する人間のことで、あらゆる物質関連において特化した才能をもつ人々である。

戦闘兵器GTMを設計製造するために必要なすべての知識をもっている。これにはGTMの装甲を製造するための工場や機械の設計も含まれるし、GTMがもつ武器の設計も行なうなど、本当にひとりですべて製造まで可能な才能をもっている。実際には「GTM製造やその生産システムの製造には「スライダー」以下、多くの人材が関わるが、可能かと問われれば、すべてひとりでできると言うことである。

もちろん、「パスター・ランチャー」もガーランド以外には製造不可能である。

ファティマ・ガーランド

ファティマ・ガーランドは人型演算生命体「ファティマ」の設計開発をする科学者で、生命関連すべてにおいて特化した才能をもつ人物たちである。ファティマの登場によってファティマに特化した科学者と思われがちだが、ファティマ誕生以前は「騎士」たちの治癒や研究を行なっていた。

ガーランドという言葉はもともと超帝國のGTM設計者たちや関連学者が集まって作った製造組織のことを指していた。その後、設計者を指す言葉に変わったのだ。「システム・カリギュラ」はこの製造組織であった時代の組織である。

ガーランドは複合した能力をもっているために、GTM・ガーランドはファティマ・ガーランドの領域、ファティマ・ガーランドはGTM・ガーランドの領域に重複する場合も多くあり、ファティマ・ガーランドがGTM開発の協力をしたり、その逆もかなり多い。ファティマ・ガーランドのミースはGTMのスライダーくらいならできる能力をもっているが、残念ながらその調整修理技術はもっていない。これはすべてのガーランドにも当てはまる。

ただし、ガーランドたちにも落とし穴はあり、その能力はすさまじいが、「手先が不器用」なガーランドも普通におり、こうなると手術は危険だわ、GTMのパーツの調整はやらないほうがいいわということもある。まあ、こういう場合は機械にすべて任せるが。

彼らは決して超人ではない。手術にしても修理にしても鈍重な人間のほうが実は向いているのだ。てきぱきと効率よく仕事のできる人間には落とし穴がある。これは料理などにも言え、決して効率が結果とは結びつかないともいえる。

ファティマの創始者たち バランス家

天才科学者、ウラニウム・バランス公爵を輩出した家系で、デルタ・ベルン星のフェイツ公国の太閤、領主でもある。学術産業国家でもあるフェイツ公国はこの歴代のバランス家の当主によって取り仕切られてきた。ファティマを生み出した家系であり、国家である。現在はA.K.D.に編入されて天照の直下運営国家となっている。

ウラニウム・バランス
生体科学者で、人間の体に流れる微電流を利用して大脳に演算機能を持たせ、史上最速の有機演算システムを考えた人物。騎士の超絶的な反応速度が必要と結論。
大量生産化やエトラムル・ファティマなどの基本的な理論はすべてウラニウムが残している。

リチウム・バランス
3代目のバランス家当主。2200年代に復活した超帝國の騎士、ナッカンドラの強力な血を利用して、生体演算システムを開発。
「ファティマ」と名付けられて生涯をそのファティマの大量生産化に尽くした。
リチウム本人は最初の4体以外には「ダイオード」の計5体しか作っていない。

アルセニック・バランス
10代目の当主。バランス家においても久々のガーランドである。息子にクローム・バランシェがいる。ファティマの製造よりも「モナーク・セイクレッド」と人類の研究に一生を捧げた。

クローム・バランシェ
11代目のバランス家の当主であるが、フェイツ公国を捨て、自由な研究に身を置くためにアドラー星に移り住み、そこで45体のファティマを生み出した。また、45体以外にも多くの工場でファティマ生産を行ない、高名ガーランドの作品である「銘入り」ではないファクトリー・ファティマであっても、バランシェが関わっていたファティマは非常に優秀なものが多い。これはモラードらにも当てはまる。2989年没。

ウラニウム・バランス博士
ファティマの基礎となる演算人工生命体理論の提唱者で、人工の騎士を基に演算生命体を創造する根幹となる研究を行なった人物で、ファティマの親と言われる。その理論から数百年後、孫のリチウムがついに「ファティマ」を完成させた。
「エトラムル型非人間型ファティマ」もこのウラニウムの時点で考えられていた。詩女ラーンより花の種を渡された人物でもある。その種はバランス家に代々受け継がれ、今はラキシスがもっている。
しかし、ウラニウムもリチウムもまさか人工生命体のファティマたちに相性があり、より強い騎士を求めるという習性があるのはまったくの想定外であった。

クローム・バランシェ
名実ともに星団最高のファティマ・ガーランド。バランス家の11代目であるが、直系の血はここで途絶えている。45体のファティマたちはそのすべてが超弩級というもの凄さで、普通のファティマはひとりとしていない。45体以外にもファクトリーや手伝いでかなり多くのファティマを送り出してもいるが、晩年はバストーニュにこもってクローソーまでを送り出した。
彼は死んでも娘たちは星団中で活躍している。

アルセニック・バランス
バランシェの母、10代目のバランス家の主。いまだフェイツ公国にはバランス家があり、かつての侍従たちが執務を行なっている。
タイ・フォンをはじめとする「風のファティマ」の産みの親で、生涯４体しか作らなかったが、４体のファティマたちは健在である。

スティール・クープ
フィルモア帝国専任のガーランドで、他国には自分のファティマは出してはいない。しかし、最初のマスターを失ったファティマたちは普通にお披露目に出るので、クープ・ファティマは各国の騎士に使われている。
フローレスのラ・クラトーマを始め、現在渦中のニナリスなど、とてつもなくハイスペックな超弩級ファティマを送り出している。ニナリスに至ってはGTM調整能力すらもつスーパー・ファティマである。現在クープは一線を退いて隠居中である。

モラード・カーバイト
バランシェとともに星団を代表するファティマ・ガーランド。硬質で気高い印象を振りまくバランシェ・ファティマとは違い、柔らかくやさしげな印象を与えるファティマが多いのが特徴だが、が、が、実は最も魔性の強いファティマはほぼこの人物のファティマである。エスト、ビルド、ポーター、ウリクル、エルマと挙げていけばきりがないくらい、ともかく「重い一撃」をパートナーに食らわすのがモラード・ファティマだろう。

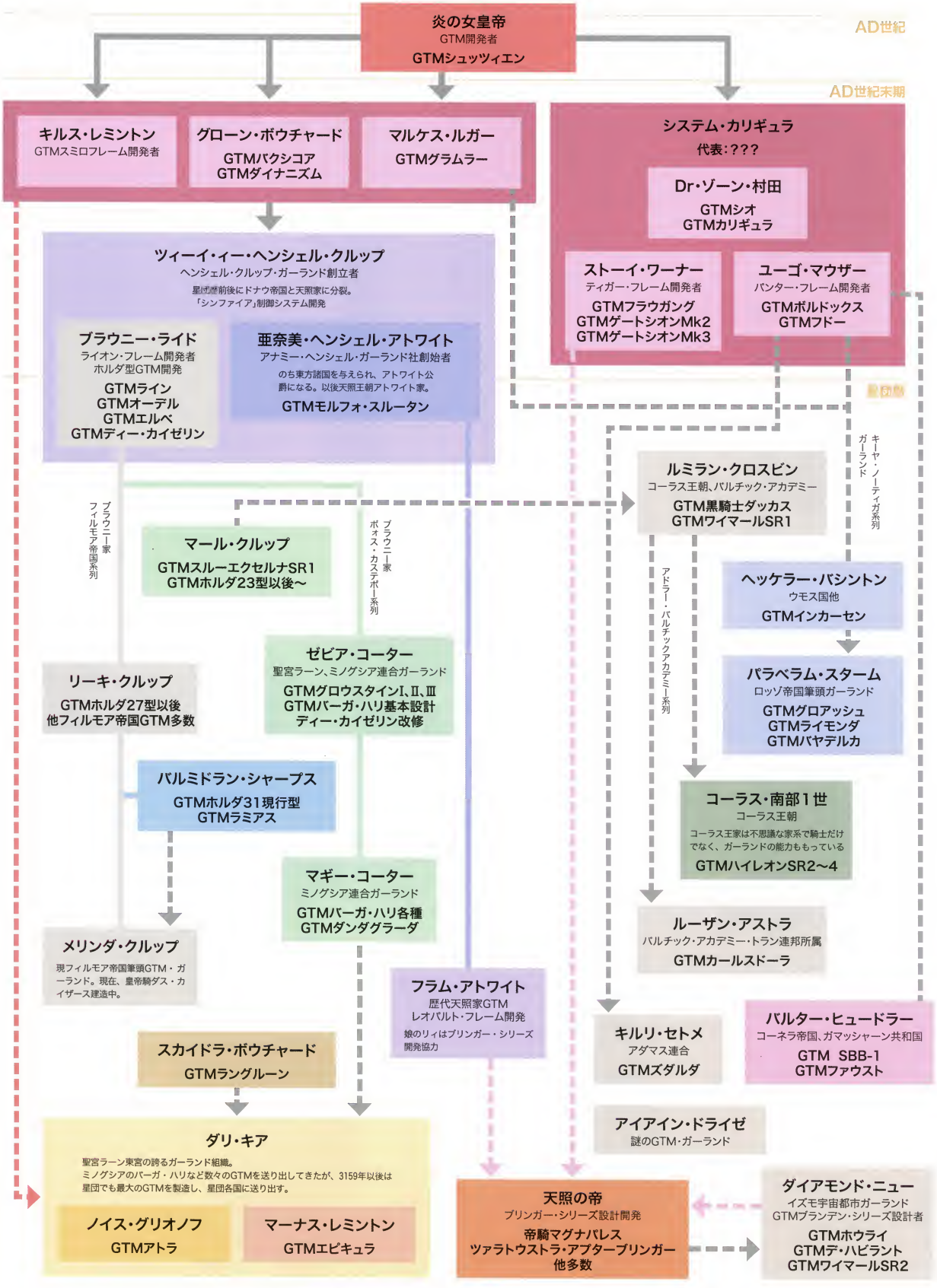
プリズム・コークス
バランシェ系列のガーランドである。ウークーツやクラッパなど登場は多い。彼女は自分のファティマの製作もさることながらバランシェやファクトリーのファティマの面倒を見ていることも多く、意外と製作ファティマは少ない。

ミース・シルバー・バランシェ
バランシェの名を継ぐが、養女である。桜子同様まだ若い。彼女もその経緯からミラージュにと思われていたかもしれないが、彼女はミノグシアのガーランドとなる。世の中どうなるのかは本当にわからないものである。

ナトリウム・桜子
詩女フンフトの実の娘。小学生の頃よりガーランドとして活動している。クープの弟子でもあったが、行き着いたところはミラージュ騎士団という自分でもまったく想像もしていなかった環境で生涯を過ごす。とはいえ、星団中を駆け回っているのは変わりないが、彼女がどうなるのかは作者も楽しみにしている。星団暦3100年あたりから彼女のファティマが登場してくる。

サリタ・アス・ジンク
カラミティのロッゾ帝国にある重産業都市ノーティガで学術都市でもあるナーリアに住んでいる。基本的にはロッゾ帝国の所属であるが、ガーランドのために敵味方問わずファティマを送り出す。フィルモアのケーニヒのパートナー「オキストロ」が代表作。

ダイアモンド・ニュー
GTM・ガーランドとファティマ・ガーランドという２つの称号をもつ珍しい科学者。に加えて騎士でもある。
ほぼすべての特殊能力をもつ。両方の才能をもってはいるが、GTMガーランドとしての名声のほうが高いのは仕方のないところ。いかに才能があっても時間は限られているのだから。



※星団3大ガーランドと呼ばれるのは、ストーイ・ワーナー(エルディアイ・ツバンツヒ)、ブラウニー・ライド、ゼビア・コーターである。
※点線の矢印は弟子筋、または設計引き継ぎ。薄赤の矢印は血縁、子孫を示す。ピンクは……押しかけ弟子筋である。
※また、ガーランドやスライダーはミースなどのように、血縁でなくともその名を継いでいることがある。同じ名字と言っても子孫ではないことが非常に多い。
これはガーランドが個人の名前ではなく、製造組織の名称であった名残りで、才能のある後継者がいる場合はその名前を継がせることが多いからである。

ブラウニー・ライド博士
星団暦初頭のガーランドで、「ライオン・フレーム」の設計者。彼の登場でGTMはAD世紀からの「スミロ・フレーム」からより星団暦の騎士たちに合ったGTMの設計がされるようになった。現在のGTMの基礎を作ったとも言える人物で、後ライド家はクルップ家へと変わった。GTMカイゼリンの設計者。

ユーゴ・マウザー教授
あらゆるGTM・ガーランドに影響を与えているにもかかわらず、ほとんど名前の出てこないガーランドであったが、魔導大戦で登場。
彼の作った「パンター・フレーム」は膨大なバリエーションを産み、星団の8割のGTMはこのパンター・フレームとも言われている。
その名前と活動年月が一致しないため、ストーイ・ワーナー博士とともに謎の多い人物である。

ストーイ・ワーナー博士
システム・カリギュラの設計メンバーで、クバルカン法国のGTM「リッター・ジェット」を設計したことで歴史に名を残すが、数千歳という年齢のためにストーイの本名を出せず、表わせないでいた。
ミラージュ騎士となって、ブリンガー・シリーズの開発協力で、彼女が担当したものは変形GTM、スピード・ミラージュのほか、ルーナ・ユニット、J型駆逐戦闘兵器のバスター・ランチャー・ローディングシステム。さらに鯉のぼりランス、けん玉フレイル完全版等恐るべき兵器の開発を行なう。
現在は現役の女子高生で大体4000歳。
駄目駄目ガーランドだが、星団3大ガーランドのひとりであることに間違いはない。
騎士でもある。

バルミドラン・シャープス博士
元フィルモア帝国筆頭ガーランド。現在は引退し、メリンダに任せている。とはいえ、新型GTMラミアスは彼の設計なので、ラミアスのモニターを絶えず行なっていると思われる。元老院のメンバーでもある。

ルミラン・クロスビン教授
GTMダッカスの設計者。バルチック・アカデミーの人物で、数多くのGTMを送り出すが、ダッカスとエストをめぐる騒動によって心労のために他界。その後彼のポジションはニューらが引き継いでいるとも言える。

マギー・コーター博士
ゼビア・コーターの子孫にあたる人物で、現在はミノグシア連合すべての筆頭ガーランドとして各地を飛び回っている。ソープを召喚したはずなのだが、そのソープは途中で行方不明となっている。

天照の帝
事実上の星団最高のGTMガーランドである。その設計は超帝國時代のGTMすら超えると言われているが、一般的には天照はガーランドとしてはまったく認識されていない。ミラージュGTMの設計者は謎で、一部の者たちだけが天照が設計者であることを知っている。

バルター・ヒュードラー博士
コーネラ帝国のガーランドで、現在までにもかなりのGTMを設計し送り出しているが、彼女の開発中のGTM「SBB-1」は星団中の国家が注目しているGTMである。
後、ファティマの製作が難しくなってきた時代には彼女のGTMが主力となった。

メリンダ・クルップ博士
ブラウニー・ライド系列のガーランドで、フィルモア帝国のクルップ家の人物である。シャープス博士らが引退した現在、帝国の筆頭ガーランドとしてダイ・グらが駐屯しているナカカラにも頻繁にやって来ている。

ダイアモンド・ニュー
GTMだけでなくファティマのガーランドでもあるが、GTMガーランドとして彼の設計した「ホウライ」や「ワイマールSR2」「カーバーゲン」「デ・ハピラント」はどれも超一級のGTMとして魔導大戦で活躍した。3000年代を代表するGTMガーランドとなった。その彼本来の特性もあり、長きにわたってGTMを設計する。本来の年齢は不明である。システム・カリギュラも彼を欲しがっているが、現時点ではカリギュラは彼に接触していない。

	国家名 国家代表・君主 使用GTM	筆頭騎士 使用GTM	国家代表騎士団/使用GTM 国家騎士団/主要GTM GTM保有数	その他
1	**フィルモア帝国** 皇帝 ダイ・グ・フィルモア5 皇帝騎 ディー・ウィリーズ AF チャンダナ 騎士顧問　剣聖慧茄 GTM シベリード1・ラミアス AF クラトーマ **●聖騎士＝サクリファス＝ニーゼル** GTM プリンシパル (ジー・ポリショイ・グーガントzkw)	**●皇帝騎士(ハイランダー)** クリスティン・V GTM ディー・メロウラ AF 町 **●騎士団顧問** アビエン・ヒートサイ GTM ホウザイロ III AF テンドロス	**●皇帝警護騎士・アルカナ・センチュリオン** GTM ホルダ31型E　レイシィ・バイカル **●カンプ・ノイエシルチス・5騎士団** 使用GTM ホルダ31型A・ユーレイ ノイエ・ロット(赤)120騎 ノイエ・メーア　(紺)120騎 ノイエ・シュバルツ(黒)120騎 ノイエ・エルダー(氷)40騎 ノイエ・センチュリオン(萌葱)80騎 他、保有GTM数 8,000騎以上	星団最強の軍事力と政治力をもつ帝国。 皇帝代理騎士（ハイランダー）は歴代2人によって皇帝を守る役目を負うが、ダイ・グ本人がハイランダーを継承しているため皇帝以外のハイランダーは現在クリスひとりである。
2	**クバルカン法国** 法王 ミューズ・レイバック GTM Mk3リッタージェット "破烈の人形。 AF 静	**●ルーン・リッター** イゾルデ・サヤステ GTM Mk4"マッハ・シャルトマ" AF バルタン	**●カンプグルッペ・ルーン(法王騎士団)** GTM ザ・ルッセンフリード "フラウ・ワイツ"「白の婦人」 保有機不明(推定120騎以上) **●カンプグルッペ・ローテ(薔薇騎士団)** GTM ザ・ルッセンフリード "フラウ・ロット"「赤の婦人」 以上騎数不明 他、保有GTM数 4,000騎以上	法王直下の騎士団、ルーンの騎士数やGTM配備数は一切が公開されておらず、現在も不明であるが、騎士団連合国家と言われるだけの大量のGTMを保持している。 「破烈の人形」と呼ばれるGTMは1騎しか存在しない。また、現在の筆頭騎士イゾルデはルーン騎士団には属していない。すべてのGTMはストーイ・ワーナー博士の設計によるものだが、製造と改良はアル・ドライゼ博士。
3	**バッハトマ魔法帝国** 主宰　ディス・ボスヤスフォート 副主宰　ビューティー・ベール	**●総騎士団長・黒騎士団長・軍団司令官** デコース・ワイズメル 旗騎GTM 黒騎士・ダッカス AF エスト **●銀騎士団団長** ジョー・ジィッド・マトリア GTM デムザンバラ(銀の騎士) AF ニナリス	**●バッハトマ帝国騎士団** GTM カーバーゲン 保有GTM数 4,000騎以上	3030年の魔導大戦ミノグシア分断戦争において星団3位の軍事力をもつに至っている。 GTMデムザンバラは剣聖ハイアラキ、剣聖カイエンの使用していたGTMで天照の作った"モルフォ型"GTMである。 現在ハスハ領には3,000騎近いGTMを配備している。
4	**トリオ・コーラス王朝** 国王　コーラス4 (摂政　トラーオ・バランカ王子) 国家象徴GTM SR4 ジ・エンドレス (K型ミラージュ) AF ザ・ファティマ・クローソー (休眠中)	**●王国騎士団長** セイレイ・コーラス王女 GTM ハイレオンSR3 AF ユリケンヌ **●騎士参謀** マロリー・ハイアラキ・マイスナー王女 GTM ハイレオンSR2 AF モンスーン	**●王国騎士団トリオ・テンプルナイツ** 使用GTM ワイマールSR2 (ドルビー・ブランデン) 保有GTM数 6,000騎以上	2989年のハグーダ戦によって国力が一時低下したが、現在ではここまで回復している。 ただ、現在のコーラス王朝が軍事主体ではないために、星団のパワーバランスからは一歩身を引いた状態である。 だが、ジュノー唯一の列強コーラスはジュノー星すべてを守るだけの軍事力をもち、他星の侵略を防いでいるのも事実だ。
5	**ミノグシア連合** **(旧ハスハ連合)** 決議代理　マイケル・ギラ 連合代表騎士　デブレ・カイエン 旗騎GTM 皇帝騎ディー・カイゼリン AF ガラスのコンコード **●連合統制騎士** 剣聖マドラ・モイライ GTM ラミアス AF クラカライン／ベルクト	**●スパース隊支隊長** ランドアンド・スパコーン公爵 GTM バーガ・ハリBS AF ディスホーン **●スクリティ隊支隊長** アルル・メロディ・コーラス王女 GTM エクセルナSR1 AF シクローン	**●ミノグシア連合AP騎士団** **(アトール・ポリティ・リッターズ、もしくはエーピー騎士団)** 使用GTM(現在分散中) バーガ・ハリBS(スパース隊) バーガ・ハリSKS(スキーン隊) バーガ・ハリDT(ドーチュー隊) バーガ・ハリESSQ(スクリティ支隊) バーガ・ハリEBS(エンプリヨ隊) 他、保有GTM数 4,000騎以上	ハスハ解体によってその戦力は半分近くにまで落ちた。しかし、分断されても侮れない戦力を今も維持し、星団3大GTMのバーガ・ハリはミノグシア4国にて大量に生産され続けている。 ハスハント工場生産のバーガ・ハリはミノグシア連合に、ギーレル工場生産のバーガ・ハリはギーレル連合に、ナオス工場生産のバーガ・ハリはナカカラと聖宮ラーンに、どの連合にも属さないイェンシング工場生産のバーガ・ハリは状況に応じて旧ハスハ各国へ送り出している。
6	**ガマッシャーン共和国** 総裁　レイスル3党首	**●筆頭騎士** シュバイサー・ドラクーン GTM エクペラッハ AF 令令謝(レレイスホト)	**●ガマッシャーン・レイスル騎士団** 親衛騎士団使用GTM スイセン レイスル騎士団使用GTM スコータイ 他多数 保有GTM数 5,000騎以上	バッハトマと同規模の軍事力をもつ。 主要なGTMはライセンス生産であるが、豊かな生産力で他国にもGTMを供給しているほどである。
7	**バキン・ラカン帝国** 聖帝　カンバー・ラ・シーラ **●騎士団指南役** オルカオン・ハリス	**●筆頭騎士** ママドア・ユーゾッタ女侯爵 GTM ホウザイロ II AF オーロラ	**●ラカン聖帝宮殿騎士団** GTM アルタイ 保有GTM数 4,000騎以上	星団暦初頭にドナウ帝国より分離独立し、現在ではアドラー星最大の軍事力をもつ帝国である。騎士の力を瞬時に判断するといわれる不思議な力をもつ「聖帝」によって創立以後治められている。
8	**トラン連邦共和国** 大統領ミッション・ルース GTM ホウザイロ1 AF ブルー・メガエラ	●国家の性質上、筆頭騎士などはおかず。	**●SPIトラン連邦騎士団** 保有GTM数 2,000騎以上	大統領の使用するGTMグロウダインはゼビア・コーターの傑作GTMで3騎あり、現在もすべて現存している。
9	**ウモス社会主義共和国連邦** 総統　フォッケヴォルフ・ムックル	**●総統騎士** ベルミ・クローゼ伯爵 GTM X-4ハルシュカ (紅騎士) AF ヴィルマー	**●連邦青銅騎士団** GTM X-3ボルドックス GTM X-8ボルドックス・アメシスト GTM X-9ボルドックス・ガーネット(紫苑鋼) GTM ライモンダ 保有GTM数 5,000騎以上	システム・カリギュラと縁の深いウモスでは使用生産されるGTMはXナンバーのつくすべてカリギュラ系列のものである。X-3ボルドックスはパンター・フレームの基礎をなしたGTM。名前を変えたバージョンが数多く存在する。
10	**ロッゾ帝国** 皇帝 レオ・ブーチェル	**●筆頭騎士** ダックナード・ボア・ジィ GTM ボイスオーバーGA2 AF ネロス	**●カンプグルッペ・ブーグラ** 使用GTM グロアッシュ **●ロッゾ帝国騎士団** 使用GTM シャムラ バヤデルカ 保有GTM数 5,000騎以上	ロッゾ帝国騎士団の使用するGTM「シャムラ」はバキン・ラカン帝国の「アルタイ」、ガマッシャーン共和国の「スコータイ」と同型騎で、3国に合わせて各部が異なっているが、基本的に同じGTMである。筆頭騎士のダックナードの使用するGTMボイスオーバーはグロアッシュの特別騎。

????	**【有史以前〜モナーク紀】** モナーク・セイクレッドの時代。モナークという言葉だけが伝えられる。
???	**【伝承紀】** カラミティ・ゴーダース王の時代。 伝承のみに残る物体の王者、セントリー登場。
???	**【アズデビュート紀】** モンソロン帝アズデビュートの時代。 デルタ・ベルン星ガス・ガル地方にその痕跡があるとされるが確証なし。星団大戦争後、ほとんどの文化が消え去っている。
AD	**【AD世紀】**
2000	集積国家ユニオ誕生。太陽星団すべてを統治下に置く超巨大国家。以下AD世紀（エンシェント世紀）と呼ばれる。
3500	ユニオ「超帝國ユニオ」となり、人類が集合生命体としての模索を開始。人類史上最高のハイパーテクノロジーをもつ。
4000?	スタント遊星の接近時に、第2太陽系ウエスタにかかっていた暗黒星雲が晴れ、惑星カーマイン（茜の星、のちのボォス星）が発見される。
5000?	ユニオ最高主宰、炎の女皇帝こと、超帝國「総帝ヘリオス・ナイン」誕生。「詩女原母」とも呼ばれた偉大なる支配者。 そして、驚異的な力をもつ戦闘人間「ウォーキャスター」、精神パワーを自在に操る「グリント・ツヴィンゲン」が誕生。 「ハーモディック・システム」による最悪の破壊兵器“バスター・ランチャー”誕生。 そして、人型戦闘兵器「ゴティックメード」GTM誕生。
6750	炎の女皇帝退位、姿を消す。
7000〜	星団は超帝國ユニオの支配の下、情報制御や戦争によって旧文明などの歴史が隠蔽されはじめ、のちの世に歴史が正確な形で残らなくなっていく。
7500?	禁断の星として不可侵であったカーマイン星への強引な植民開始。だが遭遇した超生命体「セントリー」との講和までに多大な犠牲が払われた。

	炎の女皇帝帰還。カーマイン星に「詩女」という記憶継承システムを残し姿を消す。
7900	4つの太陽系への定着。デルタ・ベルン、アドラー、カーマイン（ボォス）、ジュノー星で超帝國下、統制された国家が独自に発展していく。
8000〜	超帝國ユニオ崩壊、消滅。 クラウン銀河の中心にまで進んだ人類の未知への開拓は一段落し、超帝國の影響が薄れ、「ダス・ラント」などのあらたなる国家が台頭を始める。
8383	炎の女皇帝一時帰還。 カラミティ星の重産業国家スパチュラ、一夜にして消滅。天照家登場。
9000〜	AD世紀が終了する。 大帝国ダス・ラント、東西に分裂。
星団紀	**【星団暦】**
0〜	星団暦元年。（AD世紀9899年） 4つの太陽系が落ち着き、各太陽系間に協定法案がまとめられ元年となる。この時点において人類の文明は頂点を極め、折り返し点に入ろうとしていたのである。この時代からは1000年単位の歴史においてもさしたる変化は見られなくなっていく。
〜	西太陽系の茜の星では「詩女」と呼ばれる歴史の記憶者が移民の民をまとめる。
451	カーマイン星で新たに生まれた詩女の「都行き」に暗殺計画。護衛にあたっていたドナウ帝国の皇子が阻止する。
476	GTMカイゼリン、詩女ラーンに渡される。
535	北太陽系の2つの強国、フィルモア・イースト（ドナウ帝国）とフィルモア・ウエスト（太陽王国）が合併し、フィルモア帝国が誕生。
562	カーマイン星の中心都市、ハ・リの名が「聖宮ラーン」となる。また、星の名前が「ボォス」となった。 ジュノー星ではコーラス王家などの力をもった国家が東や北の太陽系国家支配から独立分離を始めた。
1000〜	

2014	ボォス星、聖宮ラーンのゴーム支配の解放に星団列強が参加。「東宮西宮の乱」と呼ばれる。この事件をきっかけに星団法が誕生する。ウラニウム・バランス、「花の詩女」から花の種が渡される。
2017	太陽星団統一憲章、「星団法」制定。 クバルカン法国の法王、マリーナの呼びかけで、星団連合星団法委員会が生まれる。
2020	デルタ・ベルン星グリース王国において、83代目、天照家皇帝天照のミコト、84代目となる王子、エイダス・フォース（以下天照）を出産。先天性白子、出生の謎など不明点の多い王子であった。
2026	デルタ・ベルンの天才科学者ウラニウム・バランス、生体演算理論発表。
2087	天照王子、リトラと結婚。
2089	天照、グリース王国の王となる。
2100〜	天照の母ミコト死去。 しばらくして妻リトラ死去。
〜	バビロン王ログナー、天照家最高司令官となる。
2310	GTMを制御するための演算機、「ファティマ」誕生。リチウム・バランス公によって作られたそれは人間と同様の生命体であった。兵器名として「オートマチック・フラワーズ」とも呼ばれる。
2324	天照、エイダス大陸東方10カ国の天照王朝皇帝となり、デルタ・ベルン星の全統治を開始。ガス・ガル連邦との講和始まる。
2400〜	GTMの最強制御システム、ファティマの安定供給。ボォス星はミノグシア大陸の覇権を巡って争いが激しく、ついにGTMカイゼリン、剣聖ビサンチンとインタシティとともにミノグシア独立戦争参加。
2629	天照、アドラー星にて天才科学者クローム・バランシェと出会う。
2780	ハスハ統一戦争。ラーンの詩女ポルサ、剣聖カイエンを復活、ミノグシアを平定。内戦終結。 ハスハ連合共和国誕生。

2810	天照、優秀な騎士を集め、近衛新鋭騎士団「ツァラトウストラ・クリーグ・カンプリッター・ミラージュ」（ミラージュ騎士団）を編成。
2875	ジュノー星、コーラス王朝23代目国王、コーラス3生まれる。
2876	アドラー星、バルチック・アカデミーにてファティマ「エスト」誕生。
2899	天照、デルタ・ベルン星すべてを統治。星大統領となる。A.K.D.誕生。
2946	天才科学者クローム・バランシェ、38人目のファティマ「アウクソー」を生育途中で勘当する。 星団初のファティマ「フォーカスライト」の記憶をもつ複合記憶生命体でもあった。
2955	天照、宮中宮殿「フロート・テンプル」建造。星団を驚愕させた。
2988	バランシェ、「運命の3人の女神」アトロポス、ラキシス、クローソーを完成させる。 「アトロポス」は前年に単身離れ、「ラキシス」は天照が入手、「クローソー」はコーラス3世のもとにゆく。
2989	コーラス王朝と隣国ハグーダで戦争。 A.K.D.やトラン連邦が参戦し、戦は収まるが、クローソーはGTM「ジ・エンドレス」とともに封印された。
2992	アトロポス、放浪先でセントリー「ライブ」の幼生と出会う。
2994	ボォス星ハスハ連合共和国で「マグダルとデブレ」誕生。父は剣聖カイエン、母はヤーポ。
3008	天照、式典において、のちに星団を恐怖に陥れるGTM「ツァラトウストラ・アブタープリンガー」を公開。
3010	バッハトマ魔法帝国の主宰ボスヤスフォート、A.K.D.天照家の玉座に乗り込み宣戦布告するも天照は無視。
3030	バッハトマ魔法帝国と枢軸連合軍、ハスハに侵攻。以後ハスハは分裂し、枢軸連合の支配下に置かれる。「魔導大戦」と呼ばれる大動乱の時代の始まり。

3075 「時の詩女」マグダル、聖宮ラーンとミノグシア他を解放。魔導大戦は終結するが、大動乱の時代はアドラー星に飛び火する。

3100 アドラー星の南半球、ヨーグン大陸とアダマス大陸で国家の再編が始まる。

3159 天照、突如予告もなくアドラー星に武力侵攻開始。
バスター・ランチャーを使用した無慈悲な攻撃で、天照は星団連合より殺戮者として告訴されるが星団委員会を離脱。以後天照は星団法を無視。
同年、密かにフィルモア帝国皇帝とラーンの詩女の間に想像を絶する協定が結ばれる。

3180 天照王朝の旗艦「ザ・ウィル」完成。

3199 天照、ボォス星に侵攻開始。
聖宮ラーンとカステポー以外のすべてを支配下に置く。数多くの国家首脳は抵抗するも、皮肉なことに一般市民たちは安定したA.K.Dの政治を歓迎する。
スタント遊星接近。
北太陽系ノウズに最接近が予想され、不確定惑星「バスター」が出現していることが判明。天照、ミラージュ騎士団全軍でスタント遊星に向かう。
また、すべての「セントリー」も同行。
惑星バスターから炎の女皇帝の旗艦「シング」出現。AD世紀と星団暦最強のロボット、GTMシュッツィエンとツァラトウストラ・アプターブリンガーがともに戦う。

3227 カラミティ星は地殻変動が激しくなり、星の崩壊が始まった。

3230 カラミティ星の国家、A.K.D.編入を拒む。
天照、カラミティ星に侵攻開始。

3239 フィルモア帝国帝都制圧段階において、ンビドー湖大断層に落ちたラキシスと「帝騎マグナパレス」を救うためにバスター・ランチャーで、星の一角を削り取るが、カラミティ星の爆発でラキシスとマグナパレス、時の彼方に消える。
カラミティ星消滅。

3300〜 ジュノー星を中心に天照に制圧された他星の人々や騎士が天照に対抗するために集結する。
また、この時代から資源と人材の枯渇が目立ち始め、「ガーランド」の不足によってGTMの製造、ファティマの製造が困難になってくる。

3833 ジュノーのコーラス5世、ジュノー各国の要請でジュノー星の代表となる。ジュノー星防衛連合誕生。

3952 天照、巨大になったジュノー星の反抗天照勢力が他星に広がっている事実を認め、遂に、ジュノー星に侵攻開始。

3960 天照、コーラス王朝制圧。
ジュノー星をも支配下に置き、星団皇帝となる。
コーラス王朝の女官アテンタ、生まれたばかりのコーラス王子を連れて脱出。

3961 天照、星団全統治。
が、天照は自分と同じ姿をしたファティマ「ユーパンドラ」を表に立て、その全統治権をゆだねた。以後天照の消息は消える。ミラージュ騎士団も解散、消滅。

3968 コーラス王朝マイスナー家の生き残り、王女ディジナ、コーラス女官ルンカの手によりボォス星へと脱出。

3969 天照の影武者、ユーパンドラの恐怖政治始まる。
この時代にはGTM、ファティマの数は激減しており、GTMは発掘、レストア。ファティマは非人間型の「エトラムル型」が主流となっていた。

4075 ジュノー星の密林に隠されていた「ジ・エンドレス」と「クローソー」、反抗天照軍によって発見される。コーラス王子だけが起動できることが判明。しかし、制御システム(ファティマ)がいないために稼動は不可能であった。

4076 マイスナー王女ディジナ、ボォス星カステポーでコーラスの王子と出会う。
ここで知り合ったウェイとともに反抗天照軍に加わる。
コーラス王子、騎士として活動を開始。
不思議な少女に剣を習う。
ジュノー・アルマ地方A.K.D軍のロレッタ、コーラス軍に加わる。
聖宮ラーン、コーラス王子にファティマ「デルタ・ベルン」を渡す。
ラーンの後ろ盾を得たコーラス王子、反抗天照軍のリーダーとなる。

4080 ジュノー内戦始まる。
各星の反抗勢力、次々とコーラス軍の元に集結開始。A.K.D.各地で弾圧を強める。

4082 アドラー星、バストーニュ解放。ミラージュ騎士のアラート、コーラス軍に参加。

4090 コーラス軍、ボォス星を解放。

4093 デルタ・ベルン内戦始まる。

4100 コーラス軍、A.K.Dを倒し、星団解放。
セントリー「ライブ」の閃光でデルタ・ベルン星消滅。
アトロポスとクローソー消滅。
天照、星団を去る。

4100〜 デルタ・ベルンの戦いで、星団にあったほとんどのGTMは破壊され、ファティマは失われた。
星団は解放され、人々はアドラー、ボォス、ジュノー星に散り、それぞれの国家を再建、または生み出していく。
残った数少ないファティマたちはエストのように知れず姿を消していった……。
聖宮ラーンはすべての人々を見守り続ける。
モナーク・セイクレッドは沈黙し、「アスタローテ」はモナーク紀から続いた星団記録を止める。

【太陽暦】(星団暦18000)

18000〜 ジュノー星のジー・ポリショイ王国の王女バナロッテと太陽王国ルールの騎士、モンド出会う。
セントリー「ライブ」はアトロポスとクローソーとともに、人類を見守っていた。

【ラキシス外伝】
(星団外のために時間の進み方が異なるが、ラキシスが記録している星団暦に合わせた年代である)

5899 マグナパレスとラキシスを封じ込めた巨大なカラミティ星の破片、隕石となってある星に落下。

6599 ラキシス、目覚める。
その宇宙で行なわれていた戦争に参加。終結後、不安定なマグナパレスのエネルギーによって、また別の時間と空間に移動。
以後、ラキシスはこれを繰り返す。

6787 ラキシス、サイボーグ兵器、「インペリュン」、マンティコアを配下に置き、その星での戦争に参加。最終兵器「ビューランコート」までをしもべにし、眠りにつく。

7281 ラキシス、アズデビュート大帝と出会う。
同時期、天照、モニュメントと遭遇。

7343 ラキシス、目覚める。
1945年、地球のポーランドとドイツ国境沿いに出現。ケニヒスベルグにて「大ドイツ師団」の残存集団に出会う。その後、ベルリン攻防戦脱出のちに、マグナパレスとともにバルト海で眠りにつく。

7563 ラキシス、星団暦2043年のジョーカー星団に出現。

7777 5番目の太陽出現。
「ツァラトウストラ・アプターブリンガー」「デイー・カイゼリン」最後の戦い。緑の星、フォーチュンにてラキシス、天照と再会。「花の詩女」から渡された種が蒔かれる。
娘カレン、85代目天照家女帝、出現。
「カイゼリン」はフォーチュンに残り、詩女ムグミカの言葉通り、タワーと新しい世界を見守る。
カレン、マグナパレスとともに、タイカ宇宙へ旅立つ。

	国家名 国家代表・君主 使用GTM	筆頭騎士 使用GTM	国家代表騎士団/使用GTM 国家騎士団/主要GTM GTM保有数	その他
11	**メヨーヨ朝廷** **(メヨーヨ四奉開経連合朝)** 大帝 クラーケンベール・メヨーヨ GTM アグニム(姫神金剛) AF アンドロメーダ	**●筆頭騎士** クライマー・バイドル GTM プロトタイプ・ホウライ AF キシュー	**●朝廷騎士団** 使用GTM ホウライ 保有GTM数 1,500騎以上	Dr.ダイアモンドの設計したGTMブランデンA型の傑作GTMホウライをもって魔導大戦に参加中。国家自体は極めて安定している。
12	**コーネラ帝国** 皇帝 ルーパート2世	**●帝国騎士団長** マヨール・レーベンハイト GTM SBB-Oデモール AF ロンドヘアライン	**●エレクトロナイツ** 使用GTM SBB-1 保有GTM数 1,000騎以上	コーネラの主要産業はGTMの開発とライセンス生産である。 GTM SBB-1はのちに「デモール・ゾロ」と呼ばれ、メヨーヨの「ホウライ」とともに、のちの世に傑作GTMとして長く生産される。
—	**ギーレル王朝(旧ハスハ連合)** 国王 ローマ・ギー ギーレル王朝騎士団パローラ隊隊長 ロダン・モドト GTM バーガ・ハリHS	**●代表騎士団長** アイオ・レーン GTM オスカード AF 時 **●ルーン騎士団司令官** ノンナ・ストラウス最高神官 GTM Mk4マッハ・シャルトマ「赤い貴婦人」 AF 瑠璃(ラピス)	**●ギーレル王朝騎士団およびクバルカン騎士連合** GTM バーガ・ハリ(旧ハスハ連合) GTM ザ・ルッセンフリード(クバルカン法国) GTM バイグロン(ジャスタカーク連合) 保有GTM数 1,000騎以上	ギーレルの戦力は旧ハスハ連合のAP騎士団パローラ隊が母体となっている。 それにクバルカンのルーン騎士団とジャスタカーク連合の騎士団も連合を組み、ミノグシアからの完全独立と南部ミノグシアの安定、聖宮ラーンとの講話を望んでいるというが、ルーン騎士団とローテ騎士団を率いるノンナの目的はまた別のようである……。
—	**イオタ宇宙騎士団** 団長 ジャコー・クォン・ハッシュ GTM ブリンガーB3彗王丸 AF ビンティン(弁天)	**●騎士団補佐　三条香** GTM デ・ハビラント1 AF ダイモン	●使用GTM GTM デ・ハビラント GTM数 20騎前後	ジャコーのもつGTMは天照の最新型GTMのエンジンを搭載した非常に強力なGTMである。また、騎士団の使用する「デ・ハビラント」はDr.ダイアモンドのH型ブランデンである。
—	**惑星カーマントー・ドーマ連合** 連合議長　バイラ・アーシュ	**●騎士団代表オロダムル・ハル** **(旧AP騎士団ダンダグラーダ)**	**●連合自治騎士団** 使用GTM GTM X-3ボルドックス(青騎士) GTM バーガ・ハリ・ダンダグラーダ GTM ライモンダ	GTMライモンダはウモス国が生産するライセンスGTMで星団でも非常に多く使われる。
—	**ディー・ヨーグン連合**		●使用GTM GTM フドー GTM ズダルダ(生産中)	GTMフドーはマウザー教授の設計で現在急ピッチで開発が急がれている……。

国家及び集団 / 代表	代表される騎士 / GTM / AF	主力の騎士団	補足
天照王朝　A.K.D.(3159年編成) 帝 天照帝 「帝騎・マグナバレス」(D型ミラージュ) AF ラキシス 天照家GTM モルフォ・ザ・スルタン AF ブライド(バクスチュアル) 従帝大宮(じゅうていおおみや) アイシャ・天照帝 GTM ファルトリム・ブリンガー (F型ミラージュ) AF アレクトー 内宮大納言(ないくだいなごん) イミルーニャ・スロウ 典星舎・幻影隊総代 メル・リンス/東の君	**●右大臣・全軍総司令長官** ファルク・ログナー・バビロン王 GTM 複数 AF ホワイト・イエッタ **●左大臣・王朝征夷大将軍** 斑鳩・エミーテ・天照親王 GTM 複数 AF マージャ **●ミラージュ騎士団エース・ナンバー** 剣聖マキシ・カイエン GTM グリッターB4-2 (B4型ミラージュ2号騎) AF ソリッド・ステート・ロジック **●ミラージュ騎士団ラスト・ナンバー** ショウメ・タワー(3075年以降) GTM ゼノア・アプターブリンガー (X型ミラージュ・カイゼリン)	**●ミラージュ騎士団　Z.K.K.M.** **(ツァラトウストラ・クリーグ・** **カンプリッター・ミラージュ　炎戦幻像騎士団)** **●使用GTM** ツァラトウストラ・アプターブリンガー (B型ミラージュ *騎数不明) 天照家J型駆逐戦闘兵器 (イエンホッ&リョクタイ) **●使用GTM** GTMグリット・ブリンガー (G型ミラージュ、雄型、雌型あり) GTMハウファ・ブリンガー (H型ミラージュ) 保有GTM数 3,000騎以上	*ここのみ3159年の編成表 天照の個人騎士団「カンプリッター・ミラージュ」の騎士団員は列強の筆頭騎士に匹敵する力をもつ者ばかりのため、10数名と言われる彼らが指揮するのはひとりひとりが1国の騎士団を率いるのと同じと言われる。 全星団を恐怖に陥れたスーパーロボット「ツァラトウストラ・アプターブリンガー」は「炎の叙事詩を運ぶもの」という皮肉めいた名前で星団中を灰にした。 物語が終焉しても謎のロボットであり、わずか10数騎と2騎のJ型駆逐戦闘兵器ですべての国家を征服し、全星団を支配した。 ミラージュGTMは「ブリンガー・シリーズ」と呼ばれるが、アプターブリンガーの名称をもつGTMはB型とX型2種だけである。ただ、X型ミラージュは天照の作ったものではない。カイゼリンのことである。タワーとともにラーンから引き渡された。
聖宮ラーン 詩女 ナトリウム・フンフト	**●ラーン王宮支隊「アイル・フェルノア」** 支隊長 ドヌーブ・ガセット GTM バーガ・ハリLA AF カナハ	**●AP騎士団ラーン王宮支隊「アイル・フェルノア」** バーガ・ハリ・LA	新型GTM「アトラ」は現在開発中。ナルミ・アイデルマがラーン支隊長になってからの時代から正式GTMに。 支隊長はニナ・エリスから暫定的にドヌーブになっている。ニナがヘアードとともにハスハに来てそのままになっているからである。
システム・カリギュラ 代表不明	**●超帝國騎士団「シオの門番」** 超帝國GTM ゾルダート0・シオン(Xio) ゾルダート1・カリギュラ ゾルダート2・ゲートシオン・マーク2 ゾルダート3・フォルクール ゾルダート4・チェングドゥー	**●ブーレィ傭兵騎士団** ゾルダート6・オデオン(2989) ゾルダート7・ラムアド(3030) 保有GTM数 最低でも10,000騎以上を保存 AFの保存保有数も膨大 ファティマ以前のガス漢算体「シンファイア型」のGTMも多数保存	「シオの門番」と多くのガーランドを持つ彼らが主力にするGTMゾルダート0シオンはかつて超帝國ユニオが使用していたと言われるGTM「イェンディ(火王)」のデッドコピーである。 ほかはすべて謎に包まれている。またこの組織が他国家に提供するGTMはすべてXのナンバーがついている。
超帝國ユニオ(消滅) 始祖皇帝/詩女原母・炎の女皇帝 ヘリオス・ナイン・ユニオ3 使用GTM ウーシング・ウーユー AF 光のタイ・フォン ジェットクィーン・ヤーン・ダッカス GTM フェイスラ・シュッツィエン AF ザ・ニーブ	**●皇帝親衛隊ヘリオス** 剣聖アサラム・スキーンズ 剣聖ディオ・クルマルス 剣聖アマンダ・プロミネンス 剣聖コロッセス・バング 剣聖ミキータ・オージェ 使用GTM(女皇帝親畑騎)轟畑時君シュッツィエン(えんしゅシュッツィェンと発音。日本語の「出演」に近い発音)	●膨大( )内は歴代皇帝の時代の騎士団名 騎士団「シオラの門番」(ツェーン) 騎士団「カリギュラ」(ジーベーン) 騎士団「バクシー」(アーハト) 騎士団「チェングドゥー」(ツェルフ) 記録が残っている騎士団で、すべてナインが星団を去ってからの皇帝名と騎士団である。 保有GTM数 10,000騎以上	歴代皇帝はドイツ語読みに近い数字の名前がつけられているが「7」のジーベーン皇帝はナインの後の皇帝である。順番通りではない。ナインのGTMウーシングはタイ・フォンを得てから製造されたもの。 尚、ここに出ている個人名はすべて存命。

最新作品集、「DESIGNS 4」をお届けします。

作品集としては12番目の「SCHOOL DESIGNS ジョーカー太陽星団学校案内手帳」以来となり、本当に久しぶりの単独作品集となります。昔からの通しナンバーでいくと「キャラクターズ」としては13冊目となります。

とはいえ、キャラクターズの1から11までは再編集版の「DESIGNS 1〜3」にほぼすべて収録されているので、新しく読者になられた方は過去の作品集をお求めになる必要はありません。「SCHOOL DESIGNS」がキャラクターズ12のナンバリングをもっているのは、内容すべてがその冊子のみのもので、デザインズを含めたどの作品集にもかぶらず収まっていない新規デザイン集だからです。これは発刊当初から決まっていました。

そして映画「花の詩女」の公開も過ぎて、2004年以来少しずつ発表してきたGTMというこの新しいデザインをようやくまとまった形で発表することができました。

GTMのフレーム構成には非常に時間をかけています。これはあまりに複雑なGTMの関節部をどうやって体系化するかと言うことに時間がかかりました。それは連載の再開で膨大に登場して来るであろうGTMのデザインにおいて、ライオン・フレームとパンター・フレームを確実に作っておけば、9割以上の登場GTMはこれに属し、各部の装甲のデザインのみでのちの楽になるからという理由です。おかげさまでしばらくの間は装甲、つまり外見的なフォルムとラインのみで細かい駆動部や関節をひねくりまわすこともありません。

とはいえ、登場しているGTMはまだ基本的なラインのものだけなので、待機している「アルカナ・オーデル」や「グロアッシュ」、メヨーヨの「ホウライ」など、重量級GTMや「SBBファウスト(スターレス・アンド・バイブルブラック)」、そして「ラミアス」など新型のデザインラインをもたせてあるものもかなり近いうちに登場するはずです。

ミラージュGTMのグリッドプリンガーはこの作品集のすぐあとに登場しているはずですが、ツァラトゥストラとマグナパレスはまだまだ先になります。というのも、この2騎は非常に複雑で奇怪な脚部をもっているので、読者の皆さんがGTMのデザインとそのバリエーションに慣れた頃にようやく登場となるはずです。そうしないとこの2騎がどれほど特殊なのかわからないからです。

「DESIGNS 4」は今までの「DESIGNS」とは異なる判型サイズ、そして定価が付けられております。「DESIGNS」の1から3は再編集版なので「リブート」同様のお買い得価格にしてありますが、「DESIGNS 4」はそういうわけにはいきません。

価格に関しては「人が必死で考えて制作した作品にはそれなりの価格がつけられる」と考えておりますのでご理解ください。

んでまあ、永野の作品集は判型がでたらめでまとめて本棚に入れられないという苦情を20年近くいただいておりますが、毎回大きさが違うのはわざとやっているので、ごめんなさい。

いつもなら永野の作品集は物語よりも先行して新キャラクターや次の舞台の解説になっているのですが、今回は連載を止めていた8年もの間にたまっていたデザインや解説になっています。単行本の13巻と対になる作品集ですね。なので次の「DESIGNS 5」は結構早く登場するかと思います。

次はミラージュ騎士団やシステム・カリギュラがメインとなるでしょう。本編のパート4すべての作品集になる予定です。

また、「ファイブスター物語」を連載しているニュータイプ誌ですが、読者の年齢も上がりニュータイプが買いづらいので「ファイブスター」だけ独立した本が出ないのか?というお問い合わせを結構頻繁に受けます。これに関しましては、「ニュータイプに掲載されているからこその『ファイブスター物語』という連載開始以来の大前提があります。なので、あり得ません。

以前はこういった「子が親の一部を食う」という本末転倒的なムックが出ていることに危機感をもっていました。なので今後は絶対にやらないと決めております。

「DESIGNS 4」に続き、川村万梨阿の31thベストアルバム、そしてあまり間を置かずに「ファイブスター物語」13巻が発売となります。

連載ともどもよろしくお願いいたします。

永野護

MAMORU NAGANO
F.S.S. DESIGNS 4

構成・イラスト・文
永野護

編集・担当
水野寛

装丁・レイアウトデザイン・全ロゴデザイン
朝倉哲也(designCREST)

デザイン
designCREST
田畑善行
稲垣好重
外立泰介
吉田明加
保見千衣子

国家マーク作成
藤島千恵

セル彩色
中内照美(サンガスタジオ)
戸部弥生

印刷
小川一寿(大日本印刷/プリンティング・ディレクター)
佐々木祐樹(大日本印刷)
上埜匡昭(大日本印刷)
長嶺夏実(大日本印刷)

永野護マネージメント
株式会社KADOKAWA　ニュータイプ編集部

編集の詩女
榎本郁子

Thanks
井上伸一郎
佐藤光洋(サンガスタジオ)
堀裕治
小倉宏昌
「花の詩女　ゴティックメード」製作スタジオ

三色の娘

Black Princess "Three Crown Daughter"

身長155cm

「みしきのむすめ」と呼ばれる女の子。
ヨーン・バインツェルを左手だけで圧する彼女の剣の腕はすごい。ミラージュ騎士同等かそれ以上の強さをもっている。
パート４でいきなり登場してくるが、その性格は冷酷で残忍だ。騎士団を率いているのは確かだが、その目的も行動もまったく統一性はない。

ファティマ・オディール（ブラック・スワン）
FATEIMA ODDER (Black Swan)

身長160cm　体重41kg

クローム・バランシェのファティマ。
だが、その「オディール」という名のファティマはバランシェ製作の45体の中にも、彼が他で手がけたファティマの中にもない。
しかし、バランシェのファティマであることは間違いないのだ。
非常に不思議なファティマである。
オディールは生誕直後はウモスの筆頭騎士ダンチヒのところで預かられていたようだが、その後、マスターも所在も不明となっているファティマだが、所在だけでなく彼女の動向はすべてにおいてに謎が多い。
現在もマスター及び所在は不明となっている。と言うか、彼女は延々マスター不明のファティマである。

そう、「オデット」と「オディール」は同一のファティマである。
オディールは、妹に当たるオーロラ、ジゼルらとともに「舞踏３姉妹」と呼ばれる。彼女らも３人まとめてバランシェに育成された。
この人物のファティマだけあって、彼女はまたしても特殊なプログラムを受けている。
それは「２パターン」の能力と特性をもつファティマであるということだ。
彼女は「ホワイトスワン」と呼ばれる一般的に知られる姿と「ブラックスワン」という知られていないモードをもっている。「白鳥」モードの時の彼女は「オデット」と呼ばれ、「黒鳥」モードのオデットは「オディール」と呼ばれ、それ以外はまったく不明である。
また、オディールはアシリア・セパレート状態しか確認されていない。それ以外の服装はオデットと同じと思われる。つまりこの黒いアシリアを着ているときに「オディール」と呼ばれているのだ。

ひとりの騎士が複数のファティマを所有することは結構あるが、このオデットは「特定の複数のマスターに仕える」ことを目的として作られたものだ。
フィルモア帝国には「真っ黒なファティマがいるが、それが何なのかはまったくわからない」と、まるで幽霊のような噂がある。

オデットはクラッシック・バレエの「白鳥の湖」から名前をいただいたもので、白鳥の湖と同じく白鳥のオデットと黒鳥のオディールという分け方も同じ。
オディールは悪魔ロットバルトの娘でオデットとは別人だが、この悪魔ロットバルトはもちろん「花の詩女」のバルバロッサ王、ポットバルトの名前の元である。彼女の初登場がバルバロッサ家であったのもこの縁なのかもしれない。
また白鳥のオデットの相方となるのがジークフリート王子である。と、いうことで、オデットのマスターは彼女を作ったときからこうなると決まっていたようである。オデットの初出しはニュータイプ2005年12月号のカレンダーでブラックプリンスと同時に発表されている。

Automatic Flowers Studio **EDITco,ltd**

all illustrations and texts by MAMORU NAGANO

F.S.S. **DESIGNS 4**

覇者の贈り物

F.S.S.デザインズ4 はしゃのおくりもの

著者 永野護 ながのまもる

2014年3月10日初版発行

EDITco,ltd

発行者 山下直久

発行所 **株式会社KADOKAWA**
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3
営業 03-3238-8521
http://www.kadokawa.co.jp

編集 **角川書店**
〒102-8078
東京都千代田区富士見1-8-19
編集部 03-3238-8606

印刷・製本 大日本印刷株式会社

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替えいたします。KADOKAWA読者係までご連絡ください。（古書店で購入したものについては、お取り替えできません）
電話 049-259-1100（9:00～17:00／土日、祝日、年末年始を除く）
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

©2014 EDIT

禁無断転載・複製
2014 KADOKAWA CORPORATION, Printed in Japan

ISBN978-4-04-110530-6 C0076

F.S.S. DESIGNS 4

覇者の贈り物

-GOTHICMADE-

a Story of Documenteress of
Both and North Emperors

Holda 31

©EDIT 2014

規定の金額の
切手を貼って
ください

tar Stories

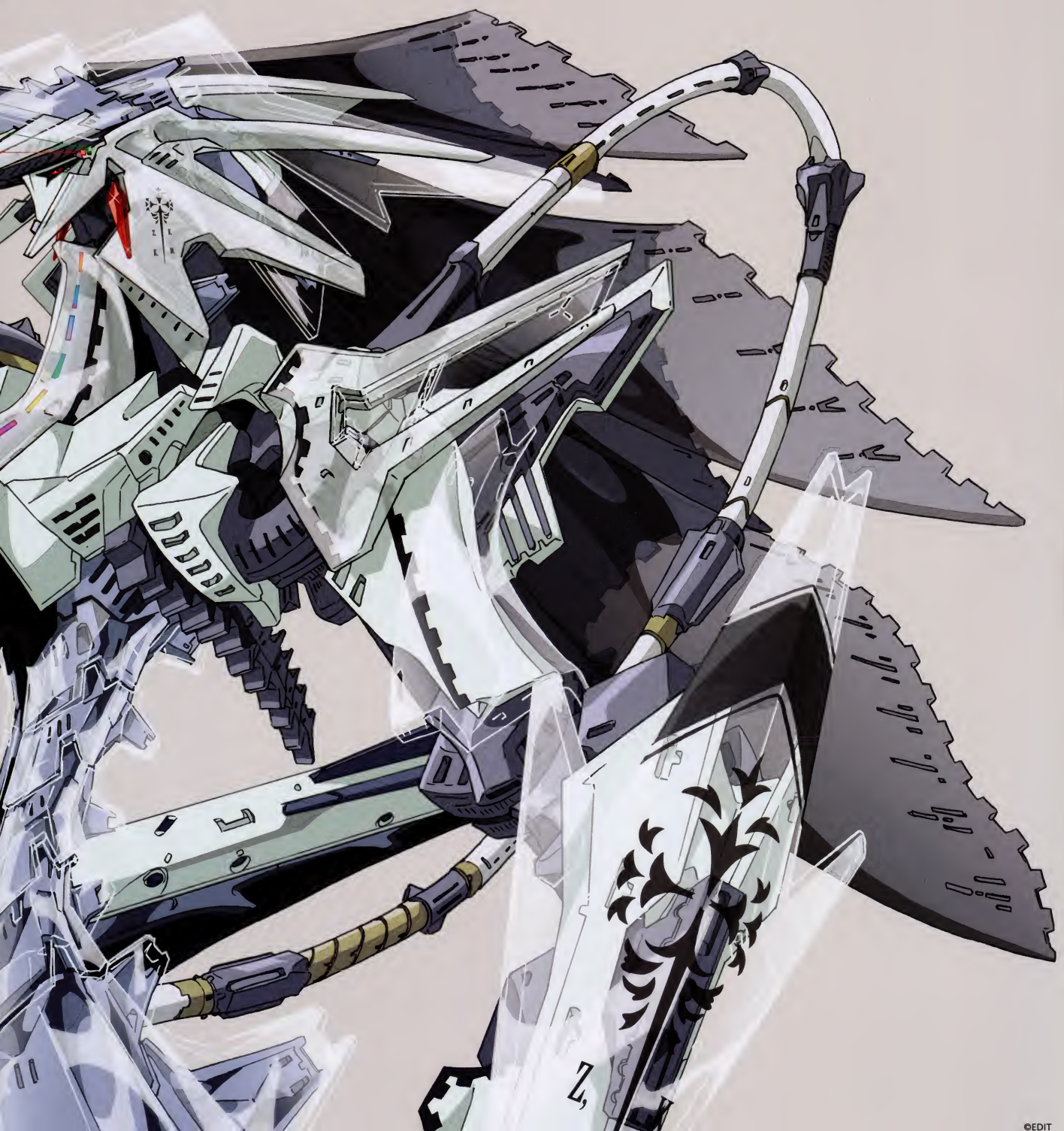
GNS 4

贈り物

C M A D E =

tar Cluster and North Emperors

NAGANO



©EDIT

The Five S

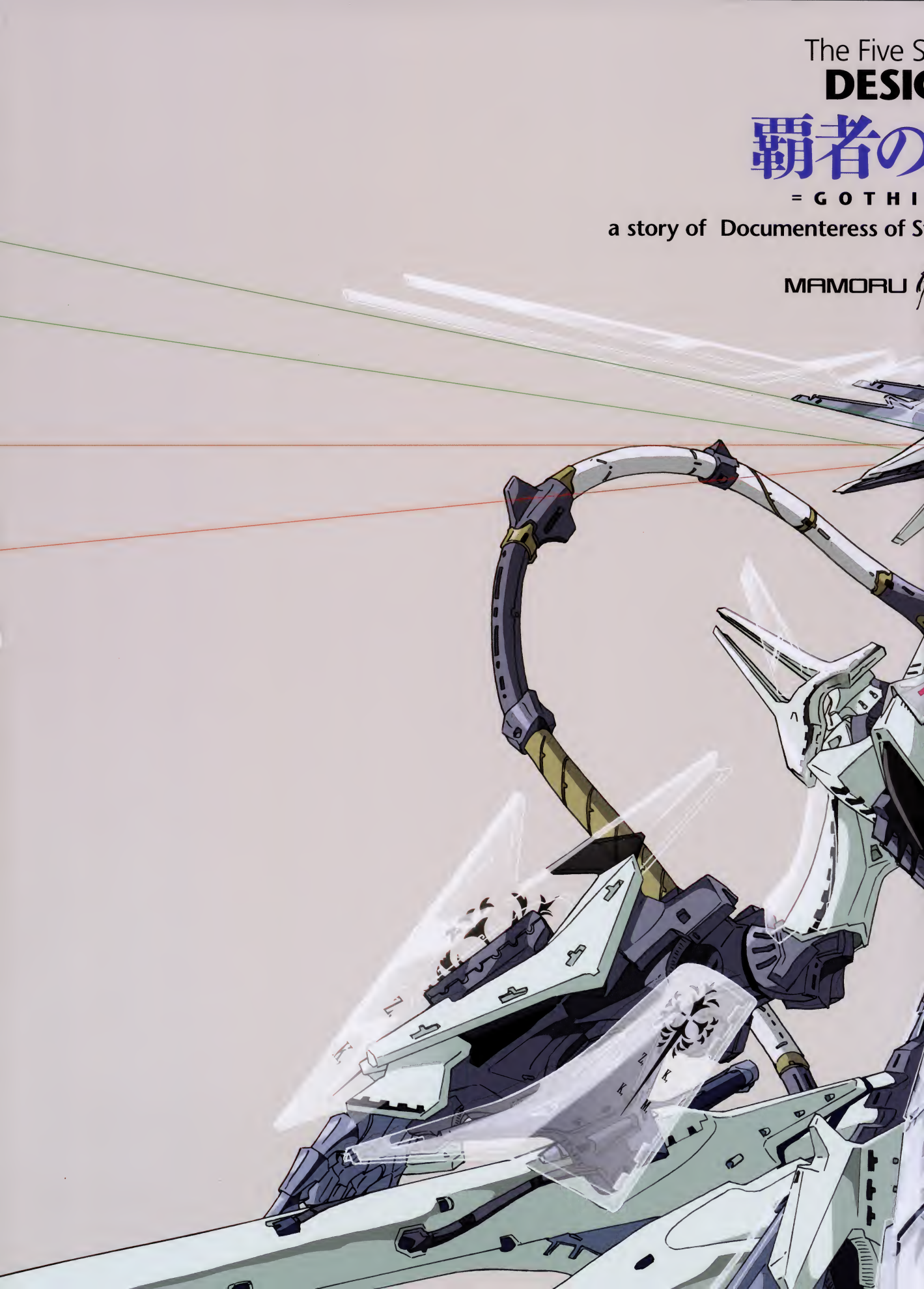
DESIG

覇者の

= G O T H I

a story of Documenteress of S

MAMORU



KADOKAWA

KADOKAWA

MAMORU NAGANO

■永野護が描く「ファイブスター物語」の世界、物語、
そして珠玉のデザインを収録した作品集

F.S.S. DESIGNS 1
EASTER ; A.K.D.

F.S.S. DESIGNS 2
ADDLER : JÜNO

F.S.S. DESIGNS 3
KALAMITY GODDERS : BOTH

■劇場アニメーション作品
「花の詩女　ゴティックメード」の
オフィシャルガイドブック

**花の詩女　ゴティックメード
ワールドガイド**

■ジョーカー太陽星団を舞台に繰り広げられる
無数のキャラクターが織りなす究極のストーリー!!

ニュータイプ100%コミックス
ファイブスター物語

第1巻　1998 EDITION
第2巻　2005 EDITION
第3巻～第12巻

好評発売中!!

■雑誌連載時のまま時系列に収録。
当時のライブ感はそのままに初心者にも読みやすい入門版!!

ニュータイプ100%コミックス
ファイブスター物語 リブート①～⑦

好評発売中!!